

令和3年度昼間スクーリング(後期)開講講座一覧

【火曜日】

曜日	時限	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充 当 科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	対 面 対 象	配 当 学 年	備 考	
火	1	AH11	心理学 A	白川 真裕	2	B12100	心理学	×		1年		
		AH12	社会学 A	服部 慶亘	2	B11600	社会学	×		1年		
		AH13	英語 A	塚田 英博	1	C10100	英語 I	×		1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英語 II					
	C10300					英語 III						
	C10400					英語 IV						
	AH14	経営学 A	山田 敏之	2	S20200	経営学	×		※	・商学部のみ1学年以上申込可。・上記以外は2学年以上申込可。		
	2	AH21	心理学 B	白川 真裕	2	B12100	心理学	×		1年		
		AH22	英語 S	アレックス ブラウン	1	C10100	英語 I	×		1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						C10200	英語 II					
						C10300	英語 III					
						C10400	英語 IV					
		AH23	日本政治史	石川 徳幸	2	L30400	日本政治史	×		2年		
		AH24	政治学特殊講義 I・II	佐藤 高尚	2	L311S0	政治学特殊講義 I	×		2年	・ I、IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						L312S0	政治学特殊講義 II					
		AH25	国文学基礎演習	鈴木 雅裕	1	M317S0	国文学基礎演習	×	○	2年	・文学専攻(国文学)のみ申込可。	
		AH26	英米文学演習 A	塚田 英博	1	N404S0	英米文学演習 I	×		○	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・ I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						N405S0	英米文学演習 II					
						N406S0	英米文学演習 III					
	AH27	経済学概論 A	大塚 友美	2	R20300	経済学概論	×		※	・経済学部は1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。		
	AH28	経済学史／経済学説史	塚本 隆夫	2	R30100	経済学史	×		2年	・文理学部、経済学部、商学部のみ申込可。 ・法学部のみ申込可。		
					L31300	経済学説史						
	AH29	マーケティング A	雨宮 史卓	2	S30500	マーケティング	×		2年			
	AH2A	中小企業論	階戸 照雄	2	S32700	中小企業論	×		2年			
	AH31	哲学 C	江川 晃	2	B10700	哲学	×		1年			
	AH32	経済学 A	大塚 友美	2	B11800	経済学	×		1年			
	AH33	英語 B	アレックス ブラウン	1	C10100	英語 I	×		1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。		
					C10200	英語 II						
					C10300	英語 III						
					C10400	英語 IV						
	AH34	国文学演習	鈴木 雅裕	1	M404S0	国文学演習 I	×		3年	・文学専攻(国文学)のみ申込可。 ・ I～VIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。		
					M405S0	国文学演習 II						
					M406S0	国文学演習 III						
					M407S0	国文学演習 IV						
					M408S0	国文学演習 V						
					M409S0	国文学演習 VI						
	AH35	日本史演習 I・II	鍋本 由徳	1	Q401S0	日本史演習 I	×		○	3年	・史学専攻のみ申込可。 ・ I、IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					Q402S0	日本史演習 II						
	AH36	経済原論／経済学原論 A	続橋 孝行	2	R20100	経済原論	×		※	2年	・政治経済学科は1学年以上申込可。 ・法律学科は2学年以上申込可。 ・経済学部は1学年以上申込可。 ・文理・商学部は2学年以上申込可。	
					L20200	経済学原論						
	AH37	国際経済論	前野 高章	2	R31100	国際経済論	×		2年			
	AH38	中国経済論	崔 晨	2	R313S0	中国経済論	×		2年			
	AH39	金融論	谷川 孝美	2	R31800	金融論	×		2年			
	AH3A	広告論 A	雨宮 史卓	2	S30900	広告論	×		2年			
	4	AH41	哲学 A	江川 晃	2	B10700	哲学	×		1年		
		AH42	文化史 A	渡邊 浩史	2	B11200	文化史	×		1年		
		AH43	国文学特殊講義 I・II	近藤 健史	2	M311S0	国文学特殊講義 I	×		2年	・ I、IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
						M312S0	国文学特殊講義 II					
AH44		スピーチコミュニケーション II B	アレックス ブラウン	1	N31000	スピーチコミュニケーション II	×		2年			
AH45		日本史特講 I	八馬 朱代	2	Q30800	日本史特講 I	×		2年	当初東京スクーリング(5月期)第1期で開講を予定していた講座になります。		
AH46		経済史総論 A	飯島 正義	2	R20200	経済史総論	×		※	・経済学部は1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。		
AH47		金融論 B	谷川 孝美	2	R31800	金融論	×		2年			
AH48	商学総論 A	小泉 徹	2	S20100	商学総論	×		※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。			

※「対面対象」欄に○が入っている講座は1月から対面授業を実施する可能性があります。12月までの期間はオンデマンド授業又はオンライン授業(ZOOM等)で授業を行います。それ以外の講座は15回全てオンデマンド配信による開講となります。

令和3年度昼間スクーリング(後期)開講講座一覧

【火曜日】

曜日	時限	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充当 科目 コード	科目名	併用	対面 対象	配当 学年	備考
5		AH51	文化史 C	渡邊 浩史	2	B11200	文化史	×		1年	
		AH52	中国語 I・II	稲葉 明子	1	F10100	中国語 I	×		1年	・ I、II のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						F10200	中国語 II				
		AH53	国文学講義Ⅲ(中世)	鹿野 しのぶ	2	M30700	国文学講義Ⅲ(中世)	×		2年	
		AH54	スピーチコミュニケーションⅡ	アレックス ブラウン	1	N31000	スピーチコミュニケーションⅡ	×		2年	
		AH55	哲学特殊講義	江川 晃	2	P30100	哲学特殊講義	×		2年	#N/A
		AH56	東洋史演習 I・II	高綱 博文	1	Q403S0	東洋史演習 I	×	○	3年	・ 史学専攻のみ申込可。・ I、II のいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記
					Q404S0	東洋史演習 II					
	AH57	商学総論 B	小泉 徹	2	S20100	商学総論	×		※	・ 商学部のみ1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込可。	

※「対面対象」欄に○が入っている講座は1月から対面授業を実施する可能性があります。12月までの期間はオンデマンド授業又はオンライン授業(ZOOM等)で授業を行います。
それ以外の講座は15回全てオンデマンド配信による開講となります。

令和3年度昼間スクーリング(後期)開講講座一覧

【水曜日】

曜日	時間	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充当 科目 コード	科目名	併用	対面	配当 学年	備考
水	1	A11	政治学	関根 二三夫	2	B11700	政治学	×		1年	
		AJ12	英語 N	トーマス ロックリー	1	C10100	英語 I	×		1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語 II			2年	
						C10300	英語 III				
						C10400	英語 IV				
		AJ13	商法 II	宮崎 裕介	2	K30600	商法 II	×		2年	
		AJ14	日本史入門	鍋本 由徳	2	Q20100	日本史入門	×		※	・ 史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込可。
	AJ15	経済学概論 B	谷川 孝美	2	R20300	経済学概論	×		※	・ 経済学部は1学年以上申込可。 ・ それ以外は2学年以上申込可。	
	AJ16	マーケティング B	雨宮 史卓	2	S30500	マーケティング	×		2年		
	2	AJ21	英語 C	和泉 周子	1	C10100	英語 I	×	○	1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語 II			2年	
						C10300	英語 III				
						C10400	英語 IV				
		AJ22	英語 D	森 晴代	1	C10100	英語 I	×		1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語 II			2年	
						C10300	英語 III				
	AJ23	イギリス文学史 I	野呂 有子	2	N20100	イギリス文学史 I	×		※	・ 文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込可。	
	AJ24	東洋史特講 II	堀井 弘一郎	2	Q31100	東洋史特講 II	×		2年		
	AJ25	西洋史演習 I・II	藤井 信行	1	Q405S0	西洋史演習 I	×	○	3年	・ 史学専攻のみ申込可。 ・ I、IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					Q406S0	西洋史演習 II					
	AJ26	地方財政論	斎藤 英明	2	R31600	地方財政論	×		2年		
	AJ31	歴史学 C	渡邊 浩史	2	B11100	歴史学	×		1年		
	AJ32	法学 A	武田 茂樹	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)	×		1年		
	3	AJ33	英語 E	北原 安治	1	C10100	英語 I	×		1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語 II			2年	
						C10300	英語 III				
						C10400	英語 IV				
		AJ34	英語基礎 A	和泉 周子	1	C10600	英語基礎	×	○	1年	・ 文学専攻(英文学)は申込不可。
AJ35		イギリス文学史 I B	野呂 有子	2	N20100	イギリス文学史 I	×		※	・ 文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込可。	
AJ36		英語音声学	森 晴代	2	N30600	英語音声学	×		2年		
AJ37	アメリカ経済論	下斗米 秀之	2	R312S0	アメリカ経済論	×		2年			
4	AJ41	歴史学 A	渡邊 浩史	2	B11100	歴史学	×		1年		
	AJ42	法学 C	武田 茂樹	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)	×		1年		
	AJ43	英語音声学 B	森 晴代	2	N30600	英語音声学	×		2年		
	AJ44	日本思想史 I	島田 健太郎	2	P30800	日本思想史 I	×		2年		
	AJ45	東洋史入門	綿貫 哲郎	2	Q202S0	東洋史入門	×		2年		
	AJ46	考古学概説	濱田 晋介	2	Q30500	考古学概説	×		2年		
					R20100	経済原論					
AJ47	経済原論/経済学原論 B	谷川 孝美	2	L20200	経済学原論	×		※	・ 政治経済学科は1学年以上申込可。 ・ 法律学科は2学年以上申込可。 ・ 経済学部は1学年以上申込可。 ・ 文理・商学部は2学年以上申込可。		
5	AJ51	歴史学 B	堀井 弘一郎	2	B11100	歴史学	×		1年		
	AJ52	文化史 B	渡邊 浩史	2	B11200	文化史	×		1年		
	AJ53	国語学概論	保科 恵	2	M20300	国語学概論	×	○	※	・ 文学専攻(国文学)のみ1学年以上申込可。 ・ 上記以外は2学年以上申込可。	
	AJ54	東洋史概説/東洋史概論	高綱 博文	2	Q30300	東洋史概説	×		2年	・ 文理・経済・商学部のみ申込可。 ・ 法学部のみ申込可。	
K32300					東洋史概論						

※「対対象」欄に○が入っている講座は1月から対面授業を実施する可能性があります。12月までの期間はオンデマンド授業又はオンライン授業(ZOOM等)で授業を行います。それ以外の講座は15回全てオンデマンド配信による開講となります。

令和3年度昼間スクーリング(後期)開講講座一覧

【木曜日】

曜日	時間	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充 当 科 目 コ ー ド	科目名	併用	対面	配 当 学 年	備考
木	1	AK11	民法 I A	根本 晋一	2	K20200	民法 I	×	※	※	・法学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AK12	行政学 A	関根 二三夫	2	L30100	行政学	×		2年	
		AK13	英米文学概説/英語文学概説	鈴木 ふさ子	2	N20300 N20400	英米文学概説 英語文学概説	×	※	※	・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可, それ以外は2学年以上申込可。 ・平成30年度以前入学生のみ履修可。 ・文学専攻(英文学)のみ1学年以上申込可, それ以外は2学年以上申込可。 ・令和元年度以降入学生のみ履修可。
		AK14	情報概論 A	中村 典裕	2	R32300	情報概論	×		2年	
	2	AK21	哲学 B	中澤 睦	2	B10700	哲学	×		1年	
		AK22	心理学 C	芳賀 道匡	2	B12100	心理学	×		1年	
		AK23	英語 F	鈴木 ふさ子	1	C10100	英語 I	×		1年	I~IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語 II				
						C10300	英語 III				
						C10400	英語 IV				
		AK24	民法 III A	根本 晋一	2	K30200	民法 III	×		2年	
		AK25	行政学 B	関根 二三夫	2	L30100	行政学	×		2年	
		AK26	国文学基礎講義	近藤 健史	2	M20100	国文学基礎講義	×	※	※	・文学専攻(国文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AK27	情報概論 B	荒瀬 仁志	2	R32300	情報概論	×		2年	
	AK28	広告論 B	雨宮 史卓	2	S30900	広告論	×		2年		
	3	AK31	法学 B	根本 晋一	2	B11500	法学(日本国憲法2単位を含む)	×		1年	
		AK32	英語 G	中村 則子	1	C10100	英語 I	×		1年	I~IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語 II				
						C10300	英語 III				
						C10400	英語 IV				
		AK33	英語 P	八木 茂那子	1	C10100	英語 I	×		1年	I~IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語 II				
						C10300	英語 III				
						C10400	英語 IV				
		AK34	TOEIC A	町田 純子	1	C108S0	TOEIC	×		1年	
	AK35	英語学概説	真野 一雄	2	N30700	英語学概説	×		2年		
	AK36	史学概論	高綱 博文	2	Q30100	史学概論	×		2年		
	AK37	情報概論 C	高橋 文行	2	R32300	情報概論	×		2年		
	AK38	現代教職論	古賀 徹	2	T10100	現代教職論	×	○	2年	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
	4	AK41	英語 H	町田 純子	1	C10100	英語 I	×		1年	I~IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
C10200						英語 II					
C10300						英語 III					
C10400						英語 IV					
AK42		英語基礎 B	中村 則子	1	C10600	英語基礎	×		1年	・文学専攻(英文学)は申込不可。	
AK43		TOEIC B	八木 茂那子	1	C108S0	TOEIC	×		1年		
AK44		民法 I B	根本 晋一	2	K20200	民法 I	×	※	※	・法学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
AK45	西洋史特講 I	青山 由美子	2	Q31200	西洋史特講 I	×		2年			
AK46	経済史総論 B	下斗米 秀之	2	R20200	経済史総論	×	※	※	・経済学部は1学年以上申込可。 ・それ以外は2学年以上申込可。		
AK47	英語科教育法Ⅲ	小澤 賢司	2	T30300	英語科教育法Ⅲ	×	○	2年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。		
5	AK51	英語 J	八木 茂那子	1	C10100	英語 I	×		1年	I~IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英語 II					
					C10300	英語 III					
					C10400	英語 IV					
	AK52	英語 Q	中村 則子	1	C10100	英語 I	×		1年	I~IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英語 II					
					C10300	英語 III					
					C10400	英語 IV					
	AK53	TOEIC C	町田 純子	1	C108S0	TOEIC	×		1年		
	AK54	憲法	田上 雄大	2	K20100	憲法	×	※	※	・法学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
AK55	民法 III B	根本 晋一	2	K30200	民法 III	×		2年			
AK56	哲学演習 A	中澤 睦	1	P401S0	哲学演習 I	×		3年	哲学専攻のみ申込可。 ・I, IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。		
				P402S0	哲学演習 II						
AK57	商法	酒巻 俊之	2	S30200	商法	×		2年			
AK58	教育原論/教育の思想	古賀 徹	2	T10200	教育原論	×		○	2年	・スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
				T10300	教育の思想						

※「対対象」欄に○が入っている講座は1月から対面授業を実施する可能性があります。12月までの期間はオンデマンド授業又はオンライン授業(ZOOM等)で授業を行います。
それ以外の講座は15回全てオンデマンド配信による開講となります。

令和3年度昼間スクーリング(後期)開講講座一覧

【金曜日】

曜日	時間	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充 当 科 目 コ ー ド	科 目 名	併 用	対 面	配 当 学 年	備 考
金	1	AL11	文学	尾形 大	2	B11300	文学	×		1年	
		AL12	英語 K	大庭 香江	1	C10100	英語 I	×		1年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
						C10200	英語 II				
						C10300	英語 III				
						C10400	英語 IV				
		AL13	イギリス文学史 II	猪野 恵也	2	N30100	イギリス文学史 II	×		2年	
		AL14	東洋思想史 I	本間 直人	2	P20300	東洋思想史 I	×		※	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AL15	西洋史入門	高草木 邦人	2	Q20300	西洋史入門	×		※	・史学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
		AL16	日本史概説/日本史概論	鍋本 由徳	2	Q30200	日本史概説	×		2年	・文理/経済/商学部のみ申込可。 ・法学部のみ申込可。
						K32200	日本史概論				
	AL21	経済学 B	谷川 孝美	2	B11800	経済学	×		1年		
	AL22	英語基礎 C	大庭 香江	1	C10600	英語基礎	×		1年	1年	・文学専攻(英文学)は申込不可。
	AL23	フランス語 I・II	大庭 克夫	1	E10100	フランス語 I	×	○	1年	1年	・ I、IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					E10200	フランス語 II					
	AL24	イギリス文学史 II B	猪野 恵也	2	N30100	イギリス文学史 II	×		2年		
	AL25	英米文学演習 B	野呂 有子	1	N404S0	英米文学演習 I	×		3年	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・ I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					N405S0	英米文学演習 II					
					N406S0	英米文学演習 III					
	AL26	西洋思想史 I	関谷 雄磨	2	P20200	西洋思想史 I	×		※	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AL31	経済学 C	谷川 孝美	2	B11800	経済学	×		1年		
	AL32	英語 L	石川 勝	1	C10100	英語 I	×	○	1年	2年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					C10200	英語 II					
					C10300	英語 III					
					C10400	英語 IV					
	AL33	刑法 I	南部 篤	2	K20300	刑法 I	×	○	※	・法律学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AL34	政治学原論	吉野 篤	2	L20100	政治学原論	×		※	・政治経済学科のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。	
	AL35	国文学講義 V(近代)	榎本 正樹	2	M30900	国文学講義 V(近代)	×		2年		
	AL36	英作文 I	大庭 香江	2	N30400	英作文 I	×		2年	スクーリング1回の合格で単位完成する科目です。	
	AL37	英語学演習 A	小澤 賢司	1	N401S0	英語学演習 I	×		3年	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・ I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。 ・前期は対面授業対象でしたが、後期はオンデマンド授業となります。
					N402S0	英語学演習 II					
N403S0					英語学演習 III						
AL38	哲学基礎講読	石井 友人	2	P20100	哲学基礎講読	×		※	・哲学専攻のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。		
AL39	商業政策 A	花田 哲郎	2	S31000	商業政策	×		2年			
AL3A	市場調査論	最上 健児	2	S317S0	市場調査論	×		2年			
4	AL41	英語 T	大庭 香江	1	C10100	英語 I	×		1年	2年	・ I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					C10200	英語 II					
					C10300	英語 III					
					C10400	英語 IV					
	AL42	ドイツ語 I・II	中島 伸	1	D10100	ドイツ語 I	×	○	1年	1年	・ I、IIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
	AL43	国文学概論	山崎 泉	2	M20200	国文学概論	×		2年	2年	・文学専攻(国文学)のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。
					N401S0	英語学演習 I					
	AL44	英語学演習 C	小澤 賢司	1	N402S0	英語学演習 II	×		3年	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・ I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					N403S0	英語学演習 III					
					P30400	宗教学概論					
AL45	宗教学概論	合田 秀行	2	P30400	宗教学概論	×		2年			
AL46	商業史	竹内 真人	2	S32100	商業史	×		2年			
AL47	商業政策 B	花田 哲郎	2	S31000	商業政策	×		2年			
AL48	経営学 B	所 伸之	2	S20200	経営学	×		※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。		
AL51	哲学 D	中澤 瞳	2	B10700	哲学	×		1年			
AL52	社会学 B	服部 慶亙	2	B11600	社会学	×		1年			
AL53	英語基礎 D	大庭 香江	1	C10600	英語基礎	×		1年	1年	・文学専攻(英文学)は申込不可。	
AL54	英語学演習 B	小澤 賢司	1	N401S0	英語学演習 I	×		3年	3年	・文学専攻(英文学)のみ申込可。 ・ I～IIIのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
				N402S0	英語学演習 II						
				N403S0	英語学演習 III						
AL55	日本史特講 II	坂口 太助	2	Q30900	日本史特講 II	×		2年			
AL56	簿記論 I	青木 隆	2	S20300	簿記論 I	×		※	・商学部のみ1学年以上申込可。 ・上記以外は2学年以上申込可。		

※「対対象」欄に○が入っている講座は1月から対面授業を実施する可能性があります。12月までの期間はオンデマンド授業又はオンライン授業(ZOOM等)で授業を行います。それ以外の講座は15回全てオンデマンド配信による開講となります。

令和3年度昼間スクーリング(後期)開講講座一覧

【土曜日】

曜日	時限	講座コード	講座名	担当教員	開講 単位数	充当 科目 コード	科目名	併用	対面	配当 学年	備考
土	2	AM21	財政学／財政学総論	斎藤 英明	2	L31400	財政学	×		2年	・文理・経済・商学部のみ申込可。
						R31500	財政学総論				・法学部のみ申込可。

※「対面対象」欄に○が入っている講座は1月から対面授業を実施する可能性があります。12月までの期間はオンデマンド授業又はオンライン授業(ZOOM等)で授業を行います。それ以外の講座は15回全てオンデマンド配信による開講となります。

◆授業概要

本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について紹介する。また、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考えを巡らせる機会をもってもらおう。

◆学修到達目標

心理学の基礎的・応用的知識を幅広く獲得する。また、人間の心の働きについて科学的に考える力を身につけることで、人々のさまざまな行動を心理学的な視点から理解し、説明できるようになる。

◆授業方法

授業は主として講義形式で行う。授業動画を視聴してから、毎回の課題を提出する。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートを取りながら積極的に参加をするようつとめること。

アクティブ・ラーニングとして、心理学に関する実験の一部を体験してもらうことがある。

課題のフィードバックや質問対応は主に Classroom 上で行う。

◆履修条件

令和3年度昼間後期『心理学B』との積み重ね不可

◆成績評価基準

毎回の授業で課題を実施する（全体の20%）。第15回に授業内試験を実施する（全体の80%）。すべて出席していることを前提として評価する（課題の提出が出席を兼ねる）。

◆教科書

教科書は使用しない。毎回 Classroom 上で授業資料を配布する。その他、必要に応じて Classroom 上で参考資料の案内を行う。

◆参考書

市販本 『心理学』 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 第5版 東京大学出版会 2015

市販本 『心理学の基礎』 山田一成・谷口明子 八千代出版 2014

市販本 『Next 教科書シリーズ 発達と学習』 内藤佳津雄・北村世都・鏡直子 第2版

市販本 『環境心理学 人間と環境の調和のために』 羽生和紀 第2版 サイエンス社 2019』

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。詳細や、変更がある場合には、Classroom 上で指示する。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス，発達1 発達とは，発達の特徴
	事前学修	シラバスの内容をよく確認しておく。発達とは，どのようなものか，自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
2回	授業内容	発達2：発達段階の特徴
	事前学修	前回の授業の内容を確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
3回	授業内容	感情：感情の種類とメカニズム
	事前学修	他者の感情状態を推測した，あるいは他者から自分の感情状態を推測された経験を思い出し，判断の手がかりはどのようなものだったと思うか，自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
4回	授業内容	動機づけ1：欲求と欲求不満，葛藤
	事前学修	欲求にはどのような種類があるか，自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
5回	授業内容	動機づけ2：動機づけの理論
	事前学修	動機づけを高めるために，どのような工夫ができるか（しているか），自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
6回	授業内容	個人差1：パーソナリティの理論と測定
	事前学修	自分のパーソナリティにはどんな特徴があるか，環境の影響を受けて変わってきたことはあるか，考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
7回	授業内容	個人差2：知能の理論と測定
	事前学修	「頭が良い」とはどのようなことを指すと思うか，自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
8回	授業内容	ストレスと心の健康
	事前学修	自分がどのようなことにストレスを感じやすいか，またストレスを感じたときどのような対処ができるか，自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
9回	授業内容	社会1：社会的認知（自己・他者・集団・対人関係に対する認知）
	事前学修	自分を良く見せようとしたり，他者を先入観や色眼鏡で見てしまったりするような現象にはどのようなものがあるか，自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	社会2：社会的影響
	事 前 学 修	人間の考えや態度，行動が他者や集団から影響を受けて変化するのはどのような時か，自分なりに考えておく。
	事 後 学 修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
11 回	授 業 内 容	環境1：環境の知覚と認知，環境デザイン
	事 前 学 修	「快適な環境」とはどのようなものだと思うか，自分なりに考えておく。
	事 後 学 修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
12 回	授 業 内 容	環境2：対人・社会環境，さまざまな環境
	事 前 学 修	自分が「居心地が良い（悪い）」、「好き（嫌い）」と思う場所には，どのような特徴があるか，自分なりに考えておく。
	事 後 学 修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
13 回	授 業 内 容	環境3：環境と犯罪
	事 前 学 修	自分が「安全（危険）」、「安心（不安）」と思う場所には，どのような特徴があるか，自分なりに考えておく。
	事 後 学 修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
14 回	授 業 内 容	振り返りとまとめ
	事 前 学 修	これまでの授業内容を再確認しておく。
	事 後 学 修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
15 回	授 業 内 容	理解度の確認（試験）とまとめ
	事 前 学 修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
	事 後 学 修	これまでの授業内容を復習し，自分の回答が適切か確認する。

◆授業概要

人間は、一人で生きてゆくことの出来ない弱い存在である。ゆえに、共同生活を営む者（仲間）が必要不可欠となる。また、社会生活は（必ずしも）自分の思い通りにゆくものではない。担当者が実際に社会調査やフィールドワークの調査員として実地体験したことなどを理論的にまとめ、受講者自身の現実を実践的に理解し、「2021年と情報社会」というテーマについて考えてゆく。

◆学修到達目標

「大学で学んだことは日常で役に立たない」という声を聞くが、本当にそうだろうか？
そんな疑問と対峙しつつ、学問が自分の日常生活や人生の現在・過去・未来と密接に関わっていることを理解し、社会（科）学的な視点で自分自身をとらえる技術を身につける。
また、講義内で国内外の情勢に触れ、我々を取り巻く様々な問題点の根源が説明できる視点を養う。

◆授業方法

GoogleClassroom を介したオンデマンド授業となるが、教科書・プリントなどを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて音楽や映像作品、マンガなど視聴覚資料を別途用意する。また、オンデマンドではあるが、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が求められる。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は、各2時間を目安とする。

◆履修条件

同時期（後期）開講の「社会学B」との積み重ね履修不可。

◆成績評価基準

オンデマンド授業になるので、講義用動画の配信後に毎回「課題」の提出が求められる。（50%）
15回の授業後、「最終課題」が提示される。（50%）
なお、「課題」の未提出があると GoogleClassroom のシステム上 “相当な” 減点処理が為されるので、気をつけること。

◆教科書

市販本 『人間生活の理論と構造』夏刈康男（ほか） 学文社 1999

市販本 『改訂ストレス・スパイラル』服部慶亘 新協（ジャパン・プレス・フォト） 2020

※すでに『補強版ストレス・スパイラル』を所有している人は、それを使用します。

◆参考書

資料配布 (Classroom) | プリント配布 (GoogleClassroom 使用時)

◆授業相談先（連絡先）

オンデマンド授業の際は、GoogleClassroomの「限定公開コメント欄」を使用する。
全期間通じてEメール（hattori.yoshinobu2020@nihon-u.ac.jp）での対応も可。

◆授業計画

1回	授業内容	後期ガイダンス（講義の方針、展開方法、目標などを確認する）
	事前学修	シラバスと講義用資料を読んで、講義の目的・目標を理解する。
	事後学修	テキストを入手し、「もくじ」に目を通しておく。
2回	授業内容	「社会」とは何か？（前期の振り返り）
	事前学修	前回の講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
3回	授業内容	日常と情報① 社会調査の目的
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
4回	授業内容	日常と情報② 「仮説」とは？
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
5回	授業内容	日常と情報③ 仮説の生成と検証
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
6回	授業内容	マス・コミュニケーション① 概説
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
7回	授業内容	マス・コミュニケーション② マスコミの機能（役割）
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
8回	授業内容	マス・コミュニケーション③ マスコミの問題点
	事前学修	これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。

◆授業計画

9回	授業内容	人間生活と情報① 意識（目標）乖離
	事前学修	これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
10回	授業内容	人間生活と情報② 集団の類型
	事前学修	これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
11回	授業内容	人間生活と情報③ 集団の規範と圧力
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
12回	授業内容	社会意識① 過同調
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
13回	授業内容	社会意識② ゲマインシャフトとゲゼルシャフト（1）
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
14回	授業内容	社会意識③ ゲマインシャフトとゲゼルシャフト（2）
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
15回	授業内容	理解度確認（まとめ）
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。
	事後学修	「最終課題」に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。

◆授業概要

企業は我々の生活と密接に結びつく必要不可欠な存在です。本講義では、経営学の全体像と基礎的な考え方・方法論の解明に焦点を当てます。後期は経営組織、経営戦略を取り上げます。経営組織では組織設計の原則、組織構造等を扱います。経営戦略では戦略の基礎、資源配分、競争戦略等を扱います。財団法人機械振興協会経済研究所での調査研究の経験を基に、経営学の理論の理解を深めるため、具体例を用いて講義に反映させています。

◆学修到達目標

1. 新聞、雑誌、ニュース等で扱われる現実の企業行動を経営学の多角的な視点から分析し、自分の言葉で説明しながら、討議することができる。
2. 経営組織の理論、考え方、手法を用いて、現代企業が直面する組織的な問題を分析し、自分の言葉で説明しながら、討議することができる。
3. 経営戦略の理論、考え方、手法を用いて、現代企業が直面する戦略上の問題を分析し、自分の言葉で説明しながら、討議することができる。

◆授業方法

音声付き動画の配信によるオンデマンド授業になります。授業動画は毎回1テーマごとに完結しています。一度の視聴で分からなかった内容の動画は、重点的に繰り返し視聴してください。また、指定したテキストの該当箇所も提示します。それでも不明な点についての質問は随時受け付けます。私のメールアドレス zgok@ic.daito.ac.jp にお送り頂くと迅速な回答ができると思います。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

オンデマンド授業で出される課題は評価対象ですので、全て提出してください（課題：100%）。全て出席していることを前提として評価します。なお、オンデマンド授業の場合、課題の提出が出席を兼ねています。

◆教科書

市販本 『経営学入門[上](第2版)』 榊原清則 日本経済新聞出版社

◆参考書

市販本 『経営学イノベーション1 経営学入門 第2版』 十川廣國 中央経済社

市販本 『経営学イノベーション2 経営学入門 第2版』 十川廣國 中央経済社

市販本 『経営学イノベーション3 経営学入門 第2版』 十川廣國 中央経済社

◆授業相談先（連絡先）

授業等で何か分からない点、質問などあれば、zgak@ic.daito.ac.jp まで連絡してください。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	イントロダクション：授業の進め方、評価、経営学とは何か？まずは、本授業の進め方や評価方法等について説明する。次に、経営組織論と経営戦略論の概要、学習の意義等について解説する。
	事 前 学 修	テキスト 13～17 頁を復習しておくと共に、20～34 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容をノートにまとめ、テキストの該当部分を復習し、授業内容を理解しておくこと。
2回	授 業 内 容	組織の定義と組織構造の規定要因 組織の定義、組織構造の特徴、組織構造を規定する要因(規模、技術、外部環境の特性)について解説する。
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し、テキスト 97～113 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、組織の定義、組織構造の特徴、組織構造を規定する要因(規模、技術、外部環境の特性)について説明できるようにしておくこと。
3回	授 業 内 容	組織デザインの基本原則 組織設計の基本原則(分業と調整)を踏まえ、組織設計の際に考慮すべき伝統的な原則について解説する。
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認すると共に、テキスト 113～120 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、組織設計の基本原則である分業と調整及び伝統的な組織設計の諸原理について、事例を挙げながら説明できるようにしておくこと。
4回	授 業 内 容	職能別組織と事業部制組織 組織構造の基本形として、職能別組織及び事業部制組織を取り上げ、概要、メリット・デメリット等について解説する。
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認すると共に、テキスト 120～134 頁をよく読んでおくこと。特に、図 3-2 及び図 3-3 で組織構造の基本形を把握しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、授業の内容をノートに整理し、職能別組織及び事業部制組織の概要、メリット・デメリット等について、事例を挙げながら説明できるようにしておくこと。

◆授業計画

5回	授業内容	プロジェクト組織とマトリックス組織 組織構造の基本形として、プロジェクト組織とマトリックス組織を取り上げ、概要、メリット・デメリット等について解説する。
	事前学修	前回の授業のノートを確認すると共に、テキスト120～134頁をよく読んでおくこと。特に、事業部制組織の弊害を復習すると共に、図3-4及び図3-6で組織構造の基本形を把握しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、配布資料も確認しながら、プロジェクト組織とマトリックス組織の概要、メリット・デメリット等について、事例を挙げながら説明できるようにしておくこと。
6回	授業内容	カンパニー制と持株会社制 新しい組織構造のあり方として、カンパニー制と持株会社制を取り上げ、概要、メリット・デメリット等について解説する。
	事前学修	前回の授業のノートを確認すると共に、実際に持株会社制を採用している企業を調べておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、配布資料も確認しながら、カンパニー制と持株会社制の概要、メリット・デメリット等について、事例を挙げながら説明できるようにしておくこと。
7回	授業内容	組織文化の概念と機能 組織文化とは何か、組織文化の機能・逆機能、組織文化研究の変遷、組織文化の変革等について解説する。
	事前学修	組織構造の本質と問題点を復習し、テキスト90～94頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、組織文化の概念と機能、組織文化の変革等について、事例を挙げながら説明できるようにしておくこと。
8回	授業内容	経営戦略論の誕生と意義 経営戦略論の誕生、経営戦略の位置づけと役割、経営戦略の階層性といった経営戦略論の基本的な概念について解説する。
	事前学修	テキスト29～46頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、配布資料も確認しながら、経営戦略論の誕生、経営戦略の位置づけと役割、経営戦略の階層性について、事例を挙げながら説明できるようにしておくこと。
9回	授業内容	企業ドメインの規定と課題企業の全社戦略の中心テーマである企業ドメインの定義、機能、規定要因、ドメイン・コンセンサス等について解説する。
	事前学修	前回の授業のノートを確認すると共に、テキスト188～212頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、企業ドメインの定義、機能、規定要因、ドメイン・コンセンサス等について、事例を挙げながら説明できるようにしておくこと。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	経験曲線の概念と戦略指針 資源配分戦略の枠組みを構成する経験曲線の概念及び経験曲線に基づく経営戦略の方向性、問題点等について解説する。
	事 前 学 修	テキスト 154～160 頁をよく読んで経験曲線の概要を把握しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、経験曲線の概念、経験曲線効果の源泉を理解すると共に、経験曲線を活用した経営戦略の特徴と問題点について、事例を挙げながら説明できるようにしておくこと。
11 回	授 業 内 容	製品ライフサイクルの概念と戦略的課題 資源配分戦略の枠組みを構成する製品ライフサイクルの概念とライフサイクルの各段階での経営戦略の課題について解説する。
	事 前 学 修	製品ライフサイクルという言葉の意味について調べておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、製品ライフサイクルの概要、特に各段階におけるキャッシュ・フローのバランスと戦略的な課題について説明できるようにしておくこと。
12 回	授 業 内 容	PPM の枠組みと基本戦略 事業ポートフォリオ戦略の枠組み及び基本的な資源配分戦略の考え方について説明する。
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認すると共に、テキスト 160～169 頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、事業ポートフォリオ戦略の枠組みを理解すると共に、資源配分の基本的な戦略及び分析的な戦略論の問題点について説明できるようにしておくこと。
13 回	授 業 内 容	業界構造分析の枠組み 競争戦略の基本的な考え方を踏まえた上で、ポーターの 5 つの競争要因を取り上げ、業界構造分析の枠組みと問題点について解説する。
	事 前 学 修	テキスト 169～174 頁をよく読んでおくこと。特に、図 4-9 により業界構造分析の概要を把握しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、ポーターの 5 つの競争要因を挙げて業界構造分析の枠組みを説明できるようにしておくこと。さらに、具体的な業界を選び実際に業界構造分析によって特徴を把握できるようにしておくこと。
14 回	授 業 内 容	3 つの基本戦略とスタック・イン・ザ・ミドル ポーターの 3 つの基本戦略の概要を解説すると共に、スタック・イン・ザ・ミドル仮説について議論する。
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認すると共に、テキスト 174～184 頁をよく読んでおくこと。特に、図 4-10 及び図 4-11 に目を通しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、3 つの基本戦略の概要について、事例を挙げながら説明できるようにしておくこと。また、具体的な事例を用いてスタック・イン・ザ・ミドル仮説の妥当性を議論できるようにしておくこと。

◆授業計画

15 回	授 業 内 容	最終課題の提出及び解説
	事 前 学 修	作成した授業のノート、テキストを復習し、これまでの学習内容を理解しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再度確認・理解し、自己の学習成果を点検すること。

◆授業概要

本講義では、心をどのようにとらえ、さらに日常生活の上での問題解決に役立てるかといった、心理学の基礎から応用までの主要領域について紹介する。また、それぞれの日常生活の中で、心理学やそれに関連した学問の理論や知見について、考えを巡らせる機会をもってもらおう。

◆学修到達目標

心理学の基礎的・応用的知識を幅広く獲得する。また、人間の心の働きについて科学的に考える力を身につけることで、人々のさまざまな行動を心理学的な視点から理解し、説明できるようになる。

◆授業方法

授業は主として講義形式で行う。授業動画を視聴してから、毎回の課題を提出する。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、ノートをとりながら積極的に参加をするようつとめること。

アクティブ・ラーニングとして、心理学に関する実験の一部を体験してもらうことがある。課題のフィードバックや質問対応は主に Classroom 上で行う。

◆履修条件

令和3年度昼間後期『心理学 A』との積み重ね不可

◆成績評価基準

毎回の授業で課題を実施する（全体の 20%）。第 15 回に授業内試験を実施する（全体の 80%）。すべて出席していることを前提として評価する（課題の提出が出席を兼ねる）。

◆教科書

教科書は使用しない。毎回 Classroom 上で授業資料を配布する。その他、必要に応じて Classroom 上で参考資料の案内を行う。

◆参考書

市販本 『心理学』 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 第 5 版 東京大学出版会 2015

市販本 『心理学の基礎』 山田一成・谷口明子 八千代出版 2014

市販本 『Next 教科書シリーズ 発達と学習』 内藤佳津雄・北村世都・鏡直子 第 2 版

市販本 『環境心理学 人間と環境の調和のために』 羽生和紀 第 2 版 サイエンス社 2019』

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。詳細や、変更がある場合には、Classroom 上で指示する。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス, 発達1 発達とは, 発達の特徴
	事前学修	シラバスの内容をよく確認しておく。発達とは, どのようなものか, 自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し, 授業の内容をノート等に整理しておく。
2回	授業内容	発達2: 発達段階の特徴
	事前学修	前回の授業の内容を確認しておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し, 授業の内容をノート等に整理しておく。
3回	授業内容	感情: 感情の種類とメカニズム
	事前学修	他者の感情状態を推測した, あるいは他者から自分の感情状態を推測された経験を思い出し, 判断の手がかりはどのようなものだったと思うか, 自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し, 授業の内容をノート等に整理しておく。
4回	授業内容	動機づけ1: 欲求と欲求不満, 葛藤
	事前学修	欲求にはどのような種類があるか, 自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し, 授業の内容をノート等に整理しておく。
5回	授業内容	動機づけ2: 動機づけの理論
	事前学修	動機づけを高めるために, どのような工夫ができるか (しているか), 自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し, 授業の内容をノート等に整理しておく。
6回	授業内容	個人差1: パーソナリティの理論と測定
	事前学修	自分のパーソナリティにはどんな特徴があるか, 環境の影響を受けて変わってきたことはあるか, 考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し, 授業の内容をノート等に整理しておく。
7回	授業内容	個人差2: 知能の理論と測定
	事前学修	「頭が良い」とはどのようなことを指すと思うか, 自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し, 授業の内容をノート等に整理しておく。
8回	授業内容	ストレスと心の健康
	事前学修	自分がどのようなことにストレスを感じやすいか, またストレスを感じたときどのような対処ができるか, 自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し, 授業の内容をノート等に整理しておく。
9回	授業内容	社会1: 社会的認知 (自己・他者・集団・対人関係に対する認知)
	事前学修	自分を良く見せようとしたり, 他者を先入観や色眼鏡で見てしまったりするような現象にはどのようなものがあるか, 自分なりに考えておく。
	事後学修	配布資料の内容を確認し, 授業の内容をノート等に整理しておく。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	社会2：社会的影響
	事 前 学 修	人間の考えや態度，行動が他者や集団から影響を受けて変化するのはどのような時か，自分なりに考えておく。
	事 後 学 修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
11 回	授 業 内 容	環境1：環境の知覚と認知，環境デザイン
	事 前 学 修	「快適な環境」とはどのようなものだと思うか，自分なりに考えておく。
	事 後 学 修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
12 回	授 業 内 容	環境2：対人・社会環境，さまざまな環境
	事 前 学 修	自分が「居心地が良い（悪い）」、「好き（嫌い）」と思う場所には，どのような特徴があるか，自分なりに考えておく。
	事 後 学 修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
13 回	授 業 内 容	環境3：環境と犯罪
	事 前 学 修	自分が「安全（危険）」、「安心（不安）」と思う場所には，どのような特徴があるか，自分なりに考えておく。
	事 後 学 修	配布資料の内容を確認し，授業の内容をノート等に整理しておく。
14 回	授 業 内 容	振り返りとまとめ
	事 前 学 修	これまでの授業内容を再確認しておく。
	事 後 学 修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
15 回	授 業 内 容	理解度の確認（試験）とまとめ
	事 前 学 修	試験に備えて授業内容を復習しておく。
	事 後 学 修	これまでの授業内容を復習し，自分の回答が適切か確認する。

◆授業概要

Students will have the chance to listen to conversations and model them in various role play situations. Through such practices, students will exchange information and ideas with their peers. Students will be asked to hand in classwork from time to time.

◆学修到達目標

This course is aimed at giving students the tools and the opportunity to speak with other students in a friendly setting. We hope to build confidence in using English while discussing a wide range of topics.

◆授業方法

The teacher will provide a model conversation to be followed. Questions will be explained and example answers will be given for each question. Students will have the opportunity to practice tasks with various members of the class in large and small groups.

◆履修条件

This course is open to all students. The content is set at beginner levels and progresses to pre-intermediate. The course requires active participation.

令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語 B』（アレックスブラウン）との積み重ね不可

◆成績評価基準

Class participation and in-class assignments (80%). 1 test (20%).

◆教科書

なし。

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

alex.brown2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	1. Summer Vacation Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss details of your summer vacation.
	事後学修	Prepare to discuss 2. Sickness and Health in Times of Covid
2回	授業内容	2. Sickness and Health in Times of Covid. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss details of your health and the dangers of Covid 19.
	事後学修	Prepare to discuss 3. Old School vs. New School
3回	授業内容	3. Old School vs. New School. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss details of your school life.
	事後学修	Prepare to discuss 4. Styles
4回	授業内容	4. Styles. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss topics about fashion.
	事後学修	Prepare to discuss 5. Give Your Opinion
5回	授業内容	5. Give Your Opinion. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss opinions on various topics.
	事後学修	Prepare to discuss 6. Crime and Punishment.
6回	授業内容	6. Crime and Punishment. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about crimes in the news and punishments related.
	事後学修	Prepare to discuss 7. Dating
7回	授業内容	7. Dating. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about dating customs and etiquette.
	事後学修	Prepare to discuss 8. Fears

◆授業計画

8回	授業内容	8. Fears. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about things you are afraid of.
	事後学修	Prepare to discuss 9. Beliefs
9回	授業内容	9. Beliefs. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss various beliefs.
	事後学修	Prepare to discuss 10. Me, Myself and I
10回	授業内容	10. Me, Myself and I. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about some personal preferences.
	事後学修	Prepare to discuss 11. What Would You Do If...
11回	授業内容	11. What Would You Do If... Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss various conditions that are real or sometimes imaginary.
	事後学修	Prepare to discuss 12. Random Questions
12回	授業内容	12. Random Questions. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare for questions that are light-hearted in nature.
	事後学修	Prepare to discuss 13. Marriage
13回	授業内容	13. Marriage. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about the topic of marriage.
	事後学修	Prepare to discuss 14. Moving Forward
14回	授業内容	14. Moving Forward. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare for discussing questions about the future.
	事後学修	Prepare to discuss 15. Making Questions and Giving Answers.

◆授業計画

15 回	授業内容	15. Making Questions and Giving Answers. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences. You must complete the questions using your own ideas. There will also be a review test.
	事前学修	Review all topics for a test.
	事後学修	Congratulations on completing General English.

◆授業概要

本講義では、近代日本において展開された政治を通史のかたちで学んでいく。歴史的な文脈を正しく把握するためには、時代ごとに区切って学ぶことは必ずしも得策ではないが、便宜上、本講義では明治後期から大正期を対象とする。史料に基づいて通説を批判的に検証しながら、対外戦争に臨んだ歴史的背景や大正政変などの国内政治の過程を理解する。昼間スクーリング（前期）「日本政治史」を受講していることが望ましい（前期に受講していない場合は、教科書の該当部分を一読してから参加すること）。

◆学修到達目標

歴史を考察するための基本的な方法を理解し、批判的に史料を読むことができる。
日本が世界の五大国に数えられるまでに発展していった過程を説明することができる。
日本における議会政治の展開を説明することができる。

◆授業方法

基本的には、通信教育教材（教科書）の章立てに沿うかたちで、史料や最新の研究成果を紹介しながら講義を進める。授業の内容は、あくまでも初学者を対象として構成しているが、高校までの歴史科目で扱われている基本的な出来事や人物に関しては、おおむね理解していることを前提に話を進める。受講にあたっては、かならずノートを用意すること。

◆履修条件

同じ時代区分を扱った「日本政治史」講座とは積み重ね不可。
具体的には、令和2年度昼間スクーリング（後期）とは積み重ねて履修することはできない（昼間スクーリング（前期）および夏期スクーリングは扱った時代区分が異なるため、積み重ねが可能）。

◆成績評価基準

小テスト等の課題に対する積極的な受講態度を加味したうえで（10%）、総括的評価のための試験結果をもとに成績をつける（90%）。授業総数のうち3分の1を超える欠席がある場合は、評価の対象にはならない。

◆教科書

通材 『日本政治史 L30400』

※必要に応じて、授業のなかで紹介する

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	イントロダクション
	事前学修	シラバスを読んでもらうこと。
	事後学修	ノートの取り方を確認しておくこと。
2回	授業内容	憲法制定と諸制度の改革・整備
	事前学修	教科書第5章第1節を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、大日本帝国憲法の制定過程と歴史的意義を理解する。
3回	授業内容	初期議会と日清戦争①
	事前学修	教科書第5章第2節第1項～第2項を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、帝国議会の開設と第1議会の展開を理解する。
4回	授業内容	初期議会と日清戦争②
	事前学修	教科書第5章第2節第3項～第4項を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、初期議会の展開を理解する。
5回	授業内容	初期議会と日清戦争③
	事前学修	教科書第5章第2節第5項を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、日清戦争の歴史的意義を理解する。
6回	授業内容	政党政治の誕生
	事前学修	教科書第6章第1節を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、隈板内閣の歴史的意義を理解する。
7回	授業内容	帝国主義国家への歩み①
	事前学修	教科書第6章第2節第1項～第3項を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、政友会の創立過程や日英同盟の歴史的意義を理解する。
8回	授業内容	帝国主義国家への歩み②
	事前学修	教科書第6章第2節第4項～第5項を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、日露戦争の歴史的意義を理解する。
9回	授業内容	明治の終焉
	事前学修	教科書第6章第3節を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、桂園時代の歴史的意義を理解する。
10回	授業内容	大正の政変
	事前学修	教科書第7章第1節を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、第一次憲政擁護運動の展開と歴史的意義を理解する。
11回	授業内容	第一次世界大戦①
	事前学修	教科書第7章第2節第1項～第3項を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、参戦過程や対華21箇条要求の歴史的意義を理解する。
12回	授業内容	第一次世界大戦②
	事前学修	教科書第7章第2節第4項～第5項を読んでもらうこと。
	事後学修	ノートを整理し、米騒動の歴史的意義を理解する。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	政党政治の展開①
	事 前 学 修	教科書第7章第3節第1項～第2項を読んてくること。
	事 後 学 修	ノートを整理し、原敬内閣の歴史的意義を理解する。
14 回	授 業 内 容	政党政治の展開②
	事 前 学 修	教科書第7章第3節第3項～第5項を読んてくること。
	事 後 学 修	ノートを整理し、国際会議や第2次護憲運動の展開を理解する。
15 回	授 業 内 容	後期の総括
	事 前 学 修	ノートの内容を確認し、教科書や参考文献で補う。
	事 後 学 修	大正末期までの日本政治の展開を振り返る。

◆授業概要

現代の政治を評価する際には、その評価の基礎となる判断基準が不可欠となる。では、どのような判断基準が必要とされるべきなのか——本講では、これを考える手掛かりとなる古今の政治観や政治構想を共同体や国家という政治単位の観点を中心に提起し、各時代の問題状況とそれに対する政治的解決策を検討する。加えて、これらの議論が現代の政治を考える上でいかなる意味を持ちうるかを考察する。

◆学修到達目標

- ・「政治」および「デモクラシー」の源流ともいえる古典古代の政治観を知り、説明することができる。
- ・近代の政治観を学び、現代につながる要素を考察することにより、眼前の政治課題や社会問題を多角的に考察できるようになる。
- ・既存の政治制度や政策の基盤となる考え方、およびその形成過程を知り、政治的選択の多様な可能性を考慮できるようになる。

◆授業方法

講義形式で行う。

また授業中に意見・感想を求める場合がある。直接発言をもとめたり、資料についてペーパーに書いてもらったりすることがある。ペーパーへの講評は、翌回に実施予定。
本授業の事前学習・事後学習は各2時間を目安としている。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

オンデマンド授業で出される課題は評価対象であるのですべて提出すること（全体の50%）。対面授業では、授業内小テストが評価対象となる（全体の50%）。オンデマンド・対面両授業において総合的に評価する。

◆教科書

講義データ・資料（PowerPoint、Word、動画など）を配布予定。

◆参考書

通信教育教材 『政治思想史 L30300』（通信教育教材）（教材コード 000082）

*必ずしも購入の必要はないので、ガイダンス時の説明を参考にすること。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	ガイダンス 講義の流れ、評価方法、および教科書・参考書に利用の仕方について説明する。
	事 前 学 修	事前にシラバスを熟読しておくこと。履修上確認しておきたい点をチェックしておくこと。
	事 後 学 修	講義内で紹介した文献を各自手に取り、内容を確認すること。
2回	授 業 内 容	イングランド内乱（ピューリタン革命）と近代の政治 イングランド内乱を概観した上で、ミルトンの自由論やハリントンの共和主義について考える。
	事 前 学 修	イングランド内乱（ピューリタン革命）の概要を調べておくこと。
	事 後 学 修	ミルトンとハリントンの考えが、現代にどのように関連するのかを検討しておくこと。
3回	授 業 内 容	ホッブズと社会契約 ホッブズの間人観の特徴を踏まえた上で、彼の社会契約論・主権論の特徴を中心に説明する。
	事 前 学 修	ホッブズの主著『リヴァイアサン』の本来の意味について調べておくこと。
	事 後 学 修	ボダンとホッブズの主権論について、比較検討しておくこと。
4回	授 業 内 容	ロックと統治 ロックの固有権（プロパティ）論の特徴を明らかにするとともに、彼の政治制度構想について講義を行う。
	事 前 学 修	加藤節『ジョン・ロック——神と人間との間』（岩波新書、2018）を読んでおくこと。
	事 後 学 修	ロックの現代的意義について、日本国憲法との関連から考察しておくこと。
5回	授 業 内 容	モンテスキューにおける法と自由 モンテスキューの法概念と政体論を考察し、それとの関連から彼の権力分立論を説明する。
	事 前 学 修	モンテスキューの政治的自由、および一般的な「政治的自由」の具体的内容を調べておくこと。
	事 後 学 修	ロックとモンテスキューの権力分立論の異同を確認しておくこと。

◆授業計画

6回	授業内容	啓蒙と文明社会 ヴォルテールの啓蒙専制主義を考察するとともに、それが前提とする文明社会の認識が英国のヒュームにおいて政治とどう結びついたかを考える。
	事前学修	ヴォルテールとヒュームの略歴・主要著作などがどのようなものであるのか、調べておくこと。
	事後学修	文明社会論の意義と問題点とを確認しておくこと。
7回	授業内容	ルソーと自由 ルソーの文明社会観・人間観の特徴を考察するとともに、彼の社会契約論の独自性を、自由をめぐる議論を中心に考える。
	事前学修	ルソーの主張する「自愛心」と「一般意志」の内容を調べておくこと。
	事後学修	3・4・7回の講義内容を整理し、異同を確認しておくこと。
8回	授業内容	アメリカの独立とその知的遺産 アメリカ独立を鼓舞したペインの『コモン・センス』と、独立後のアメリカ政治の在り方を議論した『フェデラリスト』を考察する。
	事前学修	アメリカ独立の史的経緯を確認しておくこと。
	事後学修	講義内容とデモクラシーとが、どのように関連するのかを確認しておくこと。
9回	授業内容	バークと保守主義 バークのフランス革命評価を概観し、そこから導出される彼の政党論・国制論について講義を行う。
	事前学修	バークが「保守主義の祖」とされる理由について調べておくこと。
	事後学修	バークの保守思想と現代の保守思想との相違を比較検討しておくこと。
10回	授業内容	ヘーゲルと国家 ヘーゲルの市民社会認識を踏まえた上で、それへの対応としての国家構想を、ナショナリズムと関連付けて説明する。
	事前学修	ヘーゲルのキー・タームである「人倫」と「欲望の体系」について、調べておくこと。
	事後学修	ヘーゲルの議論の問題点を、特に現代との関連で検討しておくこと。
11回	授業内容	社会主義の生成と展開 初期社会主義誕生の背景を概観した上で、サン・シモン、フーリエ、オーウェンの政治構想を検討する。
	事前学修	サン・シモン、フーリエ、オーウェンについて、どのような人物であったのか、出自や経歴、主要著書などについて調べておくこと。
	事後学修	現代の格差社会の観点から、初期社会主義思想をどのように評価できるのか検討しておくこと。
12回	授業内容	マルクスと革命 マルクスの資本主義観を考察し、そのつながりのなかでプロレタリア革命の理論構成について考察する。
	事前学修	マルクス『共産党宣言』（翻訳多数あり）を読んでくること。
	事後学修	歴史上の社会主義革命の事例を調べ、それと講義内容との関連を確認しておくこと。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	トクヴィルと自由 トクヴィルのアメリカ体験とデモクラシー観を検討した上で、自由を可能とする具体的な政治制度を検討する。
	事 前 学 修	トクヴィル特有の「デモクラシー」観について、その内容を調べておくこと。
	事 後 学 修	トクヴィルの議論の現代的意義と限界について、講義内容と関連づけて検討すること。
14 回	授 業 内 容	J. S. ミルと主権の絶対性 ミルの功利主義観や『自由論』を中心に考察した上で、それ以後の現代政治思想がどのような課題と向き合ったかを考える。
	事 前 学 修	ベンサムと J. S. ミルの功利主義観の違いについて内容を確認しておくこと。
	事 後 学 修	大衆社会とファシズムとの関係性について、講義内容を確認しておくこと。
15 回	授 業 内 容	講義総括および試験
	事 前 学 修	期全体の講義内容を総復習しておく。
	事 後 学 修	これまでの講義内容を振り返り、政治を学ぶ意義について考える。

◆授業概要

文学作品を扱うためには、本文の確定・一語一語の注釈という作業が必要不可欠である。また、読解を行うためには、作品の校本、現在までに刊行されている注釈書に目配りをするのが肝要である。本授業では、『万葉集』の歌を対象として、そうした研究の基礎的な方法を学ぶことにしたい。

◆学修到達目標

- ・『万葉集』の歌について、その特徴を説明できる。
- ・古典文学を読むための、必要な作業手順を説明することができる。
- ・『万葉集』以外の古典作品について、応用することができる。

◆授業方法

演習形式であるため、各自に発表箇所を割り当てた上で、口頭発表を行う。発表者は、担当箇所の調査、問題点等をまとめたレジュメを作成する。また、口頭発表では、参加者を含め質疑応答の時間を設け、討論を行う。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング『国文学基礎演習』（鈴木雅裕）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

発表 50% レポート 30% 授業参画度 20%

◆教科書

市販本 『補訂版 万葉集 本文篇』佐竹昭広・木下正俊・小島憲之 1998年 塙書房

※万葉集全歌が掲載されているものを既に持っていれば、そちらでも可。

市販本 『万葉事始』坂本信幸・毛利正守編 1995年 和泉書院

◆参考書

授業内で、適宜紹介する。

◆授業相談先（連絡先）

メールにて受け付ける。 suzuki.masahiro53@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授 業 内 容	ガイダンス（授業内容と進め方の説明）
	事 前 学 修	シラバスを熟読し、授業全体の大まかな流れを理解しておく。 『万葉集』について、どのようなものかを調べてみる。
	事 後 学 修	授業内容についての振り返りを行っておく。 『万葉集』にはどのような歌があるかを教科書を参考に調べてみる。
2回	授 業 内 容	レジュメ作成にあたっての基本作業1
	事 前 学 修	事前に配布する資料を熟読し、内容を理解しておく。また、不明点・疑問点をまとめておく。
	事 後 学 修	レジュメ作成に必要な資料を自分なりに検討する。そのうえで、必要となるものを書き出してみる。
3回	授 業 内 容	レジュメ作成にあたっての基本作業2
	事 前 学 修	図書館にどのような『万葉集』の注釈書があるかを確認しておく。
	事 後 学 修	可能な範囲で図書館に行き、発表に必要な資料を収集する。
4回	授 業 内 容	レジュメ作成にあたっての基本作業と模擬発表
	事 前 学 修	事前に配布する資料をあらかじめ読んでおき、レジュメの作成項目を確認しておく。
	事 後 学 修	口頭発表 A 担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質問事項を考えておく。
5回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 A
	事 前 学 修	口頭発表 A 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 A 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
6回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 B
	事 前 学 修	口頭発表 B 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 B 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
7回	授 業 内 容	受講者による口頭発表 C
	事 前 学 修	口頭発表 C 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事 後 学 修	口頭発表 C 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。

◆授業計画

8回	授業内容	受講者による口頭発表D
	事前学修	口頭発表D担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表D担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
9回	授業内容	受講者による口頭発表E
	事前学修	口頭発表E担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表E担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
10回	授業内容	受講者による口頭発表F
	事前学修	口頭発表F担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表F担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
11回	授業内容	受講者による口頭発表G
	事前学修	口頭発表G担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表G担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
12回	授業内容	受講者による口頭発表H
	事前学修	口頭発表H担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表H担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
13回	授業内容	受講者による口頭発表I
	事前学修	口頭発表I担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表I担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
14回	授業内容	受講者による口頭発表J
	事前学修	口頭発表J担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表J担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。

◆授業計画

15 回	授 業 内 容	最終レポート 課題に基づいてレポートを執筆、提出して下さい。
	事 前 学 修	レポート執筆に備えて、先行研究の調査及び資料収集を行って下さい。
	事 後 学 修	授業で学んだことを振り返り、その内容をもう一度確認した上で、「国文学とは何か」に関する考察及び理解を深めて下さい。

◆授業概要

本講義では、①景気変動、②有効需要の原理、③経済成長などに関する基礎理論、いわゆるマクロ経済理論について概説する。これを行うに際して、経済学の歴史的発展にそって経済理論を概説すると同時に、各時代の経済状況や経済政策などを講じることを通して、現代社会を生きる上で必要な経済学の基本的知識の習得を目指す。

◆学修到達目標

経済学の基本的な理論に関する講義を通して、①人間の経済活動に関する理解を深め、②経済学の発展に関する基本的な潮流を把握することにより、③学生が自らの力で身近に起きた現実の経済問題を考えることができるようになること、を目標としている。

◆授業方法

コロナ禍の影響により、オンデマンド形式で授業を行う。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

レポート（100％）で評価します。

◆教科書

市販本 大塚友美 『実験で学ぶ経済学』 創成社 2005年

通材 『経済学』 通信教育教材 （教材コード 000450）

◆参考書

授業中に指示する。または、参考書の抜粋を資料として授業中に配布する。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	近代経済学（マクロ経済学とミクロ経済学）
	事前学修	教科書・インターネット等を用いて、マクロ・ミクロ経済学について調べておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
2回	授業内容	「有効需要の原理」の基礎
	事前学修	教科書を通読し、「有効需要の原理」をおおまかに把握しておくこと。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
3回	授業内容	「有効需要の原理」の概要
	事前学修	教科書を通読し、「有効需要の原理」の理論的把握に努めること。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
4回	授業内容	「有効需要の原理」の問題点
	事前学修	これまでの講義を踏まえたうえで、「有効需要の原理」の問題点を考えること。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
5回	授業内容	スタグフレーションとリーケージ
	事前学修	教科書を読み、スタグフレーションとリーケージが「有効需要の原理」に及ぼした影響を考えること。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
6回	授業内容	小括（「有効需要の原理」と「生存権」）
	事前学修	「有効需要の原理」と人権との関係について考えること。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
7回	授業内容	景気変動とは何か
	事前学修	教科書を通読し、景気変動が持つ意味について考えること。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
8回	授業内容	景気変動の理論
	事前学修	教科書を通読し、景気変動の理論の理解に努めること。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
9回	授業内容	経済の成長と発展の基礎
	事前学修	教科書を通読し、経済の成長と発展について考えること。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
10回	授業内容	経済成長（ハロッド＝ドーマー・モデル；現実成長率）
	事前学修	教科書を通読し、現実成長率が持つ意味について考えること。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
11回	授業内容	経済成長（ハロッド＝ドーマー・モデル；自然成長率）
	事前学修	教科書を通読し、自然性勝率が持つ意味について考えること。
	事後学修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。

◆授業計画

12 回	授 業 内 容	経済の成長・発展と人口
	事 前 学 修	教科書を通読して、経済の成長と発展に人口変動が及ぼす意味を考えること。
	事 後 学 修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
13 回	授 業 内 容	人口転換理論の概要を把握しておくこと
	事 前 学 修	教科書を通読して、経済の成長と発展に人口変動が及ぼす意味を考えること。
	事 後 学 修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
14 回	授 業 内 容	人口モデル
	事 前 学 修	教科書を通読し、人口モデルについて調べておくこと。
	事 後 学 修	講義内容を復習し、その内容をまとめること。
15 回	授 業 内 容	まとめ（理解度の確認）
	事 前 学 修	これまでの講義を振り返り、マクロ経済学について考えること。
	事 後 学 修	講義内容を復習し、その概要をまとめること。

◆授業概要

本講義では、一国の経済活動の決定要因と経済政策の基礎理論を中心に学修する。国民所得や物価の概念を理解することからはじめ、財市場における均衡、貨幣需要や利子率の決定や IS-LM 分析を確認し金融財政政策の有効性を概説する。

◆学修到達目標

18 世紀第四 4 半期から 19 世紀中葉にかけてのイギリス古典派経済学の歴史的展開を中心に考察します。この型の「経済学」は、アダム・スミスの『国富論』(1776) から始まり、次いでマルサス、リカードへと受け継がれていきます。この時期、イギリスでは「産業革命」、フランスでは「フランス革命」が起きました。こうした変化をその時代の経済学者たちがどのように捉え、どのように対処しようとしたのかを考察します。この科目は「専門科目」です。ミクロ・マクロの経済理論と経済史についての基本的知見を修得していることを前提に授業を進めます。受講生の理解度に応じて、授業の進行を調節します。

◆授業方法

前期と後期の授業を連続して受講することをお勧めします。On-line 授業の場合、オンデマンド授業となります。授業は PPT で行います。テキストを踏まえ、参考文献の研究を求めます。毎回、「授業レジュメ」と「課題」を提示します。「授業レジュメ」を使って、授業の予習や復習をしてください。授業のフィードバックとして、提出された「課題」に対し、簡単な「講評」をお返し致したいと思います。授業内容や課題に関しての質問は、メール等で対応します。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

On-Line 授業の場合、「課題提出」(60%)、レポート(40%)を課し、その結果に基づき、成績評価を行う。

◆教科書

通材 『経済学史 0713/経済学説史 0714』 通信教育教材

◆参考書

市販本 『コア・テキスト 経済学史』井上義朗、新世社、2004 年。

市販本 『経済思想入門』松原隆一郎、ちくま学芸文庫、筑摩書房、2016 年

これ以外の参考文献等は、授業時に指示します。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上で行う。

◆授業計画

1回	授業内容	「経済学史」とは、どのような学問・科学なのかを説明します。経済学の歴史は、「富」をめぐる歴史とも言えましょう。とすれば、「富」とは一体どのようなものなのでしょう。 「1国の富の大きさ」は、どのようにして決まるのでしょうか。なぜ「富」の大きさを知ることが必要なのでしょう。
	事前学修	教科書を通読しておくこと。レジュメにある不明な用語等をネット検索して調べる。経済理論の基本である「ミクロ経済学」「マクロ経済学」の総復習をする。「国民所得決定論」（教科書、289-299 ページ）を予習しておくこと。18~19 世紀のイギリスを中心とした西欧の経済史について自習しておく。
	事後学修	PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で問われている内容が分からなければ、再度 PPT をテキストを復習する。次回の授業内容の箇所をテキストで予習する。
2回	授業内容	アダム・スミス以前の経済社会とその時代の「経済学」、 18 世紀のイギリス経済社会の状況。
	事前学修	教科書の「重商主義」と「重農主義」について、45-85 ページを読む。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
3回	授業内容	アダム・スミスの「革命」性について 重商主義・重農主義との比較
	事前学修	教科書 86-106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
4回	授業内容	アダム・スミスの『国富論』その1 富とは何か？
	事前学修	教科書 86-106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
5回	授業内容	アダム・スミスの『国富論』その2 「富」を増加させるためには。分業論
	事前学修	教科書 86-106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。

◆授業計画

6回	授業内容	アダム・スミスの『国富論』その3 分業と交換
	事前学修	教科書 86-106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
7回	授業内容	アダム・スミスの『国富論』その4 「価値」とは何か
	事前学修	教科書 86-106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
8回	授業内容	アダム・スミスの『国富論』その5 2つの「労働価値説」
	事前学修	教科書 86-106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習したうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
9回	授業内容	アダム・スミスの『国富論』その6 自然価格と市場価格
	事前学修	教科書 86-106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習したうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
10回	授業内容	アダム・スミスの思想 「自然の欺瞞」とは
	事前学修	教科書 86-106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
11回	授業内容	マルサスとリカード 穀物法論争 自由貿易をすればイギリスは発展するのか、それとも衰退するのか。
	事前学修	教科書 106-133 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
12回	授業内容	マルサスの「人口原理」とは 貧困は克服できるのか
	事前学修	教科書 106-133 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事後学修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	リカードの労働価値説と経済学体系 スミスの学説をどのように継承・展開したのか
	事 前 学 修	教科書 106-133 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究する。
	事 後 学 修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
14 回	授 業 内 容	リカードの差額地代と経済成長 経済成長の果実は誰のものか
	事 前 学 修	教科書 86-106 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。
	事 後 学 修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。次回の授業の予習をする。
15 回	授 業 内 容	ドイツから異議表明 F. リストの「国民経済学」とは 保護貿易の必要性
	事 前 学 修	教科書 153-168 ページを再読する。参考文献の該当箇所を研究しておく。
	事 後 学 修	授業の PPT とテキストを復習し、授業レジュメを完成させる。そのうえで、「課題」に取り組む。「課題」で分からないところがあれば、調べて回答できるようにする。「レポート課題」に取り組む。

◆授業概要

本講義は、企業が製品・サービスを売るための手段としてマーケティングを捉えるだけでなく、より広い視点でマーケティングを捉える事を心掛ける。そのため、社会情勢、経済状況の変化とともに消費者の嗜好がどのように変化し、市場に影響を及ぼしてきたかを詳しく解説する。実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき、各個人が分析し問題を解決する手法を学ぶ。また、実務経験を通して得た理論や分析方法も交えて解説するように心掛ける。

◆学修到達目標

- 1 マーケティング戦略の理論と実際が理解できる。
- 2 実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき、各個人が分析し問題を解決する手法を考案できるように心掛ける。
- 3 データを分析し、市場動向を見極めながら的確に消費者ニーズを把握できるようになる。

◆授業方法

本授業はオンデマンド形式で実施される。各回の動画の視聴時間は 45 分程度であり、配信期間は一週間である。各回の動画を視聴し、ノートを作成し動画内で指示されている配信資料を確認すること。毎回、視聴確認のフォームがあるので、Google classroom 上で各回の配信期間中に投稿すること。また、リアクションペーパーやレポートの指示がある回は、ノート、テキスト及び指示された資料を元に作成して、投稿すること。テキストは事前学修に活用し、授業内容は動画を中心とする。尚、授業方法の詳細は第 1 回目の時に、授業動画とは別の動画で説明する。

◆履修条件

前期：昼間スクーリング マーケティング論からの継続履修を前提としている。

令和 3 年度昼間スクーリング（後期）『マーケティング B』（雨宮史卓）との積み重ね不可

◆成績評価基準

レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、平常点（20%） 総合的に判断します。

◆教科書

通材 『マーケティング S30500』

資料配布（Classroom）必要に応じて資料を配布する

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

常時、Google classroom の機能を用いて応じる。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	後期：オンデマンド授業の進め方 ニーズ、ウォンツ、ダイヤモンドについて
	事 前 学 修	前期の授業ノート全体を見直し、テキスト第1章を再読しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料に目を通し、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授 業 内 容	STP マーケティングについて
	事 前 学 修	前期授業の「マーケット・セグメンテーション」の箇所を見直し、テキスト31～34頁を再読しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授 業 内 容	消費者行動①（顧客購買への心理的プロセス、消費の心理的アプローチ）
	事 前 学 修	テキスト71～82頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料に目を通し、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授 業 内 容	消費者行動②（内的要因「動機」「知覚」「学習」「態度」）
	事 前 学 修	前回の授業内で指摘した消費者行動の事例を、前もって調べておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。また、前回の授業との関連性も整理しておくこと。
5回	授 業 内 容	コンシューマリズム、フィランソロピーについて
	事 前 学 修	テキスト37頁～49頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料に目を通し、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授 業 内 容	三間消費 ドミナント戦略
	事 前 学 修	前期授業の「流通戦略①、②」の部分を読み返しておくこと。特に理論の部分はノートに改めて書き写しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授 業 内 容	消費者行動の実践①（プロスペクト理論）
	事 前 学 修	後期第3回、第4回の授業のノートを見直し、配信資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

8回	授 業 内 容	消費者行動の実践②（採用者カテゴリー、ペネトレーション戦略、消費の意味）
	事 前 学 修	前回の授業内で指摘したプロスペクト理論の事例を、前もって調べておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。また、前回の授業との関連性も整理しておくこと。
9回	授 業 内 容	マーケティング・リサーチ
	事 前 学 修	配信資料におけるデータの種類を確認して理解しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授 業 内 容	エリア・マーケティングとキャラクター・ビジネス
	事 前 学 修	日本市場におけるキャラクター・ビジネスの変遷を調べておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授 業 内 容	ポートフォリオ・マネジメント
	事 前 学 修	配信資料を確認し、指定した図表は前もってノートに記しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授 業 内 容	マーケティングにおける成長戦略と市場
	事 前 学 修	前期授業の「様々なマーケティング・ミックスの考え方」を再確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授 業 内 容	SP 戦略について
	事 前 学 修	前期授業の「プロモーション戦略」のノートを読み返し、プロモーション・ミックスの関係性を再確認しておくこと。また、テキスト第12章にも目を通しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授 業 内 容	後期：授業の総まとめ（その1）
	事 前 学 修	予め配信された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。
	事 後 学 修	要点項目として配信資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。

◆授業計画

15 回	授 業 内 容	後期：授業の総まとめ（その2）
	事 前 学 修	前回の授業内で指摘したマーケティング戦略の事例を、前もって調べておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認・理解して、自身が調べたマーケティング戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

◆授業概要

この講義では、日本経済における中小企業の位置づけ及び中小企業の特徴等につき学ぶ。日本の法人（及び個人事業）の99.7%は中小企業である。同時に、日本の法人の約97%は、所謂、同族企業、オーナー企業、ファミリー企業である。この日本の法人の太宗を占めるファミリー企業に焦点を当てて、本講義を進めていく。これら企業を理解することにより、中小企業/ファミリー企業への支援や地域経済の活性化の方策など多くを学修し、将来色々な仕事において有益な知識を修得するのが目的である。小職は銀行で実務を国内、海外に亘り、25年間経験している。今日の中小企業/ファミリー企業の抱える諸問題や将来の課題等も考察できるよう授業に反映させて行きたい。

◆学修到達目標

日本の中小企業について、日本経済における役割や位置づけを理解し、企業経営の問題・課題も熟知した上で具体的に説明することができる。また、中小企業の太宗を占めるファミリー企業についても同様に、日本経済における役割や位置づけを理解し、ファミリー企業の経営の特徴・課題につき、説明することができる。

◆授業方法

ファミリー企業に焦点を当てた中小企業論の基本的な考え方・理論を教科書・参考書も活用して理解できるよう、講義方式により説明する。企業の事例研究も講義の中で行うことにより、実務的な観点からも、生きた中小企業のあり様を研究できるように致したい。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

講義で示される2つのレポート課題は、必ず提出すること（40%）。最後の講義に最終レポート課題（60%）を示し、講義の2つのレポート課題と合わせて評価する。毎回視聴することを前提として評価する。

◆教科書

市販本 『日本のファミリービジネス』 ファミリービジネス学会編 階戸照雄他共著 中央経済社 2016年

市販本 『中小企業白書』 中小企業庁編 2020年度版 （ネットで視聴可能）

◆参考書

市販本 『ファミリーガバナンス』 階戸照雄、加藤孝治編著 中央経済社 2020年

市販本 『ファミリービジネス 最良の法則』 ランデル・カーロック、ジョン・ワード共著、階戸照雄翻訳 ファーストプレス社 2015年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	15回講義の全体説明。成績評価についても説明。中小企業を学ぶ意義（中小企業を中心としてのファミリー企業）、日本経済における中小企業/ファミリー企業の位置づけ
	事前学修	中小企業白書の中小企業の定義等を確認のこと。ファミリー企業についても同様に定義を確認のこと。中小企業白書等により、日本経済における中小企業の重要性を確認のこと。
	事後学修	中小企業やファミリー企業の定義やその意義・重要性を理解する。
2回	授業内容	中小企業基本法/中小企業白書
	事前学修	中小企業基本法/中小企業白書につき、内容の概略を確認のこと。
	事後学修	中小企業基本法/中小企業白書を理解する。
3回	授業内容	ファミリーアントレプレナーの特性
	事前学修	教科書第5章を参照し、ファミリーアントレプレナーの特性につき確認しておくこと。
	事後学修	ファミリーアントレプレナーの特性を理解する。
4回	授業内容	ファミリービジネスの存続と後継者育成
	事前学修	教科書第6章を参照し、ファミリービジネスの存続と後継者育成につき確認しておくこと。
	事後学修	ファミリービジネスの存続と後継者育成を理解する。
5回	授業内容	PPPモデル（パラレル・プランニング・プロセス・モデル）の5つのCにつき、小レポートを提出。
	事前学修	参考書（ファミリーガバナンス）第4章を参照し、PPPモデルの5つのCの内容を確認のこと。
	事後学修	小レポートを通して、PPPモデルの5つのCにつき理解する。
6回	授業内容	日本の歴史に学ぶファミリーガバナンス
	事前学修	参考書（ファミリーガバナンス）第3章を参照し、日本の歴史に学ぶファミリーガバナンスを確認のこと。
	事後学修	日本の歴史に学ぶファミリーガバナンスの内容を理解する。
7回	授業内容	ファミリーガバナンス
	事前学修	教科書第7章、参考書（ファミリーガバナンス）第2章を参照し、ファミリーガバナンスの内容を確認のこと。
	事後学修	ファミリーガバナンスの内容等を理解する。

◆授業計画

8回	授業内容	ファミリーガバナンスとコーポレート・ガバナンスにつき、小レポートを提出。
	事前学修	教科書第7章、参考書（ファミリーガバナンス）第2章を参照し、ファミリーガバナンスとコーポレート・ガバナンスを確認のこと。
	事後学修	小レポートを通して、ファミリーガバナンスとコーポレート・ガバナンスを理解する。
9回	授業内容	永続ファミリービジネスの類型
	事前学修	教科書第3章を参照し、永続ファミリービジネスの類型につき確認しておくこと。
	事後学修	永続ファミリービジネスの類型・企業事例等を理解する。
10回	授業内容	中小企業白書で紹介されている中小企業（1）（以下、中小企業白書2020年度版）
	事前学修	イシイ設備工業、ユアシステム機器、友安製作所の3社について確認すること。
	事後学修	イシイ設備工業、ユアシステム機器、友安製作所の3社の内容について理解する。
11回	授業内容	中小企業白書で紹介されている中小企業（2）
	事前学修	アステム、大日運輸、RDVシステムズの3社について確認すること。
	事後学修	アステム、大日運輸、RDVシステムズの3社の内容について理解する。
12回	授業内容	中小企業白書で紹介されている中小企業（3）
	事前学修	大川印刷、カネパッケージ、クリスブの3社について確認すること。
	事後学修	大川印刷、カネパッケージ、クリスブの3社の内容について理解する。
13回	授業内容	中小企業白書で紹介されている中小企業（4）
	事前学修	由紀ホールディングス、東亜電化、北陸テクノの3社について確認すること。
	事後学修	由紀ホールディングス、東亜電化、北陸テクノの3社の内容について理解する。
14回	授業内容	ファミリービジネスの事業承継のあり方
	事前学修	教科書第6章を参照し、ファミリービジネスの事業承継のあり方につき確認しておくこと。
	事後学修	ファミリービジネスの事業承継のあり方につき理解する。
15回	授業内容	まとめ（最終レポート）
	事前学修	学修した内容について全て復習しておくこと。
	事後学修	最終レポートで分からなかったことを調べておくこと。

◆授業概要

現代を聡明に生き抜くためには、実際的な効果を重視する哲学と科学を哲学的に分析する哲学が必要であろう。そのために、現代哲学である「プラグマティズム」と「科学哲学」について学修する。

◆学修到達目標

科学技術は我々の生活世界を変えてきている。見方を変えると、我々は科学技術により生かされている可能性がある。当然のことながらその弊害が、人類の存亡にかかわることも考えられる。科学技術を使う主体者は我々である。問題はどの使いこなすかであろう。この講義の学習到達目標は、科学技術社会で主体的に生きるための英知を磨く能力を開発することにある。

◆授業方法

フルオンデマンドで、パワポ動画配信にて授業を行います。10回の課題を出しますので、提出してください。適宜、課題コメントを動画またはPDFにてフィードバックいたします。最後に最終課題レポートを提出していただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『哲学A』（江川晃）との積み重ね不可

◆成績評価基準

課題（5点×10回＝50点）と最終課題レポート（50点）です。

◆教科書

通信教育教材 『西洋思想の要諦収攬』 嘉吉純夫・齋藤隆編著、北樹出版

資料配布（Classroom） パワポ動画とPDF資料を配信いたします。

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	1 後期ガイダンス
	事前学修	シラバス、配信動画、PDF 資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
2回	授業内容	2 ロックの経験論（心は白紙だ！）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
3回	授業内容	3 ヘーゲルの弁証法（生物発展の論理）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
4回	授業内容	4 パースのプラグマティズム 1（思考と行動）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
5回	授業内容	5 パースのプラグマティズム 2（探究の理論）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
6回	授業内容	6 パースのプラグマティズム 3（意味の理論）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
7回	授業内容	7 ウィトゲンシュタインとは誰だ！
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
8回	授業内容	8 ウィトゲンシュタインの思想 1（命題は世界の写像だ！）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
9回	授業内容	9 ウィトゲンシュタインの思想 2（語りぬものについては沈黙すべし）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	
10回	授業内容	10 論理実証主義（検証主義 VS 反証主義）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
11回	授業内容	11 日常言語学派（オースティンの言語行為論）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
12回	授業内容	12 ネオ・プラグマティズムと科学哲学（クワイン）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	13 心の哲学：心身問題（心と脳は同じか）
	事 前 学 修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事 後 学 修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
14 回	授 業 内 容	14 ロボットは心を持つか（機能主義）
	事 前 学 修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事 後 学 修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
15 回	授 業 内 容	15 レポート提出と解説
	事 前 学 修	総復習のこと。
	事 後 学 修	該当の配信動画、PDF 資料と教科書を復習し反省する。

◆授業概要

生物である“ヒト”と万物の霊長である“人”の二面性を持つ人間は、種の存続をかけて、また、豊かであり良い生活を求めて経済を発展させてきた。この経済的営みによる自然への過度な負担が“ヒト”の存続を危うくしかねない今日、新たな経済観・生命観・倫理観の構築が“人”に求められている。本講義の目的は、この点を考察することにある。

◆学修到達目標

本講の目的は、上述した重要課題の基本を理解すると同時に、受講者各自が経済問題を自ら考える力を涵養することにある。

◆授業方法

コロナ禍の影響により、オンデマンド形式の遠隔授業を行う。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

レポート（100％）で評価します。

◆教科書

市販本 大塚友美 『実験で学ぶ経済学』 創成社 2005年

◆参考書

授業中に指示する。または、参考書の抜粋を資料として授業中に配布する。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	経済学とは何か（マクロ経済学とミクロ経済学）
	事前学修	教科書やインターネット等を用いて、経済学について調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
2回	授業内容	人間の経済活動（人口と経済）
	事前学修	教科書を通読し、人間の経済活動について調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
3回	授業内容	経済成長（現実成長率）
	事前学修	教科書を読み、現実成長率（ハロッド=ドーマー・モデル）について調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
4回	授業内容	経済成長（自然成長率）
	事前学修	教科書を読み、自然成長率（ハロッド=ドーマー・モデル）について調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
5回	授業内容	人口転換と経済成長（日本経済の将来像）
	事前学修	教科書をもとに、インターネットなどを用いて、日本経済の将来像について調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
6回	授業内容	何を・誰のために・どれだけ生産するか（市場の仕組と働き）
	事前学修	教科書を読み、市場の仕組と働きについて調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
7回	授業内容	市場と市場経済
	事前学修	教科書を読み、市場の仕組について調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
8回	授業内容	家計の行動
	事前学修	教科書を読み、家計の行動について調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
9回	授業内容	家計の労働供給
	事前学修	教科書を読み、家計の労働供給について調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
10回	授業内容	完全競争企業
	事前学修	教科書を読み、完全競争企業について調べておくこと。
	事後学修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	独占企業
	事 前 学 修	教科書を読み、独占企業について調べておくこと。
	事 後 学 修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
12 回	授 業 内 容	市場経済の長所と短所
	事 前 学 修	教科書を読み、市場の長所と短所について調べておくこと。
	事 後 学 修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
13 回	授 業 内 容	「有効需要の原理」の概要
	事 前 学 修	教科書を読み、有効需要の原理のあらましについて調べておくこと。
	事 後 学 修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
14 回	授 業 内 容	「有効需要の原理」の理論
	事 前 学 修	教科書を読み、「有効需要の原理」の理論について調べておくこと。
	事 後 学 修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。
15 回	授 業 内 容	まとめ（理解度の確認）
	事 前 学 修	教科書やノートをもとに、これまでの講義内容を概観しておくこと。
	事 後 学 修	講義・教科書・配布資料等をもとに復習し、講義内容をまとめること。

◆授業概要

Students will have the chance to listen to conversations and model them in various role play situations. Through such practices, students will exchange information and ideas with their peers. Students will be asked to hand in classwork from time to time.

◆学修到達目標

This course is aimed at giving students the tools and the opportunity to speak with other students in a friendly setting. We hope to build confidence in using English while discussing a wide range of topics.

◆授業方法

The teacher will provide a model conversation to be followed. Questions will be explained and example answers will be given for each question. Students will have the opportunity to practice tasks with various members of the class in large and small groups.

◆履修条件

This course is open to all students. The content is set at beginner levels and progresses to pre-intermediate. The course requires active participation.

令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語 S』（アレックスブラウン）との積み重ね不可

◆成績評価基準

Class participation and in-class assignments (80%). 1 test (20%).

◆教科書

なし。

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

alex.brown2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	1. Summer Vacation Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss details of your summer vacation.
	事後学修	Prepare to discuss 2. Sickness and Health in Times of Covid
2回	授業内容	2. Sickness and Health in Times of Covid. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss details of your health and the dangers of Covid 19.
	事後学修	Prepare to discuss 3. Old School vs. New School
3回	授業内容	3. Old School vs. New School. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss details of your school life.
	事後学修	Prepare to discuss 4. Styles
4回	授業内容	4. Styles. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss topics about fashion.
	事後学修	Prepare to discuss 5. Give Your Opinion
5回	授業内容	5. Give Your Opinion. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss opinions on various topics.
	事後学修	Prepare to discuss 6. Crime and Punishment.
6回	授業内容	6. Crime and Punishment. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about crimes in the news and punishments related.
	事後学修	Prepare to discuss 7. Dating
7回	授業内容	7. Dating. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about dating customs and etiquette.
	事後学修	Prepare to discuss 8. Fears

◆授業計画

8回	授業内容	8. Fears. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about things you are afraid of.
	事後学修	Prepare to discuss 9. Beliefs
9回	授業内容	9. Beliefs. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss various beliefs.
	事後学修	Prepare to discuss 10. Me, Myself and I
10回	授業内容	10. Me, Myself and I. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about some personal preferences.
	事後学修	Prepare to discuss 11. What Would You Do If...
11回	授業内容	11. What Would You Do If... Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to discuss various conditions that are real or sometimes imaginary.
	事後学修	Prepare to discuss 12. Random Questions
12回	授業内容	12. Random Questions. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare for questions that are light-hearted in nature.
	事後学修	Prepare to discuss 13. Marriage
13回	授業内容	13. Marriage. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare to talk about the topic of marriage.
	事後学修	Prepare to discuss 14. Moving Forward
14回	授業内容	14. Moving Forward. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences.
	事前学修	Prepare for discussing questions about the future.
	事後学修	Prepare to discuss 15. Making Questions and Giving Answers.

◆授業計画

15 回	授業内容	15. Making Questions and Giving Answers. Listen to the conversations. Choose the correct answer in sections 'a' and 'b'. Give your own answers in 'c'. Write in full sentences. You must complete the questions using your own ideas. There will also be a review test.
	事前学修	Review all topics for a test.
	事後学修	Congratulations on completing General English.

◆授業概要

文学作品を研究するにあたり、本文の確定とそれに基づいた注釈、加えて、先行研究の検討は避けて通ることができない。本授業では、『古事記』のオホクニヌシを中心とした「出雲神話」の読解を通じて、研究手法を身に付けると同時に、先行諸説の扱いに関わる視野を養うことを目標にした。

◆学修到達目標

- ・『古事記』神話について、具体的な内容を説明できる。
- ・古典文学を読むための必要な技術の習得することができる。
- ・文学研究にあたって、先行諸説の取り扱いに関する知識を身に着けることができる。

◆授業方法

演習形式であるため、各自に発表箇所を割り当てた上で、口頭発表を行う。発表者は、担当箇所の調査、問題点等をまとめたレジュメを作成する。また、口頭発表では、参加者を含め質疑応答の時間を設け、討論を行う。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

試験（60%）、授業時課題（30%）、平常点（10%）から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 授業内で、適宜資料を配布する。

◆参考書

授業内で、適宜紹介する。

◆授業相談先（連絡先）

メールにて受け付ける。 suzuki.masahiro53@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業内容と進め方の説明）
	事前学修	シラバスを熟読し、授業全体の大まかな流れを理解しておく。 『古事記』について、どのような書物かを調べてみる。
	事後学修	授業内容についての振り返りを行っておく。 『古事記』上巻の内容を調べてみる。
2回	授業内容	『古事記』の構成と対象本文の確認
	事前学修	事前に配布する資料を熟読し、自分なりに内容を理解しておく。
	事後学修	授業内容についての振り返りを行っておく。 『古事記』出雲神話についての内容を調べてみる。
3回	授業内容	レジュメ作成にあたっての基本作業：本文の作成と調査方法について
	事前学修	図書館に配架されている『古事記』の注釈書・研究書を調べてみる。
	事後学修	可能な範囲で図書館に行き、発表に必要となる資料を収集する。
4回	授業内容	レジュメ作成にあたっての基本作業2：注釈の作成と模擬発表
	事前学修	自身の担当箇所について、レジュメのアウトラインを作成する。
	事後学修	口頭発表 A 担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質問事項を考えておく。
5回	授業内容	受講者による口頭発表 A
	事前学修	口頭発表 A 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表 A 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
6回	授業内容	受講者による口頭発表 B
	事前学修	口頭発表 B 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表 B 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
7回	授業内容	受講者による口頭発表 C
	事前学修	口頭発表 C 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表 C 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
8回	授業内容	受講者による口頭発表 D
	事前学修	口頭発表 D 担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表 D 担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。

◆授業計画

9回	授業内容	受講者による口頭発表E
	事前学修	口頭発表E担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表E担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
10回	授業内容	受講者による口頭発表F
	事前学修	口頭発表F担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表F担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
11回	授業内容	受講者による口頭発表G
	事前学修	口頭発表G当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表G担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
12回	授業内容	受講者による口頭発表H
	事前学修	口頭発表H担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表H担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
13回	授業内容	受講者による口頭発表I
	事前学修	口頭発表I担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表I担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
14回	授業内容	受講者による口頭発表J
	事前学修	口頭発表J担当箇所の予習。担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
	事後学修	口頭発表J担当者は討論事項を踏まえたブラッシュアップ。次回担当者はレジュメの作成、その他の受講生は質疑事項を作成する。
15回	授業内容	総評と今後の学修に向けて
	事前学修	これまでの発表内容を踏まえた上での提出課題を作成する。
	事後学修	発表・提出課題を作成した際の反省点を考え、今後の学修に活かせるようにする。

◆授業概要

史学専攻生に必要な技能に史料読解と論文読解があります。史料は、読んで訳すだけでなく、「読解」が必要です。本演習では、いくつかの課題史料を使って、読解力を養い、課題設定・作業・報告を通じて、歴史学論文執筆に必要な知識・技術、卒論に向かう姿勢の修得をめざします。自治体史編さん史料専門調査員としての活動を活かし、史料の検索・収集・整理、史料から導かれる史実認定の方法を指導します。なお、科目特性上、日本史入門・史学概論での学修を終えていることを前提に授業進行します。最低限、日本史入門は最低限修得していることが望ましい。なお授業内容は状況に応じて変更する場合があります。

◆学修到達目標

1. 史料検索・史料の評価をおこなうための知識を獲得し、その技術を活かす方法を考える。
2. 史料に描かれた内容から歴史事実を再現し、多様な解釈から検討する姿勢と技術を身につける。
3. 日本史に関わる卒業論文作成技術を修得するための、基本的技術を身につける。
4. 受講生が自ら卒業論文で使う史料を整理できる技術と姿勢を身につける。

◆授業方法

基本的に個人作業となりますが、必要に応じて協働作業をおこないます。協働作業を実施する場合は、授業当日に指示します。この演習では、事前学修で作成したシートをもとに進行します。事前学修なしでの参加や、度重なる欠席は当日の作業に多大な影響を及ぼしますので、必ず事前学修のシートを作成してくることを強く意識して受講してください。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

最終課題レポート（50%）、授業内作成課題（30%）、授業内小テスト（20%）の総合評価
※15回全出席を前提とした評価です。

◆教科書

随時必要な資料を配付します ※初回に課題史料集を配付する予定です。

◆参考書

市販本 『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』 苅米一志著 吉川弘文館 2015年
その他 配布プリントで適宜紹介します

◆授業相談先（連絡先）

原則として講義終了後の休憩時間あるいはメール（初回授業で告知します）で受け付けます。

◆授業計画

1回	授業内容	日本史演習の計画と到達目標
	事前学修	シラバスを熟読し、自身の学修到達目標を考えておく。
	事後学修	授業方針を踏まえて、事前に考えた目標を修正し、学修方針を立てる。
2回	授業内容	史料読解に必要なスキル（1） 史料の種類
	事前学修	事前シートに記された基本史料集の解題を記入する。
	事後学修	図書館や公的サイトを通じて、現物確認する。
3回	授業内容	史料読解に必要なスキル（2） 史料を読む際の基本文法・用法
	事前学修	事前シートに記されている用例に取り組む。
	事後学修	授業時に配付する短文の史料を全文読み下す。
4回	授業内容	史料読解に必要なスキル（3） 現代語訳する
	事前学修	第3回で配付した短文史料について現代語訳する。
	事後学修	自身と他者の現代語訳の違いの要因を整理する。
5回	授業内容	史料読解実践（1） 法律を読む
	事前学修	【課題史料1】で指示された課題に取り組む。
	事後学修	授業で読まなかった箇所を読み、発展課題に取り組む。
6回	授業内容	史料読解実践（2） 農村文書を読む
	事前学修	【課題史料2】で指示された課題に取り組む。
	事後学修	授業で読まなかった箇所を読み、発展課題に取り組む。
7回	授業内容	史料読解実践（3） 幕府史料を読む
	事前学修	【課題史料3】で指示された課題に取り組む。
	事後学修	授業で読まなかった箇所を読み、発展課題に取り組む。
8回	授業内容	史料読解実践（4） 生活史料を読む
	事前学修	【課題史料4】で指示された課題に取り組む。
	事後学修	授業で読まなかった箇所を読み、発展課題に取り組む。
9回	授業内容	史料読解実践（5） 外国史料を読む
	事前学修	【課題史料5】で指示された課題に取り組む。
	事後学修	授業で読まなかった箇所を読み、発展課題に取り組む。
10回	授業内容	史料読解実践（6） 武家文書を読む
	事前学修	【課題史料6】で指示された課題に取り組む。
	事後学修	授業で読まなかった箇所を読み、発展課題に取り組む。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	史料カード作成の練習 資料整理法の実践
	事 前 学 修	第10回で配付する史料の書誌情報を調べ、まとめる。
	事 後 学 修	授業時のカードを参考にして、作成しきれなかったカードを作成する。
12 回	授 業 内 容	史料を比較検討する(1) 史料の選定
	事 前 学 修	配付資料に目を通し、指示に従って事前に史料を検索・入手しておく。
	事 後 学 修	それぞれに決まった個人テーマについて、必要な史料を取捨選択する。
13 回	授 業 内 容	史料を比較検討する(2) 読解・比較
	事 前 学 修	選択した史料について優先順位を確認し、史料を口語訳しておく。
	事 後 学 修	授業時に指摘した点を踏まえて、再度比較検討し直す。
14 回	授 業 内 容	史料を比較検討する(3) 分析
	事 前 学 修	最終課題作成にむけて指示された作業をおこない、アウトラインを作成する。
	事 後 学 修	アウトラインを見直し、最終課題準備の精度を高める。
15 回	授 業 内 容	史料に対する評価、課題の発見
	事 前 学 修	各回の学修内容を整理する。
	事 後 学 修	授業全体の方法を振り返り、自身の弱点克服に向けての方策を考える。

◆授業概要

本講義は、ケインズ経済学の基礎である有効需要原理、流動性選好論を説明したうえで、IS-LM分析からマンデル＝フレミング・モデルを中心とするオープンエコノミーを概説する。さらに短期と長期モデルの比較を踏まえ、新古典派経済学の視点から物価水準の決定、インフレとデフレに関する問題を学修する。

◆学修到達目標

生産者行動の理論を理解し、ホワイト企業とブラック企業の見極めをできるようにすることが目標です。

◆授業方法

授業は黒板を使って説明を行っていきます。しかし、教師が一方的に授業を進めることはしません。ときおり、学生から質問を受けますし、逆に教師から学生に質問して課題の理解を深めたいと思っております。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

小テスト(50%)と期末テスト(50%)で成績を評価します。

◆教科書

市販本 『経済学入門』山口正春・楠谷 清編・弘文堂・2015年

◆参考書

必要に応じて資料を配布します。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	生産者行動の理論とは何かについて学習する。
	事前学修	人間の合理的行動とはどういう行動か事前に調べておくこと。
	事後学修	合理的行動に関してノートを整理しておくこと。
2回	授業内容	経済主体について学習する。
	事前学修	教科書 2-7 ページを事前に読んでおくこと。
	事後学修	とくに企業の果たす役割について復習しておくこと。
3回	授業内容	家計、生産者、国の関係について学習する。
	事前学修	前回の授業を復習して理解を深めておくこと。
	事後学修	とくに生産者に注目してノートを整理しておくこと。
4回	授業内容	株式会社の組織やメリットとデメリットに関して学習する。
	事前学修	合資会社、合名会社を事前に調べておくこと。
	事後学修	とくに株式会社のメリットに関して復習しておくこと。
5回	授業内容	財市場に関して学習する。
	事前学修	教科書 8-12 ページを事前に読んでおくこと。
	事後学修	市場の機能について復習しておくこと。
6回	授業内容	生産者行動の供給曲線に焦点を当て学習する。
	事前学修	前回の授業を復習し理解を深めておくこと。
	事後学修	生産者は必ず供給曲線上にある価格と数量の組み合わせを選ぶということに関して復習しておくこと。
7回	授業内容	生産者の費用に関して学習する。
	事前学修	教科書 41-45 ページを事前に読んでおくこと。
	事後学修	費用の種類について復習しておくこと。
8回	授業内容	生産者の売上高について学習する。
	事前学修	飲食業界や宿泊業界の売上高の状況を事前に調べておくこと。
	事後学修	とくに飲食業界が現在置かれている状況についてノートを整理しておくこと。
9回	授業内容	利潤に関して学習する。
	事前学修	売上高と費用に関して復習して理解を深めておくこと。
	事後学修	利潤の定義に関して復習しておくこと。
10回	授業内容	限界費用と限界収入について学習する。
	事前学修	数学の微分について事前に調べておくこと。
	事後学修	利潤の極大化についてノートを整理しておくこと。
11回	授業内容	企業の「操業停止点」について学習する。
	事前学修	費用の種類について復習して理解を深めておくこと。
	事後学修	とくに平均可変費用に関してノートを整理しておくこと。
12回	授業内容	「損益分岐点」に関して学習する。
	事前学修	「損益分岐点比率」について事前に調べておくこと。
	事後学修	とくに企業の赤字に関して復習しておくこと。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	ホワイト企業とブラック企業について学習する。
	事 前 学 修	伊那食品とワタミについて事前に調べておくこと。
	事 後 学 修	財務に関してノートを整理しておくこと。
14 回	授 業 内 容	財務諸表について学習する。
	事 前 学 修	企業の有価証券報告書に関して事前に調べておくこと。
	事 後 学 修	とくにキャッシュフロー計算書に関して復習しておくこと。
15 回	授 業 内 容	後期の授業のまとめを行う。
	事 前 学 修	これまでの授業を復習し理解を深めておくこと。
	事 後 学 修	第1回から15回までの授業ノートを整理する。

◆授業概要

グローバル化の進展に伴い、国際マクロ経済政策や国際通貨制度の在り方の重要性が増している。本講義では、国際収支の基本的な考え方や基礎理論、開放経済体系下の経済政策、ならびに為替相場決定の理論や国際通貨制度等について学び、グローバル経済の進展および国際経済問題を理解する土台を作り上げることを目標とする。

◆学修到達目標

本講義では、現実の国際経済の動きを念頭に置きながら、国際収支の基本的な考え方や基礎理論と開放経済体系下の経済政策の在り方、国際通貨制度などの国際ルールについて学び、国際経済現象をモデル化し分析する能力を養い、変化の激しいグローバル経済の特徴や課題を理解し説明することができるようになることを目的とする。

◆授業方法

オンデマンド授業で講義を行う。講義動画と講義資料は掲載期間内に順に学修すること。一度の視聴では分からなかった内容については、テキストや参考書などからも学修し、繰り返し学修すること。それでも不明な点については随時質問を受け付ける。数回の授業時課題は講義動画あるいは講義資料にて課すこととする。

◆履修条件

経済学概論、経済原論、経済学などでマクロ経済学の基礎理論を学修してから履修する方が望ましい。

◆成績評価基準

試験（60%）、授業時課題（30%）、平常点（10%）から評価する。毎回出席することを前提として成績をつける。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 各回で必要な講義資料を配布する。

通材 『国際経済論〔改訂版〕737』日本大学通信教育部教材

◆参考書

市販本 『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』 若杉隆平編著 文眞堂 2020年

市販本 『入門国際経済学』 大川良文 中央経済社 2019年

市販本 『国際金融論をつかむ』 橋本・小川・熊本 有斐閣 2007年

市販本 『国際金融の教科書』 川野祐司 文眞堂 2019年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	国際経済論とは何かについて 講義の進め方について確認し、国際経済論とはどのような学問であるのかなどについて学修する。
	事前学修	経済学における国際経済論の位置づけについて確認する。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、講義内容を理解する。
2回	授業内容	グローバル化する「モノ」と「カネ」 グローバル化する経済について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから現代の国際取引の特徴について確認する。
	事後学修	講義内容や統計データから国際取引の変遷を整理する。
3回	授業内容	経済学における国民経済の捉え方 国際収支の特徴について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから国際収支とはどのようなものかを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、国際収支の基本的な考え方を整理する。
4回	授業内容	国際収支とグローバル・インバランス
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などからグローバル・インバランスとはなにかを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、経常収支から見て取れるグローバル・インバランスについて整理する。
5回	授業内容	経常収支とマクロバランス式 マクロ経済モデルから対外収支と貯蓄投資バランスについて学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから、マクロ経済モデルを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、マクロ経済モデルと国際収支の関連性を整理する。
6回	授業内容	外国貿易乗数 開放経済モデルから外国貿易乗数について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから、乗数効果について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、開放経済モデルと外国貿易乗数について整理する。
7回	授業内容	外国為替の変動と外国貿易① 外国為替の変動と貿易の変化の関係性について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから、外国為替の変化が貿易にもたらす影響について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、マーシャル＝ラーナー条件の考え方について整理する。
8回	授業内容	外国為替の変動と外国貿易② ML条件の導出と外国為替の変化と国際貿易の関係性について学修する。
	事前学修	配布資料、教科書、参考書などから、ML条件の意義について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに、外国為替の変化の経済への影響について整理する。

◆授業計画

9回	授業内容	外国為替の変動と外国貿易③外国為替市場と J カーブ効果について学修する。
	事前学修	配布資料, 教科書, 参考書などから, Jカーブとはどのようなものかについて確認する。
	事後学修	講義内容をもとに, 外国為替の変化と経常収支の不均衡について整理する。
10回	授業内容	国際マクロ経済政策① 財市場の均衡と IS 曲線および貨幣市場の均衡と LM 曲線について学修する。
	事前学修	配布資料, 教科書, 参考書などから, 財市場と貨幣市場のそれぞれの均衡について確認する。
	事後学修	講義内容をもとに, IS 曲線および LM 曲線の導出について整理する。
11回	授業内容	国際マクロ経済政策② IS-LM-BP 分析
	事前学修	配布資料, 教科書, 参考書などから, IS-LM 分析を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに, IS-LM-BP 分析について整理する。
12回	授業内容	国際マクロ経済政策③ 固定相場制下の財政政策と金融政策の効果について学修する。
	事前学修	配布資料, 教科書, 参考書などから国際マクロモデルとはどのようなものかを確認する。
	事後学修	講義内容をもとに, 固定相場制下の政策効果を整理する。
13回	授業内容	国際マクロ経済政策④ 変動相場制下の財政政策と金融政策の効果について学修する。
	事前学修	配布資料, 教科書, 参考書などから為替相場と政策効果の関係性を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに, マンデル=フレミング・モデルを整理する。
14回	授業内容	金融のグローバル化 国際資本移動が世界経済にもたらす影響について学修する。
	事前学修	配布資料, 教科書, 参考書などから国際通貨制度および国際資本移動の課題を確認する。
	事後学修	講義内容をもとに, 国際資本移動の影響および課題を整理する。
15回	授業内容	試験および総まとめ 講義で学修した内容の総確認を行う。
	事前学修	全配布資料および教科書から講義の要点をまとめる。
	事後学修	講義および試験をふまえ, 開放経済体制下の経済政策の在り方について再確認する。

◆授業概要

経済規模第二位となった中国経済のプレゼンスが高まっている中、経済希望第一位の米国との経済摩擦も激化している。経済摩擦や貿易の報復合戦による両国の経済へのマイナス影響は明らかになっている。またコロナの影響により世界経済に対しても大きな打撃も与えるのも事実である。このような状況の中、本講義では、中国はさまざまな国や地域の経済との関わりを取り上げることによって、グローバル経済の視点から中国経済を理解することを心がける。

◆学修到達目標

グローバル経済において中国経済はどのような状況にあるのかを認識し、中国経済の今後の予測などを含めて、世界経済に与える影響などをグローバル視点から中国経済への理解を深めることを目標とする。

◆授業方法

講義は配布資料とパワーポイントに沿って進める。授業を分かりやすく理解するため、映像や写真などを取り入れることもあります。

◆履修条件

中国経済、世界経済に関心があることです。前期中国経済論習得が望ましい。

◆成績評価基準

出席率と授業態度、及び最終レポート（オンデマンド授業では最終レポートと小テスト（出席を取るため）の成績により総合的に評価します。

◆教科書

特にありません。授業中に資料を配布します。（オンデマンド授業では音声付動画とPDF資料を配布します）

◆参考書

市販本 『中国・新興国ネクサス』末廣昭・田島俊雄・丸川知雄 東京大学出版社 2018/12/20

市販本 『現代中国経済論 第2版』梶谷懐・藤井大輔 ミネルヴァ書房 2018/05/10

市販本 『清華大生から見た最先端社会、中国のリアル』夏目英男クロスメディア・パブリッシング 2020/10/08 第2刷

◆授業相談先（連絡先）

sai.shin2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	後期講義内容の概説-グローバル経済中の中国
	事前学修	普段ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと。
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
2回	授業内容	香港・台湾の経済と中国との関係
	事前学修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
3回	授業内容	中国経済発展と華僑華人資本
	事前学修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
4回	授業内容	“一帯一路”の構想と意義
	事前学修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
5回	授業内容	「中国製造 2025」
	事前学修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
6回	授業内容	日中経済関係
	事前学修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
7回	授業内容	米中経済摩擦
	事前学修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
8回	授業内容	東南アジアに南進する中国
	事前学修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
9回	授業内容	中国とEUとの経済関係
	事前学修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
10回	授業内容	中国のアフリカ進出の拡大
	事前学修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事後学修	授業内容を整理し、理解しておくこと。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	深化する中国と中東諸国との経済関係
	事 前 学 修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事 後 学 修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
12 回	授 業 内 容	中国とロシア及び上海協力機構諸国との経済
	事 前 学 修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事 後 学 修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
13 回	授 業 内 容	拡大する中国と中南米諸国との経済
	事 前 学 修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事 後 学 修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
14 回	授 業 内 容	2050年の中国
	事 前 学 修	関連ニュースや経済情勢を心かけて目を通すこと
	事 後 学 修	授業内容を整理し、理解しておくこと。
15 回	授 業 内 容	授業のまとめとレポートの提出
	事 前 学 修	後期授業内容をよく整理し、復習すること
	事 後 学 修	後期の授業内容を整理し、理解して、グローバル経済における中国経済を再確認すること。

◆授業概要

日本銀行の物価安定目標や非伝統的金融政策の効果などが話題になっています。この講義では、金融機関、金融市場の中心である日本銀行の機能や役割、また、物価目標を達成するための手段である金融政策、さらには、現在実施されている非伝統的金融政策などについて、その基礎的知識や理論を学び、理解することを通じて、現在の経済問題を考える基礎を養うことを目的とします。

◆学修到達目標

この講義では、わが国の中央銀行である日本銀行の機能、役割および金融政策に対する基礎的な理解を目指し、具体的には以下のことを目標とする。

1. 銀行などの金融仲介機関の機能、役割を理解し、説明できるようになる。
2. 中央銀行の機能、役割を理解し、説明できるようになる。
3. 日本の金融政策の目的、手段を理解し、説明できるようになる。
4. 非伝統的金融政策を理解し、現在の金融問題を適切に考えることができるようになる。

◆授業方法

授業計画に沿って、項目ごとに Classroom のトピックを分けている。トピックごとに、予習用の資料とパワーポイントによる動画ファイル、授業アンケートがあるので、資料で予習した後に、動画ファイルを視聴し学修する。学修後に出欠を兼ねた授業アンケートを回答する。質問などは授業アンケートなどでも受け付ける。また、課題や小テストがある場合もトピック内で指示するので必ず解答すること。なお、Zoom による双方向を授業も一部実施する予定です。

◆履修条件

前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。また、令和2年度昼間スクーリング（後期）『金融論』（谷川孝美）とは積み重ね不可。令和3年地方スクーリング（9月期）「金融論」（谷川孝美）とは積み重ね不可とはしませんが、ほぼ同じ内容になります。

令和3年度昼間スクーリング（後期）『金融論 B』（谷川孝美）との積み重ね不可

◆成績評価基準

最終講義後に最終（期末）試験を実施し、評価割合を60%とします。また、オンデマンド授業等で実施する小テストおよび課題の評価割合を30%、授業への参加・貢献を10%とします。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 各項目に応じた講義概要を、各トピック内で予習用として PDF ファイルにて配布する。各自取得し、予習すること。

◆参考書

通材 『金融論 R31800』通信教育教材（教材コード 000540）

市販本 『ベーシックプラス 金融論 第2版』家森信善，中央経済社，2018年

市販本 『ベーシックプラス 金融政策』 小林照義, 中央経済社, 2015 年

日本銀行金融研究所『日本銀行の機能と実務』(従有斐閣から販売されていましたが, 日本銀行のホームページ, 以下のアドレスからダウンロードができます。)

https://www.imes.boj.or.jp/jp/historical/pf/pf_index.html

◆授業相談先 (連絡先)

Classroom や授業アンケートおよび以下のメールにて対応します。

tanikawa.takayoshi2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	授業の進め方・オリエンテーション・金融, 金融市場とは何か
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の「はじめに」および事前配付資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内で用いられた専門用語や説明を確認し, 理解すること。
2 回	授 業 内 容	金融政策を理解するための貨幣の定義
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第 1 章貨幣および事前配布資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料を参考に, 専門用語や説明を確認すること。
3 回	授 業 内 容	金融政策を理解するための金利の基礎
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第 2 章金利および事前配布資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに, 専門用語や説明を確認すること。
4 回	授 業 内 容	長短金利の決定
	事 前 学 修	事前配布資料をよく読むこと。また, 前回の講義内容を良く確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに, 専門用語や説明を確認すること。また, 実際に金利計算をして理解を深めること。
5 回	授 業 内 容	銀行の機能と役割
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第 7 章, 第 1 節銀行および事前配布資料をよく読み, 確認しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに, 専門用語や説明を確認すること。
6 回	授 業 内 容	信用創造とは何か
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第 7 章, 第 1 節銀行および事前配布資料をよく読むこと。また, 第 2 回, 第 5 回の講義内容を良く確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに, 専門用語や説明を確認すること。また, 実際に信用乗数を計算して理解を深めること。

◆授業計画

7回	授業内容	中央銀行とは何か
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第1節中央銀行および事前配布資料をよく読むこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。また，講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
8回	授業内容	発券銀行としての日本銀行
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第2節中央銀行としての日本銀行および事前配布資料をよく読むこと。また，第2回の講義内容を良く確認しておくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。また，講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
9回	授業内容	銀行の銀行としての日本銀行
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第2節中央銀行としての日本銀行および事前配布資料をよく読むこと。また，第5，6回の講義内容を良く確認しておくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
10回	授業内容	政府の銀行としての日本銀行
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第2節中央銀行としての日本銀行および事前配布資料をよく読むこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
11回	授業内容	金融政策の目的，手段
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第3節，第9章，第1節および事前配布資料をよく読むこと。また，第3，4回の講義内容を良く確認しておくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
12回	授業内容	非伝統的金融政策（ゼロ金利政策，量的緩和金融政策）
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第9章，第1～3節および事前配布資料をよく読むこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。また，講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
13回	授業内容	非伝統的金融政策（量的質的金融緩和政策など）
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第9章，第4～6節および事前配布資料をよく読むこと。
	事後学修	配参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。また，講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。

◆授業計画

14 回	授 業 内 容	金融政策の理論
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第4章マクロ経済と金融政策および事前配布資料をよく読むこと。また、第11回の講義内容を良く確認しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
15 回	授 業 内 容	試験および解説
	事 前 学 修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	後期の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆授業概要

TV を見ない日はあっても広告を見ない日はないと言っても過言でないくらい、広告は我々の生活に深く浸透している。この事を踏まえ、企業の広告戦略を概観しながら、人々の欲求を創造するコミュニケーション活動である広告を生活全体や文化といった広い視点での理解を目指す。尚、ブランド戦略などは実務による経験からのものを具体例として解説する。

◆学修到達目標

- 1 広告の意義とプロモーション戦略を理解する。
- 2 新たな製品・サービスを発売する際に、どのような広告活動によって消費者に認知されるべきかを検討し、そのブランドをどのように育成していくかを立案できるようになる。
- 3 ブランド力を強化し、当該ブランドを拡張する場合、どのような広告戦略を行うべきかを企画・検討できるようになる。

◆授業方法

本授業はオンデマンド形式で実施される。各回の動画の視聴時間は 45 分程度であり、配信期間は一週間である。各回の動画を視聴し、ノートを作成し動画内で指示されているテキスト頁を確認すること。毎回、視聴確認のフォームがあるので、Google classroom 上で各回の配信期間中に投稿すること。また、リアクションペーパーやレポートの指示がある回は、ノート、テキスト及び指示された資料を元に作成して、投稿すること。尚、授業方法の詳細は第 1 回目の時に、授業動画とは別の動画で説明する。

◆履修条件

前期：昼間スクーリング「広告論」との継続履修を前提としている。
令和 3 年度昼間スクーリング（後期）『広告論 B』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、平常点（20%） 総合的に判断します。

◆教科書

市販本 雨宮史卓『広告コミュニケーション』八千代出版、2020 年

資料配布 (Classroom) 必要に応じて Google classroom 上で資料を配布する。

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

常時、Google classroom の機能を用いて応じる。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	後期オンデマンド授業の進め方 広告とは何か？ブランドとは何か？
	事 前 学 修	前期の内容部分（テキスト第1章～第5章）を再読した上で、第6章を熟読し、広告コミュニケーションとブランド概念の関係性を把握しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授 業 内 容	ブランドの基本的概念と役割
	事 前 学 修	テキスト135～146頁をよく読んでくること。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授 業 内 容	ブランドを軸としたマーケティング及び広告戦略の展開
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し、テキスト155～163頁をよく読んでくること。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキスト159頁の表におけるブランドの9項目を理解しておくこと。
4回	授 業 内 容	ブランド拡張と広告コミュニケーション
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し、配布資料に目を通した上で、テキスト164～167頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配布資料の「ブランド拡張概念図」をノートに書き写しておくこと。
5回	授 業 内 容	製品ライフ・サイクル、ブランド・ライフサイクルと広告戦略
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し、テキスト171～187頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授 業 内 容	広告コミュニケーションと経験価値
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し、テキスト189～195頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキスト192頁の表をノートに書き写しておくこと。
7回	授 業 内 容	経験価値と総称ブランドの概念
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認した上で、テキスト195～209頁を熟読し、199頁の図が意味する内容を把握しておくこと。
	事 後 学 修	経済価値としての経験価値、及び総称ブランドの活用方法を理解した上で、207頁の図をノートに書き写して内容を理解しておくこと。

◆授業計画

8回	授業内容	フード・ビジネスの分類と食に対するブランド性
	事前学修	前回の授業のノートを確認した上で、テキスト第10章第1節を熟読し、食の分類方法を理解しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容	ストア・ブランドの機能と役割
	事前学修	前回の授業のノートを確認した上で、テキスト第10章第2節を熟読し、その中の図の違いを認識しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、製品ブランドとストア・ブランドの違いを確認した上で教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容	ロングセラー・ブランドに対する広告の役割
	事前学修	配信資料によく目を通してこること。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容	市場と広告
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、配信資料に目を通しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、市場の種類を把握しておくこと。
12回	授業内容	広告の文化・社会的要素
	事前学修	後期の終りが近いので、今までのノートをよく読み返しておくこと。また、前期に学修した「ポストモダン・マーケティング」の意味を辞書やテキスト等で再度調べ、理解しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授業内容	消費者インサイト
	事前学修	消費者インサイトを理解するためには、商品ベネフィット概念の知識が必要である。そのため、テキスト109～116頁を再読しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容	後期授業の総まとめ（その1）
	事前学修	予め配信された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。
	事後学修	要点項目として配信資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容	後期授業の総まとめ（その2）
	事前学修	前回の授業内で指摘した広告戦略の事例を、前もって調べておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解して、自身が調べた広告戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

◆授業概要

現代を聡明に生き抜くためには、実際的な効果を重視する哲学と科学を哲学的に分析する哲学が必要であろう。そのために、現代哲学である「プラグマティズム」と「科学哲学」について学修する。

◆学修到達目標

科学技術は我々の生活世界を変えてきている。見方を変えると、我々は科学技術により生かされている可能性がある。当然のことながらその弊害が、人類の存亡にかかわることも考えられる。科学技術を使う主体者は我々である。問題はどう使いこなすかであろう。この講義の学習到達目標は、科学技術社会で主体的に生きるための英知を磨く能力を開発することにある。

◆授業方法

フルオンデマンドで、パワポ動画配信にて授業を行います。10回の課題を出しますので、提出してください。適宜、課題コメントを動画またはPDFにてフィードバックいたします。最後に最終課題レポートを提出していただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『哲学C』（江川晃）との積み重ね不可

◆成績評価基準

課題（5点×10回＝50点）と最終課題レポート（50点）です。

◆教科書

通信教育教材 『西洋思想の要諦収攬』 嘉吉純夫・齋藤隆編著、北樹出版

資料配布（Classroom） パワポ動画とPDF資料を配信いたします。

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	1 後期ガイダンス
	事前学修	シラバス、配信動画、PDF 資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
2回	授業内容	2 ロックの経験論（心は白紙だ！）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
3回	授業内容	3 ヘーゲルの弁証法（生物発展の論理）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
4回	授業内容	4 パースのプラグマティズム 1（思考と行動）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
5回	授業内容	5 パースのプラグマティズム 2（探究の理論）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
6回	授業内容	6 パースのプラグマティズム 3（意味の理論）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
7回	授業内容	7 ウィトゲンシュタインとは誰だ！
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
8回	授業内容	8 ウィトゲンシュタインの思想 1（命題は世界の写像だ！）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
9回	授業内容	9 ウィトゲンシュタインの思想 2（語りぬものについては沈黙すべし）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	
10回	授業内容	10 論理実証主義（検証主義 VS 反証主義）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
11回	授業内容	11 日常言語学派（オースティンの言語行為論）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
12回	授業内容	12 ネオ・プラグマティズムと科学哲学（クワイン）
	事前学修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事後学修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	13 心の哲学：心身問題（心と脳は同じか）
	事 前 学 修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事 後 学 修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
14 回	授 業 内 容	14 ロボットは心を持つか（機能主義）
	事 前 学 修	配信動画、資料と教科書の該当箇所を予習しておいてください。
	事 後 学 修	配信動画、PDF 資料と教科書を復習する。
15 回	授 業 内 容	15 レポート提出と解説
	事 前 学 修	総復習のこと。
	事 後 学 修	該当の配信動画、PDF 資料と教科書を復習し反省する。

◆授業概要

はじめに近世の各時代の文化の概観を各々述べた上で、各論的にいくつかのトピックについて講義する。その後で、各地に残る日本の伝統文化について、いくつかを選んで講義する。

◆学修到達目標

現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。

◆授業方法

授業は講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し、受講生の理解の一助とする。またリアクションペーパーを提出してもら場合もある。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『文化史 B・C』（渡邊浩史）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

平常点（リアクションペーパーなど）20%、試験 80%

◆教科書

市販本 神奈川県立歴史博物館特別展図録『開基 500 年記念 早雲寺―戦国大名北条氏の遺産と系譜―』神奈川県立博物館小さ子社 2021 年

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	はじめに 近世の文化（安土桃山文化）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
2回	授業内容	近世の文化（江戸時代）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
3回	授業内容	聖地巡礼（富士信仰）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
4回	授業内容	聖地巡礼（富士講）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
5回	授業内容	聖地巡礼（富士講）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
6回	授業内容	地域に残る伝統文化（東大寺お水取りと名張市の松明調進）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
7回	授業内容	地域に残る伝統文化（長者伝説と松明調進）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
8回	授業内容	地域に残る伝統文化（松明調進ルート）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
9回	授業内容	地域に残る伝統文化（松明調進と東大寺支配の記憶）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
10回	授業内容	地域に残る伝統文化（神奈川県箱根早雲寺の建立と箱根霊場）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
11回	授業内容	地域に残る伝統文化（中世後期関東の文化状況）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
12回	授業内容	地域に残る伝統文化（戦国大名北条氏の政治と文化）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	地域に残る伝統文化（早雲寺の復興）
	事 前 学 修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
14 回	授 業 内 容	地域に残る伝統文化（近世早雲寺と寺宝の継承）
	事 前 学 修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
15 回	授 業 内 容	まとめと試験
	事 前 学 修	1～14回の内容をよく復習すること
	事 後 学 修	試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

◆授業概要

Speech Communication 2 has a topic based syllabus where students will learn vocabulary, language structures and functions commonly used with each topic. Students will perform activities using the language covered in class in groups and 1 to 1 role plays.

◆学修到達目標

This course is aimed at improving communication skills with a focus on speaking and listening. Students will try to use English in a natural context.

◆授業方法

The instructor will introduce each topic by using examples and explaining strategies for communication. Students will prepare their tasks and share information in a group setting.

◆履修条件

The course is open to all students and the language and activities are set at a pre-intermediate level.

令和3年度昼間スクーリング（後期）『スピーチコミュニケーションⅡ』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

Grading will be based on active participation and in-class assignments (60%). Two tests (30%) and a midterm report (10%).

◆教科書

None

◆参考書

None

◆授業相談先（連絡先）

alex.brown2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	Orientation
	事前学修	Welcome to Speech Communication 2
	事後学修	Make 3 questions for a new student.
2回	授業内容	Speaking activities.
	事前学修	Prepare a greeting and self introduction.
	事後学修	Read over class notes.
3回	授業内容	Topic 1 Conditionals.
	事前学修	Prepare 3 examples of Conditionals.
	事後学修	Answer questions for the matching activity.
4回	授業内容	Topic 1 cont. Pair-work and Predicaments.
	事前学修	Prepare to verbalize your answers.
	事後学修	Create 3 new predicaments.
5回	授業内容	Students create class surveys with the target language.
	事前学修	Practice for the speaking activity.
	事後学修	Read over notes for Topic 2
6回	授業内容	Topic 2 Suggestions and Obligations
	事前学修	List 3 things you have to do today.
	事後学修	Write down 3 jobs you would like to do.
7回	授業内容	Topic 2 Interviews and Vocabulary.
	事前学修	Prepare to verbalize your answers.
	事後学修	Create 2 new interview questions.
8回	授業内容	Introduction to mid-term report.
	事前学修	Prepare ideas for your report.
	事後学修	Research your report.
9回	授業内容	Mid-term report presentations.
	事前学修	Prepare for your presentation.
	事後学修	Complete the evaluation sheet.
10回	授業内容	Suggestions; grammar practice.
	事前学修	Submit the evaluation sheet.
	事後学修	Review the new grammar points.

◆授業計画

11 回	授業内容	Topic 3 The Future
	事前学修	Prepare for Topic 3
	事後学修	Make 3 new predictions.
12 回	授業内容	Group discussion. Review word choices.
	事前学修	Prepare to verbalize your answers.
	事後学修	Practice for the speaking activity.
13 回	授業内容	Short term vs. long term.
	事前学修	Review role play parts.
	事後学修	Read over test preparation notes.
14 回	授業内容	Study for the speaking test and writing test.
	事前学修	Study for the speaking test and writing test.
	事後学修	Go over your study checklist.
15 回	授業内容	Test Day
	事前学修	Read over and know everything on the check-list.
	事後学修	Congratulations! You've passed Speech Communication 2!

◆授業概要

古代の国家は農業生産を基盤としており、天候の状況は農作物の収穫に大きな影響を与えるため重要なことであり、天候不順や天変地異は天皇や朝廷の悪政によるものと捉えられる時代でした。それらの自然災害や疫病の流行などに対し、神仏にその厄災の鎮静や国家の守護を祈願し、祭祀を行っていました。本講義では国家や民間祭祀と社会について学ぶことにより、古代の人々と宗教との関わりについて説明できることを目標とします。

◆学修到達目標

平安時代において都に住む人々は様々な災害（風水害や疫病など）に見舞われ、いつ疫病や地震などの災害に遭うかわからないという恐れを抱いて生活しており、人々は災害や疫病を防ぐために神仏に加護を求め、都では様々な祭祀が営まれていました。平安時代の祭祀と人々の生活について学ぶことにより、古代の人々と宗教との関わりについて、説明できるようになります。

◆授業方法

1日あたり動画（15分程度）を3本配信します。授業の最後に質問を出しますので、解答してください。15回の授業の中で課題を2つ出題します。課題については授業最終日に採点を返却します。授業内で参考文献や史料を紹介するので、各自、図書館や資料館などのHPで史料をみるように心がけてください。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

最終テスト 60%、授業への参画度（質問）・課題 40%で授業評価をします。

◆教科書

Classroom内で動画と一緒に授業資料を配布します。

◆参考書

授業中に適宜紹介します。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上で質問に対応します。

◆授業計画

1回	授業内容	授業の進め方、古代の神祇信仰、八幡神について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。『日本の歴史』などの概説書の奈良・平安時代の部分を読み、その時代についての理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
2回	授業内容	神仏習合について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。神仏習合について辞典などで調べて、理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
3回	授業内容	平安京の境界について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。『日本の歴史』などの概説書の奈良・平安時代の部分を読み、その時代についての理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。わからない用語などは辞典などで調べること。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
4回	授業内容	平安時代の民衆と災害について史料を使って学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。『日本の歴史』などの概説書の奈良・平安時代の部分を読み、その時代についての理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
5回	授業内容	疫病と御霊信仰について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。御霊信仰について辞典などで調べて、理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。わからない用語などは辞典などで調べること。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。

6回	授業内容	放生会について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。放生会、『日本霊異記』について辞典などで調べて、理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
7回	授業内容	清和天皇の即位の状況について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。『日本の歴史』などの概説書で平安時代の部分を読み、その時代についての理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
8回	授業内容	石清水八幡宮の創立について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。石清水八幡宮について辞典などで調べて、理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。わからない用語などは辞典などで調べる。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
9回	授業内容	八幡新宮破却事件について史料を使って学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。『日本の歴史』などの概説書で平安時代の部分を読み、その時代についての理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。わからない用語などは辞典などで調べる。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
10回	授業内容	志多羅神入京事件について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。『日本の歴史』などの概説書で平安時代の部分を読み、その時代についての理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。わからない用語などは辞典などで調べる。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。

11 回	授業内容	神功皇后伝承と八幡神について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。 『日本書紀』、神功皇后などについて辞典などで調べて、理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。わからない用語などは辞典などで調べること。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
12 回	授業内容	地震災害における朝廷の対応と八幡神との関係について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。 『日本の歴史』などの概説書で平安時代の部分を読み、その時代についての理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。わからない用語などは辞典などで調べること。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
13 回	授業内容	鳴動と軒廊御卜について学ぶ。
	事前学修	シラバスをよく読み、授業の概要や目的などをよく理解しておくこと。軒廊御卜について辞典などで調べて、理解を深めておくこと。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。わからない用語などは辞典などで調べること。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
14 回	授業内容	まとめ・理解度の確認
	事前学修	資料と授業ノートをよく読み、第1回から第13回までの授業の内容を確認してください。わからない用語などは辞典などで調べること。
	事後学修	資料と動画で授業内容を確認し、ノートにまとめておくこと。わからない用語などは辞典などで調べること。不明な点があれば、何がわからないのかを明確にして、コメントやメールで質問すること。
15 回	授業内容	試験と解説
	事前学修	資料と授業ノートで授業の内容を復習するようにしてください。わからない用語などは辞典などで調べること。
	事後学修	資料と授業ノートをよく読み、授業の内容を確認してください。授業内で扱った史料を読んで確認しておくこと。

◆授業概要

後期の昼間スクーリングでは、資本主義確立後のイギリスを中心とした世界資本主義体制の構築とその後の資本主義経済の変容について説明します。また、今日の「南北問題」と関係する帝国主義国による植民地・従属国の支配関係についても言及していきます。

◆学修到達目標

1. 18 世紀後半から第 2 次世界大戦までの世界資本主義の流れを経済史的に説明できるようになる。
2. 産業革命の意義と影響について説明できるようになる。
3. 19 世紀半ばまでのイギリスを中心とした世界資本主義の構造について説明できるようになる。
4. イギリスを中心とした世界資本主義体制に日本を含め後発資本主義国がどのように対応したのかを説明できるようになる。
5. 帝国主義と植民地の関係を経済史的に説明できるようになる。

◆授業方法

授業は、オンデマンド方式で行います。授業動画とは別に授業資料（PDF）を Classroom 内で配布します。1 回の授業で授業動画を 1～2 本配信する予定です。授業の基本的なことが理解できているかどうかを確認するために授業資料に「確認問題」が入っています（入っていない場合もあります）ので、「確認問題」の解答を期限までに Classroom に提出してください。期限後の提出は認めません。「確認問題」の解答と解説（説明）は、原則次回の授業の中で行います。授業内容（確認問題含む）等についての質問は Gmail あるいは Classroom で受け付けます。

◆履修条件

令和 2 年度（後期）昼間スクーリング「経済史総論 A」、同東京スクーリング（11 月）「経済史総論」との積み重ね不可

◆成績評価基準

授業資料の「確認問題」（課題）の解答提出（30%）、レポート試験（最終課題、70%）を総合的に評価します。

◆教科書

資料配布（Classroom） 授業資料は（PDF）は Classroom 内で配布します。

◆参考書

市販本 『エレメンタル欧米経済史』 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著 晃洋書房 2012 年

市販本 『西洋経済史』岡田泰男編 八千代出版 1955 年 *図書館等で利用して下さい。

◆授業相談先（連絡先）

ecma90182@g.nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授 業 内 容	経済史を学ぶ目的、授業内容、成績評価等について説明します。
	事 前 学 修	シラバスをよく読んで、授業内容の全体をつかんでおくこと。
	事 後 学 修	次回の授業資料をよく読んでおくこと。
2回	授 業 内 容	資本主義経済の起点 16世紀から始まる大航海時代と欧米経済について学びます。
	事 前 学 修	授業資料をよく読むとともに、参考文献などで関係するところをよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	16世紀から産業革命前までの欧米経済についてまとめておくこと。
3回	授 業 内 容	資本制生産の発展段階 資本制生産の発展段階（小営業・マニファクチュア・機械制大工業）について学びます。
	事 前 学 修	授業資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	資本制生産の発展段階の特徴をそれぞれまとめておくこと。
4回	授 業 内 容	産業革命前のイギリス経済 17世紀から産業革命前までのイギリス経済について学びます。
	事 前 学 修	第2回授業の内容を再度確認するとともに、授業資料、参考文献等に関係するところをよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	17世紀から産業革命前までのイギリス経済についてまとめておくこと。
5回	授 業 内 容	イギリスの産業革命 産業革命とは何か、イギリスの産業革命の過程について学びます。
	事 前 学 修	第3回授業の内容を再度確認するとともに、授業資料、参考文献等に関係するところをよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	産業革命の意義、イギリスにおける産業革命の過程の特徴をまとめておくこと。
6回	授 業 内 容	イギリスを中心とした世界資本主義の構築 産業革命後、イギリスがどのような世界体制を構築しようとしたのかを学びます。
	事 前 学 修	第5回授業の内容を再度確認するとともに、授業資料、参考文献等に関係するところをよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	イギリスは、産業革命後どのような世界体制を構築しようとしたのかをまとめておくこと。

◆授業計画

7回	授 業 内 容	後発資本主義国の産業革命（1） フランス フランスの産業革命、工業化について学びます。
	事 前 学 修	第5回、第6回授業の内容を確認するとともに、授業資料、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事 後 学 修	フランスの産業革命、工業化の特徴についてまとめておくこと。
8回	授 業 内 容	後発資本主義国の産業革命（2） アメリカ アメリカの産業革命、工業化について学びます。
	事 前 学 修	第5回～第7回授業の内容を確認するとともに、授業資料、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事 後 学 修	アメリカの産業革命、工業化の特徴についてまとめておくこと。
9回	授 業 内 容	後発資本主義国の産業革命（3） ドイツドイツの産業革命、工業化について学びます。
	事 前 学 修	第5回～第8回授業の内容を確認するとともに、授業資料、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事 後 学 修	ドイツの産業革命、工業化の特徴についてまとめておくこと。
10回	授 業 内 容	第2次産業革命と世界経済の変化 1870年代以降の第2次産業革命と世界経済の変化について学びます。
	事 前 学 修	第5回以降の授業の内容を確認するとともに、授業資料、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事 後 学 修	1870年代以降の第2次産業革命と世界経済の変化についてまとめておくこと。
11回	授 業 内 容	日本資本主義の形成 日本の資本主義の形成、工業化について学びます。
	事 前 学 修	第6回授業の内容を確認するとともに、授業資料、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事 後 学 修	日本資本主義の形成過程、工業化についてまとめておくこと。
12回	授 業 内 容	従属・植民地化（1） インド イギリスによるインドの植民地化とその支配について学びます。
	事 前 学 修	第6回授業の内容を確認するとともに、授業資料、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事 後 学 修	イギリスによるインドの植民地化とその支配についてまとめておくこと。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	従属・植民地化（2） アフリカ ヨーロッパ諸国によるアフリカの植民地化とその支配について学びます。
	事 前 学 修	第10回授業の内容を確認するとともに、授業資料、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事 後 学 修	ヨーロッパ諸国によるアフリカの植民地化とその支配についてまとめておくこと。
14 回	授 業 内 容	両大戦期の欧米経済 第1次大戦から第2次大戦までの欧米経済について学びます。
	事 前 学 修	第10回授業の内容を確認するとともに、授業資料、参考文献等で関係するところを読んでおくこと。
	事 後 学 修	第1次大戦から第2次大戦までの欧米経済についてまとめておくこと。
15 回	授 業 内 容	総まとめと試験
	事 前 学 修	これまでの授業内容を総復習し、内容、重要事項を全体として確認しておくこと。
	事 後 学 修	レポート課題に対して、重要事項を落とさず論理的に記述できたかどうかを確認する。

◆授業概要

日本銀行の物価安定目標や非伝統的金融政策の効果などが話題になっています。この講義では、金融機関、金融市場の中心である日本銀行の機能や役割、また、物価目標を達成するための手段である金融政策、さらには、現在実施されている非伝統的金融政策などについて、その基礎的知識や理論を学び、理解することを通じて、現在の経済問題を考える基礎を養うことを目的とします。

◆学修到達目標

この講義では、わが国の中央銀行である日本銀行の機能、役割および金融政策に対する基礎的な理解を目指し、具体的には以下のことを目標とする。

1. 銀行などの金融仲介機関の機能、役割を理解し、説明できるようになる。
2. 中央銀行の機能、役割を理解し、説明できるようになる。
3. 日本の金融政策の目的、手段を理解し、説明できるようになる。
4. 非伝統的金融政策を理解し、現在の金融問題を適切に考えることができるようになる。

◆授業方法

授業計画に沿って、項目ごとに Classroom のトピックを分けている。トピックごとに、予習用の資料とパワーポイントによる動画ファイル、授業アンケートがあるので、資料で予習した後に、動画ファイルを視聴し学修する。学修後に出欠を兼ねた授業アンケートを回答する。質問などは授業アンケートなどでも受け付ける。また、課題や小テストがある場合もトピック内で指示するので必ず解答すること。なお、Zoom による双方向を授業も一部実施する予定です。

◆履修条件

前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。また、令和2年度昼間スクーリング（後期）『金融論』（谷川孝美）とは積み重ね不可。令和3年地方スクーリング（9月期）「金融論」（谷川孝美）とは積み重ね不可とはしませんが、ほぼ同じ内容になります。

令和3年度昼間スクーリング（後期）『金融論』（谷川孝美）との積み重ね不可

◆成績評価基準

最終講義後に最終（期末）試験を実施し、評価割合を60%とします。また、オンデマンド授業等で実施する小テストおよび課題の評価割合を30%、授業への参加・貢献を10%とします。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 各項目に応じた講義概要を、各トピック内で予習用として PDF ファイルにて配布する。各自取得し、予習すること。

◆参考書

通材 『金融論 R31800』通信教育教材（教材コード 000540）

市販本 『ベーシックプラス 金融論 第2版』家森信善，中央経済社，2018年

市販本 『ベーシックプラス 金融政策』 小林照義, 中央経済社, 2015 年

日本銀行金融研究所『日本銀行の機能と実務』(従有斐閣から販売されていましたが, 日本銀行のホームページ, 以下のアドレスからダウンロードができます。)

https://www.imes.boj.or.jp/jp/historical/pf/pf_index.html

◆授業相談先 (連絡先)

Classroom や授業アンケートおよび以下のメールにて対応します。

tanikawa.takayoshi2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	授業の進め方・オリエンテーション・金融, 金融市場とは何か
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の「はじめに」および事前配付資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内で用いられた専門用語や説明を確認し, 理解すること。
2 回	授 業 内 容	金融政策を理解するための貨幣の定義
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第 1 章貨幣および事前配布資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料を参考に, 専門用語や説明を確認すること。
3 回	授 業 内 容	金融政策を理解するための金利の基礎
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第 2 章金利および事前配布資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに, 専門用語や説明を確認すること。
4 回	授 業 内 容	長短金利の決定
	事 前 学 修	事前配布資料をよく読むこと。また, 前回の講義内容を良く確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに, 専門用語や説明を確認すること。また, 実際に金利計算をして理解を深めること。
5 回	授 業 内 容	銀行の機能と役割
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第 7 章, 第 1 節銀行および事前配布資料をよく読み, 確認しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに, 専門用語や説明を確認すること。
6 回	授 業 内 容	信用創造とは何か
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第 7 章, 第 1 節銀行および事前配布資料をよく読むこと。また, 第 2 回, 第 5 回の講義内容を良く確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに, 専門用語や説明を確認すること。また, 実際に信用乗数を計算して理解を深めること。

◆授業計画

7回	授業内容	中央銀行とは何か
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第1節中央銀行および事前配布資料をよく読むこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。また，講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
8回	授業内容	発券銀行としての日本銀行
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第2節中央銀行としての日本銀行および事前配布資料をよく読むこと。また，第2回の講義内容を良く確認しておくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。また，講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
9回	授業内容	銀行の銀行としての日本銀行
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第2節中央銀行としての日本銀行および事前配布資料をよく読むこと。また，第5，6回の講義内容を良く確認しておくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
10回	授業内容	政府の銀行としての日本銀行
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第2節中央銀行としての日本銀行および事前配布資料をよく読むこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
11回	授業内容	金融政策の目的，手段
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第8章，第3節，第9章，第1節および事前配布資料をよく読むこと。また，第3，4回の講義内容を良く確認しておくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
12回	授業内容	非伝統的金融政策（ゼロ金利政策，量的緩和金融政策）
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第9章，第1～3節および事前配布資料をよく読むこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。また，講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。
13回	授業内容	非伝統的金融政策（量的質的金融緩和政策など）
	事前学修	参考書の通材『金融論 R31800』の第9章，第4～6節および事前配布資料をよく読むこと。
	事後学修	配参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。また，講義時に紹介する資料を確認し理解を深めること。

◆授業計画

14 回	授 業 内 容	金融政策の理論
	事 前 学 修	参考書の通材『金融論 R31800』の第4章マクロ経済と金融政策および事前配布資料をよく読むこと。また、第11回の講義内容を良く確認しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
15 回	授 業 内 容	試験および解説
	事 前 学 修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	後期の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆授業概要

商学は、ビジネスと社会経済との融合領域の学問であるため、ビジネス活動が集約する「市場」について多面的な観点から総合的に学ぶ。全体的には、商品（財、サービス、アイデア）の取引と卸・小売システムの基礎的・体系的知識の習得を目指す。この講義では、前期に続き、おもに流通・マーケティングの仕組みをビジネス基礎・経済の観点で学習する。なるべく取りつきやすく、理解しやすいように具体的なケースを交えて解説する。

◆学修到達目標

- 1 商業の起源から現在の日本市場における商業の変遷を様々な観点から理解できるようになる。
- 2 生産と消費の間を架橋する流通を理解し、流通の社会的機能や意義、流通段階の戦略を考察できる。

◆授業方法

商学を初めて学ぶ学生向けに、基礎知識を習得することを目的に授業を行う。そのためにテキスト以外の入門書や解説書を読むことと、テキストの予習と復習を欠かさないことが重要である。また理解を深めるためにプリントを配布するので、それを使って予習と復習を必ず行うこと。

◆履修条件

後期商学総論との継続受講が望ましい。

令和3年度昼間後期『商学総論 B』との積み重ね不可

◆成績評価基準

期末課題（80%）、課題・授業への取組み・受講態度（20%）などを総合的に評価します。

◆教科書

市販本『商学通論』 久保村隆祐編 [九訂版] 同文館出版 平成29年
資料配布 (Classroom) 事前にプリント配布

◆参考書

通材『商学総論 S20100』 通信教育教材 (教材コード 000356)

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス 授業の概要、目的、到達目標、および授業の方法などについて
	事前学修	テキスト2～7頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
2回	授業内容	流通機構と卸売機構
	事前学修	テキスト79～86頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
3回	授業内容	卸売商の存在意義
	事前学修	テキスト87～96頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
4回	授業内容	卸売構造の動向
	事前学修	テキスト97～106頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
5回	授業内容	卸売業の展望
	事前学修	テキスト107～115頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
6回	授業内容	価格形成と商品取引所
	事前学修	テキスト117～128頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
7回	授業内容	課題（小テスト）
	事前学修	配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
8回	授業内容	マーケティング戦略
	事前学修	テキスト129～142頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
9回	授業内容	サービス・マーケティング
	事前学修	テキスト142～143頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
10回	授業内容	取引
	事前学修	テキスト144～151頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
11回	授業内容	物流の役割
	事前学修	テキスト153～162頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
12回	授業内容	物流効率化
	事前学修	テキスト163～172頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	金融と危険負担
	事 前 学 修	テキスト 173～185 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
14 回	授 業 内 容	授業の総復習
	事 前 学 修	配布資料の各項目をノートとテキストで確認しておくこと。
	事 後 学 修	要点項目をノートや配布資料をよく読んで確認しておくこと
15 回	授 業 内 容	復習及び最終課題（レポート）
	事 前 学 修	配布資料の項目をテキスト、ノートで学習
	事 後 学 修	テキストの前期箇所を読み返し、ノートを確認し、配布資料をよく読んで授業内容の全体像を理解すること。

◆授業概要

はじめに近世の各時代の文化の概観を各々述べた上で、各論的にいくつかのトピックについて講義する。その後で、各地に残る日本の伝統文化について、いくつかを選んで講義する。

◆学修到達目標

現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。

◆授業方法

授業は講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し、受講生の理解の一助とする。またリアクションペーパーを提出してもら場合もある。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『文化史 A・B』（渡邊浩史）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

平常点（リアクションペーパーなど）20%、試験 80%

◆教科書

市販本 神奈川県立歴史博物館特別展図録『開基 500 年記念 早雲寺―戦国大名北条氏の遺産と系譜―』神奈川県立博物館小さ子社 2021 年

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	はじめに 近世の文化（安土桃山文化）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
2回	授業内容	近世の文化（江戸時代）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
3回	授業内容	聖地巡礼（富士信仰）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
4回	授業内容	聖地巡礼（富士講）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
5回	授業内容	聖地巡礼（富士講）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
6回	授業内容	地域に残る伝統文化（東大寺お水取りと名張市の松明調進）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
7回	授業内容	地域に残る伝統文化（長者伝説と松明調進）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
8回	授業内容	地域に残る伝統文化（松明調進ルート）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
9回	授業内容	地域に残る伝統文化（松明調進と東大寺支配の記憶）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
10回	授業内容	地域に残る伝統文化（神奈川県箱根早雲寺の建立と箱根霊場）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
11回	授業内容	地域に残る伝統文化（中世後期関東の文化状況）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
12回	授業内容	地域に残る伝統文化（戦国大名北条氏の政治と文化）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	地域に残る伝統文化（早雲寺の復興）
	事 前 学 修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
14 回	授 業 内 容	地域に残る伝統文化（近世早雲寺と寺宝の継承）
	事 前 学 修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
15 回	授 業 内 容	まとめと試験
	事 前 学 修	1～14回の内容をよく復習すること
	事 後 学 修	試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

◆授業概要

漢字の意味がわかることは大きな強みでもありますが、初期の関門を越えるためには足かせになります。音節表を用いて漢字の発音を完全に理解し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。初級文法は今期でほぼ網羅されます。

◆学修到達目標

前期同様、音節表を用いて発音の構造を座標から徹底的に理解するとともに、年度内の声調の安定を目指します。語順・時量・アスペクト等、中国語特有の独特な世界観を実際の場面から把握し、文法的理解へとつなげていくことで、自立学習の素地を作ります。各場面において何を答えるべきか、中国語のみで瞬時に判断し、息の長い文にも耐えられるレベルを目指します。

◆授業方法

前期までに音による学習習慣が確立していないと、後期は幾何級数的に難易度が上がっていくのでかなりキツイ内容です。毎回動画学習の後に、指定内容を発音し音声ファイルを提出いただきます。課題の分量は多くはありませんが、毎回の作業を必ず行ったうえでの成果である必要があります。場面や会話を想定した学習では、小綺麗に体裁を繕うのではなく、現状の自分のレベルから体当たりでチャレンジしていきましょう。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

毎回の音声課題、特に最後2週分の音声課題で実力を判断します。(50%)他に数字学習後の数字・時計小テスト30%、あらかじめサイトで練習して臨む学期末リスニングテスト課題20%。

◆教科書

市販本 『協同学習で学ぶ中国語ステップアップ』 李偉他 三修社 2020年第5版

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	前期の復習（発音・文型）
	事前学修	前期資料の整理・復習
	事後学修	数字時計小テスト
2回	授業内容	第1課：中国の食文化/経験相・完了相・動詞重ね型
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
3回	授業内容	第2課：中国の気候/要～了・又～又
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
4回	授業内容	第3課：移動/是～了・連動文1・「一様」
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
5回	授業内容	第4課：時間の量と回数/助動詞「得」「應該」・反問
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
6回	授業内容	第5課：身長/比較・「多」＋形容詞
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
7回	授業内容	第6課：褒められた時/様態補語・程度補語
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
8回	授業内容	文型まとめ
	事前学修	会話場面想定練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出
9回	授業内容	第7課：家事分担/選択疑問文・部分否定・結果補語
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
10回	授業内容	第8課：動作対象と目的の表現/二重目的語・助動詞「会」禁止表現
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿

◆授業計画

11 回	授業内容	第9課：映画を観に行く/連動文2・持続相・後置修飾語
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
12 回	授業内容	第10課：教育事情/介詞「給」・方向補語
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
13 回	授業内容	第11課：就職活動/兼語文
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
14 回	授業内容	第12課：結婚事情/結果補語「在～」・受動文・処置文
	事前学修	会話場面練習
	事後学修	リスニングテスト1・数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出・Google「質問」に作文投稿
15 回	授業内容	文型まとめ
	事前学修	会話場面想定練習
	事後学修	リスニングテスト2・数字時計小テスト・朗読課題・手書き課題提出

◆授業概要

Speech Communication 2 has a topic based syllabus where students will learn vocabulary, language structures and functions commonly used with each topic. Students will perform activities using the language covered in class in groups and 1 to 1 role plays.

◆学修到達目標

This course is aimed at improving communication skills with a focus on speaking and listening. Students will try to use English in a natural context.

◆授業方法

The instructor will introduce each topic by using examples and explaining strategies for communication. Students will prepare their tasks and share information in a group setting.

◆履修条件

The course is open to all students and the language and activities are set at a pre-intermediate level.

令和3年度昼間スクーリング（後期）『スピーチコミュニケーションⅡB』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

Grading will be based on active participation and in-class assignments (60%). Two tests (30%) and a midterm report (10%).

◆教科書

None

◆参考書

None

◆授業相談先（連絡先）

alex.brown2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	Orientation
	事前学修	Welcome to Speech Communication 2
	事後学修	Make 3 questions for a new student.
2回	授業内容	Speaking activities.
	事前学修	Prepare a greeting and self introduction.
	事後学修	Read over class notes.
3回	授業内容	Topic 1 Conditionals.
	事前学修	Prepare 3 examples of Conditionals.
	事後学修	Answer questions for the matching activity.
4回	授業内容	Topic 1 cont. Pair-work and Predicaments.
	事前学修	Prepare to verbalize your answers.
	事後学修	Create 3 new predicaments.
5回	授業内容	Students create class surveys with the target language.
	事前学修	Practice for the speaking activity.
	事後学修	Read over notes for Topic 2
6回	授業内容	Topic 2 Suggestions and Obligations
	事前学修	List 3 things you have to do today.
	事後学修	Write down 3 jobs you would like to do.
7回	授業内容	Topic 2 Interviews and Vocabulary.
	事前学修	Prepare to verbalize your answers.
	事後学修	Create 2 new interview questions.
8回	授業内容	Introduction to mid-term report.
	事前学修	Prepare ideas for your report.
	事後学修	Research your report.
9回	授業内容	Mid-term report presentations.
	事前学修	Prepare for your presentation.
	事後学修	Complete the evaluation sheet.
10回	授業内容	Suggestions; grammar practice.
	事前学修	Submit the evaluation sheet.
	事後学修	Review the new grammar points.

◆授業計画

11 回	授業内容	Topic 3 The Future
	事前学修	Prepare for Topic 3
	事後学修	Make 3 new predictions.
12 回	授業内容	Group discussion. Review word choices.
	事前学修	Prepare to verbalize your answers.
	事後学修	Practice for the speaking activity.
13 回	授業内容	Short term vs. long term.
	事前学修	Review role play parts.
	事後学修	Read over test preparation notes.
14 回	授業内容	Study for the speaking test and writing test.
	事前学修	Study for the speaking test and writing test.
	事後学修	Go over your study checklist.
15 回	授業内容	Test Day
	事前学修	Read over and know everything on the check-list.
	事後学修	Congratulations! You've passed Speech Communication 2!

◆授業概要

後期は、パースの記号論の基礎と応用について講義する。まず、Pragmatism と記号論の関係について説明し、記号の概念と定義：三項関係、記号の種類と分類：アイコン・インデックス・シンボル、さらには、「記号過程の進化モデル」に関して様々な具体例、または、リアルタイムな事件等を用いて TV 記号論について論じる。加えて、現代社会の大きな特徴であるヴァーチャル・リアリティ (VR) を哲学的に分析することにより、現代文化を批判的に考察する。

◆学修到達目標

様々な文化現象を記号論的に読むことができるようになる。メディアや文化を通してつくりだされる世界の意味のメカニズムを解き明かし、説明できる。その意味の呪縛から自由になるための知恵を獲得できるようになる。

◆授業方法

- ・フルオンデマンド授業で実施する。
- ・Google Classroom を使用したパワポ動画視聴 (15 分程度×3) と文献資料により学修する。写真・動画等の ビジュアル教材も多く取り入れる。
- ・課題 (各学期 10 回×5 点) を提出していただきます (適宜、コメント配信します)。
- ・ご質問・ご相談・ご意見等は、Google Classroom の個人用のコメント欄にておこなう。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

課題等 (5 点×10 回=50 点) と最終レポート (50 点)

◆教科書

Classroom から配信いたします。

◆参考書

なし。

◆授業相談先 (連絡先)

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	パースの記号論：pragmatism & semiotics
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	pragmatism & semiotics の関係を考えよう。
2回	授業内容	パースの記号論：記号の概念と定義：三項関係
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	記号の三項関係の理解。
3回	授業内容	記号の種類と分類：アイコン・インデックス・シンボル
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	アイコン・インデックス・シンボルを区別できるか。
4回	授業内容	2つの記号の対象：「記号を作るもの」と「記号からつくられるもの」
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	力動的対象と直接的対象の区別。
5回	授業内容	記号過程の進化モデル 1
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	その構造の理解
6回	授業内容	記号過程の進化モデル 2
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	具体的事件や歩道に適用しよう！
7回	授業内容	メディアの記号論とTVの記号論
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	TVの画像はどのようにして生まれるか。
8回	授業内容	具体的な事件や記事を記号論する。
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	新聞の具体的例を記号論的に説明できるようにする。
9回	授業内容	課題コメント1
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	よく整理しておこう。
10回	授業内容	バーチャル・リアリティーの記号論
	事前学修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事後学修	VRとは何か把握しておくこと。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	映画 MATRIX を記号学する
	事 前 学 修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事 後 学 修	MATRIX の世界はどのように作られているのか。
12 回	授 業 内 容	ホフマイヤーの「生命記号論」：生物進化は、受精卵の記号解釈の結果である(New！)
	事 前 学 修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事 後 学 修	良く復習しよう。
13 回	授 業 内 容	「閃き」の記号論
	事 前 学 修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事 後 学 修	良く復習しておこう。
14 回	授 業 内 容	課題コメント2
	事 前 学 修	配布される資料とパワポのプリントを読んでおいてください。
	事 後 学 修	良く復習しておこう。
15 回	授 業 内 容	後期の範囲を総復習しレポートを作成しよう。
	事 前 学 修	最終課題レポート提出と学生の到達度理解。
	事 後 学 修	不明瞭な個所を明確化する。

◆授業概要

アジア主義は中国などアジア諸国と連帯して西洋列強に抵抗し、アジア解放を目指すものであった。近代におけるアジアと日本の関係史について、テキスト・嵯峨隆『アジア主義全史』を講読しながら歴史的に考える。

◆学修到達目標

近代におけるアジアと日本の関係史をアジア主義の歴史を通じて学修し、アジア共生に向けての歴史観を主体的に構築する力を養成する。

◆授業方法

Google classroom を活用しながら対面授業またはオンライン授業により、テキストを受講生に講読（レジュメによる発表）しながら討論を行う。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

授業中における発表及び討論など平常点（70%）、発表レジュメ（30%）。

◆教科書

市販本 『アジア主義全史』嵯峨隆、筑摩書房、2020

◆参考書

授業中に適時指示します。

◆授業相談先（連絡先）

takatsuna.hirofumi@nihon-u.ac.jp（連絡する際には学科・学生番号・氏名を明記）

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス・講義：アジア主義とは何か
	事前学修	テキストを通読
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
2回	授業内容	テキスト第1章の発表・討論
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
3回	授業内容	テキスト第2章1の発表・討論
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
4回	授業内容	テキスト第2章2の発表・討論
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
5回	授業内容	テキスト第2章3の発表・討論
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
6回	授業内容	テキスト第3章1の発表・討論
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
7回	授業内容	テキスト第3章2の発表・討論
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
8回	授業内容	テキスト第3章3の発表・討論
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
9回	授業内容	テキスト第4章の発表・討論
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
10回	授業内容	テキスト第5章1の発表・討論
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	テキスト第5章2の発表・討論
	事 前 学 修	テキストの予習
	事 後 学 修	復習及び確認ペーパーの作成
12 回	授 業 内 容	テキスト第5章3の発表・討論
	事 前 学 修	テキストの予習
	事 後 学 修	復習及び確認ペーパーの作成
13 回	授 業 内 容	テキスト第5章4の発表・討論
	事 前 学 修	テキストの予習
	事 後 学 修	復習及び確認ペーパーの作成
14 回	授 業 内 容	テキスト第8章の発表・討論
	事 前 学 修	テキストの予習
	事 後 学 修	復習及び確認ペーパーの作成
15 回	授 業 内 容	アジア主義に関するまとめの討論
	事 前 学 修	テキスト及び授業の要点を確認
	事 後 学 修	復習及び確認ペーパーの作成

◆授業概要

商学は、ビジネスと社会経済との融合領域の学問であるため、ビジネス活動が集約する「市場」について多面的な観点から総合的に学ぶ。全体的には、商品（財、サービス、アイデア）の取引と卸・小売システムの基礎的・体系的知識の習得を目指す。この講義では、前期に続き、おもに流通・マーケティングの仕組みをビジネス基礎・経済の観点で学習する。なるべく取りつきやすく、理解しやすいように具体的なケースを交えて解説する。

◆学修到達目標

- 1 商業の起源から現在の日本市場における商業の変遷を様々な観点から理解できるようになる。
- 2 生産と消費の間を架橋する流通を理解し、流通の社会的機能や意義、流通段階の戦略を考察できる。

◆授業方法

商学を初めて学ぶ学生向けに、基礎知識を習得することを目的に授業を行う。そのためにテキスト以外入門書や解説書を読むことと、テキストの予習と復習を欠かさないことが重要である。また理解を深めるためにプリントを配布するので、それを使って予習と復習を必ず行うこと。

◆履修条件

後期商学総論との継続受講が望ましい。

令和3年度昼間後期『商学総論 A』との積み重ね不可

◆成績評価基準

期末課題（80%）、課題・授業への取組み・受講態度（20%）などを総合的に評価します。

◆教科書

市販本『商学通論』 久保村隆祐編 [九訂版] 同文館出版 平成29年
資料配布 (Classroom) 事前にプリント配布

◆参考書

通材『商学総論 S20100』 通信教育教材 (教材コード 000356)

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス 授業の概要、目的、到達目標、および授業の方法などについて
	事前学修	テキスト2～7頁をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
2回	授業内容	流通機構と卸売機構
	事前学修	テキスト79～86頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
3回	授業内容	卸売商の存在意義
	事前学修	テキスト87～96頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
4回	授業内容	卸売構造の動向
	事前学修	テキスト97～106頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
5回	授業内容	卸売業の展望
	事前学修	テキスト107～115頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
6回	授業内容	価格形成と商品取引所
	事前学修	テキスト117～128頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
7回	授業内容	課題（小テスト）
	事前学修	配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
8回	授業内容	マーケティング戦略
	事前学修	テキスト129～142頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
9回	授業内容	サービス・マーケティング
	事前学修	テキスト142～143頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
10回	授業内容	取引
	事前学修	テキスト144～151頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
11回	授業内容	物流の役割
	事前学修	テキスト153～162頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
12回	授業内容	物流効率化
	事前学修	テキスト163～172頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	金融と危険負担
	事 前 学 修	テキスト 173～185 頁、配布資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートにまとめ、配布資料をよく読んでおくこと
14 回	授 業 内 容	授業の総復習
	事 前 学 修	配布資料の各項目をノートとテキストで確認しておくこと。
	事 後 学 修	要点項目をノートや配布資料をよく読んで確認しておくこと
15 回	授 業 内 容	復習及び最終課題（レポート）
	事 前 学 修	配布資料の項目をテキスト、ノートで学習
	事 後 学 修	テキストの前期箇所を読み返し、ノートを確認し、配布資料をよく読んで授業内容の全体像を理解すること。

◆授業概要

基礎教育としての講義を行います。選挙、政党、圧力団体、コミュニケーション、リーダーシップ、地方自治、政治と行政など、政策の立案や政策の決定に影響を及ぼす要因を基礎から学びます。

◆学修到達目標

政策立案や政策決定に影響を及ぼす要因を学ぶことにより、政治過程を理解できるようにするとともに、政治が我々にとって身近な現象であることを理解できるようにします。

◆授業方法

講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。講義の中で、受講生の理解度を調べるための理解度チェックを行い、課題内容を説明します。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

試験70%、平常点30% ※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

◆教科書

通材 『政治学 B11700』通信教育教材（教材コード000279）2,100円（送料込）

◆参考書

市販本 『改訂 教養政治学』岩井奉信、黒川貢三郎、関根二三夫他 南窓社 3,132円（税込）（送料350円）

◆授業相談先（連絡先）

sekine.fumio@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	講義全体の概要の説明
	事前学修	テキストを熟読し、概要を理解すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
2回	授業内容	選挙制度
	事前学修	テキストの第3章第3節及び参考書の第5章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
3回	授業内容	選挙区
	事前学修	テキストの第3章第3節及び参考書の第5章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
4回	授業内容	代表選出の形態
	事前学修	テキストの第3章第3節及び参考書の第5章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
5回	授業内容	政党の概念及び特徴
	事前学修	テキストの第3章第4節及び参考書の第4章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
6回	授業内容	政党の形態及び機能
	事前学修	テキストの第3章第4節及び参考書の第4章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
7回	授業内容	政党の問題点
	事前学修	テキストの第3章第4節及び参考書の第4章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
8回	授業内容	圧力団体の概念及び特徴
	事前学修	テキストの第3章第5節及び参考書の第4章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
9回	授業内容	圧力団体の活動及び問題点
	事前学修	テキストの第3章第5節及び参考書の第4章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
10回	授業内容	わが国の圧力団体
	事前学修	テキストの第3章第5節及び参考書の第4章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	コミュニケーションの機能及び類型
	事 前 学 修	参考書の第6章第3節を熟読すること。
	事 後 学 修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
12 回	授 業 内 容	コミュニケーションの方向
	事 前 学 修	参考書の第6章第3節を熟読すること。
	事 後 学 修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
13 回	授 業 内 容	リーダーシップ
	事 前 学 修	参考書の第2章第5節を熟読すること。
	事 後 学 修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
14 回	授 業 内 容	地方自治の沿革
	事 前 学 修	参考書の第4章第1節などを熟読すること。
	事 後 学 修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
15 回	授 業 内 容	政治と行政
	事 前 学 修	テキストの第1章第3節を熟読すること。
	事 後 学 修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。

◆授業概要

The aim of this course is for students to be able to develop the vocabulary, phrases and knowledge to be able to explain Japanese history and culture in English.

◆学修到達目標

Through reading, listening, and discussing the stories in the textbook about Japanese culture and history, you will learn to be able to explain and discuss the topics in English.

◆授業方法

This class will be taught on demand via YouTube video and Google Classroom. Active learning will be in the form of students' questions and answers on the 'Discussion Board.' At the end of the class, students will reflect on their learning.

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

- 26% 点数がある課題 (Vocabulary test, Quiz 等) の平均点
- 26% 点数がない課題 (Comprehension, Discussion, Reflection 等)
- 10% Final Reflection
- 30% セメスター試験 (15週目にあるテスト)
- 8% 授業に関する態度

◆教科書

「英語で読む 外国人がほんとに知りたい日本の文化と歴史」ロックリー トーマス 東京書籍
2019年

◆参考書

なし

◆授業相談先 (連絡先)

lockley.thomas@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	Learn about the history of Kyoto
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
2回	授業内容	Learn about the story of Nara
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections

3回	授業内容	Learn about the story of Mount Fuji
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
4回	授業内容	Learn about the story of Samurai
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
5回	授業内容	Learn about the story of Nagasawa Kanae
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
6回	授業内容	Learn about the story of Kim Chung-son
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
7回	授業内容	Learn about the story of Wako
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
8回	授業内容	Learn about the story of The Tensho Embassy
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
9回	授業内容	Learn about the story of the Hasekura Tsunenaga
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
10回	授業内容	Learn about the story of Yasuke
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
11回	授業内容	Learn about the story of William Adams
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
12回	授業内容	Learn about the story of Yamada Nagamasa
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
13回	授業内容	Learn about the story of Sun Yat-sen
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Learn new words and complete reflections
14回	授業内容	Learn about the story of Kairakutei Black
	事前学修	Practice the new vocabulary and prepare the lesson text
	事後学修	Revise for the semester test
15回	授業内容	Semester test
	事前学修	Revise for the semester test
	事後学修	Reflect upon the semester and prepare for future English classes

◆授業概要

我々の生活はどこかで「ビジネス」との接点がある。そのビジネスの主たるアクターが株式会社であることは疑いはない。本講義では、この株式会社について規律する会社法について基本事項を学ぶことによって、会社に関する法的知識を身に付ける者を育成する。本講義では主に資金調達、計算、組織再編を扱う。前期に開講される商法Ⅱについても併せて受講することが望まれる。

◆学修到達目標

会社法の主要な論点に関する基本問題について講義形式で解説をし、学修者との間で講義内容についてClassroomを用いて質疑応答を行うので、学修者一人一人が会社法の基本問題の内容を知り、それについて適切な解答を導き出すことができるようにする。Classroomを利用して小テスト等の問題を出し、その解説や講評も配信するため、それを入手し、課題を提出することができるようになる。

◆授業方法

オンデマンド形式で行う。授業では、会社法の基本的問題を幅広く講義する。その理解のためには、事前にテキストを熟読することで予習し、講義動画を視聴してから、知識を身に付けることが肝要である。毎回の小テストで理解度をチェックするとともに、期末レポートで全体的な講義への理解度を確認する。

◆履修条件

前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。令和2年度昼間スクーリング（後期）『商業史』（竹内真人）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

小テスト（60点）・期末レポート（40点）

◆教科書

市販本 松嶋隆弘＝大久保拓也編『商事法講義Ⅰ』（中央経済社、令和2年） 3500円

市販本 六法（会社法令和元年改正に対応したもの）

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	資金調達の総論を学ぶ。
	事前学修	教科書第2編を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
2回	授業内容	株式の意義を学ぶ。
	事前学修	教科書第2編第1章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
3回	授業内容	株式の譲渡に関する問題を学ぶ。
	事前学修	教科書第2編第2章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
4回	授業内容	新株発行・新株予約権を学ぶ。
	事前学修	教科書第2編第3章・第4章・第5章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
5回	授業内容	自己株式についての諸問題を学ぶ。
	事前学修	教科書第2編第6章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
6回	授業内容	株式分割・併合を学ぶ。
	事前学修	教科書第2編第7章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
7回	授業内容	計算規制、会計帳簿、計算書類を学ぶ。
	事前学修	教科書第4編第1節・第2節・第3節を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
8回	授業内容	資本制度剰余金の処分を学ぶ。
	事前学修	教科書第4編第4節・第5節を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
9回	授業内容	組織変更・事業譲渡を学ぶ。
	事前学修	教科書第7編第1章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
10回	授業内容	合併を学ぶ。
	事前学修	教科書第7編第2章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
11回	授業内容	株式交換・株式移転・株式交付を学ぶ。
	事前学修	教科書第7編第3章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。
12回	授業内容	株式分割を学ぶ。
	事前学修	教科書第7編第4章を通読すること。
	事後学修	教科書の該当部分を読み返す。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	キャッシュ・アウトを学ぶ。
	事 前 学 修	教科書第7編第5章を通読すること。
	事 後 学 修	教科書の該当部分を読み返す。
14 回	授 業 内 容	会社法関連の罰則を学ぶ。
	事 前 学 修	教科書第8編を通読すること。
	事 後 学 修	教科書の該当部分を読み返す。
15 回	授 業 内 容	講義の総復習
	事 前 学 修	教科書の該当部分を読み返す。
	事 後 学 修	教科書の該当部分を読み返す。

◆授業概要

本科目は、今後、主に史学専攻での研究方法を学ぶ専門性の高い科目です。①日本史学修の意義、②原始・古代～現代へのアプローチ、③資料による学修・研究方法を通じて、日本史を学修し、また研究するための方法を学びます。第一部では日本史で使う基本単位や制度、第二部で各時代の主要な史料・叢書類・デジタル＝アーカイブズなどを紹介し、第三部で実際に史料を使った読解を試みて、日本史の学修・研究の基礎を学びます。また、史料専門調査員としての経験を活かし、史料の収集・整理、歴史学的考察の方法について指導します。なお、授業計画は「予定」であり、変更する場合があります。

◆学修到達目標

1. 日本史でよく使う単位を理解するため、各時代特有の制度について説明できるようにする。
2. 古代から近代を学ぶ方法を理解するため、各時代の基本的史料集を説明できるようにする。
3. 各時代の史料の特徴や収集・整理の方法、歴史学的考察の基礎的方法を身につける。
4. 将来卒業論文を書く、あるいは教壇に立つ者としての必要な知識と姿勢を身につける。

◆授業方法

原則として Classroom 上で配布するプリントを使います。授業動画は開講曜日・時限に公開し、短期間で視聴できなくなります。授業曜日・時限の受講に努めてください。動画は内容に沿って分割配信します。適宜動画を一時停止してノートを取りながら学修してください。質問については小テストフォームにて受け付けます。各回の最後は小テスト・自己評価となります（開講曜日のみ回答可）。小テスト・自己評価講評は翌週冒頭で実施します。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）「日本史入門」修得済の学生は履修不可

◆成績評価基準

最終課題レポート（70%）、授業内小テスト（出欠確認含 30%）、授業参画・リアクションなど（10%）の総合評価

※15回全出席を前提とした評価です。

◆教科書

参照プリントを Classroom にて各回で配布

◆参考書

配布プリントで適宜紹介します

◆授業相談先（連絡先）

原則として、Classroom 上で実施する小テストフォームの質問欄にて受け付けます。

◆授業計画

1回	授業内容	日本史を学ぶ意味
	事前学修	「参考文献」の定義と「歴史資料」の定義を調べ、その違いを考えておく。
	事後学修	紹介本の数冊を読んで、文献一覧を確認する。辞典で歴史用語を調べる。
2回	授業内容	日本史の基礎知識（1）～単位・国制～
	事前学修	事前学修シートで指示された単位などを調べる。
	事後学修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
3回	授業内容	日本史の基礎知識（2）～政治・経済～
	事前学修	事前学修シートで指示された制度などを調べる。
	事後学修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
4回	授業内容	日本史の時代区分～日本史での区分の問題～
	事前学修	事前学修シートで指示された区分の課題に取り組む。
	事後学修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
5回	授業内容	日本史の基本文献（1）～入門・概説書～
	事前学修	事前学修シートで指示された図書を調べる。
	事後学修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
6回	授業内容	日本史の基本文献（2）～基本論集～
	事前学修	事前学修シートで指示された図書を調べる。
	事後学修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
7回	授業内容	日本史の資史料～非文献資料の特徴～
	事前学修	事前学修シートで指示された資料区分を調べる。
	事後学修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
8回	授業内容	日本史の基本史料（1）～古代・中世～
	事前学修	事前学修シートで指示されたデータベースを閲覧する。
	事後学修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
9回	授業内容	日本史の基本史料（2）～近世～
	事前学修	事前学修シートで指示された史料の解題を調べる。
	事後学修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	日本史の基本史料（3） ～近代～
	事 前 学 修	事前学修シートで指示されたデータベースを閲覧する。
	事 後 学 修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
11 回	授 業 内 容	古代・中世の史料を読んでみる ～疫病・幕府・惣村～
	事 前 学 修	事前学修シートで指示された史料を読み、課題に取り組む。
	事 後 学 修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
12 回	授 業 内 容	近世・近代の史料を読んでみる ～法度・ロンドン海軍軍縮会議～
	事 前 学 修	事前学修シートで指示された史料を読み、課題に取り組む。
	事 後 学 修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
13 回	授 業 内 容	随筆から日本史へのアプローチ ～騒ぎ歌・噂話～
	事 前 学 修	事前学修シートで指示された随筆の解題を調べる。
	事 後 学 修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
14 回	授 業 内 容	外国人日記から日本史へのアプローチ ～「観光」と旅～
	事 前 学 修	事前学修シートで指示された史料を読み、課題に取り組む。
	事 後 学 修	ノートとプリントを見返し、参考書や歴史事典などを使って、自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
15 回	授 業 内 容	講義総括 日本史の学修にむけて
	事 前 学 修	第1回から第14回の学修内容の要点をまとめておく。
	事 後 学 修	当日配付されたプリントから自身の弱点を知り、重点復習箇所を確認する。

◆授業概要

本講義では、一国の経済活動の決定要因と経済政策の基礎理論を中心に学修する。国民所得や物価の概念を理解することからはじめ、財市場における均衡、貨幣需要や利子率の決定や IS-LM 分析を確認し金融財政政策の有効性を概説する。

◆学修到達目標

この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、入門編として位置付けをし、マクロ経済学における必要な「基礎知識」、「経済学的な考え方」、「分析手法」を学修し、マクロ経済学の基本的な知識を修得することから、経済の動きを客観的に説明できるようになることを目標とする。

◆授業方法

授業計画に沿って、項目ごとに Classroom のトピックを分けている。トピックごとに、予習用の資料とパワーポイントによる動画ファイル、授業アンケートがあるので、資料で予習した後に、動画ファイルを視聴し学修する。学修後に出欠を兼ねた授業アンケートを回答する。質問などは授業アンケートなどでも受け付ける。また、課題や小テストがある場合もトピック内で指示するので必ず解答すること。なお、Zoom による双方向を授業も一部実施する予定です。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

最終講義後に最終（期末）試験を実施し、評価は60%とします。また、オンデマンド授業で実施する小テストおよび課題の評価割合を30%、授業への参加・貢献を10%とします。

◆教科書

各回で必要な講義資料を配布する。

◆参考書

市販本 『ミクロ・マクロ経済理論入門』 藤本 訓利, 陸 亦群, 前野 高章, 文眞堂, 2020 年

市販本 『入門マクロ経済学』 中谷巖, 下井直毅, 塚田裕昭, 日本評論社, 2021 年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom や授業アンケートおよび以下のメールにて対応します。

tanikawa.takayoshi2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	イントロダクション 講義内容、計画、講義方法などを説明する。マクロ経済学は何を学ぶのかを概説する。
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で経済学とは何か、マクロ経済学とは何かについて調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する。
2回	授業内容	日本の経済循環と変動 マクロ経済学の概念等を概説する。
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で経済学とは何か、マクロ経済学とは何かについて調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
3回	授業内容	GDP の概念と物価指数① 国内総生産（GDP）の概念等を概説する。
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で国内総生産について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
4回	授業内容	GDP の概念と物価指数② GDP の三面等価の原則などを概説する。
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で三面等価の原則について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
5回	授業内容	GDP の概念と物価指数③ 物価水準、GDP デフレーターなどを概説する。
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で物価について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
6回	授業内容	有効需要の原理
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で有効需要について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
7回	授業内容	総需要における消費関数（貯蓄関数）、投資関数
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、また、参考書で消費関数、貯蓄関数、投資関数について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。

◆授業計画

8回	授業内容	国民所得の決定
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で45度線モデルについて調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
9回	授業内容	貨幣需要と貨幣需要関数
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で貨幣需要について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
10回	授業内容	債券価格と利子率
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
11回	授業内容	貨幣市場の均衡と利子率の決定
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。参考書で貨幣市場について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
12回	授業内容	IS-LM分析
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。第8、11回講義をよく確認すること。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
13回	授業内容	IS-LM分析と金融政策、財政政策① 財政政策の効果についてIS-LM分析から考える。
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、第12回講義をよく確認しておくこと。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
14回	授業内容	IS-LM分析と金融政策、財政政策② 金融政策の効果についてIS-LM分析から考える。
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、第12回講義をよく確認しておくこと。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
15回	授業内容	試験および解説
	事前学修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事後学修	前期の授業内容を再確認し、理解を深めること。

◆授業概要

本講義は、企業が製品・サービスを売るための手段としてマーケティングを捉えるだけでなく、より広い視点でマーケティングを捉える事を心掛ける。そのため、社会情勢、経済状況の変化とともに消費者の嗜好がどのように変化し、市場に影響を及ぼしてきたかを詳しく解説する。実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき、各個人が分析し問題を解決する手法を学ぶ。また、実務経験を通して得た理論や分析方法も交えて解説するように心掛ける。

◆学修到達目標

- 1 マーケティング戦略の理論と実際が理解できる。
- 2 実際のビジネスの場面で起きた事例に基づき、各個人が分析し問題を解決する手法を考案できるように心掛ける。
- 3 データを分析し、市場動向を見極めながら的確に消費者ニーズを把握できるようになる。

◆授業方法

本授業はオンデマンド形式で実施される。各回の動画の視聴時間は 45 分程度であり、配信期間は一週間である。各回の動画を視聴し、ノートを作成し動画内で指示されている配信資料を確認すること。毎回、視聴確認のフォームがあるので、Google classroom 上で各回の配信期間中に投稿すること。また、リアクションペーパーやレポートの指示がある回は、ノート、テキスト及び指示された資料を元に作成して、投稿すること。テキストは事前学修に活用し、授業内容は動画を中心とする。尚、授業方法の詳細は第 1 回目の時に、授業動画とは別の動画で説明する。

◆履修条件

前期：昼間スクーリング マーケティング論からの継続履修を前提としている。

令和 3 年度昼間スクーリング（後期）『マーケティング A』（雨宮史卓）との積み重ね不可

◆成績評価基準

レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、平常点（20%） 総合的に判断します。

◆教科書

通材 『マーケティング S30500』

資料配布（Classroom）必要に応じて資料を配布する

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

常時、Google classroom の機能を用いて応じる。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	後期：オンデマンド授業の進め方 ニーズ、ウォンツ、ダイヤモンドについて
	事 前 学 修	前期の授業ノート全体を見直し、テキスト第1章を再読しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料に目を通し、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授 業 内 容	STP マーケティングについて
	事 前 学 修	前期授業の「マーケット・セグメンテーション」の箇所を見直し、テキスト31～34頁を再読しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授 業 内 容	消費者行動①（顧客購買への心理的プロセス、消費の心理的アプローチ）
	事 前 学 修	テキスト71～82頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料に目を通し、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授 業 内 容	消費者行動②（内的要因「動機」「知覚」「学習」「態度」）
	事 前 学 修	前回の授業内で指摘した消費者行動の事例を、前もって調べておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。また、前回の授業との関連性も整理しておくこと。
5回	授 業 内 容	コンシューマリズム、フィランソロピーについて
	事 前 学 修	テキスト37頁～49頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料に目を通し、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授 業 内 容	三間消費 ドミナント戦略
	事 前 学 修	前期授業の「流通戦略①、②」の部分を読み返しておくこと。特に理論の部分はノートに改めて書き写しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授 業 内 容	消費者行動の実践①（プロスペクト理論）
	事 前 学 修	後期第3回、第4回の授業のノートを見直し、配信資料をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

8回	授 業 内 容	消費者行動の実践②（採用者カテゴリー、ペネトレーション戦略、消費の意味）
	事 前 学 修	前回の授業内で指摘したプロスペクト理論の事例を、前もって調べておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。また、前回の授業との関連性も整理しておくこと。
9回	授 業 内 容	マーケティング・リサーチ
	事 前 学 修	配信資料におけるデータの種類を確認して理解しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授 業 内 容	エリア・マーケティングとキャラクター・ビジネス
	事 前 学 修	日本市場におけるキャラクター・ビジネスの変遷を調べておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授 業 内 容	ポートフォリオ・マネジメント
	事 前 学 修	配信資料を確認し、指定した図表は前もってノートに記しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授 業 内 容	マーケティングにおける成長戦略と市場
	事 前 学 修	前期授業の「様々なマーケティング・ミックスの考え方」を再確認しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授 業 内 容	SP 戦略について
	事 前 学 修	前期授業の「プロモーション戦略」のノートを読み返し、プロモーション・ミックスの関係性を再確認しておくこと。また、テキスト第12章にも目を通しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキストの該当部分と配信資料を読んで、今回の授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授 業 内 容	後期：授業の総まとめ（その1）
	事 前 学 修	予め配信された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。
	事 後 学 修	要点項目として配信資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。

◆授業計画

15 回	授 業 内 容	後期：授業の総まとめ（その2）
	事 前 学 修	前回の授業内で指摘したマーケティング戦略の事例を、前もって調べておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認・理解して、自身が調べたマーケティング戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

◆授業概要

本授業では英文の読解の仕方を学びます。文法や文構造、語彙の理解に重点を置き、辞書を丁寧に引きながら、英文を正確に読むことができるようになることを目指します。

◆学修到達目標

1. 文法や文構造、語彙を理解し、運用して英文を和訳できる。
2. 英文の内容を正確に把握することができる。

◆授業方法

各チャプターを⑤ Essential Grammar (Grammar Practice を含む) → ① Pre-Reading Questions → ② Reading Passage → ③ Comprehension Questions → ④ Guided Summary の順番で学習していきます(⑥ Dialogue と⑦ Now It's Your Turn! は扱わない予定です)。設問への解答に加え、① Pre-Reading Questions と③ Comprehension Questions は問題ごとに、② Reading Passage と④ Guided Summary は1文ずつ(文章が短い場合には2文、あるいは複数文)、英文を音読し和訳していただきます。用いられている文法や文構造、語彙について答えていただいたり、解答の根拠を説明していただいたりすることもありますので、事前学修(予習)を丁寧に行ってください。

授業計画通りに進めますが、進度はあくまでの目安であり、授業計画通りの進度で進まない場合があります。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

試験(70%)、授業への参加度(30%)。毎回出席することを前提とします。また、授業への参加度には教科書の予習状況が含まれます。

◆教科書

市販本『Changing Times, Changing Worlds (やさしく読める社会事情)』 Joan McConnell / 山内 圭 成美堂 2020年 第2版

教科書は初回授業日までに入手してください。

◆参考書

なし。

◆授業相談先(連絡先)

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス(授業の内容や進め方、成績評価基準等の説明)と Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message(⑤ Essential Grammar・① Pre-Reading Questions)
	事前学修	1. シラバスを読む。 2. ⑤ Essential Grammar の説明を読み、Grammar Practice の問題を解く。 3. ① Pre-Reading Questions の問題を解き、各英文を訳す。
	事後学修	1. ⑤ Essential Grammar は学習した内容をノート等にまとめ、Grammar Practice の間違えた問題を中心にして復習する。 2. ① Pre-Reading Questions は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
2回	授業内容	Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message(② Reading Passage・③ Comprehension Questions・④ Guided Summary)
	事前学修	1. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す。 2. ③ Comprehension Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. ④ Guided Summary の問題を解き、全文を訳す。
	事後学修	1. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。 2. ③ Comprehension Questions と④ Guided Summary は、間違えた問題を中心にして② Reading Passage の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
3回	授業内容	Chapter 2 Overtourism is a Problem!(⑤ Essential Grammar・① Pre-Reading Questions・② Reading Passage の前半部)
	事前学修	1. ⑤ Essential Grammar の説明を読み、Grammar Practice の問題を解く。 2. ① Pre-Reading Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す(1-14 行目まで)。
	事後学修	1. ⑤ Essential Grammar は学習した内容をノート等にまとめ、Grammar Practice の間違えた問題を中心にして復習する。 2. ① Pre-Reading Questions は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 3. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。

◆授業計画

4回	授業内容	Chapter 2 Overtourism is a Problem!(② Reading Passage の後半部・③ Comprehension Questions・④ Guided Summary)
	事前学修	1. Notesを確認しながら、② Reading Passageを読み、訳す(15-28行目まで)。 2. ③ Comprehension Questionsの問題を解き、各英文を訳す。 3. ④ Guided Summaryの問題を解き、全文を訳す。
	事後学修	1. ② Reading Passageは各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。 2. ③ Comprehension Questionsと④ Guided Summaryは、間違えた問題を中心にして② Reading Passageの該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
5回	授業内容	Chapter 3 Gender Equality in the Workplace(⑤ Essential Grammar・① Pre-Reading Questions・② Reading Passageの前半部)
	事前学修	1. ⑤ Essential Grammarの説明を読み、Grammar Practiceの問題を解く。 2. ① Pre-Reading Questionsの問題を解き、各英文を訳す。 3. Notesを確認しながら、② Reading Passageを読み、訳す(1-13行目まで)。
	事後学修	1. ⑤ Essential Grammarは学習した内容をノート等にまとめ、Grammar Practiceの間違った問題を中心にして復習する。 2. ① Pre-Reading Questionsは間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 3. ② Reading Passageは各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。
6回	授業内容	Chapter 3 Gender Equality in the Workplace(② Reading Passageの後半部・③ Comprehension Questions・④ Guided Summary)
	事前学修	1. Notesを確認しながら、② Reading Passageを読み、訳す(14-27行目まで)。 2. ③ Comprehension Questionsの問題を解き、各英文を訳す。 3. ④ Guided Summaryの問題を解き、全文を訳す。
	事後学修	1. ② Reading Passageは各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。 2. ③ Comprehension Questionsと④ Guided Summaryは、間違えた問題を中心にして② Reading Passageの該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。

◆授業計画

7回	授業内容	Chapter 4 Changing Definitions of Beauty(⑤ Essential Grammar・① Pre-Reading Questions・② Reading Passage の前半部)
	事前学修	1. ⑤ Essential Grammar の説明を読み、Grammar Practice の問題を解く。 2. ① Pre-Reading Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す(1-15 行目まで)。
	事後学修	1. ⑤ Essential Grammar は学習した内容をノート等にまとめ、Grammar Practice の間違えた問題を中心にして復習する。 2. ① Pre-Reading Questions は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 3. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。
8回	授業内容	Chapter 4 Changing Definitions of Beauty(② Reading Passage の後半部・③ Comprehension Questions・④ Guided Summary)
	事前学修	1. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す(16-25 行目まで)。 2. ③ Comprehension Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. ④ Guided Summary の問題を解き、全文を訳す。
	事後学修	1. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。 2. ③ Comprehension Questions と④ Guided Summary は、間違えた問題を中心にして② Reading Passage の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
9回	授業内容	Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance(⑤ Essential Grammar・① Pre-Reading Questions・② Reading Passage の前半部)
	事前学修	1. ⑤ Essential Grammar の説明を読み、Grammar Practice の問題を解く。 2. ① Pre-Reading Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す(1-14 行目まで)。
	事後学修	1. ⑤ Essential Grammar は学習した内容をノート等にまとめ、Grammar Practice の間違えた問題を中心にして復習する。 2. ① Pre-Reading Questions は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 3. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。

◆授業計画

10 回	授業内容	Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance(② Reading Passage の後半部・③ Comprehension Questions・④ Guided Summary)
	事前学修	1. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す(15-23 行目まで)。 2. ③ Comprehension Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. ④ Guided Summary の問題を解き、全文を訳す。
	事後学修	1. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。 2. ③ Comprehension Questions と④ Guided Summary は、間違えた問題を中心にして② Reading Passage の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。
11 回	授業内容	Chapter 6 Nature and Health(⑤ Essential Grammar・① Pre-Reading Questions・② Reading Passage の前半部)
	事前学修	1. ⑤ Essential Grammar の説明を読み、Grammar Practice の問題を解く。 2. ① Pre-Reading Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す(1-14 行目まで)。
	事後学修	1. ⑤ Essential Grammar は学習した内容をノート等にまとめ、Grammar Practice の間違えた問題を中心にして復習する。 2. ① Pre-Reading Questions は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 3. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。
12 回	授業内容	Chapter 6 Nature and Health(② Reading Passage の後半部・③ Comprehension Questions・④ Guided Summary)
	事前学修	1. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す(15-25 行目まで)。 2. ③ Comprehension Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. ④ Guided Summary の問題を解き、全文を訳す。
	事後学修	1. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。 2. ③ Comprehension Questions と④ Guided Summary は、間違えた問題を中心にして② Reading Passage の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。

◆授業計画

13 回	授業内容	Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces(⑤ Essential Grammar・① Pre-Reading Questions・② Reading Passage の前半部)
	事前学修	1. ⑤ Essential Grammar の説明を読み、Grammar Practice の問題を解く。 2. ① Pre-Reading Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す(1-12 行目まで)。
	事後学修	1. ⑤ Essential Grammar は学習した内容をノート等にまとめ、Grammar Practice の間違えた問題を中心にして復習する。 2. ① Pre-Reading Questions は間違えた問題を中心にして復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。 3. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。
14 回	授業内容	13 回目までの授業内容の復習及び試験
	事前学修	13 回目までの学習内容を理解する。
	事後学修	試験で解けなかった問題を中心にして復習する。
15 回	授業内容	Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces(② Reading Passage の後半部・③ Comprehension Questions・④ Guided Summary)
	事前学修	1. Notes を確認しながら、② Reading Passage を読み、訳す(13-25 行目まで)。 2. ③ Comprehension Questions の問題を解き、各英文を訳す。 3. ④ Guided Summary の問題を解き、全文を訳す。
	事後学修	1. ② Reading Passage は各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら再度読む。 2. ③ Comprehension Questions と④ Guided Summary は、間違えた問題を中心にして② Reading Passage の該当箇所と照らし合わせながら復習し、その後、各英文で用いられている文法や文構造、語彙を確認する。

◆授業概要

CNN ニュースを使用してアンカーや特派員の生きた英語の直聴直解を目指します。英語の4技能のうち、理解言語である「読む、聞く」を繰り返し練習することにより、英語そのものに慣れ、自然とシャドーイングができるようにします。表現言語である「話せる、書ける」は、理解言語を相当有していることが上達の前提となりますので、扱うニュースについて事前に調べておき、周辺の言葉のある程度知っておく必要があります。

◆学修到達目標

1. ネイティブスピーカーが日常使用する5000語を身につける。スペルのミスをなくす。
2. 1分間に150語の音読ができる。棒読みではなく、自分の言葉として英語が出るようにする。
3. 音読文章の内容を正確に把握することができる。

◆授業方法

動画授業となります。2回の授業で1unit進めます。本文のリスニングを中心に、語彙問題、質疑応答問題、音読練習（オーバーラッピング、シャドーイング）を、テキストに沿って行います。毎回視聴したかどうかの確認として、リアクションペーパーの提出をしてもらいます。Google Classroomを使用します。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

リアクションペーパーの提出（40%）、レポート2種類（60%）

◆教科書

市販本 『ENGLISH FOR THE GLOBAL AGE WITH CNN Vol. 22』 関西大学 CNN 英語研究会 朝日出版社

◆参考書

市販本 『CNN ENGLISH EXPRESS』 朝日出版社

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて受け付けます。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス。リスニングと音読の関係性の説明。 Unit7 : Grand Lady in Distress (55～61 ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	シラバスを読んでおくこと。Unit 7の内容を予習しておくこと。
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習しておくこと
2回	授業内容	Unit 7 : Grand Lady in Distress (59～63 ページ) リスニング解答、質疑応答、内容把握 オーバーラッピング シャドーイングの発音練習
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認しておくこと
3回	授業内容	Unit 8: Edible Ecofriendliness (64～70 ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 8の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習しておくこと
4回	授業内容	Unit 8: Edible Ecofriendliness (68～72 ページ) リスニング解答、 質疑応答、内容把握 オーバーラッピング シャドーイングの発音練習
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認しておくこと
5回	授業内容	Unit 9: Protectors of the Forest (73～79 ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 9の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習しておくこと
6回	授業内容	Unit 9: Protectors of the Forest (77～81 ページ) リスニング解答、 質疑応答、内容把握 オーバーラッピング シャドーイングの発音練習
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認しておくこと
7回	授業内容	第一回 レポート提出
	事前学修	Unit 7～9の内容を復習しておくこと
	事後学修	Unit 7～9の内容が定着しているか、単語や文章を聞いて確認すること
8回	授業内容	Unit 10: Youths Demand Their Future (82～88 ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 10の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習しておくこと

◆授業計画

9回	授業内容	Unit10: Youths Demand Their Future (86~90 ページ) リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F 問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
10回	授業内容	Unit11: Christmas SOS (91~97 ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 11の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習をしておくこと
11回	授業内容	Unit11: Christmas SOS (95~99 ページ) リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F 問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
12回	授業内容	Unit 12: Not for Sale (100~106 ページのリスニング部分まで) 単語の意味及び発音練習
	事前学修	Unit 12の内容を予習しておくこと
	事後学修	トピックの内容の整理、重要単語の暗記、発音の練習をしておくこと
13回	授業内容	Unit 12: Not for Sale (104~108 ページ) リスニング及び要約 質疑応答 オーバーラッピング シャドーイング
	事前学修	本文のリスニングを解いて、T/F 問題を解くこと。内容を把握しておくこと
	事後学修	スムーズな音読、内容を把握、単語の確認をしておくこと
14回	授業内容	Unit 1~6のリスニング及び内容の復習
	事前学修	Unit 1~6のリスニングを復習して、内容を確認してくること
	事後学修	最終レポート作成に向けて内容を理解しておくこと
15回	授業内容	これまでの振り返り 理解度確認 第二回レポート提出
	事前学修	これまでの音読訓練の成果を確認、単語の暗記、直聴直解ができているかを確認しておくこと
	事後学修	これまでのトピックの内容、スムーズなシャドーイング、単語のスペルの再確認をしておくこと

◆授業概要

指定テキストおよび配付資料を基盤とし以下を目的とする。1. ベイオウルフから 18 世紀前半に至る大きな流れの中で、伝統と作家個人の独自性および文学作品の独自性という観点から、個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英文学 I の全体像を把握し、英文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品が英文学史全体の中でどのような位置にあるかを理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しませる技能が取得できる。

◆学修到達目標

1. 受講学生が、『ベイオウルフ』から始まり 18 世紀前半に至る大きな流れの中で、伝統と作家個人の独自性および文学作品の独自性という観点から、個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英文学の全体像を把握し、英文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品が英文学史全体の中でどのような位置にあるかを理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しませる技能が取得できる。

◆授業方法

ターム 9 回目まではテキストに沿いながら広く英文学の歴史の基本的知識を解説する。10 回目からは必要に応じて資料を提示して、個々の英文学作品の具体的な内容を部分的に鑑賞する。基本的に、各授業の後半では、当該授業の主要テーマに関するリアクションペーパーの提出を毎回求める。また、その内容について後続の授業で、本人の許可を得た上で、一部公開し、疑問点などに具体的に応答するなど、フィードバックを行う場合がある。

◆履修条件

2020 年度夏季スクーリング「イギリス文学史 I」および 2021 年度前期昼間スクーリング「イギリス文学史 I B」との積み重ねは不可

◆成績評価基準

授業参加意識の高さ（10%）、毎回の授業で行う記述式課題（40%）、受講学生自身による手書きノート（50%：コピー類は一切不可）の三点を基にして総合的に評価する。ノートは 15 回の授業が終了した直後に各自、通信教育部まで郵送することを義務づける。なお、手書きノートの合格水準は市販の B5 版 35 行のノートにびっちり書いて、合計 80 枚以上となることを予め心得ておくこと。

◆教科書

市販本 『映画で楽しむイギリスの歴史』 吉田徹夫他 金星堂 2400 円（税別）

資料配布（Classroom） 授業の進度や受講学生の興味の有り様に従って、適宜、授業担当教師が適切だと判断した資料を提示する。

フリーウェブサイト「野呂有子の研究ウェブサイト」

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

E-mail: yuko.kanakubo.noro@gmail.com 宛てに送付されたメールには、授業内容等についての質問に限り応答する。教科書は授業時に指導教師と受講学生が一緒に読みながら授業を進める必要上、また、内容のかなり多い部分をノートに手書きで転記してもらので必ず購入しておくこと。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	授業の進め方、オリエンテーション、英文学と英文学史の意義を説明し、その背景を解説する。導入を行う。たとえば、『アーサー王の死』において重要な役割を果たす魔剣エクスカリバーが、『ハリー・ポッター』作品に継承されていること、『楽園の喪失』最終場面のアダムとイブの姿が多くの恋愛作品や映画に継承されていることを明らかにして、「英文学史1」で扱われる文学作品が現代のわれわれにいかにか大きな影響を与えているかを理解してもらおう。
	事 前 学 修	教科書の最初から 136 頁まで、さらに 243 から 247 頁までを概観し、全体の流れと構成を把握しておくこと
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。
2 回	授 業 内 容	「七王国時代」（教科書 20 から 27 頁）を一緒に読みながら、文学作品としての『ベオウルフ』と七王国時代について学ぶ。
	事 前 学 修	「七王国時代」（教科書 20 から 27 頁）を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

3回	授業内容	「アーサー王」(教科書 28 から 32 頁) を一緒に読みながら、トマス・マローリー作『アーサー王の死』について学ぶ。さらに、「バラ戦争—王権をめぐる戦い」(教科書 70 から 74 頁) を一緒に読みながら中世後期の、バラ戦争の中で誕生した理由について考察し、理解する。
	事前学修	「アーサー王」(教科書 28 から 32 頁) と「バラ戦争—王権をめぐる戦い」(教科書 70 から 74 頁) を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容	教科書 33 頁の「中世前期」の年表を確認しながら、「ヘンリー二世」(教科書 35 から 50 頁) と「リチャード二世」(教科書 55 から 58 頁) を一緒に読みながら、1066 年のノルマン・コンクwestとそれに続く、大きな英語の変容について理解する。その上で、ジェフリー・チョーサー作『カンタベリー物語』の歴史的、社会的、言語学的、市民的意義について考察し、理解する。
	事前学修	教科書 33 頁の「中世前期」の年表をノートに写すこと。さらに「ヘンリー二世」(教科書 35 から 50 頁) と「リチャード二世」(教科書 55 から 58 頁) を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容	教科書 59 頁の「中世後期」の年表を確認しながら、「ヘンリー五世」(教科書 61 から 65 頁) を一緒に読む。さらに、教科書 75 から 76 頁の「テューダー王朝」の年表を確認しながら、「ヘンリー八世」(教科書 77 から 80 頁)、「トマス・モア」(教科書 81 から 85 頁) を一緒に読む。その上で、ヘンリー八世が樹立した「英国国教会」の意味について宗教的、政治的、文学的意義について考察し、理解する。
	事前学修	教科書 59 頁の「中世後期」の年表と、教科書 75 から 76 頁の「テューダー王朝」の年表をノートに写すこと。さらに「ヘンリー五世」(教科書 61 から 65 頁) と「ヘンリー八世」(教科書 77 から 80 頁)、「トマス・モア」(教科書 81 から 85 頁) を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

6回	授 業 内 容	「ジェーン・グレイ」(教科書 86 から 89 頁)、「エリザベス女王」(教科書 90 から 96 頁)、「シェイクスピア」(教科書 97 から 102 頁)、「メアリ・スチュアート」(教科書 103 から 106 頁)を一緒に読む。その上で、文学者としてのエリザベス女王と英国が世界に誇る劇作家ウィリアム・シェイクスピアについて考察し、理解する。英国で公式には、ウィクリフより行われ、『欽定英訳聖書』において、一定の決着を見る、聖書の英語翻訳の歴史について整理し、理解する。
	事 前 学 修	「ジェーン・グレイ」(教科書 86 から 89 頁)、「エリザベス女王」(教科書 90 から 96 頁)、「シェイクスピア」(教科書 97 から 102 頁)、「メアリ・スチュアート」(教科書 103 から 106 頁)を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授 業 内 容	教科書 107 頁の「17 世紀」の年表を確認しながら、「植民地」(教科書 109 から 112 頁)、「ピューリタン革命」(教科書 113 から 117 頁)、「チャールズ 2 世」(教科書 118 から 122 頁)を一緒に読む。その上で、これらの時代を代表する文学作品とその特徴について概観し、理解する。英国の複雑な宗教事情、すなわちカトリック→英国国教会→カトリック→英国国教会という大まかな図式があることを理解する。そして、その原因がヘンリー八世の離婚問題に端を発していることを理解し、迫害と宗教的闘争の中で、スペンサー、シェイクスピア、ミルトンといった偉大な文学者が誕生してくるようになった経緯を把握する。
	事 前 学 修	教科書 107 頁の「17 世紀」の年表をノートに写すこと。さらに、「植民地」(教科書 109 から 112 頁)、「ピューリタン革命」(教科書 113 から 117 頁)、「チャールズ 2 世」(教科書 118 から 122 頁)を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

8回	授 業 内 容	「貴族の生活」(教科書 123 から 128 頁)を読み、教科書 129 頁の「18 世紀」の年表を確認しながら、「英国と植民地」(教科書 131 から 136 頁)までを読む。その上で、市民階層の教育、小説の誕生、挿絵文化の発展について考察し、理解する。
	事 前 学 修	「貴族の生活」(教科書 123 から 128 頁)を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。教科書 129 頁の「18 世紀」の年表をノートに転記しておくこと。「英国と植民地」(教科書 131 から 136 頁)までを読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授 業 内 容	授業後半からは、前半で理解した英国の歴史を背景にして、より一層専門的に英文学の内容について考察していく。第 9 回では、エリザベス女王の統治のもとで、優れた作家が台頭してきた事実を確認する。また、国王が女性であったことから、文学作品にフェミニズム的要素が多く認められること、さらに、すぐれた女性の文学者たちが舞台の表に登場した事実についても考察し、理解する。
	事 前 学 修	配付資料を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授 業 内 容	授業英詩の土台となるソネット(14 行詩)について学ぶ。サー・トマス・ワイアットやサレー伯、エリザベス女王、シェイクピア作のソネットも鑑賞する。さらにその基底をなす弱強五歩脚(アイアンビク・ペンタミター)のリズムを習得する。これが現在に至る、英語の抑揚の基本となるからである。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	弱強五歩脚のリズムを踏まえて、シェイクスピアの劇作品について学ぶ。悲劇と喜劇、歴史劇についてそれぞれ一部を取り上げて鑑賞する。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
12 回	授 業 内 容	エリザベス女王亡き後の英国の政治的風土について、ジェームズ一世、チャールズ一世に焦点を当てて考察する。この風土からジャコビアンドラマと呼ばれる退廃的演劇が台頭し、人心を退廃させたこと、それとは対照的に、宮廷仮面劇が隆盛を極め、国庫を食いつぶし、やがて両者が相まってイングランド革命へと繋がっていくことを理解する。そして、ここでジョン・ミルトン作の仮面劇が重要なメルクマールとなることを確認する。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
13 回	授 業 内 容	英国が世界に誇る、革命叙事詩人ジョン・ミルトンとその作品『楽園の喪失』を中心にイングランド革命と英国ピューリタニズムの本質に迫る。ここが野呂の専門であり、本領となるので、他では決して得られない授業内容が提供されるものと理解してほしい。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
14 回	授 業 内 容	英国が世界に誇る、革命叙事詩人ジョン・ミルトンと、彼が当時の国際共通語ラテン語で執筆した『イングランド国民のための弁護論』を中心にイングランド革命と英国ピューリタニズムの本質に迫る。ここが野呂の専門であり、本領となるので、他では決して得られない授業内容が提供されるものと理解してほしい。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

15 回	授 業 内 容	試験および内容説明
	事 前 学 修	これまでの授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	試験内容およびその説明を確認・整理して、ノートに付け加えて、授業終了直後に通信教育部に郵送できるように準備しておくこと。

◆授業概要

徴兵、移民、特攻、捕虜、慰安婦、シベリア抑留、引揚げ、留用、植民地・占領地支配など、日中戦争やアジア太平洋戦争の戦中・戦後期に日本国内や、中国、台湾、朝鮮など全国各地の民衆がどのように戦争に動員され、どのような生き方を強いられていったのかという視点から日中戦争史・アジア太平洋戦争史を再構成する。その中で、民衆と戦争、権力、メディア、ナショナリズム等の関係性を考察する。

◆学修到達目標

戦後76年、戦争の記憶も薄らいでいき、また近隣諸国との摩擦も絶えない状態が続いている。そんな中、戦争の前線や銃後に動員された各国民衆の生き様をたどりながら、民衆動員のシステムを考察し、民衆と戦争、権力、メディア、ナショナリズム等の関係について多面的、複眼的な理解ができるようになることを目標とする。

◆授業方法

オンデマンド（動画配信）での授業形態となる。毎回レジュメや資料プリントを配信し、それに沿って講義をすすめる。その際、受講生からの質問にも対応する。受講生は毎回一定期間内に配信された動画を視聴し、授業参加確認表を提出する。新しい研究成果を紹介したり、一次史料を含む史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。

◆履修条件

令和元年度、2年度昼間スクーリング（後期）の堀井担当の『東洋史特講』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

オンデマンド（動画配信）での授業形態となる。毎回レジュメや資料プリントを配信し、それに沿って講義をすすめる。その際、受講生からの質問にも対応する。受講生は毎回一定期間内に配信された動画を視聴し、授業参加確認表を提出する。新しい研究成果を紹介したり、一次史料を含む史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。

◆教科書

当日資料配布

◆参考書

- 市販本 丸沼 『シリーズ日本近現代史⑤ 満州事変から日中戦争へ』加藤陽子 岩波新書 2007年
- 市販本 丸沼 『シリーズ日本近現代史⑥ アジア・太平洋戦争』吉田裕 岩波新書 2007年
- 市販本 丸沼 『日本軍兵士ーアジア・太平洋戦争の現実』吉田裕 中公新書 2017年
- 市販本 丸沼 『「大日本帝国」崩壊ー東アジアの1945年ー』加藤聖文 中公新書 2009年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	授業ガイダンス&満州事変と開拓移民
	事前学修	満州事変とはどのような「事変」だったのか、その経緯をおさえておこう。
	事後学修	満州事変の経緯や背景、開拓移民の歴史、戦後の事態などをまとめよう。
2回	授業内容	満州国協和会と陸軍宣撫班
	事前学修	「満州国」とはどのような国であったのか、調べておこう。
	事後学修	協和会結成の意味、軍の宣撫班活動の目的などを整理しておこう。
3回	授業内容	東亜聯盟とアジア主義
	事前学修	アジア主義とはどのような「主義」なのか、調べておこう。
	事後学修	東亜連盟の理念と実態、アジア主義との関係などについて整理しておこう。
4回	授業内容	汪兆銘政権下の中国民衆
	事前学修	汪兆銘(汪精衛)とは誰なのか、何をした人物なのか、調べておこう。
	事後学修	汪政権の理念と実態、汪政権下の民衆動員システムなどをまとめておこう。
5回	授業内容	蒋介石、毛沢東統治下の中国民衆
	事前学修	日中戦争について、その経緯をおさえておこう。
	事後学修	国民党、共産党両陣営の下にある民衆の動態について整理しておこう。
6回	授業内容	植民地台湾・朝鮮の民衆
	事前学修	台湾や朝鮮が日本の植民地となった経緯について調べておこう。
	事後学修	日本が両地域の民衆をどのように統治、動員したのか、まとめてみよう。
7回	授業内容	戦時性暴力と従軍慰安婦
	事前学修	従軍慰安婦とは誰が、どのような経緯でそうされたのか調べておこう。
	事後学修	慰安婦の歴史的経緯や背景、戦時性暴力問題についてまとめておこう。
8回	授業内容	戦場の日本兵たち
	事前学修	日中戦争・アジア太平洋戦争の経緯について復習しておこう。
	事後学修	徴兵、内務班生活、戦病死、特攻、玉砕など兵たちの諸状況を整理してみよう。
9回	授業内容	銃後の日本の民衆
	事前学修	銃後の民衆の生活、軍事教練、慰問袋、千人針などのことを調べておこう。
	事後学修	戦時下の民衆生活の様子やメディアの役割を整理しておこう。
10回	授業内容	捕虜となった日本兵たち
	事前学修	捕虜となった日本兵の人数や地域、処遇などについて調べてみよう。
	事後学修	捕虜処遇に関する国際法規、捕虜となった日本兵の境遇、日本の捕虜観などをまとめてみよう。
11回	授業内容	戦前・戦後の沖縄の民衆
	事前学修	沖縄の民衆が戦前・戦後、どのような体験をしてきたのか調べてみよう。
	事後学修	沖縄の民衆が辿った歴史と現代の諸問題とを関連させて整理しておこう。

◆授業計画

12 回	授 業 内 容	「引き揚げ」る民衆、「復員」する兵士たち
	事 前 学 修	「引き揚げ」「復員」とは何なのか、その意味や経緯を調べておこう。
	事 後 学 修	戦後の在外日本人がおかれた境遇をまとめておこう。
13 回	授 業 内 容	「留用」された日本人
	事 前 学 修	「留用」とは何なのか、その意味や経緯を調べておこう。
	事 後 学 修	「留用」の経緯や背景、影響などについて整理しておこう。
14 回	授 業 内 容	シベリアに抑留された人びと
	事 前 学 修	シベリア抑留とはどのような事態であったのか、その経緯を調べておこう。
	事 後 学 修	シベリア抑留の歴史や背景、その後の補償問題の経緯などをまとめよう。
15 回	授 業 内 容	後期のまとめ
	事 前 学 修	ノートや配布したレジメ・資料などを使って授業内容を総まとめしておこう。
	事 後 学 修	この期間中に学んだことを整理、理解し、今後の学習につなげよう。

講座内容 (シラバス)

〔西洋史演習Ⅰ・Ⅱ〕

藤井 信行

- ◆**授業概要** 歴史学の論文を書くためのステップの後半部分(研究史の整理・資料の収集・論証とは?)を取り上げます(前半部分の論文のテーマ決定・文献目録の作成・文献の解読・事実の解釈は前期授業)。学生各自が自身のテーマで研究史の整理を行い、それによってテーマに関する論争点や解釈の変遷などを理解します。また学生の報告を聞くことをとおして、西洋史における幅広い知識を身につける。
- ◆**学修到達目標** 学生各自が自己のテーマについて研究史の整理を行うことによって、様々な解釈が存在することを知り、それによって事実とは1つかもされないが、その解釈は多様であることを学ぶ。したがって、歴史とは、事実の積み重ねがおのずから歴史を創っていくのではなく、歴史家がいくつもの事実を解釈することをとおして創られていくものであることを理解する。それをとおして学生各自が自己のテーマを考察することにより、論文としてまとめる(歴史を書く)ことができる。
- ◆**授業方法** 1つ1つのステップをゼミナール形式で進めます。3年次生は、これをモデルにして同じステップを各自の論文テーマで行います。4年次生は、これを今一度自分の論文で確認しつつ論文を完成させてください。また3年・4年次生ともに、自己のテーマの研究史の整理を授業内で報告してもらいます。報告内容についてディスカッションを行いますので、今後の自身の論文作成につなげてください。
- ◆**履修条件** 前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。
- ◆**授業計画**〔各90分〕

1回	授業内容 事前学修 事後学修	歴史学の論文を書く： まずこの授業の全体像と具体的な進め方を説明する。つづいて歴史学の論文を書く上でno後半の重要ポイント「研究史の整理」と「論証」について説明する。 テキスト第2章(41～78頁)をよく読んでおくこと。 2つのポイントについて、授業内容とテキストをノートにまとめ、それぞれを確認し理解する。
2回	授業内容 事前学修 事後学修	3年次生の卒業論文テーマの決定： 卒業論文のテーマを決定し、その要旨・章立てなどの概要を報告する。報告の内容についてのディスカッションも行う。 学生各自、報告要旨を整理し、A4版1枚にまとめる。 ディスカッションでの議論を整理して、今後の論文作成につなげる。
3回	授業内容 事前学修 事後学修	4年次生の卒業論文中間報告： テーマ・章立て・内容を簡潔にまとめて報告する。報告の内容についてのディスカッションも行う。 報告要旨を整理し、A4版1枚にまとめる。 ディスカッションでの議論を整理して、今後の論文作成につなげる。
4回	授業内容 事前学修 事後学修	研究史の整理(1)： 研究史の整理にも様々な形があることを、具体的にいくつかの論文を読みながら解説する。 配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。 自身のテーマの研究史の整理(未完の学生は自身の解釈)と配布資料と照らし合わせて確認する。
5回	授業内容 事前学修 事後学修	研究史の整理(2)： 「時代3区分法と古代ギリシャ」をテーマにして、関係する資料を読みながら、古代ギリシャに関する研究史の整理を解説する。それをとおして、西洋史における古代・中世・近代という時代3区分法も理解する。 配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。 授業内容を配布資料でよく確認し、古代ギリシャに関する研究史が時代の変遷とともに変わってきたことを確認する。
6回	授業内容 事前学修 事後学修	研究史の整理(3)： 「ルネサンスと中世」をテーマにして、関係する資料を読みながら、ルネサンスおよび中世に関する研究史の整理を解説する。それをとおして、西洋史における古代・中世・近代という時代3区分法も理解する。 配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。 授業内容を配布資料でよく確認し、ルネサンスおよび中世に関する研究史が時代の変遷とともに変わってきたことを確認する。
7回	授業内容 事前学修 事後学修	研究史の整理(4)： 「第一次世界大戦原因論」をテーマにして、関係する資料を読みながら、大戦原因論に関する研究史の整理を解説する。それをとおして、新たな事実の公表によって歴史解釈も必然的に変化してきたことを理解する。 参考書『歴史学』第8部(187～211ページ)をよく読んでおくこと。 参考書と授業ノートを整理し、内容を確認・理解する。
8回	授業内容 事前学修 事後学修	研究史の整理(5)： 4年次生の卒業論文のテーマから選ぶ①-報告とディスカッション 配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。 報告とディスカッションの内容をまとめ、西洋史における幅広い知識を身につけることへとつなげる。
9回	授業内容 事前学修 事後学修	研究史の整理(6)： 4年次生の卒業論文のテーマから選ぶ②-報告とディスカッション 配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。 報告とディスカッションの内容をまとめ、西洋史における幅広い知識を身につけることへとつなげる。
10回	授業内容 事前学修 事後学修	研究史の整理(7)： 3年次生の卒業論文のテーマから選ぶ①-報告とディスカッション 配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。 報告とディスカッションの内容をまとめ、西洋史における幅広い知識を身につけることへとつなげる。
11回	授業内容 事前学修 事後学修	研究史の整理(8)： 3年次生の卒業論文のテーマから選ぶ②-報告とディスカッション 配布資料(前回授業終了時に配布)をよく読んでおくこと。 報告とディスカッションの内容をまとめ、西洋史における幅広い知識を身につけることへとつなげる。
12回	授業内容 事前学修 事後学修	4年次生の卒業論文報告とディスカッション(1)： 学生それぞれの報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。 各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨(事前に配布する)をよく読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。 報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。
13回	授業内容 事前学修 事後学修	4年次生の卒業論文報告とディスカッション(2)： 学生それぞれの報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。 各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨(事前に配布する)をよく読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。 報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。
14回	授業内容 事前学修 事後学修	3年次生のテーマ決定報告とディスカッション(1)： 学生それぞれの報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。 各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨(事前に配布する)をよく読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。 報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。
15回	授業内容 事前学修 事後学修	3年次生のテーマ決定報告とディスカッション(2)： 学生それぞれの報告と報告内容(テーマ・章立て・論証内容など)についてのディスカッションを行う。 各自の報告を準備するとともに、他の学生たちの報告要旨(事前に配布する)をよく読んでおく。積極的にディスカッションに参加できる準備を整えておく。 報告に関するディスカッションの内容を確認し理解する。

◆**教科書** 通信教育教材『西洋史入門 Q20300』(000047)◆**参考書** 通信教育教材『西洋史特講Ⅰ Q31200』(000156)

通信教育教材『歴史学 B11100』(000393)

◆**成績評価基準** レポート2回(授業中・前期最終授業時)各30%×2、報告40% 毎回出席することを前提に評価します。◆**授業相談**(連絡先)：授業初回時にお知らせします。

注意

◆授業概要

国家財政と地方財政の役割の違い、公共財の最適供給方法についてミクロ経済学および公共経済学の理論から整理する。そのうえで、戦後、地方財政が経済成長のためにどのように利活用されてきたのかについて学び、地方財政の中心的役割を担う地方交付税が地方自治体の公共財供給にもたらす影響について国家財政との関係に鑑みながら学ぶ。

◆学修到達目標

私たちの生活は地方自治体が供給するさまざまなサービスから影響を受けている。地方財政論は、地方自治体がどのような経済活動によってサービスを提供しているのか、地方交付税を中心に学ぶ。地方財政の制度や仕組みを知り、また、新聞やニュース等で地方自治体が抱える問題を知る。そのうえで、改善策を自分の言葉で紡ぎだすことができるようになることがこの授業の目標としている。

◆授業方法

この授業はオンデマンド形式で実施する。各回の授業は約 60 分の動画視聴と約 30 分の課題への取り組みから成り立っている。まずは配信された動画を視聴する。理解が困難だった箇所は繰り返し視聴する。そのうえで、動画の最後に提示される課題に取り組み、さらなる内容の理解に努める。課題の解答例は次回の動画冒頭で説明する。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

期末課題（80%）、課題・授業への取り組み・受講態度（20%）などを総合的に評価します。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 各回の授業内容を PDF 形式にしたものを Classroom にアップロードする。各自でダウンロードのうえ可能ならば印刷すること。

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	授業方針の説明.
	事前学修	新聞やニュースで地方財政について触れる. また, 居住地の自治体が抱える財政上の問題を調べておく.
	事後学修	シラバスを読み返し, 履修すべきか否かをしっかりと考える. また, 単位習得のための心構えをする.
2回	授業内容	公共財の供給方法 (1)
	事前学修	公共財の性質を調べておきましょう.
	事後学修	国家公共財と地方公共財の違いを整理しておきましょう.
3回	授業内容	公共財の供給方法 (2)
	事前学修	サミュエル条件を調べておきましょう.
	事後学修	地方公共財の最適供給条件を復習しておきましょう.
4回	授業内容	公共財の供給方法 (3)
	事前学修	予算制約線と無差別曲線を思い出しておきましょう.
	事後学修	中央政府からの財政移転が必要な理由を説明できるようにしましょう.
5回	授業内容	自治体財政運営の基本 (1)
	事前学修	今年度の地方財政計画を確認しておきましょう.
	事後学修	地方財政計画中の地方交付税の役割を確認しておきましょう.
6回	授業内容	自治体財政運営の基本 (2)
	事前学修	標準税率の意味を調べておきましょう.
	事後学修	地方交付税と標準税率の効果の違いを説明できるようにしておきましょう.
7回	授業内容	自治体財政運営の基本 (3)
	事前学修	地方財政計画の歳出側を確認しておきましょう.
	事後学修	地方財政計画歳出の各項目を説明できるようにしましょう.
8回	授業内容	地方交付税の役割 (1)
	事前学修	基準財政需要額を確認しましょう.
	事後学修	基準財政需要額の考え方が妥当か否か考えましょう.
9回	授業内容	地方交付税の役割 (2)
	事前学修	新型交付税とは何か調べておきましょう.
	事後学修	地方財政計画と地方交付税の関係を整理しておきましょう.
10回	授業内容	地方交付税の役割 (3)
	事前学修	基準財政収入額, 留保財源を調べておきましょう.
	事後学修	留保財源の存在理由を整理しておきましょう.
11回	授業内容	地方交付税の算定 (1)
	事前学修	基準財政需要額の算定式を調べておきましょう.
	事後学修	基準財政需要額の構造を復習しましょう.

◆授業計画

12 回	授 業 内 容	地方交付税の算定（2）
	事 前 学 修	単位費用，補正係数とは何か調べておきましょう。
	事 後 学 修	単位費用，補正係数にはどのようなものがあるか復習しておきましょう。
13 回	授 業 内 容	財政力格差と地方交付税（1）
	事 前 学 修	財政力格差を判断する指標を調べておきましょう。
	事 後 学 修	財政力格差に対する地方交付税の役割を説明できるようにしましょう。
14 回	授 業 内 容	財政力格差と地方交付税（2）
	事 前 学 修	財政力格差が発生する理由を考えましょう。
	事 後 学 修	地方交付税に対する誤解を整理しておきましょう。
15 回	授 業 内 容	授業のまとめ
	事 前 学 修	これまでの授業内容を振り返っておきましょう。
	事 後 学 修	授業内容を踏まえ，試験への準備をしましょう。

◆授業概要

日本の代表的な絵画芸術である絵巻物を通して日本の歴史を学ぶ。具体的には『一遍聖絵』・『信貴山縁起絵巻』・『百鬼夜行絵巻』の三つの絵巻物を題材としたい。

◆学修到達目標

過去の歴史を知るためのものを「史料」というが、これは基本的に文献などの文字に頼ったものであった。しかしそれだけでは歴史の復元は不十分である。そこで考古学や民俗学の成果も利用されてきた。ここではそのようにして文献以外の「史料」として注目された絵画のうち、絵巻物を取り上げることで、文献だけに頼らない新しい歴史学のあり方を理解できるようになる。

◆授業方法

授業は講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し、受講生の理解の一助とする。またリアクションペーパーを提出してもらう場合もある。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『歴史学 A』（渡邊浩史）との積み重ね不可

◆成績評価基準

平常点（リアクションペーパーなど）20%、試験80%

◆教科書

適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	はじめに なぜ絵画史料をあつかうのか
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
2回	授業内容	絵巻物について
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
3回	授業内容	『一遍聖絵』とは
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
4回	授業内容	『一遍聖絵』四天王寺の門前
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
5回	授業内容	『一遍聖絵』高野山
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
6回	授業内容	『一遍聖絵』熊野三山
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
7回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』とは
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
8回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』山崎長者の巻
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
9回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』山崎長者の巻
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
10回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』延喜加持の巻
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
11回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』尼公の巻
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
12回	授業内容	『百鬼夜行絵巻』とは
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	『百鬼夜行絵巻』 鬼が現れる
	事 前 学 修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
14 回	授 業 内 容	『百鬼夜行絵巻』 鳥兜
	事 前 学 修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
15 回	授 業 内 容	まとめと試験
	事 前 学 修	これまでの授業内容をまとめておくこと
	事 後 学 修	授業と試験の内容を自分でまとめること

◆授業概要

法学の基本的理解を深める。法の歴史を学びその全体像をイメージできるようにする。

◆学修到達目標

基本的な法学の学問的理解を確立する。現代のグローバリズムや科学技術の変化の中で法の果たす役割を考える。

◆授業方法

オンデマンドで授業の動画を配信する。質問は第14回目の動画で回答する。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『法学C』（武田茂樹）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

試験（100%）

◆教科書

なし

◆参考書

通材 『法学』通信教育教材

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上で行う。

◆授業計画

1回	授業内容	学問の意義と学び方について考えます。学問の本質的な役割は真実を探究することです。
	事前学修	大学のカリキュラムの案内書を見て、学問の全体像を見て自分がどのように学問にチャレンジするのか考えて下さい。
	事後学修	自分の今までの学問の取り組み方と今後の方針を比較してみてください。
2回	授業内容	法学の学び方について考えます。多様な学問のジャンルがある中で、法学をどのように学ぶかを考えます。
	事前学修	現代世界の急激な変化の中で、学問をどのように学ぶべきか、とくに法学はどのように学ばれるべきかをかんがえます。
	事後学修	現代世界のグローバル化を理解してください。そしてその法および法学に対する影響をじっくりと考えて下さい。
3回	授業内容	“法とは何か”を具体的に考えます。まず、その始めは法の学問的定義からです。
	事前学修	“法とは何か”という自分のイメージを考えて、ノートして見て下さい。
	事後学修	自分の方に対するイメージと法の学問的定義を比較して見て下さい。
4回	授業内容	法の歴史を考えます。学問に置いて歴史的認識は非常に重要であり、とくに社会科学である法学の本質的理解のためには必要不可欠です。
	事前学修	世界史の理解にじっくり取り組んでみましょう。
	事後学修	歴史のいろいろの本をあわせて読みましょう。
5回	授業内容	古代法、中世法、近代法、現代法という法の歴史的流れを学び、その関係性を考えよう。
	事前学修	法がどのような流れをたどって、その成立から現代に至ったのか、自分なりにイメージしてみよう。
	事後学修	法の歴史の全体像を考えてみよう。
6回	授業内容	法はどのように成立し変化・発展していったのだろうか、法の出発点を考える。
	事前学修	法はどのように生まれたのか考えてみよう。
	事後学修	法の成立のイメージを理解する。
7回	授業内容	古代法の形成とその構造。古代法前史としてのハムラビ法典と古代法の完成としての古代ローマ法。
	事前学修	ハムラビ法典や古代ローマ法について調べてみよう。
	事後学修	古代法の構造と性格について理解しよう。
8回	授業内容	中世法の変容について、中世法はキリスト教の影響と資本主義経済の発展によって古代法から大きく変容していく。
	事前学修	キリスト教について学問的理解を深めよう。近代法と資本主義経済の関係を考えてみよう。
	事後学修	中世法から近代法への移行過程を考える。資本主義経済について考えよう。

◆授業計画

9回	授業内容	近代法の成立。近代法こそ今日の法体系の基本であり、その基本的理念は近代立憲主義の構造にある。
	事前学修	いろいろな憲法の本を読み、「憲法」に対する理解を深めよう。
	事後学修	近代法の基本構造である近代憲法と近代立憲主義について徹底して学んでみよう。
10回	授業内容	ヨーロッパの中世から近代にかけてアフリカ、アジア、中南米に対する植民地的支配による近代法のゆがみを考える。近代国際法の成立。
	事前学修	国際法の歴史を学ぼう
	事後学修	近代ヨーロッパのアフリカ、アジア、中南米に対する植民地支配について考えよう。
11回	授業内容	現代法の形成について一第一次・第二次世界大戦後、ヨーロッパの植民地支配は終わり、世界が独立した主権国家による国際協調主義による国際社会を目指す。
	事前学修	現代の国際法を学ぼう。
	事後学修	地球環境を大切にしたい”世界の在り方”を考えてみよう。
12回	授業内容	日本国憲法を学ぼう。日本国憲法は個人の人権保障と民主主義を本質的理とする近代憲法であるとともに、世界で初めて平和主義を明記した現代憲法である。
	事前学修	日本国憲法を理解しよう。基本書としては芦部著『憲法』（岩波書店）がおすすめです。
	事後学修	憲法は今日の法体系の根本原理となっています。じっくりと理解を深めて下さい。人類の未来を考えると、平和主義は大切です。
13回	授業内容	現代の科学技術の発展と法。今日の科学技術は人類の未来に大きな影響を与えると考えます。
	事前学修	AI の誕生、多様な生命の共存、地球環境、宇宙文明の開始など今後予想される劇的な変化と法との関係を考えよう。
	事後学修	サイエンステクノロジーについて学ぼう。
14回	授業内容	学生諸君の質問に答える
	事前学修	質問を考えて下さい。
	事後学修	質問についてノートを作成してください。
15回	授業内容	試験
	事前学修	試験準備
	事後学修	試験で感じたことを考えてみてください。

◆授業概要

五文型に基づき、英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになる。前期・後期の連続受講が望ましい。

◆学修到達目標

全体的に英文の構造が理解できるようになり、文の構造に基づいた正しい和訳ができるようになる。五文型の基本理解、自動詞と他動詞の区別、目的語と補語の区別、完了形の理解、仮定法の理解など基本文法が理解できるようになる。

◆授業方法

この昼間の英語の講義はオンデマンド授業で行う。前半は英語関連の動画を視聴する。英文法、発音、英会話、英米文化に関する動画を見る。後半は指定範囲の英文の音読、文法解説、構文解説、和訳などをテキストに即して学習する。課題の正解と解説は講義動画で行う。

◆履修条件

前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆成績評価基準

オンデマンド授業で出される課題は評価対象であるのですべて提出すること（40%）。最終レポート（60%）も必ず出すこと。オンデマンド課題は全部出すこと。なお最終レポートだけ出しても不可になります。

◆教科書

市販本 『Major Countries in the World～世界の主要国～』

小泉和弘編、鳳書房(Tel/Fax (03) 3483-3723) この本は講義で使う。

◆参考書

市販本 『ロイヤル英文法』 綿貫陽 旺文社 2000年 1,890円。この本は講義では使わない推薦英文法書。

◆授業相談先（連絡先）

fra3in5@yahoo.co.jp

◆授業計画

1回	授業内容	講義の進め方の説明。英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。
	事前学修	第5章の英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。
	事後学修	予習段階の和訳と講義の和訳を比べてどこが間違ったか確認する。課題がある場合は課題をやる。
2回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。現在進行形の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。現在進行形の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。現在進行形の復習。
3回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。過去進行形の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。過去進行形の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。過去進行形の復習。
4回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。仮定法の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。仮定法の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。仮定法の復習。
5回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。未来表現の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。未来表現の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。未来表現の復習。
6回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。知覚動詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。知覚動詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。知覚動詞の復習。

◆授業計画

7回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。使役動詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。使役動詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。使役動詞の復習。
8回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。受動態の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。受動態の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。受動態の復習。
9回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。冠詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。冠詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。冠詞の復習。
10回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。形容詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。形容詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。形容詞の復習。
11回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。副詞の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。副詞の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。副詞の復習。
12回	授業内容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。比較構文の確認。
	事前学修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。比較構文の予習。
	事後学修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。比較構文の復習。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。接続詞の確認。
	事 前 学 修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。接続詞の予習。
	事 後 学 修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。接続詞の復習。
14 回	授 業 内 容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。話法の確認。
	事 前 学 修	英文をノートに書き写す(8行ほど)。単語を調べて自分なりの和訳をする。話法の予習。
	事 後 学 修	構文・和訳の間違った箇所の確認。課題がある場合は課題をやる。話法の復習。
15 回	授 業 内 容	英語・英米文化関係映像視聴。第5章の英文構造と和訳の説明動画視聴。まとめ。最終課題。
	事 前 学 修	学習した構文・基本文法事項のまとめ。
	事 後 学 修	学んだ文法事項を参考書などで再確認する。最終課題をやる。

◆授業概要

本授業では文法を基礎から学びます。実践的な演習問題に取り組み、確実な文法・語法を身につけることで基礎力を養成し、英語 4 技能の中では特に「リーディング」の技能の向上を目指します。

【前期開講の昼間スクーリング「英語基礎」（和泉周子担当）と併せて受講することが望ましい】

◆学修到達目標

文法を理解し、その知識を運用して英文を和訳できるようになる。

◆授業方法

該当ユニットの文法事項を解説した後、A 基本問題から答えを確認していきます。その際、A 基本問題と B 発展問題は問題ごとにすべての英文を、C 長文問題は問題文の英文を 1 文ずつ(文章が短い場合には 2 文、あるいは複数文)音読し和訳していただきます(教科書に和訳が記載されている問題については、記載されている和訳と英文の音読をしていただきます)。文法事項及び長文問題の内容の理解を中心にして授業を行いますので、文法や語彙について答えていただいたり、文構造や解答の根拠を説明していただいたりすることがあります。事前学修(予習)を丁寧に行ってください。授業計画通りに進めますが、進度はあくまでの目安であり、授業計画通りの進捗で進まない場合があります

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

試験(70%)、授業への参加度(30%)。毎回出席することを前提とします。また、授業への参加度には教科書の予習状況が含まれます。

◆教科書

市販本 『English Primer 〈Revised Edition〉 (大学生の英語入門 〈改訂新版〉)』 佐藤哲三 / 愛甲ゆかり 南雲堂 2019 年 第 10 版
教科書は初回授業日までに入手してください。

◆参考書

なし

◆授業相談先(連絡先)

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス：授業の内容や進め方、成績評価基準等の説明と Unit 11 比較：文法解説
	事前学修	①シラバスを読む。 ②P. 46 の説明を読む。
	事後学修	P. 46 の学習内容をノート等にまとめ、復習する。
2回	授業内容	Unit 11 比較：演習問題
	事前学修	P. 47-49 の問題を解く。
	事後学修	P. 47-48 は間違えた問題を中心にして P. 46 の説明や P. 46 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P. 49 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P. 46 の説明や P. 46 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
3回	授業内容	Unit 15 受動態：文法解説と演習問題(A 基本問題・B 発展問題)
	事前学修	①P. 62 の説明を読む。 ②P. 63-64 の問題を解く。
	事後学修	① P. 62 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ②P. 63-64 は間違えた問題を中心にして P. 62 の説明や P. 62 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
4回	授業内容	Unit 15 受動態：演習問題(C 長文問題)と Unit 14 不定詞(I)・動名詞(I)：文法解説
	事前学修	①P. 65 の問題を解く。 ②P. 58 の説明を読む。
	事後学修	①P. 65 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P. 62 の説明や P. 62 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。 ②P. 58 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。
5回	授業内容	Unit 14 不定詞(I)・動名詞(I)：演習問題
	事前学修	P. 59-61 の問題を解く。
	事後学修	P. 59-60 は間違えた問題を中心にして P. 58 の説明や P. 58 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P. 61 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P. 58 の説明や P. 58 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
6回	授業内容	Unit 21 It の特別用法：文法解説と演習問題(A 基本問題・B 発展問題)
	事前学修	①P. 86 の説明を読む。 ②P. 87-88 の問題を解く。
	事後学修	① P. 86 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ②P. 87-88 は間違えた問題を中心にして P. 86 の説明や P. 86 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。

◆授業計画

7回	授業内容	Unit 22 分詞・動名詞(Ⅱ)：文法解説と演習問題(A 基本問題)
	事前学修	①P. 90 の説明を読む。 ②P. 91 の問題を解く。
	事後学修	① P. 90 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ②P. 91 は間違えた問題を中心にして P. 90 の説明や P. 90 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
8回	授業内容	Unit 22 分詞・動名詞(Ⅱ)：演習問題(B 発展問題・C 長文問題)
	事前学修	P. 92-93 の問題を解く。
	事後学修	P. 92 は間違えた問題を中心にして P. 90 の説明や P. 90 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P. 93 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P. 90 の説明や P. 90 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
9回	授業内容	Unit 20 不定詞(Ⅱ)：文法解説と演習問題(A 基本問題・B 発展問題)
	事前学修	①P. 82 の説明を読む。 ②P. 83-84 の問題を解く。
	事後学修	① P. 82 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ②P. 83-84 は間違えた問題を中心にして P. 82 の説明や P. 82 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
10回	授業内容	Unit 20 不定詞(Ⅱ)：演習問題(C 長文問題)と Unit 23 関係代名詞：文法解説
	事前学修	①P. 85 の問題を解く。 ②P. 94 の説明を読む。
	事後学修	①P. 85 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P. 82 の説明や P. 82 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。 ②P. 94 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。
11回	授業内容	Unit 23 関係代名詞：演習問題(A 基本問題・B 発展問題)
	事前学修	P. 95-96 の問題を解く。
	事後学修	間違えた問題を中心にして P. 94 の説明や P. 94 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
12回	授業内容	Unit 23 関係代名詞：演習問題(C 長文問題)
	事前学修	P. 97 の問題を解く。
	事後学修	問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P. 94 の説明や P. 94 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。
13回	授業内容	Unit 16 完了形：文法解説と演習問題(A 基本問題)
	事前学修	①P. 66 の説明を読む。 ②P. 67 の問題を解く。
	事後学修	① P. 66 は学習内容をノート等にまとめ、復習する。 ②P. 67 は間違えた問題を中心にして P. 66 の説明や P. 66 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。

◆授業計画

14 回	授 業 内 容	13回目までの授業内容の復習及び試験
	事 前 学 修	13回目までの学習内容を理解する。
	事 後 学 修	13回目までの学習内容を総復習する。
15 回	授 業 内 容	Unit 16 完了形：演習問題(B 発展問題・C 長文問題)
	事 前 学 修	P. 68-69 の問題を解く。
	事 後 学 修	P. 68 は間違えた問題を中心にして P. 66 の説明や P. 66 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。P. 69 は問題文の各英文の文法や文構造、語彙を確認しながら全体の内容を理解し、間違えた問題は問題文の該当箇所と照らし合わせたり、P. 66 の説明や P. 66 の学習内容をまとめたノート等を確認しながら復習する。

◆授業概要

指定テキストおよび配付資料を基盤とし以下を目的とする。1. ベイオウルフから 18 世紀前半に至る大きな流れの中で、伝統と作家個人の独自性および文学作品の独自性という観点から、個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英文学 I の全体像を把握し、英文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品が英文学史全体の中でどのような位置にあるかを理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しませる技能が取得できる。

◆学修到達目標

1. 受講学生が、『ベイオウルフ』から始まり 18 世紀前半に至る大きな流れの中で、伝統と作家個人の独自性および文学作品の独自性という観点から、個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英文学の全体像を把握し、英文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品が英文学史全体の中でどのような位置にあるかを理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しませる技能が取得できる。

◆授業方法

ターム 9 回目まではテキストに沿いながら広く英文学の歴史の基本的知識を解説する。10 回目からは必要に応じて資料を提示して、個々の英文学作品の具体的な内容を部分的に鑑賞する。基本的に、各授業の後半では、当該授業の主要テーマに関するリアクションペーパーの提出を毎回求める。また、その内容について後続の授業で、本人の許可を得た上で、一部公開し、疑問点などに具体的に応答するなど、フィードバックを行う場合がある。

◆履修条件

2020 年度夏季スクーリング「イギリス文学史 I」および 2021 年度前期昼間スクーリング「イギリス文学史 I」との積み重ねは不可

◆成績評価基準

授業参加意識の高さ（10%）、毎回の授業で行う記述式課題（40%）、受講学生自身による手書きノート（50%：コピー類は一切不可）の三点を基にして総合的に評価する。ノートは 15 回の授業が終了した直後に各自、通信教育部まで郵送することを義務づける。なお、手書きノートの合格水準は市販の B5 版 35 行のノートにびっちり書いて、合計 80 枚以上となることを予め心得ておくこと。

◆教科書

市販本 『映画で楽しむイギリスの歴史』 吉田徹夫他 金星堂 2400 円（税別）

資料配布（Classroom） 授業の進度や受講学生の興味の有り様に従って、適宜、授業担当教師が適切だと判断した資料を提示する。

フリーウェブサイト「野呂有子の研究ウェブサイト」

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

E-mail: yuko.kanakubo.noro@gmail.com 宛てに送付されたメールには、授業内容等についての質問に限り応答する。教科書は授業時に指導教師と受講学生が一緒に読みながら授業を進める必要上、また、内容のかなり多い部分をノートに手書きで転記してもらので必ず購入しておくこと。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	授業の進め方、オリエンテーション、英文学と英文学史の意義を説明し、その背景を解説する。導入を行う。たとえば、『アーサー王の死』において重要な役割を果たす魔剣エクスカリバーが、『ハリー・ポッター』作品に継承されていること、『楽園の喪失』最終場面のアダムとイブの姿が多くの恋愛作品や映画に継承されていることを明らかにして、「英文学史1」で扱われる文学作品が現代のわれわれにいかにか大きな影響を与えているかを理解してもらおう。
	事 前 学 修	教科書の最初から 136 頁まで、さらに 243 から 247 頁までを概観し、全体の流れと構成を把握しておくこと
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。
2 回	授 業 内 容	「七王国時代」（教科書 20 から 27 頁）を一緒に読みながら、文学作品としての『ベオウルフ』と七王国時代について学ぶ。
	事 前 学 修	「七王国時代」（教科書 20 から 27 頁）を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

3回	授業内容	「アーサー王」(教科書 28 から 32 頁) を一緒に読みながら、トマス・マローリー作『アーサー王の死』について学ぶ。さらに、「バラ戦争—王権をめぐる戦い」(教科書 70 から 74 頁) を一緒に読みながら中世後期の、バラ戦争の中で誕生した理由について考察し、理解する。
	事前学修	「アーサー王」(教科書 28 から 32 頁) と「バラ戦争—王権をめぐる戦い」(教科書 70 から 74 頁) を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授業内容	教科書 33 頁の「中世前期」の年表を確認しながら、「ヘンリー二世」(教科書 35 から 50 頁) と「リチャード二世」(教科書 55 から 58 頁) を一緒に読みながら、1066 年のノルマン・コンクwestとそれに続く、大きな英語の変容について理解する。その上で、ジェフリー・チョーサー作『カンタベリー物語』の歴史的、社会的、言語学的、市民的意義について考察し、理解する。
	事前学修	教科書 33 頁の「中世前期」の年表をノートに写すこと。さらに「ヘンリー二世」(教科書 35 から 50 頁) と「リチャード二世」(教科書 55 から 58 頁) を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授業内容	教科書 59 頁の「中世後期」の年表を確認しながら、「ヘンリー五世」(教科書 61 から 65 頁) を一緒に読む。さらに、教科書 75 から 76 頁の「テューダー王朝」の年表を確認しながら、「ヘンリー八世」(教科書 77 から 80 頁)、「トマス・モア」(教科書 81 から 85 頁) を一緒に読む。その上で、ヘンリー八世が樹立した「英国国教会」の意味について宗教的、政治的、文学的意義について考察し、理解する。
	事前学修	教科書 59 頁の「中世後期」の年表と、教科書 75 から 76 頁の「テューダー王朝」の年表をノートに写すこと。さらに「ヘンリー五世」(教科書 61 から 65 頁) と「ヘンリー八世」(教科書 77 から 80 頁)、「トマス・モア」(教科書 81 から 85 頁) を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事後学修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

6回	授 業 内 容	「ジェーン・グレイ」(教科書 86 から 89 頁)、「エリザベス女王」(教科書 90 から 96 頁)、「シェイクスピア」(教科書 97 から 102 頁)、「メアリ・スチュアート」(教科書 103 から 106 頁)を一緒に読む。その上で、文学者としてのエリザベス女王と英国が世界に誇る劇作家ウィリアム・シェイクスピアについて考察し、理解する。英国で公式には、ウィクリフより行われ、『欽定英訳聖書』において、一定の決着を見る、聖書の英語翻訳の歴史について整理し、理解する。
	事 前 学 修	「ジェーン・グレイ」(教科書 86 から 89 頁)、「エリザベス女王」(教科書 90 から 96 頁)、「シェイクスピア」(教科書 97 から 102 頁)、「メアリ・スチュアート」(教科書 103 から 106 頁)を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
7回	授 業 内 容	教科書 107 頁の「17 世紀」の年表を確認しながら、「植民地」(教科書 109 から 112 頁)、「ピューリタン革命」(教科書 113 から 117 頁)、「チャールズ 2 世」(教科書 118 から 122 頁)を一緒に読む。その上で、これらの時代を代表する文学作品とその特徴について概観し、理解する。英国の複雑な宗教事情、すなわちカトリック→英国国教会→カトリック→英国国教会という大まかな図式があることを理解する。そして、その原因がヘンリー八世の離婚問題に端を発していることを理解し、迫害と宗教的闘争の中で、スペンサー、シェイクスピア、ミルトンといった偉大な文学者が誕生してくるようになった経緯を把握する。
	事 前 学 修	教科書 107 頁の「17 世紀」の年表をノートに写すこと。さらに、「植民地」(教科書 109 から 112 頁)、「ピューリタン革命」(教科書 113 から 117 頁)、「チャールズ 2 世」(教科書 118 から 122 頁)を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

8回	授 業 内 容	「貴族の生活」(教科書 123 から 128 頁)を読み、教科書 129 頁の「18 世紀」の年表を確認しながら、「英国と植民地」(教科書 131 から 136 頁)までを読む。その上で、市民階層の教育、小説の誕生、挿絵文化の発展について考察し、理解する。
	事 前 学 修	「貴族の生活」(教科書 123 から 128 頁)を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。教科書 129 頁の「18 世紀」の年表をノートに転記しておくこと。「英国と植民地」(教科書 131 から 136 頁)までを読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授 業 内 容	授業後半からは、前半で理解した英国の歴史を背景にして、より一層専門的に英文学の内容について考察していく。第 9 回では、エリザベス女王の統治のもとで、優れた作家が台頭してきた事実を確認する。また、国王が女性であったことから、文学作品にフェミニズム的要素が多く認められること、さらに、すぐれた女性の文学者たちが舞台の表に登場した事実についても考察し、理解する。
	事 前 学 修	配付資料を読み、この範囲で必要と判断される箇所をすべてノートに転記しておくこと。英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授 業 内 容	授業英詩の土台となるソネット(14 行詩)について学ぶ。サー・トマス・ワイアットやサレー伯、エリザベス女王、シェイクピア作のソネットも鑑賞する。さらにその基底をなす弱強五歩脚(アイアンビク・ペンタミター)のリズムを習得する。これが現在に至る、英語の抑揚の基本となるからである。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	弱強五歩脚のリズムを踏まえて、シェイクスピアの劇作品について学ぶ。悲劇と喜劇、歴史劇についてそれぞれ一部を取り上げて鑑賞する。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
12 回	授 業 内 容	エリザベス女王亡き後の英国の政治的風土について、ジェームズ一世、チャールズ一世に焦点を当てて考察する。この風土からジャコビアンドラマと呼ばれる退廃的演劇が台頭し、人心を退廃させたこと、それとは対照的に、宮廷仮面劇が隆盛を極め、国庫を食いつぶし、やがて両者が相まってイングランド革命へと繋がっていくことを理解する。そして、ここでジョン・ミルトン作の仮面劇が重要なメルクマールとなることを確認する。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
13 回	授 業 内 容	英国が世界に誇る、革命叙事詩人ジョン・ミルトンとその作品『楽園の喪失』を中心にイングランド革命と英国ピューリタニズムの本質に迫る。ここが野呂の専門であり、本領となるので、他では決して得られない授業内容が提供されるものと理解してほしい。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
14 回	授 業 内 容	英国が世界に誇る、革命叙事詩人ジョン・ミルトンと、彼が当時の国際共通語ラテン語で執筆した『イングランド国民のための弁護論』を中心にイングランド革命と英国ピューリタニズムの本質に迫る。ここが野呂の専門であり、本領となるので、他では決して得られない授業内容が提供されるものと理解してほしい。
	事 前 学 修	事前配付資料の指定箇所をノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。この作業を通して、自分が授業で学ぶ内容について前もってある程度想定しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

15 回	授 業 内 容	試験および内容説明
	事 前 学 修	これまでの授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。教科書および提示された資料をチェックし直して、授業内容を確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	試験内容およびその説明を確認・整理して、ノートに付け加えて、授業終了直後に通信教育部に郵送できるように準備しておくこと。

◆授業概要

発声器官の説明から始めて、子音については細かい音声現象の説明、日本語と英語の違い、英米の違いの理解の徹底及び発音練習を行います。プロソディでは音声変化（脱落現象、連結現象、同化現象）、イントネーションについて説明し、総合的な発音練習を行います。発音試験に備え、授業時に各自発音発表をしてもらいます。また、毎週理論に関する小テストを課して習熟度の確認を行います。テキストには専門用語が多数出てくるので、前もって読んでおいてください。

◆学修到達目標

1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解することができる。
2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を実現することができる。

◆授業方法

動画授業となります。前半は音声現象の理論的説明を行い、後半は発音練習、リスニング演習を行います。理論内容のまとめとして4回、練習問題を配布し、学期末に提出していただきます。最終授業では発音テストを実施します。出席の確認として、毎回リアクションペーパーの提出を要求します。一斉連絡、動画配信、リアクションペーパーの提出は、Google Classroomを使用します。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語音声学 B』（森晴代）との積み重ね不可

◆成績評価基準

リアクションペーパー(30%)、発音テスト(20%)、Practiceプリント(20%)、最終レポート(30%)

◆教科書

資料配布 (Classroom) テキスト用資料、発音練習プリント、Phonetic Practiceプリントを Google Classroom 上で配布

◆参考書

市販本 『英語の音声を科学する』 川越いつえ著 大修館書店

市販本 『基礎から学ぶ音声学講義』 加藤重広・安藤智子著 研究者

◆授業相談先（連絡先）

Google Classroom 上にて行います。

◆授業計画

1回	授業内容	子音の分類説明
	事前学修	音声学の学問領域について各自調べておくこと。母音、発声器官の名称、発音記号が一通り書けるか確認しておくこと
	事後学修	英語の子音の分類基準を覚え、子音の発音記号を書けるようにしておくこと
2回	授業内容	閉鎖音の説明及び発音練習
	事前学修	閉鎖音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	閉鎖音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
3回	授業内容	摩擦音の説明及び発音練習
	事前学修	摩擦音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	摩擦音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
4回	授業内容	破擦音の説明及び発音練習
	事前学修	破擦音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	破擦音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
5回	授業内容	鼻音の説明及び発音練習
	事前学修	鼻音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	鼻音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
6回	授業内容	流音、半母音の説明及び発音練習
	事前学修	流音、半母音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	流音、半母音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
7回	授業内容	子音連続の発音練習
	事前学修	子音連続について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	英語の子音連続の発音練習をしておくこと、母語干渉を理解しておくこと
8回	授業内容	子音の演習問題配布及び解答(Phonetic Practice 5を配布)
	事前学修	英語と日本語の子音の違いを理解しておくこと
	事後学修	解答したプリントの復習をしておくこと
9回	授業内容	音声変化：脱落現象の説明及びリスニング演習(Phonetic Practice 6を配布)
	事前学修	脱落について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	脱落現象を理解できたか、リスニング練習と発音練習をしておくこと
10回	授業内容	音声変化：連結現象の説明及びリスニング演習(Phonetic Practice 7を配布)
	事前学修	連結について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	連結現象を理解できたか、リスニング練習と発音練習をしておくこと

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	音声変化：同化現象の説明及びリスニング演習 (Phonetic Practice 8を配布)
	事 前 学 修	同化について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事 後 学 修	同化現象を理解できたか、リスニング練習と発音練習をしておくこと
12 回	授 業 内 容	イントネーションの説明及び文の発音練習
	事 前 学 修	文強勢の復習とイントネーションの箇所を読んでおくこと
	事 後 学 修	英語のイントネーションを理解し、発音練習につなげること
13 回	授 業 内 容	イントネーションの機能の説明と発音練習
	事 前 学 修	イントネーションの構造を理解しておくこと
	事 後 学 修	イントネーションの機能を理解し、発音練習をしておくこと
14 回	授 業 内 容	これまでの振り返り 発音・リスニング演習 Phonetic Practice のプリント提出
	事 前 学 修	Phonetic Practice を仕上げておくこと
	事 後 学 修	Phonetic Practice の難しいポイントを理解しておくこと
15 回	授 業 内 容	発音試験及びレポート提出 理解度確認
	事 前 学 修	発音試験やレポート提出に備え、総復習をしておくこと
	事 後 学 修	英語音声学における諸事情を理解できたか復習すること

◆授業概要

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化や教育水準など国際社会において最大級の影響力を持ち続けている。一方で環境問題や不法移民の流入、低所得者層の貧困問題などを抱えた国でもある。本講義では、世界をリードするアメリカ経済の歴史と現状について、時代を画期する政策や出来事、事件を通じて解き明かし、グローバル経済において果たしたアメリカの役割について理解を深める。

◆学修到達目標

アメリカ経済史にあらわれた諸問題の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて、現代アメリカ経済が抱える諸問題の内容やその歴史的な背景を読み解く力を身につけ、グローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

◆授業方法

講義は、Zoom を用いたオンデマンド型授業で実施する。講義当日までに講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題（リアクションペーパー）を提出する。質問やコメントがあれば翌週以降に動画の中で回答する。講義では適宜、参考文献や動画等を紹介するので、提出課題の作成の際には利用すること。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

定期試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求めることもある。毎回出席することを前提として評価する。

授業態度、提出課題（40%） 定期試験（60%）

◆教科書

『入門アメリカ経済 Q&A100』坂出健，秋元英一，加藤一誠編 中央経済社、2019年。

◆参考書

『現代アメリカ経済史—「問題大国」の出現』谷口明文、須藤功編 有斐閣、2017年。

『現代アメリカ経済論』地主敏樹，村山裕三，加藤一誠 ミネルヴァ書房，2012年。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	イントロダクション
	事前学修	シラバスをよく読んで授業内容の流れを確認しておく。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
2回	授業内容	アメリカ経済を見る視点
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
3回	授業内容	20世紀転換期のアメリカ
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。

4回	授業内容	グレート・ファミリーと労働者
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
5回	授業内容	第一次世界大戦と1920年代の光と影
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
6回	授業内容	大恐慌とニューディール
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
7回	授業内容	第二次世界大戦とアメリカの世紀
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
8回	授業内容	米ソ冷戦と開発援助
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
9回	授業内容	保守の時代とレーガノミクス
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
10回	授業内容	ニューエコノミーとIT革命
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
11回	授業内容	バブルと世界金融危機
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
12回	授業内容	多極化する世界
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
13回	授業内容	トランプ現象とアメリカ経済
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
14回	授業内容	米中対立と国際経済の針路
	事前学修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事後学修	レジュメを利用し講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
15回	授業内容	試験と解説
	事前学修	これまでの各内容のポイントをまとめて復習しておく。
	事後学修	課題の意図を理解して論理的な記述ができていたかどうかを確認する。

◆授業概要

日本の代表的な絵画芸術である絵巻物を通して日本の歴史を学ぶ。具体的には『一遍聖絵』・『信貴山縁起絵巻』・『百鬼夜行絵巻』の三つの絵巻物を題材としたい。

◆学修到達目標

過去の歴史を知るためのものを「史料」というが、これは基本的に文献などの文字に頼ったものであった。しかしそれだけでは歴史の復元は不十分である。そこで考古学や民俗学の成果も利用されてきた。ここではそのようにして文献以外の「史料」として注目された絵画のうち、絵巻物を取り上げることで、文献だけに頼らない新しい歴史学のあり方を理解できるようになる。

◆授業方法

授業は講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し、受講生の理解の一助とする。またリアクションペーパーを提出してもら場合もある。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『歴史学 C』（渡邊浩史）との積み重ね不可

◆成績評価基準

平常点（リアクションペーパーなど）20%、試験 80%

◆教科書

適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	はじめに なぜ絵画史料をあつかうのか
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
2回	授業内容	絵巻物について
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
3回	授業内容	『一遍聖絵』とは
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
4回	授業内容	『一遍聖絵』四天王寺の門前
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
5回	授業内容	『一遍聖絵』高野山
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
6回	授業内容	『一遍聖絵』熊野三山
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
7回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』とは
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
8回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』山崎長者の巻
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
9回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』山崎長者の巻
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
10回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』延喜加持の巻
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
11回	授業内容	『信貴山縁起絵巻』尼公の巻
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
12回	授業内容	『百鬼夜行絵巻』とは
	事前学修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	『百鬼夜行絵巻』 鬼が現れる
	事 前 学 修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
14 回	授 業 内 容	『百鬼夜行絵巻』 鳥兜
	事 前 学 修	授業中に指示した参考文献に目を通しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
15 回	授 業 内 容	まとめと試験
	事 前 学 修	これまでの授業内容をまとめておくこと
	事 後 学 修	授業と試験の内容を自分でまとめること

◆授業概要

法学の基本的理解を深める。法の歴史を学びその全体像をイメージできるようにする。

◆学修到達目標

基本的な法学の学問的理解を確立する。現代のグローバリズムや科学技術の変化の中で法の果たす役割を考える。

◆授業方法

オンデマンドで授業の動画を配信する。質問は第14回目の動画で回答する。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『法学A』（武田茂樹）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

試験（100%）

◆教科書

なし

◆参考書

通材 『法学』通信教育教材

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上で行う。

◆授業計画

1回	授業内容	学問の意義と学び方について考えます。学問の本質的な役割は真実を探究することです。
	事前学修	大学のカリキュラムの案内書を見て、学問の全体像を見て自分がどのように学問にチャレンジするのか考えて下さい。
	事後学修	自分の今までの学問の取り組み方と今後の方針を比較してみてください。
2回	授業内容	法学の学び方について考えます。多様な学問のジャンルがある中で、法学をどのように学ぶかを考えます。
	事前学修	現代世界の急激な変化の中で、学問をどのように学ぶべきか、とくに法学はどのように学ばれるべきかをかんがえます。
	事後学修	現代世界のグローバル化を理解してください。そしてその法および法学に対する影響をじっくりと考えて下さい。
3回	授業内容	“法とは何か”を具体的に考えます。まず、その始めは法の学問的定義からです。
	事前学修	“法とは何か”という自分のイメージを考えて、ノートして見て下さい。
	事後学修	自分の方に対するイメージと法の学問的定義を比較して見て下さい。
4回	授業内容	法の歴史を考えます。学問に置いて歴史的認識は非常に重要であり、とくに社会科学である法学の本質的理解のためには必要不可欠です。
	事前学修	世界史の理解にじっくり取り組んでみましょう。
	事後学修	歴史のいろいろの本をあわせて読みましょう。
5回	授業内容	古代法、中世法、近代法、現代法という法の歴史的流れを学び、その関係性を考えよう。
	事前学修	法がどのような流れをたどって、その成立から現代に至ったのか、自分なりにイメージしてみよう。
	事後学修	法の歴史の全体像を考えてみよう。
6回	授業内容	法はどのように成立し変化・発展していったのだろうか、法の出発点を考える。
	事前学修	法はどのように生まれたのか考えてみよう。
	事後学修	法の成立のイメージを理解する。
7回	授業内容	古代法の形成とその構造。古代法前史としてのハムラビ法典と古代法の完成としての古代ローマ法。
	事前学修	ハムラビ法典や古代ローマ法について調べてみよう。
	事後学修	古代法の構造と性格について理解しよう。
8回	授業内容	中世法の変容について、中世法はキリスト教の影響と資本主義経済の発展によって古代法から大きく変容していく。
	事前学修	キリスト教について学問的理解を深めよう。近代法と資本主義経済の関係を考えてみよう。
	事後学修	中世法から近代法への移行過程を考える。資本主義経済について考えよう。

◆授業計画

9回	授業内容	近代法の成立。近代法こそ今日の法体系の基本であり、その基本的理念は近代立憲主義の構造にある。
	事前学修	いろいろな憲法の本を読み、「憲法」に対する理解を深めよう。
	事後学修	近代法の基本構造である近代憲法と近代立憲主義について徹底して学んでみよう。
10回	授業内容	ヨーロッパの中世から近代にかけてアフリカ、アジア、中南米に対する植民地的支配による近代法のゆがみを考える。近代国際法の成立。
	事前学修	国際法の歴史を学ぼう
	事後学修	近代ヨーロッパのアフリカ、アジア、中南米に対する植民地支配について考えよう。
11回	授業内容	現代法の形成について一第一次・第二次世界大戦後、ヨーロッパの植民地支配は終わり、世界が独立した主権国家による国際協調主義による国際社会を目指す。
	事前学修	現代の国際法を学ぼう。
	事後学修	地球環境を大切にしたい”世界の在り方”を考えてみよう。
12回	授業内容	日本国憲法を学ぼう。日本国憲法は個人の人権保障と民主主義を本質的理とする近代憲法であるとともに、世界で初めて平和主義を明記した現代憲法である。
	事前学修	日本国憲法を理解しよう。基本書としては芦部著『憲法』（岩波書店）がおすすめです。
	事後学修	憲法は今日の法体系の根本原理となっています。じっくりと理解を深めて下さい。人類の未来を考えると、平和主義は大切です。
13回	授業内容	現代の科学技術の発展と法。今日の科学技術は人類の未来に大きな影響を与えると考えます。
	事前学修	AI の誕生、多様な生命の共存、地球環境、宇宙文明の開始など今後予想される劇的な変化と法との関係を考えよう。
	事後学修	サイエンステクノロジーについて学ぼう。
14回	授業内容	学生諸君の質問に答える
	事前学修	質問を考えて下さい。
	事後学修	質問についてノートを作成してください。
15回	授業内容	試験
	事前学修	試験準備
	事後学修	試験で感じたことを考えてみてください。

◆授業概要

発声器官の説明から始めて、子音については細かい音声現象の説明、日本語と英語の違い、英米の違いの理解の徹底及び発音練習を行います。プロソディでは音声変化（脱落現象、連結現象、同化現象）、イントネーションについて説明し、総合的な発音練習を行います。発音試験に備え、授業時に各自発音発表をしてもらいます。また、毎週理論に関する小テストを課して習熟度の確認を行います。テキストには専門用語が多数出てくるので、前もって読んでおいてください。

◆学修到達目標

1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解することができる。
2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を実現することができる。

◆授業方法

動画授業となります。前半は音声現象の理論的説明を行い、後半は発音練習、リスニング演習を行います。理論内容のまとめとして4回、練習問題を配布し、学期末に提出していただきます。最終授業では発音テストを実施します。出席の確認として、毎回リアクションペーパーの提出を要求します。一斉連絡、動画配信、リアクションペーパーの提出は、Google Classroomを使用します。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語音声学』（森晴代）との積み重ね不可

◆成績評価基準

リアクションペーパー(30%)、発音テスト(20%)、Practiceプリント(20%)、最終レポート(30%)

◆教科書

資料配布 (Classroom) テキスト用資料、発音練習プリント、Phonetic Practiceプリントを Google Classroom 上で配布

◆参考書

市販本 『英語の音声を科学する』 川越いつえ著 大修館書店

市販本 『基礎から学ぶ音声学講義』 加藤重広・安藤智子著 研究者

◆授業相談先（連絡先）

Google Classroom 上にて行います。

◆授業計画

1回	授業内容	子音の分類説明
	事前学修	音声学の学問領域について各自調べておくこと。母音、発声器官の名称、発音記号が一通り書けるか確認しておくこと
	事後学修	英語の子音の分類基準を覚え、子音の発音記号を書けるようにしておくこと
2回	授業内容	閉鎖音の説明及び発音練習
	事前学修	閉鎖音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	閉鎖音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
3回	授業内容	摩擦音の説明及び発音練習
	事前学修	摩擦音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	摩擦音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
4回	授業内容	破擦音の説明及び発音練習
	事前学修	破擦音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	破擦音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
5回	授業内容	鼻音の説明及び発音練習
	事前学修	鼻音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	鼻音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
6回	授業内容	流音、半母音の説明及び発音練習
	事前学修	流音、半母音について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	流音、半母音の理論、日本語との違いの理解及び発音練習をしておくこと
7回	授業内容	子音連続の発音練習
	事前学修	子音連続について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	英語の子音連続の発音練習をしておくこと、母語干渉を理解しておくこと
8回	授業内容	子音の演習問題配布及び解答(Phonetic Practice 5を配布)
	事前学修	英語と日本語の子音の違いを理解しておくこと
	事後学修	解答したプリントの復習をしておくこと
9回	授業内容	音声変化：脱落現象の説明及びリスニング演習(Phonetic Practice 6を配布)
	事前学修	脱落について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	脱落現象を理解できたか、リスニング練習と発音練習をしておくこと
10回	授業内容	音声変化：連結現象の説明及びリスニング演習(Phonetic Practice 7を配布)
	事前学修	連結について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事後学修	連結現象を理解できたか、リスニング練習と発音練習をしておくこと

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	音声変化：同化現象の説明及びリスニング演習 (Phonetic Practice 8を配布)
	事 前 学 修	同化について、配布されたプリントを読んでおくこと
	事 後 学 修	同化現象を理解できたか、リスニング練習と発音練習をしておくこと
12 回	授 業 内 容	イントネーションの説明及び文の発音練習
	事 前 学 修	文強勢の復習とイントネーションの箇所を読んでおくこと
	事 後 学 修	英語のイントネーションを理解し、発音練習につなげること
13 回	授 業 内 容	イントネーションの機能の説明と発音練習
	事 前 学 修	イントネーションの構造を理解しておくこと
	事 後 学 修	イントネーションの機能を理解し、発音練習をしておくこと
14 回	授 業 内 容	これまでの振り返り 発音・リスニング演習 Phonetic Practice のプリント提出
	事 前 学 修	Phonetic Practice を仕上げておくこと
	事 後 学 修	Phonetic Practice の難しいポイントを理解しておくこと
15 回	授 業 内 容	発音試験及びレポート提出 理解度確認
	事 前 学 修	発音試験やレポート提出に備え、総復習をしておくこと
	事 後 学 修	英語音声学における諸事情を理解できたか復習すること

◆授業概要

「鎌倉時代の浄土教」をテーマに、前期に引き続き法然の思想が与えた思想的影響を検討します。後期は法然を批判した明恵の思想と、法然の弟子の証空と親鸞の思想を扱います。華嚴宗の明恵はもちろん、法然の弟子でありながら、証空も親鸞も法然と異なる独自の考え方を展開しています。そしてそこには彼らの「修行」観、「仏教」観、さらには「宗教」観や「人間」観までもが反映され、現代の宗教観や人間観にまで通ずる問題をはらんでいます。後期はこれらの検討を通して、彼らが何を問題にし、どう解決しようとしたかということを見ていきたいと考えています。

◆学修到達目標

1. 鎌倉時代の仏教者の思想を学ぶことで、当時の思想的営為についての理解を深めるとともに、人間の思想や日本文化に対するより広い視野を獲得することができる。
2. 浄土信仰について学ぶことで、現代日本の宗教に対する一つの視点を獲得することができる。
3. 日本文化・日本の宗教・人間観などに対する自己の哲学的・思想的問題意識をより明らかにし、それについて主体的に考察することを目標とする。

◆授業方法

プリントとして配布する原典や史料を中心に、講義形式で行います。プリントには読みと現代語訳を付けるので、古文・漢文の読解に自信がなくても構いません。前期の授業を受けていなくても構いません。法然とは違う三者三様の思想なので、後期から受けても大丈夫です。また話の内容が多少前後することや、授業計画の回数通りに進まないことがあります。質問については随時対応いたしますが、返信が遅れることがありますので、ご承知おきください。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

中間レポート（30%）と最終試験（70%）の成績を中心に、その他授業への取り組みなどを勘案して、総合的に評価します。

◆教科書

授業時（動画配信時）に配布。授業内容に合わせて、何回かに分けて配布する予定。

◆参考書

授業中、適宜紹介します。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	法然の専修念仏について 前期で扱った内容の概略を説明する
	事前学修	浄土教、法然の思想について調べておく。
	事後学修	授業内容の確認と疑問点などの整理。また鎌倉時代がどのような時代か（どんな人物がいて、何が起こったか）、ある程度学んでおく。
2回	授業内容	明恵の思想① 明恵の生涯と著作の概要
	事前学修	明恵について、また華嚴宗や東大寺について調べておく。
	事後学修	授業内容の復習と確認。また引き続き当時の時代背景について学んでおく。
3回	授業内容	明恵の思想② 『摧邪輪』の専修念仏批判……菩提心理解を中心に
	事前学修	法然の専修念仏の考え方について復習と確認。
	事後学修	授業内容の復習と疑問点の整理。特に両者の争点についての理解を深める。
4回	授業内容	明恵の思想③ 引き続き『摧邪輪』の専修念仏批判をと明恵の菩提心理解
	事前学修	分からない仏教用語などについて調べておく。
	事後学修	授業内容の復習と疑問点の整理。特に両者の見解の相違点について考えてみる。
5回	授業内容	明恵の思想④ 明恵の菩提心理解と修行論
	事前学修	前回までの授業内容の復習。時代背景についておぼつかない所があれば確認しておく。
	事後学修	授業内容の復習と問題点の整理。特に仏教用語についてはその意味を確認する。
6回	授業内容	明恵の思想⑤ 禅との関係、土砂加持について
	事前学修	鎌倉時代の禅宗、特に栄西についてある程度調べておく。
	事後学修	明恵の思想について、自分なりに理解した所をまとめてみる。
7回	授業内容	証空の思想① 証空の生涯と著作の概要
	事前学修	法然の思想について復習しておく。
	事後学修	授業内容の復習。
8回	授業内容	証空の思想② 証空の念仏観について
	事前学修	浄土三部経、念仏について調べておく。
	事後学修	授業内容の復習と問題点の整理。

9回	授業内容	証空の思想③ひきつづき証空の念仏観について
	事前学修	前回までの内容の確認と疑問点の整理。
	事後学修	授業内容の復習と問題点の整理。証空の問題意識が何であったのか、考えてみる。
10回	授業内容	証空の思想④
	事前学修	前回までの内容の確認と疑問点の整理。授業範囲のプリントに目を通しておく。
	事後学修	授業内容の復習と問題点の整理。特に法然との違いについて考えてみる。
11回	授業内容	親鸞の思想① 親鸞の生涯と著作の概要
	事前学修	親鸞とその関係者についてある程度調べておく。
	事後学修	授業内容の復習と問題点の整理。
12回	授業内容	親鸞の思想② 『歎異抄』に見られる親鸞の思想について
	事前学修	『歎異抄』の内容について調べておく。
	事後学修	授業内容の復習と問題点の整理。悪人正機について自分の考えをまとめてみる。
13回	授業内容	親鸞の思想③ 親鸞の時代観、阿弥陀仏観について
	事前学修	仏の三身について調べておく。
	事後学修	授業内容の復習と問題点の整理。親鸞の世界観について自分なりに考えてみる。
14回	授業内容	親鸞の思想④ ひきつづき阿弥陀仏観について
	事前学修	分からない仏教用語があれば調べておく。
	事後学修	授業内容の復習と問題点の整理。「阿弥陀のはからひ」について考えてみる。
15回	授業内容	親鸞の思想⑤ 親鸞の「念仏」観について
	事前学修	ここまでの内容の確認と疑問点の整理。
	事後学修	授業内容を整理し、最終課題に向けての準備をする。

◆授業概要

本科目では、前期で学んだ東洋の地理的特徴を踏まえながら、①「外国史（東洋史）」のうち台湾史の学修の意義、②古代から現代に至る台湾史の史実や解釈へのアプローチ、③資料を使った「外国史（東洋史）」のうち台湾史の学修と研究方法の知識の習得を通じて、「外国史（東洋史）」研究のうち台湾史に対する知識や態度を身につけます。

◆学修到達目標

台湾は現在、“親日”であると言われています。しかしながら、日清戦争から第二次世界大戦終了まで約 50 年間、台湾は日本の植民地支配を受けてきました。私たちは台湾人が学んでいる台湾の歴史を基礎に、15 世紀前後から現代までの歴史を学びます。以上を通じて、全 15 回の授業終了時には、身近な地域である台湾について、台湾人が”親日”と言われる理由の一端を理解することができるようになります。

◆授業方法

Google Classroom を使った授業をおこなう。毎回、動画を閲覧してから、学んだことを振り返る「小テスト」をおこなう。「小テスト」を提出することで出欠確認を兼ね、「小テスト」提出後の答え合わせでフィードバックをおこなう。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

最終レポート（50%）・「小テスト」での理解度（50%）。毎回出席することを前提として総合的に評価します。

◆教科書

毎回、Google Classroom にて資料を配付します。

◆参考書

市販本 『台湾を知るための 60 章』 赤松美和子・若松大祐 [編]、明石書店、2016 年（2,000 円＋税）【購入義務はありません】

◆授業相談先（連絡先）

watanuki.tetsuro2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方・評価方法など）、導入
	事前学修	シラバスをよく読んでおくこと
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
2回	授業内容	台湾を学ぶために
	事前学修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
3回	授業内容	原住民とオランダ支配
	事前学修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
4回	授業内容	鄭氏政権の台湾支配
	事前学修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
5回	授業内容	清朝による台湾領有
	事前学修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
6回	授業内容	日本による台湾支配
	事前学修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
7回	授業内容	日本植民地下の近代化
	事前学修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
8回	授業内容	日本による皇民化政策
	事前学修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
9回	授業内容	日本の敗戦と国民党による支配
	事前学修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
10回	授業内容	二・二八事件
	事前学修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事後学修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	国民党政権の台湾移転
	事 前 学 修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事 後 学 修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
12 回	授 業 内 容	冷戦構造と経済成長
	事 前 学 修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事 後 学 修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
13 回	授 業 内 容	台湾の民主化
	事 前 学 修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事 後 学 修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
14 回	授 業 内 容	“两岸関係”
	事 前 学 修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事 後 学 修	授業の内容をノートなどに整理しておくこと
15 回	授 業 内 容	まとめ、試験
	事 前 学 修	授業内容の用語について手元のスマホやパソコンなどで調べておく
	事 後 学 修	自分がまとめた内容を再確認しておくこと

◆授業概要

考古学は過去の人びとが製作し、使用したものを材料に、その当時の人びとの社会・文化・交流・集団組織など解明していく学問である。そのため文献の有無にかかわらず、モノ資料が存在すれば成立する学問であり、発掘調査によって研究材料を得るとことに特徴がある。こうした特徴を持つ日本考古学研究のこれまでの成果の概要を、古墳時代から江戸時代までを対象に紹介する。また、国内の発掘調査の経験をもとに、時代ごとの遺跡の特色も解説していく。

◆学修到達目標

(1) 日本における考古学の方法とその研究理論を学ぶことによって、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世の考古学研究が、これまでどのように研究されてきたか。これらの遺跡から何が導き出されてきたのか。遺跡の発掘調査から、各時代の社会をどのように推測しているのか、について、調査の具体的な事例を通して、その概要を理解・説明することができる。(2) 学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、人文学・考古学の役割を解説することができる(3) 現代社会における人文学・考古学の役割を説明することができる。

◆授業方法

毎回 Google classroom にアップするプリントと動画をもとに、説明を加えて必要な箇所をノートに取らせる授業形態をとる。授業内容に関する質問はメールを通してやり取りを行う。また、数回分の授業をまとめたテストの提出を最低2回行う。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

数回分の授業内容をまとめたテストを2回行う(それぞれ50%)。また、すべての回を視聴したことを前提に評価する。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 各回の授業内容に見合った資料を、動画とともに Google classroom にアップする。

◆参考書

なし

◆授業相談先(連絡先)

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業のテーマや到達目標及び授業の方法について説明する）
	事前学修	【事前学習】第1回目のプリントを事前に読んで、内容を把握するとともに、考古学について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
2回	授業内容	古墳時代以降の考古学研究方法（古墳時代以降に増加する文献・紀年銘・絵画などを援用することで、年代や使用法が把握できることを理解する）
	事前学修	【事前学習】第2回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
3回	授業内容	古墳時代像（古墳時代の研究の歴史と、そこから得られた古墳時代像について理解する）
	事前学修	【事前学習】第3回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
4回	授業内容	古墳時代の集落（古墳時代の生活を物語る集落について、その特徴と時期的な変化を理解する）
	事前学修	【事前学習】第4回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
5回	授業内容	古墳時代前期の墓と出土遺物（古墳時代前期における古墳と出土品の特徴を理解する）
	事前学修	【事前学習】第5回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
6回	授業内容	古墳時代中期の墓と出土遺物（古墳時代中期における古墳と出土品の特徴を理解する）
	事前学修	【事前学習】第6回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）

◆授業計画

7回	授業内容	古墳時代後期の墓と出土遺物（古墳時代後期における古墳と出土品の特徴を理解する）
	事前学修	【事前学習】第7回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
8回	授業内容	古墳時代終末期の墓と出土遺物（古墳時代終末期における古墳と出土品の特徴を理解する）
	事前学修	【事前学習】第8回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
9回	授業内容	古墳時代の遺物（古墳の代表的な出土品である埴輪について、その出現と変化、意味について理解する）
	事前学修	【事前学習】第9回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
10回	授業内容	古墳時代の遺物（古墳の代表的な出土品である武器・武具について、その出現と意味について理解する）
	事前学修	【事前学習】第10回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
11回	授業内容	奈良・平安時代の考古学（奈良時代と平安時代の遺跡の出土品によって、どのような研究成果があるのかを理解する）
	事前学修	【事前学習】第11回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）
12回	授業内容	中世の考古学（武士の政権となる鎌倉時代～戦国時代までの遺跡の出土品によって、どのような研究成果があるのかを理解する）
	事前学修	【事前学習】第12回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（2時間）
	事後学修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（2時間）

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	理解度の確認と解説（これまで行ってきた古墳時代から江戸時代までの内容を振り返り、それぞれの時代の内容や特性を理解する）
	事 前 学 修	【事前学習】第1～13回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（3時間）
	事 後 学 修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（1時間）
14 回	授 業 内 容	現代と考古学（現在行われている発掘調査が、行政の行う調査であることを把握し、埋蔵文化財と考古学の関係について理解する）
	事 前 学 修	【事前学習】第15回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（1時間）
	事 後 学 修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（3時間）
15 回	授 業 内 容	理解度の確認と解説（これまで行ってきた古墳時代から江戸時代までの内容を振り返り、それぞれの時代の内容や特性を理解する）
	事 前 学 修	【事前学習】第1～13回目のプリントを事前に読んで、内容を把握し、関連する事項について調べておくこと。（3時間）
	事 後 学 修	【事後学習】授業で利用したプリントとノートを整理し、今回の授業を要約しておくこと。（1時間）

◆授業概要

本講義は、ケインズ経済学の基礎である有効需要原理、流動性選好論を説明したうえで、IS-LM分析からマンデル＝フレミング・モデルを中心とするオープンエコノミーを概説する。さらに短期と長期モデルの比較を踏まえ、新古典派経済学の視点から物価水準の決定、インフレとデフレに関する問題を学修する。

◆学修到達目標

マクロ経済学における有効需要原理、流動性選好論、IS-LM分析、国際マクロ経済学、短期・長期モデルの比較、物価水準の決定、インフレとデフレを中心に講義を進める。この講義を通じて、マクロ経済学の「基礎知識」を習得し、「経済学的な考え方」を理解し、「分析手法」を身につけることができるようになることを目標とする。

◆授業方法

授業計画に沿って、項目ごとにClassroomのトピックを分けている。トピックごとに、予習用の資料とパワーポイントによる動画ファイル、授業アンケートがあるので、資料で予習した後に、動画ファイルを視聴し学修する。学修後に出欠を兼ねた授業アンケートを回答する。質問などは授業アンケートなどでも受け付ける。また、課題や小テストがある場合もトピック内で指示するので必ず解答すること。なお、Zoomによる双方向を授業も一部実施する予定です。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

最終講義後に最終（期末）試験を実施し、評価は60%とします。また、オンデマンド授業で実施する小テストおよび課題の評価割合を30%、授業への参加・貢献を10%とします。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 各回で必要な講義資料を配布する。

◆参考書

市販本 『ミクロ・マクロ経済理論入門』 藤本 訓利，陸 亦群，前野 高章，文眞堂，2020年

市販本 『入門マクロ経済学』 中谷巖，下井直毅，塚田裕昭，日本評論社，2021年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom や授業アンケートおよび以下のメールにて対応します。

tanikawa.takayoshi2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	イントロダクション 講義内容、計画、講義方法などを説明する。マクロ経済学は何を学ぶのかを概説する。
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で経済学とは何か、マクロ経済学とは何かについて調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、重要なポイントを整理する。
2回	授業内容	国民所得の決定
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で国民所得について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
3回	授業内容	有効需要原理
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で有効需要について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
4回	授業内容	利子と流動性選好論
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で流動性について調べる。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
5回	授業内容	財市場・貨幣市場の均衡とIS-LM分析
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。第3、4回の講義をよく確認する。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
6回	授業内容	国際収支とISバランス
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で国際収支について調べ、第5回講義をよく確認する。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
7回	授業内容	マンデル＝フレミング・モデル
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、また、第5、6回講義をよく確認する。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。
8回	授業内容	固定相場制における財政政策、金融政策の効果
	事前学修	事前配付資料を読んでおく。また、参考書で固定相場制について調べる。第5、7回講義を確認する。
	事後学修	講義の内容を整理し、配布資料を読んで、専門用語や説明を確認し、重要なポイントを整理する。

◆授業計画

9回	授 業 内 容	変動相場制における財政政策，金融政策の効果
	事 前 学 修	事前配付資料を読んでおく。また，参考書で為替相場制度について調べる。第8回講義をよく確認する。
	事 後 学 修	講義の内容を整理し，配布資料を読んで，専門用語や説明を確認し，重要なポイントを整理する。
10回	授 業 内 容	マクロ経済分析の基本的な枠組み，ケインズモデルと新古典派モデル
	事 前 学 修	事前配付資料を読んでおく。
	事 後 学 修	講義の内容を整理し，配布資料を読んで，専門用語や説明を確認し，重要なポイントを整理する。
11回	授 業 内 容	海外部門を組み入れた長期モデル
	事 前 学 修	事前配付資料を読んでおく。第7，10回講義をよく確認する。
	事 後 学 修	講義の内容を整理し，配布資料を読んで，専門用語や説明を確認し，重要なポイントを整理する。
12回	授 業 内 容	供給サイドを考慮した長期モデル分析
	事 前 学 修	事前配付資料を読んでおく。
	事 後 学 修	講義の内容を整理し，配布資料を読んで，専門用語や説明を確認し，重要なポイントを整理する。
13回	授 業 内 容	物価水準の決定
	事 前 学 修	事前配付資料を読んでおく。参考書で物価について調べる。
	事 後 学 修	講義の内容を整理し，配布資料を読んで，専門用語や説明を確認し，重要なポイントを整理する。
14回	授 業 内 容	インフレとデフレ
	事 前 学 修	事前配付資料を読んでおく。また，参考書でインフレ，デフレについて調べる。
	事 後 学 修	講義の内容を整理し，配布資料を読んで，専門用語や説明を確認し，重要なポイントを整理する。
15回	授 業 内 容	試験および解説
	事 前 学 修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	前期の授業内容を再確認し，理解を深めること。

◆授業概要

幕末から今日に到るまで近代日本は隣国中国と時に厳しく対峙し、時に友好を深めつつ、複雑な二国間関係を形成してきた。本講座ではそうした歴史的過程と、同時代を生きた日中両国民の足跡をたどりながら、世界史、東アジア史の中に日中関係史を位置づけて考察する。歴史を先入観でとらえるのではなく、史資料の収集と読解によって確かな史実にもとづく歴史像を自ら描くことができることを心がける（後期は日中戦争～現在の時期）。

◆学修到達目標

「歴史とは現代と過去との対話である」（E・H・カー）。戦後 76 年を迎えた今日だが、日中関係は必ずしも良好な関係とはいえない状態が続いている。そんな今日にあって、日本・中国の近現代史や日中関係に関する書物・新聞記事・ニュースを読み解き、自らの歴史像と確かな歴史的教養をもって現代の日中関係を考え語れるようになることを目標とする。

◆授業方法

オンデマンド（動画配信）での授業形態となる。毎回レジュメや資料プリントを配信し、それに沿って講義をすすめる。その際、受講生からの質問にも対応する。受講生は毎回一定期間内に配信された動画を視聴し、授業参加確認表を提出する。新しい研究成果を紹介したり、一次史料を含む史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味・関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆履修条件

令和元年度、2 年度昼間スクーリング（前期）『歴史学』（堀井弘一郎担当）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

課題レポートの提出状況やその内容で 70%、授業への出席状況 30% で総合評価する。毎回オンライン出席することを前提として評価します。

◆教科書

なし

◆参考書

市販本 丸沼 『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への挑戦 1945－1971』久保亨 岩波新書 2011 年

市販本 丸沼 『シリーズ中国近現代史⑤ 開発主義の時代へ 1972－2014』高原明生・前田宏子 岩波新書 2014 年

市販本 丸沼 『日中関係―戦後から新時代へ―』毛利和子 岩波新書 2006 年

資料配布 (Classroom) 丸沼 『〈満洲〉の歴史』小林英夫 講談社現代新書 2008 年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	講座ガイダンス&満洲事変から日中戦争へ
	事前学修	満洲事変から日中戦争、終戦までの歴史について概略を調べておこう。
	事後学修	この間の日中関係史について、世界史的視野の中で整理しておこう。
2回	授業内容	汪兆銘「対日協力政権」と日本
	事前学修	兆銘とは誰なのか、日中戦争とどう関わったのか、まとめておこう。
	事後学修	汪兆銘の人物と、その対日協力政権の歴史・背景について理解しよう。
3回	授業内容	アジア太平洋戦争と中国
	事前学修	アジア太平洋戦争の経緯について調べ、ノートにまとめてみよう。
	事後学修	アジア太平洋戦争と中国はどう関わったのか、理解を深めよう。
4回	授業内容	戦争・メディア・プロパガンダ
	事前学修	アジア太平洋戦争の中でどのようなプロパガンダが行われたか、調べておこう。
	事後学修	戦争とメディア・プロパガンダとの関係についてまとめてみよう。
5回	授業内容	終戦前後の東アジア
	事前学修	アジア太平洋戦争の終戦前後の中国・満州・台湾・朝鮮の様子を調べておこう。
	事後学修	終戦前後の東アジア情勢についてまとめ、現代との繋がりを理解しよう。
6回	授業内容	国共内戦から中華人民共和国成立へ
	事前学修	戦後、中国政治にはどのような事態が進行していたのかを確認しておこう。
	事後学修	中華人民共和国成立の経緯や世界的影響について整理しておこう。
7回	授業内容	農業の集団化から「大躍進」の失敗へ
	事前学修	農業の集団化や「大躍進」とは何か、調べておこう。
	事後学修	1950年代の中国はどのような困難に直面したかを理解しよう。
8回	授業内容	文化大革命の激動と日本
	事前学修	文化大革命とはどのような事態であったのか、調べてみよう。
	事後学修	文革の経緯、中国社会への影響、その後の政策転換についてまとめよう。
9回	授業内容	中国の国連代表権獲得と日本
	事前学修	中国をめぐる国連代表権問題とは何か、その概略を理解しておこう。
	事後学修	代表権問題をめぐる経緯や意味について整理しておこう。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	日中国交回復
	事 前 学 修	日中国交回復とはどのような意味なのか、経緯も含めてまとめておこう。
	事 後 学 修	国交回復の経緯や歴史的背景、その後の日中関係などについて整理してみよう。
11 回	授 業 内 容	改革開放政策と日本
	事 前 学 修	改革開放政策とは何のことか、誰が主導したのか、調べておこう。
	事 後 学 修	改革開放政策の背景や影響、現代との繋がりについてまとめておこう。
12 回	授 業 内 容	香港の盛衰と「一国二制度」のゆくえ
	事 前 学 修	香港はどのような政治的地位にあるのか、「一国二制度」とは何なのか、調べてみよう。
	事 後 学 修	香港と中国をめぐる情勢について、理解を深めておこう。
13 回	授 業 内 容	台頭する現代中国の政治と経済
	事 前 学 修	現代中国はどのような国内的問題をかかえているか調べておこう。
	事 後 学 修	現代中国をめぐる国内外の諸問題を整理しておこう。
14 回	授 業 内 容	領土問題・歴史認識・戦後補償
	事 前 学 修	領土問題・歴史認識・戦後補償の各問題の概略を把握しておこう。
	事 後 学 修	各問題の基本事項について整理し、解決の方途を考えてみよう。
15 回	授 業 内 容	米中対立のゆくえ&後期のまとめ
	事 前 学 修	ノートや配布したレジメ・資料などを使って後期の授業内容を総まとめしておこう。
	事 後 学 修	後期期間中に学んだことを整理、理解し、今後の学習につなげよう。

◆授業概要

はじめに近世の各時代の文化の概観を各々述べた上で、各論的にいくつかのトピックについて講義する。その後で、各地に残る日本の伝統文化について、いくつかを選んで講義する。

◆学修到達目標

現在の日本においてサブカルチャーといわれているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察することによって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているのかを理解できるようにする。

◆授業方法

授業は講義形式で行う。適宜プリントや DVD などを使用し、受講生の理解の一助とする。またリアクションペーパーを提出してもらった場合もある。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『文化史 A・C』（渡邊浩史）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

平常点（リアクションペーパーなど）20%、試験 80%

◆教科書

市販本 神奈川県立歴史博物館特別展図録『開基 500 年記念 早雲寺―戦国大名北条氏の遺産と系譜―』神奈川県立博物館小さ子社 2021 年

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	はじめに 近世の文化（安土桃山文化）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
2回	授業内容	近世の文化（江戸時代）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
3回	授業内容	聖地巡礼（富士信仰）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
4回	授業内容	聖地巡礼（富士講）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
5回	授業内容	聖地巡礼（富士講）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
6回	授業内容	地域に残る伝統文化（東大寺お水取りと名張市の松明調進）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
7回	授業内容	地域に残る伝統文化（長者伝説と松明調進）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
8回	授業内容	地域に残る伝統文化（松明調進ルート）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
9回	授業内容	地域に残る伝統文化（松明調進と東大寺支配の記憶）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
10回	授業内容	地域に残る伝統文化（神奈川県箱根早雲寺の建立と箱根霊場）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
11回	授業内容	地域に残る伝統文化（中世後期関東の文化状況）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること
12回	授業内容	地域に残る伝統文化（戦国大名北条氏の政治と文化）
	事前学修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事後学修	授業内容を自分でまとめること

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	地域に残る伝統文化（早雲寺の復興）
	事 前 学 修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
14 回	授 業 内 容	地域に残る伝統文化（近世早雲寺と寺宝の継承）
	事 前 学 修	高校日本史教科書などで当該事項を予習しておくこと
	事 後 学 修	授業内容を自分でまとめること
15 回	授 業 内 容	まとめと試験
	事 前 学 修	1～14回の内容をよく復習すること
	事 後 学 修	試験の内容を含めてよく復習し理解を深めること

◆授業概要

ひと口に「国語学」と言っても、様々な対象・方法があります。国語学がどういう学問なのかをひと通り見渡すことによって、国語学に対する知識を身につけることを目標とします。

◆学修到達目標

国語（日本語）とはどのような言語であるのか。歴史的にどのような変遷をたどり、どのように用いられているのか。普段国語（日本語）を使用していても意識することの少ない様々な事象を知ること、その特質を理解できるようになる。

◆授業方法

講義を中心として授業を進めますが、適宜指名してテキストを読んでもらったり、各項目についての小テストを行ったりします。受講者数や各自の興味の持ち方によって変更する適宜場合があります。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

試験 80%。平常点 20%。

◆教科書

市販本 『国語学要論』 福島邦道 笠間書院 昭和48年

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（国語学概論の概要）
	事前学修	特になし。
	事後学修	授業内容の復習。
2回	授業内容	ガイダンス（国語の諸現象）
	事前学修	特になし。
	事後学修	授業内容の復習。
3回	授業内容	文法（文法と文法論）
	事前学修	特になし。
	事後学修	当日の授業範囲における序説についての復習。
4回	授業内容	文法（文・文節・単語）
	事前学修	前回授業内容の復習。
	事後学修	当日の授業範囲における序説についての復習。
5回	授業内容	文法（品詞）
	事前学修	回授業内容の復習。
	事後学修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
6回	授業内容	文法（文の構成と種類・文法史）
	事前学修	前回授業内容の復習。
	事後学修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
7回	授業内容	文法（敬語法）
	事前学修	前回授業内容の復習。
	事後学修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
8回	授業内容	語彙（語彙・語彙量・語形）
	事前学修	前回授業内容の復習。
	事後学修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
9回	授業内容	語彙（語義・外来語）
	事前学修	前回授業内容の復習。
	事後学修	当日の授業範囲における音韻についての復習。
10回	授業内容	語彙（位相・語彙史・辞書）
	事前学修	前回授業内容の復習。
	事後学修	当日の授業範囲における文字についての復習。
11回	授業内容	文体（文体と文体論）
	事前学修	前回授業内容の復習。
	事後学修	当日の授業範囲における文字についての復習。
12回	授業内容	文体（文体の種類と文体史）
	事前学修	前回授業内容の復習。
	事後学修	当日の授業範囲における文字についての復習。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	言語生活
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における文字についての復習。
14 回	授 業 内 容	方言・系統
	事 前 学 修	前回授業内容の復習。
	事 後 学 修	当日の授業範囲における文字についての復習。
15 回	授 業 内 容	まとめ, 試験
	事 前 学 修	前期授業範囲の復習。
	事 後 学 修	授業内容の復習。

◆授業概要

西欧の衝撃による中華帝国の解体から 20 世紀の革命と戦争の時代を経て超大国中国が台頭する歴史を明らかにする。

◆学修到達目標

近現代中国の歴史と社会を概観しながら中華帝国の解体と再生を理解しながら中国とは何かを考える。

◆授業方法

オンデマンド授業及び Google Classroom を使用。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

毎回提出の確認ペーパー及び最終レポート試験。

◆教科書

Google Classroom にテキストを掲載。

◆参考書

通材 『東洋史概説』 通信教育部（新）教材＝『中国の歴史』岸本美緒 ちくま学芸文庫

◆授業相談先（連絡先）

takatsuna.hirofumi@nihon-u.ac.jp （連絡する際には学科・学生番号・氏名を明記）

◆授業計画

1回	授業内容	近現代中国を考える視点
	事前学修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
2回	授業内容	アヘン戦争
	事前学修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
3回	授業内容	太平天国運動
	事前学修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
4回	授業内容	洋務運動と変法運動
	事前学修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
5回	授業内容	辛亥革命
	事前学修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
6回	授業内容	五・四運動
	事前学修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
7回	授業内容	中国国民革命
	事前学修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
8回	授業内容	満洲事変
	事前学修	『中国の歴史』の237～254頁までを読んでおくこと。
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
9回	授業内容	日中全面戦争
	事前学修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
10回	授業内容	「毛沢東とその時代（前）」（映像視聴）及び講義
	事前学修	毛沢東について調べておくこと。
	事後学修	映像内容を確認しておくこと。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	「毛沢東とその時代（後）」（映像視聴）及び講義
	事 前 学 修	毛沢東について調べておくこと。
	事 後 学 修	映像内容を確認しておくこと。
12 回	授 業 内 容	中華人民共和国の誕生
	事 前 学 修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事 後 学 修	配布資料により授業の要点を確認しておくこと。
13 回	授 業 内 容	文化大革命の悲劇
	事 前 学 修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事 後 学 修	復習及び確認ペーパーの作成
14 回	授 業 内 容	改革開放の時代
	事 前 学 修	テキスト（Google Classroom 掲載）の予習
	事 後 学 修	
15 回	授 業 内 容	まとめ、試験
	事 前 学 修	中国近現代史研究の要点をよく確認しておくこと。
	事 後 学 修	本授業を踏まえて現代中国のあり方を考えること。

◆授業概要

民法総則の後半部分を学修する。具体的には、民法の意義、法源（存在形式）、沿革、指導原理、私権の社会性、私権の主体、私権の客体、意思表示と法律行為、代理、無効と取消し、条件と期限、期間、時効、のうち、意思表示と法律行為から時効までを学修する。

◆学修到達目標

民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所ですした専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。

◆授業方法

講義形式（オンデマンドを含む）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。

◆履修条件

他の担当教員の民法 I、および根本の民法 I（前半）との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可
令和 3 年度昼間スクーリング（後期）『民法 I B』（根本晋一）との積み重ね不可

◆成績評価基準

全回出席（視聴を含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価 100%。

◆教科書

指定しない

◆参考書

通信教育教材 民法 I

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	法律行為と意思表示
	事前学修	民法I(前半)最終授業時の板書事項の再確認(後半から履修する学生は、これをする必要なし)
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
2回	授業内容	意思表示、サヴィニーの意思理論、意思の不存在と意思表示の瑕疵の区別、無効と取消し、意思主義と表示主義、改正民法による変更箇所など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
3回	授業内容	【意思の不存在】心裡留保 第三者保護規定について
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
4回	授業内容	通謀虚偽表示 改正点なし 民法94条2項の類推適用(判例理論)など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
5回	授業内容	錯誤 無効から取消しへ 第三者保護規定について
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6回	授業内容	【意思表示の瑕疵】詐欺・強迫 第三者の詐欺についての変更点 第三者保護規定について
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7回	授業内容	法律行為と意思表示まとめ 心裡留保・通謀虚偽表示における第三者と錯誤・詐欺における第三者の保護要件の違い、詐欺と強迫における第三者保護規定の有無など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8回	授業内容	代理制度、私的自治の補充と拡大、顕名主義、代理の三面関係など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

◆授業計画

9回	授 業 内 容	代理人の能力と権限、代理行為の効果帰属、任意代理と法定代理、復代理、自己契約と双方代理の禁止など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
10回	授 業 内 容	無権代理（広義）、狭義の無権代理、本人への効果不帰属、無権代理人の責任、表見代理は有権代理ではなく無権代理、表見代理の諸類型など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
11回	授 業 内 容	代理権授与の表示による表見代理、代理権踰超（代理権限外）の表見代理、代理権消滅後の表見代理など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
12回	授 業 内 容	狭義の無権代理と表見代理の関係、相手方の保護など。法律行為の付款について、条件と期限、条件と不確定期限の区別、期間計算など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
13回	授 業 内 容	時効、除斥期間との区別、取得時効と消滅時効、時効制度の趣旨、民法改正の影響など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
14回	授 業 内 容	時効の援用と放棄、時効の効果と私的自治の調和、時効の中断と停止、取得時効と登記、占有の承継など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
15回	授 業 内 容	消滅時効、民法改正との関係、民法I（後半）全体の補遺とおさらいなど
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認

◆授業概要

行政管理の原則及び機能、コミュニケーションの機能及び方向、リーダーシップ、稟議制、行政統制、情報公開、オンブズマン制度、行政相談、地方自治、戦前の官吏制と戦後の公務員制など、行政管理や行政統制を中心に学びます。

◆学修到達目標

(行政の実施過程において、行政の目標を明確に定め、公務に従事する職員の努力を通して、当該目標を統一的に実現するためには如何なることが必要なのか、また行政の実施過程において、行政全体を外部から、そして内部においてどのように統制したら良いのかを理解できるようにします。

◆授業方法

講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。講義の中で、受講生の理解度を調べるための理解度チェックを行い、課題内容を説明します。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング(後期)『行政学 B』(関根二三夫)との積み重ね不可

◆成績評価基準

試験70%、平常点30% ※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

◆教科書

通材 『行政学 L30100』通信教育教材(教材コード 000084) 3,000円(送料込)

◆参考書

なし

◆授業相談先(連絡先)

sekine.fumio@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	行政管理の原則
	事前学修	テキストの第7章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
2回	授業内容	行政管理の機能
	事前学修	テキストの第7章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
3回	授業内容	コミュニケーションの機能
	事前学修	テキストの第7章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
4回	授業内容	コミュニケーションの方向
	事前学修	テキストの第7章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
5回	授業内容	リーダーシップ
	事前学修	テキストの第7章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
6回	授業内容	稟議制
	事前学修	テキストの第8章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
7回	授業内容	行政統制—外在的統制
	事前学修	テキストの第5章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
8回	授業内容	行政統制—内在的統制
	事前学修	テキストの第11章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
9回	授業内容	情報公開の意義及び沿革
	事前学修	テキストの第10章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
10回	授業内容	情報公開とプライバシーの保護
	事前学修	テキストの第10章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
11回	授業内容	オンブズマン制度
	事前学修	テキストの第12章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
12回	授業内容	行政相談
	事前学修	テキストの第11章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	地方自治
	事 前 学 修	テキストの第3章を熟読すること。
	事 後 学 修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
14 回	授 業 内 容	戦前の官吏制から戦後の公務員制へ
	事 前 学 修	テキストの5章第4節を熟読すること。
	事 後 学 修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
15 回	授 業 内 容	講義内容の総括
	事 前 学 修	学修した内容を再度確認すること。
	事 後 学 修	テキストの記述とノートの記述とを比較し、内容を理解すること。

◆授業概要

イギリスにおいて小説の黄金期であるヴィクトリア時代の代表的作家の生涯とその作品の概要や作品のハイライトを抜粋して読み、イギリス文学の豊かな作品世界を味わう土台を築く。またこの時代に豊かな実を結んだ児童文学、推理小説、世紀末に出てきた唯美主義など分野別にそれぞれの作品の特徴を紹介する。扱う作家は Dickens を皮切りに Brontë 姉妹、Kingsley, Carroll, Conan Doyle、Wilde など。

◆学修到達目標

ヴィクトリア時代のイギリス小説にはどのような分野の作品があり、どのように発展していったのかその過程について知り、説明できるようになる事を目的とする。代表的作家の生涯と作品について知識を身につけ、説明できるようになる事を目的とする。作品の内容について考察し、コメントを書くことで簡単な文学の批評ができるようになる事を目的とする。

◆授業方法

テキストとプリント、映像を用いてヴィクトリア時代の代表的な作家の生涯と作品の概要を紹介する。代表作の原文のハイライトを抜粋して読む。重要な作品は映像で作品を鑑賞する。作品についてコメントを書いてもらって提出してもらうこともある。原文を読むのに必要なので英語の辞書は必ず持参するようにすること。

◆履修条件

令和2年度英語文学概説（後期）を受講していない学生

◆成績評価基準

課題、授業への参画60%、試験40%

◆教科書

市販本 『たのしく読めるイギリス文学』（ミネルヴァ書房）

◆参考書

市販本 『英語文学事典』（ミネルヴァ書房）

市販本 The Oxford Literary Terms (Oxford Quick Reference)

※参考文献は自習用であり、授業では使用しません。

◆授業相談先（連絡先）

Google Classroom のストリームでご質問下さい。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	ガイダンス、オリエンテーション、授業の進め方、講義内容に記載されている成績評価方法等の確認、後期で扱う作家や作品を紹介する。
	事 前 学 修	自分が興味のある作家と作品を考えてくる。
	事 後 学 修	後期に学ぶ予定のイギリス文学はどのような作品があるのか調べる。
2回	授 業 内 容	前期の復習（ヴィクトリア時代までのイギリス小説を概観する）
	事 前 学 修	ヴィクトリア時代までのイギリスの小説家について調べる。
	事 後 学 修	授業時にとったノートを復習し、18世紀、19世紀前半のイギリス小説について調べる。
3回	授 業 内 容	ヴィクトリア時代の小説と社会（1）ヴィクトリア時代の小説の特徴、時代背景について解説。Charles Dickens の David Copperfield について解説。映像で作品を鑑賞する。原文の抜粋を読む。
	事 前 学 修	テキストの 100, 101 頁を読み、Dickens, David Copperfield について調べておく。
	事 後 学 修	授業時にとったノートを復習し、Dickens, David Copperfield についてまとめる。
4回	授 業 内 容	Charles Dickens の David Copperfield を映像で鑑賞する。原文の抜粋を読む。
	事 前 学 修	David Copperfield に登場する様々な人物を把握しておく。
	事 後 学 修	授業時にとったノートを復習し、David Copperfield の原文の抜粋を読んでみる。
5回	授 業 内 容	ヴィクトリア時代の小説と社会（2）ヴィクトリア時代の女性の生き方、職業について解説。Brontë 姉妹の生涯を映像等でたどる。Charlotte Brontë の Jane Eyre について解説。
	事 前 学 修	テキストの 94, 95 頁を読み、Charlotte Brontë の Jane Eyre について調べておく。
	事 後 学 修	授業時にとったノートを復習し、Brontë 姉妹の生涯と Jane Eyre についてまとめ、原文の抜粋を読んでみる。
6回	授 業 内 容	ヴィクトリア時代の小説と社会（3）イギリス北部の荒野と Emily Bontë の関係について解説。Wuthering Heights について解説し、原文の抜粋を読む。
	事 前 学 修	テキストの 96, 97 頁を読み、Emily Bontë の Wuthering Heights について調べておく。
	事 後 学 修	授業時にとったノートを復習し、Emily Bontë と Wuthering Heights についてまとめ、原文の抜粋を読んでみる。

◆授業計画

7回	授業内容	児童文学（1）イギリス児童文学の伝統と発展について解説。Charles Kingsley の The Water-Babies の解説。原文の抜粋を読む。
	事前学修	イギリスの児童文学にはどのようなものがあるのか調べておく。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Charles Kingsley の The Water-Babies についてまとめ、原文の抜粋を読んでもみる。
8回	授業内容	児童文学（2）新しい児童文学、Lewis Carroll について解説。Alice' s Adventure in Wonderland について解説し、原文からの抜粋を読む。
	事前学修	テキストの108, 109 頁を読み、Lewis Carroll の Alice' s Adventure in Wonderland について調べておく。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Lewis Carroll の Alice' s Adventure in Wonderland についてまとめ、原文の抜粋を読んでもみる。
9回	授業内容	児童文学（3）児童文学と挿絵について解説。Kate Greenaway, Walter Crane, Charles Ricketts の挿絵、Mother Goose, Oscar Wilde の童話” The Happy Prince” について解説。原文からの抜粋を読む。
	事前学修	イギリス児童文学と挿絵について調べておく。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、Mother Goose, Oscar Wilde の童話” The Happy Prince” を読んでもみる。
10回	授業内容	推理小説（1）推理小説の系譜、Wilkie Collins と The Moonstone について解説。Arthur Conan Doyle, Sherlock Holmes 像について解説。
	事前学修	テキスト110, 111, 124, 125 頁を読み、Wilkie Collins と The Moonstone について、Arthur Conan Doyle の A Study in Scarlet について調べておく。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、推理小説の系譜、Wilkie Collins と The Moonstone 、Arthur Conan Doyle と Sherlock Holmes 像についてまとめる。
11回	授業内容	推理小説（2）Arthur Conan Doyle の Sherlock Holmes シリーズの短編を映像で見る。英文を読み、映像との相違を考える。
	事前学修	Sherlock Holmes シリーズにはどのようなものがあるのか調べる。気になった作品を読んでもみる。
	事後学修	映像でとりあげた短編小説を原文で読む。
12回	授業内容	唯美主義の小説（1）唯美主義とは何かについて解説。Oscar Wilde の生涯をたどる。
	事前学修	120, 121, 130, 131 頁を読み、唯美主義と関わりのある作家について調べる。
	事後学修	授業時にとったノートを復習し、唯美主義や Oscar Wilde についてまとめる。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	唯美主義の小説（2）長編小説 The Picture of Dorian Gray について解説。原文を読む。
	事 前 学 修	132, 133 頁を読み、The Picture of Dorian Gray や世紀末文学について調べる。
	事 後 学 修	授業時にとったノートを復習し、唯美主義や Oscar Wilde についてまとめる。
14 回	授 業 内 容	唯美主義の小説（2）長編小説 The Picture of Dorian Gray について解説。原文を読む。
	事 前 学 修	ヴィクトリア時代にはクリスマスはどのようなものだと考えられていたか。クリスマスにちなんだ文学にはどのようなものがあるのか考えてくる。
	事 後 学 修	ヴィクトリア時代のクリスマス、Dickens のクリスマス・ブックや Mother Goose などを読む。後期の総復習。
15 回	授 業 内 容	試験とその解説を行う。
	事 前 学 修	後期に学んだこと、読んだ英文を復習する。
	事 後 学 修	試験でできなかったところを確認し、その部分を復習する。

◆授業概要

情報機器を用いた知的活動を行うに当たって数的データの取り扱いは極めて重用である。もともとコンピュータは「電子計算機」であり、数的データの取り扱いのために作られた機器である。

本講義では表の集計を行う機能が備わった「表計算ソフト」を利用して、電子集計のさまざまな機能を学ぶ。教員がコンピュータソフト企業に勤務した経験を踏まえ、実務で実際に利用されている「プログラミング手法」について、体験を通じて学習する。

◆学修到達目標

表計算ソフトとして、Google スプレッドシート 1 を用い、操作を通じて電子的にデータを取り扱う手法を習得する。最終的に次の内容を習得することを目標とする。

1. 表の作成、データ集計、グラフ作成といったデータ処理技術を習得する。
2. またデータの内容に応じて適切な処理を行う手法について習得する。
3. 更にスプレッドシートの高度な機能やプログラミングについてもその概要を学ぶ。

◆授業方法

本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの歴史、構造、コンピュータセキュリティ、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆履修条件

令和2年度、夏期スクーリング1期「情報概論」（中村典裕）とは積み重ね不可

◆成績評価基準

平常点(20%)、平常課題(30%)、最終課題レポート(50%)。毎回出席する事を前提として評価する。

◆教科書

資料配布 (Classroom)

◆参考書

授業時に指示する

◆授業相談先（連絡先）

Google Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	ガイダンス・Google クラスルームの使い方
	事 前 学 修	日頃から情報通信技術（ICT）に関わるテレビ報道や新聞記事などに興味や関心を持って接する態度を期待する。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
2回	授 業 内 容	ウェブページの原理と HTML の基礎
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
3回	授 業 内 容	プログラミングの歴史
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
4回	授 業 内 容	表計算ソフトとは、スプレッドシートの概要
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
5回	授 業 内 容	スプレッドシート入門1 平均・四則演算
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
6回	授 業 内 容	スプレッドシート入門2 グラフの活用
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
7回	授 業 内 容	スプレッドシート入門3 書式、条件付書式
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
8回	授 業 内 容	スプレッドシート演習1 関数入門
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
9回	授 業 内 容	スプレッドシート演習2 if 関数・表参照関数
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	スプレッドシート演習3 フィルタ/データベース
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
11 回	授 業 内 容	スプレッドシート演習4 ピボットテーブル
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
12 回	授 業 内 容	スプレッドシート演習5 グループ化・3D集計
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
13 回	授 業 内 容	スプレッドシート演習6 スプレッドシートマクロの概要
	事 前 学 修	授業 Web の内容を事前に閲覧し、授業内容への理解を深めておく。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
14 回	授 業 内 容	総合演習
	事 前 学 修	前回までの授業内容を確認し、総合演習に備える。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理する。また、自宅でも授業 Web にアクセスし、授業内容を確認する。
15 回	授 業 内 容	最終課題
	事 前 学 修	前回までの授業内容を確認し、最終課題に備える。
	事 後 学 修	最終課題の結果を整理し、結果について再確認する。

◆授業概要

本授業は、近代から現代までの西洋の哲学の歴史を通して、哲学の一般的な知識を習得することを目的とした授業である。

◆学修到達目標

この授業は、代表的な近現代の西洋の哲学者の考え方を説明することができるようになること、哲学者の観点を理解し、批判的な視点を持つことができるようになることを目標とする。

◆授業方法

授業動画を視聴し、課題を提出する。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『哲学』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

課題の提出（40%）、レポート試験（60%）により総合的に評価する。毎回出席票を提出していることを前提として評価の対象とする。

◆教科書

資料配布（Classroom）

◆参考書

市販本 小手川正二郎 2020 『現実を解きほぐすための哲学』 トランスビュー

授業計画に記載した文献の他、授業中に紹介。

◆授業相談先（連絡先）

初回授業時に案内する

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（ <u>授業内容の説明の他、成績評価や出席についての説明があるので必ず聞くこと</u> ）、哲学とはどのような学問なのか、近現代までの西洋哲学の概要
	事前学修	近現代までの西洋哲学にどのようなものがあるか簡単に調べる。
	事後学修	他の人が哲学についてどのように説明しているか、関連する文献や記事を読み、哲学とはどのような学問かについて、自分なりの流れを作って説明できるようにする。
2回	授業内容	近代哲学—デカルトの考え方を中心に
	事前学修	デカルトはどのような思想を展開したか調べる。
	事後学修	参考文献 小林道夫 2006『デカルト入門』筑摩書房、富田恭彦 2019『デカルト入門講義』筑摩書房 などを読み、デカルトについて説明できるようにする。
3回	授業内容	近代哲学—経験論の考え方を中心に
	事前学修	経験論について調べる。
	事後学修	参考文献 一ノ瀬正樹 2016『英米哲学史講義』筑摩書房、富田恭彦 2017『ロック入門講義 イギリス経験論の原点』筑摩書房などを読み、経験論について説明できるようにする。
4回	授業内容	近代哲学—カントの哲学を中心に1
	事前学修	カントについて調べる。
	事後学修	参考文献 御子柴善之 2015『自分で考える勇気—カント哲学入門』岩波書店などを読み、カントの思想の特徴を整理する。
5回	授業内容	近代哲学—カントの哲学を中心に2
	事前学修	前回の内容を復習しておく。
	事後学修	参考文献 黒崎政男 2000『カント『純粹理性批判』入門』講談社 などを読み、カントの思想について説明できるようにする。
6回	授業内容	近代哲学—カントの哲学を中心に3
	事前学修	カントの倫理学とはどのようなものか確認しておく。
	事後学修	カントについては、NHKの「100分de名著」で取り上げられた際の紹介ページも参考になります https://www.nhk.or.jp/meicho/famousbook/98_kant/index.html
7回	授業内容	近代哲学—功利主義を中心に
	事前学修	功利主義について調べる。
	事後学修	参考文献 児玉聡 2012『功利主義入門—はじめての倫理学』筑摩書房などを読み、功利主義の思想の特徴を整理する。
8回	授業内容	自分でも考えてみる1—動物の命
	事前学修	功利主義者ピーター・シンガーについて調べておく
	事後学修	授業内容を参考に自分でさらに考える。参考文献 小手川正二郎 2020『現実を解きほぐすための哲学』トランスビュー

◆授業計画

9回	授業内容	現代哲学—分析哲学、科学哲学を中心に
	事前学修	分析哲学、科学哲学について調べる。
	事後学修	参考文献 飯田隆 2020『分析哲学 これからとこれまで』勁草書房、伊勢田哲治 2003『疑似科学と科学の哲学』名古屋大学出版会などを読み、分析哲学について整理する。
10回	授業内容	現代哲学—実存主義を中心に
	事前学修	実存主義について確認しておく。
	事後学修	参考文献 澤田直 2002『新・サルトル講義—未完の思想、実存から倫理へ』などを読み、実存主義の思想について調べる。
11回	授業内容	現代哲学—ボーヴォワールを中心に
	事前学修	ボーヴォワールの思想について確認しておく。
	事後学修	参考文献 トリル・モイ (大橋洋一他訳) 2003『ボーヴォワール—女性知識人の誕生』平凡社 (残念ながら入手困難書。興味のある方は図書館で) などを読み、ボーヴォワールらの思想について調べる。
12回	授業内容	現代哲学—ロールズを中心に
	事前学修	ロールズについて調べておく。
	事後学修	参考文献 神島裕子 2018『正義とは何か—現代政治哲学の6つの視点』中央公論社などを読んだり、授業内で提示された問題について考えてみる。
13回	授業内容	自分でも考えてみる2—人種
	事前学修	人種と聞いてなにを自分がイメージするか、それについてどのような考えをもっているかを考える。
	事後学修	授業内容を参考に自分でさらに考える。参考文献 小手川正二郎 2020『現実を解きほぐすための哲学』トランスビュー
14回	授業内容	自分でも考えてみる2—親子
	事前学修	親子関係についての自分の考え方を整理する。
	事後学修	授業内容を参考に自分でさらに考える。参考文献 小手川正二郎 2020『現実を解きほぐすための哲学』トランスビュー
15回	授業内容	まとめ
	事前学修	2、3、4、5、6、7、9、10、11、12回の授業内容を復習しておく。
	事後学修	授業内容を振り返りし、それぞれの哲学者の要点を復習する。

◆授業概要

心理学は、人の心とは何か、なぜあるのか、どのように働いているのか等の問いについて、科学的に検証する学問です。本講義では、私たちが自身や他者あるいは社会問題として知っている他者とのコミュニケーション、発達障害、いじめなどにおける疑問に、心理学の立場から考えます。具体的には、第1回から第4回で遺伝子の乗り物としての人間の捉え方および他者との関係について（第Ⅰ部）、第6回から第9回で臨床（様々な障害と心理療法）や教育について（第Ⅱ部）、第11回から第14回で社会と文化について（第Ⅲ部）、心理学の視点から概観しつつ、日々の経験と結びつけながら考えていきます。なお、第5回・第10回はそれぞれの日程までにおける学習内容の復習とテストを、第15回は本講義の全日程における学習内容すべての復習とテストを行います。

◆学修到達目標

- ①心理学の構成概念、理論に関する知識を想起することができる
- ②経験している出来事と心理学の構成概念や理論とを結びつけることができる
- ③他の知識と照らし合わせ、新たな問いを考えることができる

◆授業方法

- (1) 配布する資料およびスライド、教科書に基づき講義します。
- (2) 講義の一部では、模擬的な心理学実験や心理学の調査を体験してもらいます。

◆履修条件

- ・講義期間中、初回から休まず出席できること。
- ・事前にテキストを購入して予習と復習ができること。また、参考書Aはテキストには無い分野を網羅しており、こちらも事前の購入、予習と復習を薦める。

◆成績評価基準

試験（70%）、小テスト（30%）

◆教科書

テキスト：『心理学概論』横田・巖島 啓明書房（3,000円＋税）

◆参考書

参考書A：『進化と人間行動』長谷川・長谷川 東京大学出版会（2,500円＋税）

参考書B：『ソーシャル・キャピタル入門：孤立から絆へ』稲葉 中公新書（760円＋税）

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上で行う。

◆授業計画

- 第1回 イン트로ダクション：生き物としての人間（参考書 A p. 1-86）
- 第2回 対人関係1：家族や親類との絆と葛藤（参考書 A p. 119-162）
- 第3回 対人関係2：対人関係の開始、親密化、解消（テキスト p. 181-190）
- 第4回 対人関係3：恋愛と結婚、子育て（参考書 A p. 207-252）
- 第5回 復習と小テスト1
- 第6回 臨床1：発達障害（テキスト p. 201-208、p. 179）
- 第7回 臨床2：精神疾患（テキスト p. 223-242）
- 第8回 臨床3：カウンセリング、心理療法（テキスト p. 208-222、p. 284-289）
- 第9回 教育：いじめ（テキスト p. 190-196）
- 第10回 復習と小テスト2
- 第11回 社会環境1：「空気を読め」の正体（テキスト p. 187-189）
- 第12回 社会環境2：服従の実験
- 第13回 社会環境3：集団と文化（テキスト p. 198-199、参考書 A p. 163-184、p. 253-271）
- 第14回 社会環境4：ソーシャル・キャピタル（参考書 B p. 1-109）
- 第15回 復習と試験

◆授業概要

TOEIC スコア 550 点相応の英語力を目指すクラスです。TOEIC の教材を用いて、基本的な文法の復習、場面に応じたボキャブラリーや表現を紹介し。リスニングの練習、英語の文章を読み、内容を短時間で把握する練習をします。TOEIC の形式や出題傾向を紹介し、授業で学んだことを実践で生かせるように応用問題も行う。

◆学修到達目標

TOEIC スコア 550 点を目標に、TOEIC に出やすい基本的な文法事項、場面に応じたボキャブラリーや表現を覚え、リスニングの概要、英語の文章を短時間で把握することができるようになる。TOEIC の形式や出題傾向、コツを身につけることができる。応用問題を解いて、実際の試験に対応できるようになる。

◆授業方法

テキストを用いて授業を進行するので、必ず授業開始時までにテキストを揃えておくこと。オンデマンド型の授業なので、動画で各 Chapter の説明をした後に復習のテスト付き課題を受けてもらいます。その翌週はリスニングやリーディングの問題をテスト付き課題で受けしてもらい、解説を動画で行います。最終週には全体の復習の試験を行います。

◆履修条件

前期の英語 F の授業の内容を理解していることを前提に授業を進めるので、前期に同授業を受講をしていることが望ましい。

◆成績評価基準

テスト付き課題（50%）、最終試験（50%）

◆教科書

市販本 『SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE』 番場直之、小山克明 金星堂 2019 年

◆参考書

授業ガイダンスにて指示。

◆授業相談先（連絡先）

Google Classroom のストリームでご質問下さい。

◆授業計画

1回	授業内容	Unit8 ①Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	人事に関するボキャブラリーと現在分詞・過去分詞の用法を調べておく。
	事後学修	Unit8 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
2回	授業内容	Unit 8② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 8 の Step 3 をテスト付き課題で行う。人事に関する表現と分詞の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
3回	授業内容	Unit9 ①Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	広告・宣伝に関するボキャブラリーと代名詞の用法を復習する。
	事後学修	Unit9 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
4回	授業内容	Unit 9 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 9 の Step 3 をテスト付き課題で行う。広告・宣伝に関する表現と代名詞の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
5回	授業内容	Unit10 ①Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	会議に関するボキャブラリーと比較の用法を復習する。
	事後学修	Unit10 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
6回	授業内容	Unit10 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 10 の Step 3 をテスト付き課題で行う。会議に関する表現と比較の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
7回	授業内容	Unit11 ①Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	予算・費用に関するボキャブラリーと前置詞の用法を復習する。
	事後学修	Unit11 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
8回	授業内容	Unit 11 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 11 の Step 3 をテスト付き課題で行う。予算・費用に関する表現と前置詞の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
9回	授業内容	Unit12 ①Step 1 と Step 2 の解説をする
	事前学修	オフィスに関するボキャブラリーと接続詞の用法を復習する。
	事後学修	Unit12 Step 1 と 2 の復習と課題を行う。
10回	授業内容	Unit 12 ② Step 3 の解説・復習テスト（テスト付き課題）を受ける。
	事前学修	Unit 12 の Step 3 をテスト付き課題で行う。オフィスに関する表現と接続詞の復習。
	事後学修	Step 3 の解説を聞き、できなかった問題を復習する。

◆授業計画

11 回	授業内容	Unit13 ①Step1とStep2の解説をする
	事前学修	日常生活に関するボキャブラリーと前置詞と接続詞の相違を復習する。
	事後学修	Unit13 Step1と2の復習と課題を行う。
12 回	授業内容	Unit 13 ② Step3の解説・復習テスト(テスト付き課題)を受ける。
	事前学修	Unit 13のStep3をテスト付き課題で行う。日常生活に関する表現と前置詞と接続詞の相違の復習。
	事後学修	Step3の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
13 回	授業内容	Unit14 ①Step1とStep2の解説をする
	事前学修	営業・販売促進に関するボキャブラリーと関係代名詞を復習する。
	事後学修	Unit14 Step1と2の復習と課題を行う。
14 回	授業内容	Unit 14 ② Step3の解説・復習テスト(テスト付き課題)を受ける。
	事前学修	Unit 14のStep3をテスト付き課題で行う。営業・販売促進に関する表現と関係代名詞の復習。
	事後学修	Step3の解説を聞き、できなかった問題を復習する。
15 回	授業内容	後期のまとめと試験
	事前学修	後期の授業全体に学んだことを復習する。
	事後学修	最終試験を受けて、できなかった部分を確認し、全体をふりかえる。

◆授業概要

債権総論の前半部分を学修する。債権総論とは、債権法全体の共通の決まりごとをまとめた部分であり、債権債務の発生から消滅に至る過程、つまり、債権債務一生、生まれてから役割を終えて死ぬまでの過程を規律している。具体的には、債権の発生、目的、効力、多数当事者の債権債務関係、譲渡（引受・移転を含む）、消滅の各過程に関する条項を置いている。その主要な条項の解釈を学修する。

◆学修到達目標

民法学における債権法の位置づけ、債権総論と債権各論の関係、債権総論の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所で示した専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。

◆授業方法

講義形式（オンデマンドを含む）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。

◆履修条件

他の担当教員の民法Ⅲ、および根本の民法Ⅲ前半との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。

令和3年度昼間スクーリング（後期）『民法Ⅲ B』（根本晋一）との積み重ね不可

◆成績評価基準

全回出席（オンデマンドを含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点80%、授業態度や質疑応答20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価100%。

◆教科書

指定しない

◆参考書

通材 民法Ⅲ

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	民法Ⅲ前半との連続性の確認、多数当事者の債権債務関係について、その各態様に関する簡単な具体例を示しつつ解説
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
2回	授業内容	可分（分割）債権債務について、それが民法の原則であること、不可分債権債務関係についての説明
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
3回	授業内容	（前回授業の続き）連帯債務、不真正連帯債務、その具体例についての説明
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
4回	授業内容	保証債務について、単純保証と連帯保証、その比較（催告の抗弁権、検索の抗弁権）
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
5回	授業内容	（前回授業の続き）共同保証（分別の利益）、根保証、身元保証、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6回	授業内容	債権譲渡に関する総論、その沿革と意義（法鎖から財貨へ）、更改との違い、移転との違い、引受との関係、その機能、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7回	授業内容	指名債権と指図債権について、譲渡の対抗要件（通知または承諾）、債権譲渡に関する主要論点の説明、指名債権の二重譲渡の処理に関する判例理論、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8回	授業内容	（前回授業の続き）指名債権の二重譲渡の処理に関する判例理論、到達時説、確定日付説、同時到達の処理、弁済供託、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
9回	授業内容	債務引受とは、併存的債務引受、免責的債務引受、その具体例
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
10回	授業内容	（前回授業の続き）債権譲渡、債務引受のまとめ、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み

	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
--	------	----------------

◆授業計画

11 回	授業内容	債権債務の消滅原因について、その総論、どのようなものがあるのか（弁済・相殺・更改・免除・混同）、弁済が基本、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
12 回	授業内容	弁済とは、本旨弁済、代物弁済、弁済供託、表見受領権者に対する弁済、弁済の提供とその効果、弁済充当、代位弁済、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
13 回	授業内容	相殺とは、相殺の機能、差引計算、担保的機能、債権譲渡と相殺、差押えと相殺、その他の論点についての説明
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
14 回	授業内容	更改、免除、混同、相殺のまとめ、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
15 回	授業内容	債権譲渡の特則としての有価証券理論、債権法改正により商法理論から民法理論へ、総まとめ、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

◆授業概要

行政管理の原則及び機能、コミュニケーションの機能及び方向、リーダーシップ、稟議制、行政統制、情報公開、オンブズマン制度、行政相談、地方自治、戦前の官吏制と戦後の公務員制など、行政管理や行政統制を中心に学びます。

◆学修到達目標

(行政の実施過程において、行政の目標を明確に定め、公務に従事する職員の努力を通して、当該目標を統一的に実現するためには如何なることが必要なのか、また行政の実施過程において、行政全体を外部から、そして内部においてどのように統制したら良いのかを理解できるようにします。

◆授業方法

講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知り得た内容が如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。講義の中で、受講生の理解度を調べるための理解度チェックを行い、課題内容を説明します。受講に際しては、予習及び復習が必要になります。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング(後期)『行政学 A』(関根二三夫)との積み重ね不可

◆成績評価基準

試験70%、平常点30% ※試験同様、質問や理解度チェック等の平常点も重視しますので、受講に際しては欠席をしないように注意して下さい。

◆教科書

通材 『行政学 L30100』通信教育教材(教材コード 000084) 3,000円(送料込)

◆参考書

なし

◆授業相談先(連絡先)

sekine.fumio@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	行政管理の原則
	事前学修	テキストの第7章第1節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
2回	授業内容	行政管理の機能
	事前学修	テキストの第7章第2節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
3回	授業内容	コミュニケーションの機能
	事前学修	テキストの第7章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
4回	授業内容	コミュニケーションの方向
	事前学修	テキストの第7章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
5回	授業内容	リーダーシップ
	事前学修	テキストの第7章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
6回	授業内容	稟議制
	事前学修	テキストの第8章第3節を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
7回	授業内容	行政統制一外在的統制
	事前学修	テキストの第5章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
8回	授業内容	行政統制一内在的統制
	事前学修	テキストの第11章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
9回	授業内容	情報公開の意義及び沿革
	事前学修	テキストの第10章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
10回	授業内容	情報公開とプライバシーの保護
	事前学修	テキストの第10章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
11回	授業内容	オンブズマン制度
	事前学修	テキストの第12章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
12回	授業内容	行政相談
	事前学修	テキストの第11章を熟読すること。
	事後学修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	地方自治
	事 前 学 修	テキストの第3章を熟読すること。
	事 後 学 修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
14 回	授 業 内 容	戦前の官吏制から戦後の公務員制へ
	事 前 学 修	テキストの5章第4節を熟読すること。
	事 後 学 修	講義で知り得た内容を整理し、ノートに纏めること。
15 回	授 業 内 容	講義内容の総括
	事 前 学 修	学修した内容を再度確認すること。
	事 後 学 修	テキストの記述とノートの記述とを比較し、内容を理解すること。

◆授業概要

『万葉集』の東国の歌を読む。地域的には関東や東北の歌であり、内容的には陸奥、東国、防人の人々の発想や心情について、風土との関わりから読み解く。

◆学修到達目標

文学と風土との関わりについて、『万葉集』の歌を例として学修することで、文学作品を読み解く一つの視点や方法を身につけ、文学作品の理解について説明できることを目標とする。卒業論文や国語科教育にも役立てて欲しい。

◆授業方法

『万葉集』の東国の歌を理解するための風土的、時代的背景などについてオンライン授業とする。手元に『万葉集』のテキストを置いて受講して欲しい。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング(前期)『国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ』(近藤健史)とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

レポート80%、授業参画度20%

◆教科書

『訳文万葉集』森淳司 笠間書院 新装版2007年

『万葉集』全歌が掲載されているもの。

◆参考書

『東歌・防人歌』近藤信義 笠間書院 2012年

『万葉集東歌、防人歌の心』坂下圭八 新日本新書 2001年

注釈書「新日本古典文学体系」(岩波)全4冊や「新編日本1古典文学全集」(小学館)全4冊など図書館で。

◆授業相談先(連絡先)

Classroom上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	授業の進め方、風土。
	事前学修	『万葉集』に関する基本的なことを調べておくこと。
	事後学修	『万葉集』20巻を概観して理解を深める。
2回	授業内容	『万葉集』の成立事情。
	事前学修	入門書などで『万葉集』の構造や成立などについて調べておくこと。
	事後学修	東歌や防人歌以外にどのような内容別分類の歌があるか確認して理解を深める。
3回	授業内容	『万葉集』における「東歌」の在り方・特徴など。
	事前学修	「東歌」が『万葉集』のどの巻にあるか調べておくこと。
	事後学修	「東歌」の特徴について確認して理解を深める。
4回	授業内容	『万葉集』の「防人歌」
	事前学修	防人についての時代背景を調べておくこと。

	事後学修	「防人歌」の特徴について確認して理解を深める。
5回	授業内容	東国の歴史と文化・風土
	事前学修	「あづま」と呼ばれる地域の範囲などについて調べておくこと。
	事後学修	「えみし」と呼ばれた古代東国人の背景について確認して理解を深める。
6回	授業内容	万葉歌の「東国」・「陸奥」のイメージ
	事前学修	枕詞「とりがなく」について調べておくこと。
	事後学修	歌を読む前と後で東国のイメージを確認してみる。
7回	授業内容	東国「みちのく」の歌を読む。
	事前学修	「陸奥」の表現のある歌を調べておくこと。
	事後学修	当時の「都」と「陸奥」との関係を確認して理解を深める。
8回	授業内容	東国の歌・巻頭5首を読む。
	事前学修	大伴家持と東国との関係を調べておくこと。
	事後学修	東国風の歌・都風の歌の存在の意味を確認して理解を深める。
9回	授業内容	東歌を読む（1）
	事前学修	東歌の相聞歌について調べておくこと。
	事後学修	東歌の相聞的要素の背景について確認して理解を深める。
10回	授業内容	東歌を読む（2）
	事前学修	防人歌の作者と出身地について調べておくこと。
	事後学修	出身地域と歌の特色について理解する。
11回	授業内容	東歌の富士山の歌を読む。
	事前学修	富士山信仰について調べておくこと。
	事後学修	山部赤人や高橋虫麻呂の富士山歌と比較して理解を深める。
12回	授業内容	防人歌を読む。
	事前学修	歌の背景として「防人」の制度について調べておくこと。
	事後学修	歌に現れた防人たちの意識を確認して理解する。
13回	授業内容	防人たちの妻たちの歌を読む。
	事前学修	防人歌の「妻」が詠まれている歌を調べておくこと。
	事後学修	防人歌の特徴について理解する。
14回	授業内容	各国の防人歌一首を鑑賞する。
	事前学修	国別に分類されている歌を読んでおくこと。
	事後学修	諸国の防人歌の特徴を理解する。
15回	授業内容	大伴家持の防人歌を読む。
	事前学修	巻20の防人歌84首の中にある家持歌20首を読んでおくこと。
	事後学修	防人歌から刺激を受けて詠んだ家持歌であることを理解する。

◆授業概要

表計算ソフト（MSエクセル）を用いて、アンケート調査などに必要な仮説検定と多変量解析（重回帰分析）の基礎を理解する。また、仮説検定の理論的前提条件（大数の定理，中心極限定理，分散，正規性と線形性，信頼区間など）を理解する。統計学の課題を通じて表計算ソフトの活用法を学習していきます。

◆学修到達目標

仮説検定や多変量解析（重回帰分析）の基礎を理解し、その前提条件を正確に説明できる。また、様々なデータの適切な統計処理を提案することができる。

◆授業方法

基本的にはコンピュータを用いて実習しますが、表計算ソフト（MSエクセル）の必要な知識については必要に応じて講義形式で学習します。

◆履修条件

表計算ソフトの基本的操作（相対参照・絶対参照，ファイル操作，グラフ作成）を行えること，さらに，メールで課題提出を行うので Nu-Mail が使えることが望ましい。2021 年度昼間スクーリングの「情報概論」の前期，もしくは後期のみの受講も可能ですが，学修効果をあげるため，前期・後期の連続受講が望ましい。2021 年度の夜間スクーリング（秋期）「情報概論」との積み重ね不可。

なお，本講義では WindowsPC の利用限定とします。

◆成績評価基準

授業参加度（30%），平常課題（70%）により総合的に評価します。

※演習形式の授業なので，毎回出席することを前提に評価します。

◆教科書

市販本 『統計学がわかる（ファーストブック）』 向後 千春，富永 敦子 技術評論社 2007 年

市販本 『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（ファーストブック）』 向後 千春，富永 敦子 技術評論社 2008 年

資料配布 (Classroom) Classroom 内で講義動画と講義料を配布しますので，授業を受講する際は，必ず配布資料を各自のパソコンにダウンロードしておいてください。

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

通信教育部 3 号館 3 階 302 研究室

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 22183999 日大通子」

※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

◆授業計画

1 回	授 業 内 容	講義に進め方と統計計算の基本（平均と分散）と利用範囲を理解します。
	事 前 学 修	統計計算は何を目的としているかを各自調べておいてください。
	事 後 学 修	配布資料に基づき基本関数統計処理の必要性い方について理解すること。
2 回	授 業 内 容	表計算ソフトの基本操作と表計算ソフトの基本関数の習得を目指します。
	事 前 学 修	表計算ソフトの基本（相対参照・絶対参照）について確認しておくこと。また、表計算ソフトの基本関数（平均、合計、順位等）について確認しておくこと。
	事 後 学 修	配布資料に基づき基本関数の使い方について理解すること。
3 回	授 業 内 容	表計算ソフトを使った統計の基本を理解することを目指します。
	事 前 学 修	大数の定理と中心極限定理について調べて、その内容を確認しておくこと。
	事 後 学 修	配布資料に基づき大数の定理と中心極限定理を理解すること。
4 回	授 業 内 容	統計分布について理解することを目指します。
	事 前 学 修	様々な統計分布について調査しておくこと。
	事 後 学 修	配布資料に基づき、各統計分布の意味を理解すること。
5 回	授 業 内 容	統計分布の信頼区間の考えを理解し、仮設検定の基本を習得すること。
	事 前 学 修	統計分布における信頼区間と棄却域の考えを調査しておくこと。
	事 後 学 修	配布資料に基づき、信頼区間と棄却域を理解し、仮設検定の基本的考えを習得すること。
6 回	授 業 内 容	カイ 2 乗検定を理解する。その上で計算結果に関する p 値と有効数字の取り扱いを理解する。
	事 前 学 修	カイ 2 乗検定を調査し、その統計処理の意味を理解しておく。
	事 後 学 修	配布資料に基づき、カイ 2 乗検定を理解し、エクセルでその処理方法を習得すること。

◆授業計画

7回	授 業 内 容	対応のない t 検定について理解し，その統計処理手順を習得する。
	事 前 学 修	対応のない t 検定について調査し，その考え方を理解しておく。
	事 後 学 修	配布資料に基づき，対応のない t 検定を理解し，エクセルでその処理方法を習得すること。
8回	授 業 内 容	対応のある t 検定について理解し，その統計処理手順を習得する。
	事 前 学 修	対応のある t 検定について調査し，その考え方を理解しておく。
	事 後 学 修	配布資料に基づき，対応のある t 検定を理解し，エクセルでその処理方法を習得すること。
9回	授 業 内 容	1 要因分散分析について理解し，その統計処理手順を習得する。
	事 前 学 修	分散分析について調査し，その考え方を理解しておく。
	事 後 学 修	配布資料に基づき，1 要因分散分析を理解し，エクセルでの処理方法を習得すること。
10回	授 業 内 容	2 要因分散分析について理解し，その統計処理手順を習得する。
	事 前 学 修	2 要因分散分析と 1 要因分散分析の違いを調査し，2 要因分散分析の考え方を理解しておく。
	事 後 学 修	配布資料に基づき，2 要因分散分析を理解し，エクセルでの処理方法を習得すること。
11回	授 業 内 容	相関と散布図について理解する。特にエクセルを使ったグラフ作成技術を習得する。
	事 前 学 修	相関について調査し，相関によって何が分かるかを理解しておく。
	事 後 学 修	各自のパソコンで散布図が作成できることを習得すること。
12回	授 業 内 容	相関係数を理解し，その処理方法を取得する。また，無相相関検定についても理解する。
	事 前 学 修	相関係数を調査し，その考えを理解しておく。
	事 後 学 修	配布資料に基づき，相関係数を理解し，エクセルでその処理方法を習得すること。
13回	授 業 内 容	回帰分析を理解し，その処理方法を習得する。
	事 前 学 修	単回帰分析を調べ，その意味を理解しておく。また，回帰分析の背景にある最小二乗法についても調査しておく。
	事 後 学 修	配布資料に基づき，単回帰分析処理を取得する。
14回	授 業 内 容	偏相関と偏回帰係数の関係と重回帰分析を理解し，その処理方法を習得する。
	事 前 学 修	重回帰分析を調べ，その意味を理解しておく。特に，偏相関係数との関係で，偏回帰係数を理解しておく。
	事 後 学 修	配布資料に基づき，重回帰分析処理を取得する。

◆授業計画

15 回	授 業 内 容	主成分分析と因子分析について理解する。
	事 前 学 修	主成分分析と因子分析とはどのような統計手法であるかを調査しておく。
	事 後 学 修	配布資料に基づき，主成分分析と因子分析の違いを理解する。

◆授業概要

TV を見ない日はあっても広告を見ない日はないと言っても過言でないくらい、広告は我々の生活に深く浸透している。この事を踏まえ、企業の広告戦略を概観しながら、人々の欲求を創造するコミュニケーション活動である広告を生活全体や文化といった広い視点での理解を目指す。尚、ブランド戦略などは実務による経験からのものを具体例として解説する。

◆学修到達目標

- 1 広告の意義とプロモーション戦略を理解する。
- 2 新たな製品・サービスを発売する際に、どのような広告活動によって消費者に認知されるべきかを検討し、そのブランドをどのように育成していくかを立案できるようになる。
- 3 ブランド力を強化し、当該ブランドを拡張する場合、どのような広告戦略を行うべきかを企画・検討できるようになる。

◆授業方法

本授業はオンデマンド形式で実施される。各回の動画の視聴時間は 45 分程度であり、配信期間は一週間である。各回の動画を視聴し、ノートを作成し動画内で指示されているテキスト頁を確認すること。毎回、視聴確認のフォームがあるので、Google classroom 上で各回の配信期間中に投稿すること。また、リアクションペーパーやレポートの指示がある回は、ノート、テキスト及び指示された資料を元に作成して、投稿すること。尚、授業方法の詳細は第 1 回目の時に、授業動画とは別の動画で説明する。

◆履修条件

前期：昼間スクーリング「広告論」との継続履修を前提としている。
令和 3 年度昼間スクーリング（後期）『広告論 A』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

レポート（60%）、リアクションペーパー（20%）、平常点（20%） 総合的に判断します。

◆教科書

市販本 雨宮史卓『広告コミュニケーション』八千代出版、2020 年

資料配布（Classroom） 必要に応じて Google classroom 上で資料を配布する。

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

常時、Google classroom の機能を用いて応じる。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	後期オンデマンド授業の進め方 広告とは何か？ブランドとは何か？
	事 前 学 修	前期の内容部分（テキスト第1章～第5章）を再読した上で、第6章を熟読し、広告コミュニケーションとブランド概念の関係性を把握しておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授 業 内 容	ブランドの基本的概念と役割
	事 前 学 修	テキスト135～146頁をよく読んでくること。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授 業 内 容	ブランドを軸としたマーケティング及び広告戦略の展開
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し、テキスト155～163頁をよく読んでくること。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキスト159頁の表におけるブランドの9項目を理解しておくこと。
4回	授 業 内 容	ブランド拡張と広告コミュニケーション
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し、配布資料に目を通した上で、テキスト164～167頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、配布資料の「ブランド拡張概念図」をノートに書き写しておくこと。
5回	授 業 内 容	製品ライフ・サイクル、ブランド・ライフサイクルと広告戦略
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し、テキスト171～187頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授 業 内 容	広告コミュニケーションと経験価値
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し、テキスト189～195頁をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、テキスト192頁の表をノートに書き写しておくこと。
7回	授 業 内 容	経験価値と総称ブランドの概念
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認した上で、テキスト195～209頁を熟読し、199頁の図が意味する内容を把握しておくこと。
	事 後 学 修	経済価値としての経験価値、及び総称ブランドの活用方法を理解した上で、207頁の図をノートに書き写して内容を理解しておくこと。

◆授業計画

8回	授業内容	フード・ビジネスの分類と食に対するブランド性
	事前学修	前回の授業のノートを確認した上で、テキスト第10章第1節を熟読し、食の分類方法を理解しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容	ストア・ブランドの機能と役割
	事前学修	前回の授業のノートを確認した上で、テキスト第10章第2節を熟読し、その中の図の違いを認識しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、製品ブランドとストア・ブランドの違いを確認した上で教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容	ロングセラー・ブランドに対する広告の役割
	事前学修	配信資料によく目を通してこること。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容	市場と広告
	事前学修	前回の授業のノートを確認し、配信資料に目を通してここと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、市場の種類を把握しておくこと。
12回	授業内容	広告の文化・社会的要素
	事前学修	後期の終りが近いので、今までのノートをよく読み返しておくこと。また、前期に学修した「ポストモダン・マーケティング」の意味を辞書やテキスト等で再度調べ、理解しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
13回	授業内容	消費者インサイト
	事前学修	消費者インサイトを理解するためには、商品ベネフィット概念の知識が必要である。そのため、テキスト109～116頁を再読しておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当部分を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
14回	授業内容	後期授業の総まとめ（その1）
	事前学修	予め配信された資料を熟読し、テキスト該当箇所を事前にノートにまとめておくこと。
	事後学修	要点項目として配信資料に挙げたものを、再確認し授業内容をノートに整理しておくこと。
15回	授業内容	後期授業の総まとめ（その2）
	事前学修	前回の授業内で指摘した広告戦略の事例を、前もって調べておくこと。
	事後学修	授業内容を確認・理解して、自身が調べた広告戦略の事例が適切かどうかを再確認すること。

◆授業概要

法学（前半）において学んだ法学の基礎の理解を前提として、日本の基本法令である「六法」、すなわち、日本国憲法、民法、刑法、商法（会社法を含む）、民事訴訟法、刑事訴訟法について学修する。なお、「法学」の履修内容として、日本国憲法を含む、との指導があることから、日本国憲法を中心に履修する。

◆学修到達目標

法（憲）や法律（法学や法律学）の意義、沿革、機能、主要な法令の種類や内容がわかるようになる。併せて、社会生活において必然的に生起する諸問題の解決策を、法律を通して考えられるようになる。

◆授業方法

講義形式（オンデマンドを含む）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。

◆履修条件

他の担当教員の法学、および根本の法学・前半との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。

◆成績評価基準

全回出席（視聴を含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価 100%。

◆教科書

指定しない

◆参考書

通材 法学

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	わが国の主要な法令の種類や内容など
	事 前 学 修	法学（前半）最終授業回の板書事項の再確認（前半を受講した学生のみ、その他の学生は不要）
	事 後 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
2回	授 業 内 容	【国家と法】最高法規としての日本国憲法、総論
	事 前 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
	事 後 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
3回	授 業 内 容	統治機構、国を治める仕組み、国会（立法権）、内閣（行政権）、議院内閣制、大統領制との違いなど
	事 前 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
	事 後 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
4回	授 業 内 容	裁判所（司法権）、違憲立法審査権、人権保障の最後の砦、憲法保障、法の支配など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
5回	授 業 内 容	基本的人権、総論、人権の類型論、国民の基本的義務、自由権など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
6回	授 業 内 容	自由権、社会権など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
7回	授 業 内 容	受益権、参政権など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
8回	授 業 内 容	【財産と法】取引法としての民法の「財産法」部分、権利能力平等の原則など
	事 前 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
	事 後 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
9回	授 業 内 容	【財産と法】取引法としての商法、民法の特別法、商行為の特則、特別法は一般法に優先して適用される、など
	事 前 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
10回	授 業 内 容	【家族と法】身分関係を規律する民法の「親族法」部分、遺産相続を規律する民法の「相続法」部分、祭祀承継など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	【犯罪と法】罪と罰の法律、刑法総論、罪刑法定主義、犯罪構成要件該当性、違法性、有責性など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
12 回	授 業 内 容	刑法各論、個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
13 回	授 業 内 容	【裁判と法】実体法と手続法、裁判の種類、民事訴訟法、刑事訴訟法、行政事件訴訟法、私的紛争の解決を目的とする民事訴訟法など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
14 回	授 業 内 容	実体的真実発見と被疑者・被告人の人権保障を目的とする刑事訴訟法など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
15 回	授 業 内 容	国や自治体の行政処分の違法性を審査する手続きとしての行政事件訴訟法、法学（後半）全体について補遺とおさらいなど
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認

◆授業概要

授業は Google Classroom 配信にて行う。当該科目は英語の初級者向けの、英文読解を中心とした科目である。今年、開催される東京オリンピックに向けてスポーツへの関心が高まっている。この科目では易しい英文で書かれたスポーツのトピックを読解し、演習問題を解くことで楽しく英語を身につけていく。

◆学修到達目標

英語の総合学習向けのテキストを使用し、英語の 4 技能 (Reading, Listening, Writing, Speaking) を無理なく学習できるようにする。基本的な文法が抜け落ちていると感じている受講者には苦手な部分を自分で補うために、簡単な文法のドリル等を授業と並行して、自宅学習することをお奨めする。授業では、短めの英文を読んでいき、日常生活に不自由しない程度の英語力 (例えば、英語の広告文が理解できる、英語で書かれたマニュアルが理解できる、SNS の英文を理解できる、発信できる等) を身につけたい。

◆授業方法

テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、英語の 4 技能のうち、主に reading のスキルを習得していく。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆履修条件

令和 3 年度昼間スクーリング (後期) 『英語 Q』 (中村則子) との積み重ね不可

◆成績評価基準

発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆教科書

市販本 Spotlight on Sports 金星堂 1900 円 (税別)

◆参考書

授業ガイダンスにて指示。

◆授業相談先 (連絡先)

授業配信日に Google Classroom コメント欄にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方や参考書等を説明する）
	事前学修	シラバスを読み、できる限り初回からテキストを入手して内容を見ておく。
	事後学修	ガイダンスで指示されたとおり、次回の授業に向けて準備する。
2回	授業内容	Unit7 Helping Your Opponent
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
3回	授業内容	Unit7 Helping Your Opponent
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
4回	授業内容	Unit8 Ghost Goals
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
5回	授業内容	Unit8 Ghost Goals
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
6回	授業内容	Unit9 Rituals and Superstitions
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
7回	授業内容	Unit9 Rituals and Superstitions
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
8回	授業内容	Unit10 The Cutting Edge
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
9回	授業内容	Unit10 The Cutting Edge
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
10回	授業内容	Unit11 Match-Fixing
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
11回	授業内容	Unit11 Match-Fixing
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
12回	授業内容	Unit12 Heroes Inspire Heroes
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	Unit12 Heroes Inspire Heroes
	事 前 学 修	今まで学習した部分のノートを整理し、質問事項等があればまとめておく。
	事 後 学 修	学習した部分のノートを確認暗記する。
14 回	授 業 内 容	復習、試験前準備
	事 前 学 修	試験勉強
	事 後 学 修	小テストの復習
15 回	授 業 内 容	試験と解説
	事 前 学 修	試験範囲の演習問題等を確認し、解答できるようにする。
	事 後 学 修	試験において記述した内容がどの程度適切であったかどうか、確認する。

◆授業概要

1Unit4 ページ、20Units からなる大学初級向けのコースブックを使い、1回の授業回にはほぼ2Units のペースで進む予定。各Unit はさらにPart 1とPart 2の2部構成となっている。Part 1では芸術、キャリア、文化、環境といった多様な話題を75～100語の平易な英文を読み、語彙チェック、内容確認、グラマーチェックを行う。Part 2では多彩な「図表」や「掲示」などの情報を読み解く力を養う。オンデマンド形式による。1Unit 4 ページ 20Units から成る大学初級レベル向けのコースブックを使い、1回にはほぼ2Units ずつ進む予定である。学期中に5回のquizを行う予定である。

◆学修到達目標

本講座受講により受講生は基本的な英語運用能力(読む、聴く、書く、話す)を総合的に高めることができる。語彙を増やし平易な英語で書かれた図や表、お知らせなどの情報を読み解く力をつけることができる。また英会話や英文読解の基本構文をマスターに効果的な training 法を体得することができる。

◆授業方法

受講者は予めシラバスに基づき、事前学修を行う。授業回に取り上げるUnitの問題を一通り解いておく。(予習してあることを前提に授業動画は作成してある。)次に期間中週に1回配信される動画を視聴し、解答解説を聴く。動画視聴後課題を作成し、Google Classroomに提出する。Quizや資料の授受、質疑応答などは全てGoogle ClassroomやNEmailにて行う。

令和3年度昼間スクーリング(後期)『英語 J』(八木茂那子)との積み重ね不可

◆履修条件

全回出席(動画を視聴)すること、課題を提出することを前提とする。各自自分のテキストを購入すること。

令和3年度昼間スクーリング(後期)『英語 P』(八木茂那子)との積み重ね不可

◆成績評価基準

Quiz(5回)20%+(レポート課題)60%+授業への参加度20%)による総合評価(クラスのレベルを考慮し、一定の基準になるよう調整を加えることがあります。)

◆教科書

市販本 『Reading Links 2』Andrew E. Bennett 著 (株)南雲堂 2021年

◆参考書

市販本 『ロイヤル英文法改訂新版 徹底例解』綿貫 陽著 旺文社

◆授業相談先(連絡先)

Classroom上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	(1)(授業前半) ガイダンス / (2)(授業後半) 効果的なトレーニング方法の紹介
	事前学修	テキストを購入し、テキストの内容をざっと見ておく。無料音声をダウンロードし試聴してみる。
	事後学修	第1回授業での既習事項の確認
2回	授業内容	Unit 1 Weather p.p.8-11 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 1 p.p.8-11 の練習問題を解き、授業日前日までに Google Classroom の「第2回授業」へ提出すること。
	事後学修	Unit の Reading の音読と既習事項の確認 Quiz 1 の準備
3回	授業内容	Unit 2 The Internet p.p.12-15 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 2 p.p.12-15 の練習問題を解き、授業日前日までに GoogleClassroom の「第3回授業」へ提出すること。 Quiz 1 の準備
	事後学修	各 Units の 音読既習事項の確認
4回	授業内容	(1) Unit 3 Animals p.p. 16-19 / (2) Unit 4 Friends p.p. 20-23 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 1
	事前学修	上記テキスト Unit 3 p.p.16-19/Unit 4 p.p.20-23 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第4回授業」へ授業日前日までに提出すること。 Quiz 1 の準備
	事後学修	各 Unit Reading の 音読と既習事項の確認 Quiz 2 の準備
5回	授業内容	(1) Unit 5 Helping Others p.p.24-27 / (2) Unit 6 Traveling p.p.28-31 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 5 & 6 p.p.24-31 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第5回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Unit の Reading の 音読と既習事項の確認 Quiz 2 の準備
6回	授業内容	Review Unit 1~Unit 6 英語運用能力を高めるための Activities を行う。 Quiz 2
	事前学修	Unit 1~Unit 6 の振り返り 英文の速写とスラッシュリーディングの課題を授業前日までに GoogleClassroom の「第8回授業」へ授業日前日までに提出すること。 Quiz 2 の準備
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 3 の準備
7回	授業内容	(1)Unit 7 Collections and Gifts p.p.32-35/(2)Unit 8 Careers p.p.36-39 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	既習事項の確認 各 Unit Reading の 音読と既習事項の確認 Quiz 3 の準備
	事後学修	Unit 7 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。

◆授業計画

8回	授業内容	(1)Unit 9 European Cultures p.p.40-43/Unit 10 Gifted Children p.p.44-47 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 3
	事前学修	上記テキスト Unit 9 &10 p.p.40-47 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第8回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 3の準備
	事後学修	各 Unit の音読と既習事項の確認 Quiz 4の準備
9回	授業内容	Unit 11 Restaurants p.p.48-51 / Unit 12 Transportation p.p.52-55 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 11&12 p.p.48-55 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第9回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認 Quiz 4の準備
10回	授業内容	Review Unit 7~Unit 12 英語運用能力を高めるための Activities を行う。Quiz 4の準備
	事前学修	Unit 7~Unit 12 の振り返り 英文の速写とスラッシュリーディングの課題を GoogleClassroom の「第10回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 4の準備
11回	授業内容	Unit 13 Homes p.p.56-59/Unit 14 Space p.p.60-63 H.W. Check その他 Quiz 4
	事前学修	上記テキスト Unit 13&14 p.p.56-63 の練習問題を解き、GoogleClassroom 「第11回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認 Quiz 5の準備
12回	授業内容	Unit 15 Personality p.p.64-67/Unit 16 Design and Fashion p.p.68-71 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 5
	事前学修	上記テキスト Unit 15&16 p.p.64-71 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第12回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz5の準備
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認
13回	授業内容	Unit 17 Asian Cultures p.p.72-75/Unit 18 Modern Life p.p.76-79 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 17&Unit18 p.p.72-79 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第13回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認

◆授業計画

14 回	授業内容	Unit 19 Growing Things p.p.80-83/Unit 20 Languages p.p.84-87 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 19&20 p.p.80-87 の練習問題を解き、Google Classroom 「第14回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認
15 回	授業内容	Review Unit 11~Unit 20
	事前学修	Unit 11~Unit 20 の振り返り 指定された Unit の英文の速写とスラッシュリーディングの課題を授業前日までに GoogleClassroom の「第15回授業」へ提出すること。
	事後学修	

◆授業概要

TOEIC L&R の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得するようにします。TOEIC 企業内研修講座実績や、アメリカの大学での ESL や TOEFL 講座の教育経験をもとに検定試験対策をより実践的に取り組むよう授業に反映します。

◆学修到達目標

TOEIC L&R 公開テストで大学生の平均点 568 点以上をクリアすることを目標とします。その為の基礎文法、速読速聴力、読解力、語彙力強化を図ります。又、音声の基礎知識を整理し、特有の話し言葉に慣れます。頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできます。

◆授業方法

前期後期の連続受験が望ましいです。リスニング (Part1~Part4) 及びリーディング (Part5~Part7) の練習問題形式のテキストに沿い、タスクベースで進行し、毎回 Google フォームにて課題回答を提出します。速読速聴、英語の基礎的な運用能力の構築から始め、毎回別冊の単語力確認テストを行います。シャドウイング練習や語彙テスト対策等を含む授業の事前事後学修は 1 時間を目安としています。質問等は授業前後又は、Gmail でお願ひします。

◆履修条件

令和 3 年度昼間スクーリング (後期) 『TOEIC C』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

オンデマンド授業における毎回の全提出課題点 (65%) + テスト課題スコアとして 70 問 (35%) により総合的に評価します。

◆教科書

市販本 『Effective Approaches to the TOEIC L&R TEST』スコアアップの為の総合英語 (改定新版) 南雲堂 2021

◆参考書

なし

◆授業相談先 (連絡先)

Classroom 上にて G メールにて行う

◆授業計画

1回	授業内容	Unit 1 PART1 物の位置と状態を聞き取る、PART5 語幹を共有する名詞、動詞、形容詞、副詞を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
2回	授業内容	Unit 2 PART 2 基本的な疑問文に応える PART 6 気をつけるべき英語の語順 PART 7 広告文を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト1の内容を解答できる。
	事前学修	Unit 2 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
3回	授業内容	Unit 3 PART 3 電話での会話 PART 5 数にからんだ語の用法 ① PART 4 スピーチを理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト2を解答できる。
	事前学修	Unit 3 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
4回	授業内容	Unit 4 PART 6 数にからんだ語の用法 ②PART 7 チャットのやりとりを理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト3を解答できる。
	事前学修	Unit 4 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
5回	授業内容	Unit 5 PART 1 人物の動作と様子 PART 5 ねらわれやすい現在形と未来を表す表現を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト4を解答できる。
	事前学修	Unit 5 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
6回	授業内容	Unit 6 PART 2 いろいろな Wh- 疑問文 PART 6 ねらわれやすい過去形と完了形の表現 PART 7 図表と文書を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 6 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
7回	授業内容	Unit 7PART 3 カジュアルな日常会話 PART 5 比較がらみの表現 ① PART 4 録音メッセージ・広告を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 7 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
8回	授業内容	Unit 8 PART 6 比較がらみの表現 ② PART 7 雑誌・新聞の記事を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 8 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。

◆授業計画

9回	授業内容	Unit 9 PART 1 建物・乗り物と周りとの関係 PART 5 文と文との結びつきの表現 ①PART 2 いろいろな形の問いかけに対応す を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 9 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
10回	授業内容	Unit 10 PART 6 文と文との結びつきの表現 ② PART 7 人材募集と応募の手紙を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 10 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
11回	授業内容	Unit 11PART 3 同僚との多様なやりとり PART 5 V-ing と V-ed の使い分け ① PART 4 案内放送を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 11 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
12回	授業内容	Unit 12 PART 6 V-ing と V-ed の使い分け ② PART 7 お知らせ文を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 12 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
13回	授業内容	Unit 13, 14 PART 1 複数の人物の様子 PART 5 まぎらわしい動詞の語形、意味、語法 PART 2 How と Why の広がる意味とその応答 PART 6 まぎらわしい前置詞の表現 PART 7 説明文とレシピを理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 13, 14 の問題を解いてくる
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
14回	授業内容	Unit 15, 16, 17PART 3 ビジネス会話 PART 5 不定詞の重要表現① PART 4 ガイドの説明 PART 6 不定詞の重要表現 ② PART 7 社内文書 PART 1 風景写真・人物と背景写真の描写 PART 5 条件と仮定法の表現 ①を理解し、それに対応する問題を解答できる。(期末テスト課題1)
	事前学修	Unit 15, 16, 17 の問題を解いてくる
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
15回	授業内容	Unit 18, 19, 20 PART 2 特殊疑問文にすばやく反応 PART 6 条件と仮定法の表現 ② PART 7 トリプルパッセージ PART 3 オフィス内の会話 PART 5 疑問詞か関係詞か接続詞の that か PART 4 ニュース PART 6 助動詞の用法 PART 7 製品などの説明書を理解し、それに対応する問題を解答できる。(期末テスト課題2)
	事前学修	Unit 18, 19, 20 の 問題を解いてくる
	事後学修	前期授業の学習内容を確認する。

◆授業概要

英語学の根幹をなすについて基礎的・一般的な分野から専門的な事項まで幅広く概観します。

◆学修到達目標

英文学専攻の学生として必要な英語学の知識を修得し、英語学とは何か、意味論・語用論とは何か、詳細に説明できるようになる。

◆授業方法

テキスト本文の解説、補足説明を行います。「設問」の解答は事前に準備しておいてください。また、必要に応じて担当講師が用意する練習問題も行います。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

全回出席(視聴)を前提に、試験100%で評価の予定。

◆教科書

『英語学概説』通信教育部教材(教材コード000) (この本は『日英対照 英語学の基礎』(くろしお出版)と同じです)

◆参考書

『明解言語学辞典』三省堂

『最新英語学・言語学辞用語典』開拓社

その他の英語学入門書、概説書なら何でも結構です。

◆授業相談先(連絡先)

Google Classroomのストリームでご質問下さい。

◆授業計画

1回	授業内容	第5章 語彙意味論 1 語の意味 2 意味関係
	事前学修	テキスト p. 118-p. 126 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
2回	授業内容	第5章 語彙意味論 3 多義
	事前学修	テキスト p. 126-p. 129 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
3回	授業内容	第5章 語彙意味論 4 名詞の意味：加算と不可算
	事前学修	テキスト p. 129-p. 135 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
4回	授業内容	第5章 語彙意味論 5 動詞の意味
	事前学修	テキスト p. 135-p. 144 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。

5回	授業内容	第6章 認知意味論 1 認知言語学 2 カテゴリー化とプロトタイプ
	事前学修	テキスト p. 148-p. 155 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
6回	授業内容	第6章 認知意味論 3 メトニミー
	事前学修	テキスト p. 155-p. 158 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
7回	授業内容	第6章 認知意味論 4 語の意味
	事前学修	テキスト p. 158-p. 161 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
8回	授業内容	第6章 認知意味論 5 抽象概念とメタファー
	事前学修	テキスト p. 161-p. 170 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
9回	授業内容	第6章 認知意味論 6 事態の解釈 7 概念融合
	事前学修	テキスト p. 170-p. 175 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
10回	授業内容	第7章 語用論 1 語用論という領域 2 発話の論理形式
	事前学修	テキスト p. 178-p. 183 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
11回	授業内容	第7章 語用論 3 表意
	事前学修	テキスト p. 183-p. 189 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
12回	授業内容	第7章 語用論 4 推意
	事前学修	テキスト p. 189-p. 191 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
13回	授業内容	第7章 語用論 5 概念的情報を持つ表現 6 手続き的情報を持つ表現
	事前学修	テキスト p. 191-p. 197 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
14回	授業内容	第7章 語用論 7 記述的使用と帰属的使用 8 日英比較
	事前学修	テキスト p. 197-p. 204 を読み、問題点を整理しておく。
	事後学修	学修内容をまとめ、理解を深めておく。
15回	授業内容	試験とその解説
	事前学修	5章～7章の総復習をしておく。
	事後学修	5章～7章のまとめをし、理解を完璧にする。

◆授業概要

福井憲彦『歴史学入門』（岩波書店）を講読しながら、現代歴史学がどのような考えにもとづいて研究され、どのような成果を生み出してきたかを講義する。

◆学修到達目標

社会史、史料論、地域、ネットワーク、身体、ソシアビリテ、記憶など……変貌を遂げた現代歴史学がどのような考えにもとづいて研究され、どのような成果を生み出してきたかを理解する。

◆授業方法

オンデマンド授業及び Google Classroom を使用。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『史学概論』（高綱博文）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

毎回提出の確認ペーパー及び最終レポート試験

◆教科書

『歴史学入門』福井憲彦、岩波書店、2006年。

◆参考書

授業中に適時指示する。

◆授業相談先（連絡先）

takatsuna.hirofumi@nihon-u.ac.jp （連絡する際には学科・学生番号・氏名を明記）

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス
	事前学修	テキストの通読
	事後学修	ガイダンスの要点を確認
2回	授業内容	歴史への問い／歴史からの問い
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
3回	授業内容	証拠としての史料・資料①
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
4回	授業内容	証拠としての史料・資料②
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
5回	授業内容	歴史の舞台としての環境
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
6回	授業内容	時間の認識と時代区分
	事前学修	テキストの予習

	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
7回	授業内容	歴史の重層性と地域からの視線
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
8回	授業内容	グローバルな歴史の捉え方
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
9回	授業内容	身体と病と「生死観」
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
10回	授業内容	歴史人口学が拓いた地平
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及びリアクションペーパーの作成
11回	授業内容	人と人を結ぶもの
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
12回	授業内容	比較というまなざし
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
13回	授業内容	政治と文化の再考
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
14回	授業内容	歴史と記憶または歴史と現在
	事前学修	テキストの予習
	事後学修	復習及び確認ペーパーの作成
15回	授業内容	最終レポート試験
	事前学修	最終レポート試験の準備
	事後学修	テキスト及び講義の復習

◆授業概要

IT 技術やデジタル社会の進展に伴い、データ活用能力を身に付けることが不可欠である。本講義では、データサイエンスの基礎力の向上を目指し、データ分析に必要な統計学の基礎を学ぶ。また、表計算ソフト（MS エクセル）を用いて、e-Stat の統計データを活用し、データリテラシーについて文理融合に取り組むことで、データの読み解き、可視化、そして適応分析、活用する能力を身に付けていく。また、できるだけ身近な事例を用いて解説するように心掛け、実務経験から得た知識を具体例として挙げる。

◆学修到達目標

エクセルの基本操作に習熟するとともに、データリテラシーの知識を学ぶことができる。具体的には、統計量、ヒストグラム、箱ひげ図、散布図、回帰分析などを理解し、次の内容を習得することを目標とする。

1. インターネット上からのデータ取得の入手方法を習得できる。
2. データの特徴を読み解き、理解できる。
3. 様々なデータの内容に応じて適切な分析を行う手法を習得できる。

◆授業方法

この講義では、エクセルの応用としてグラフの作成などを学び、初歩のデータ分析・解析について講義と演習を交えながら理解を進めていく。講義形式では各分析手法を解説する。演習ではコンピュータを操作しながら、課題を通じて分析手法、解析技術の習得を目指す。授業の内容をノートに整理する。

◆履修条件

特になし。本講義では表計算ソフト（MS エクセル）を利用する。

◆成績評価基準

最終課題（50%）+演習課題（50%）により総合的に評価する。

◆教科書

資料配布（Classroom） 必要に応じて資料を配布する。

◆参考書

市販本 『30時間でマスターExcel2016I』 実教出版 2016年

市販本 『データサイエンス入門（データサイエンス大系）』 竹村彰通、姫野哲人、高田聖治編、
学術図書 2019年

◆授業相談先（連絡先）

オンデマンド授業においては Google Classroom 上にて行う。授業中 E-mail を公開する。必ず件名欄に学籍番号と氏名を記入すること。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	・ガイダンス（授業の進め方と学習法、予習・復習） ・データサイエンスの役割
	事 前 学 修	データサイエンスの役割を調べておくこと。
	事 後 学 修	データサイエンスの概念と役割を理解する。
2回	授 業 内 容	データの入手方法
	事 前 学 修	e-Stat 政府統計データを事前閲覧。
	事 後 学 修	インターネット上から公的統計データの入手方法について理解する。
3回	授 業 内 容	データの読み方（1） データの代表値
	事 前 学 修	平均値、中央値、最頻値の概念を確認する。
	事 後 学 修	データの代表値を理解する。
4回	授 業 内 容	データの読み方（2） データのばらつき
	事 前 学 修	分散、標準偏差の概念を確認する。
	事 後 学 修	位置の指標、散らばりの指標について理解する。
5回	授 業 内 容	データの読み方（3） 度数分布
	事 前 学 修	ヒストグラムを調べておくこと。
	事 後 学 修	ヒストグラムの描き方、読み取り方を理解する。
6回	授 業 内 容	データの読み方（4） データの分布
	事 前 学 修	箱ひげ図を調べておくこと。
	事 後 学 修	箱ひげ図の描き方、読み取り方を理解する。
7回	授 業 内 容	データの可視化（1） 棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ
	事 前 学 修	グラフの種類を調べておくこと。
	事 後 学 修	エクセルによるグラフの作成ができる。
8回	授 業 内 容	データの可視化（2） 3-D グラフ、複合グラフ、ドーナツグラフ、レーダー
	事 前 学 修	グラフの種類を調べておくこと。
	事 後 学 修	エクセルによるグラフの作成ができる。
9回	授 業 内 容	データの分析（1） 相関係数
	事 前 学 修	散布図と相関係数を確認する。
	事 後 学 修	相関係数の意味を理解する。
10回	授 業 内 容	データの分析（2） 回帰分析
	事 前 学 修	回帰分析の概念を調べておくこと。
	事 後 学 修	回帰分析の方法を理解する。
11回	授 業 内 容	データの分析（3） 時系列データ
	事 前 学 修	時系列データの概念を調べておくこと。
	事 後 学 修	時系列解析の方法を理解する。

◆授業計画

12 回	授 業 内 容	課題演習（1） 政府統計データ
	事 前 学 修	統計調査データを閲覧する。
	事 後 学 修	演習を通じて理解を深める。
13 回	授 業 内 容	課題演習（2） アンケート調査データ
	事 前 学 修	母集団、標本など概念を確認する。
	事 後 学 修	演習を通じて理解を深める。
14 回	授 業 内 容	授業のまとめ
	事 前 学 修	全授業内容を復習すること。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理し、理解を深める。
15 回	授 業 内 容	最終課題と解説
	事 前 学 修	全授業内容を復習すること。
	事 後 学 修	最終課題の結果を確認し、理解する。

◆授業概要

「理想とする教師像」とはどのようなものか。本授業では、教職の意義、教員の資質、および教員の役割、教員の職務内容等に関する理解を深めることをねらいとしている。特に現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考えていくことにより、受講者が教職への意識を高めていくようにしていきたい。

◆学修到達目標

次の事項について理解を深め、教員としての意識を高めることができる。さらに教育者としての責務を認識し、ふさわしい行動をとることができるようになる。①教職の意義とは何か。②教員に必要とされる資質・能力とは何か。③学校教育という独特の社会における意義や教員の同僚性について。④教員の職務や身分上の問題について。⑤生徒の成長・発達差の理解。【以上を、歴史的、国際的、および現代の課題という点から作成した教材により考え、理解を深める】学修者は、以上の学びにより教員に必要とされる資質・技能が何であるかを考え深め、それを自身の課題としてとらえ、他者に説明することができるようになる。

◆授業方法

講義形式を中心とするが、アクティブ・ラーニング型の授業方式もとり入れるかについては検討する。アクティブ・ラーニング形式は、通常であれば個人の活動からペア学習、3人組み、4人組みと、授業回数毎に複雑さを増すようにし、取り扱う課題についても具体的で簡易なものから複雑で抽象的なものへと組み替えていく。今年度はそれがどの程度できるのかが課題となる。できる環境や条件を大学が整えることができない際はご容赦いただきたい。とにかく「教員集団としての考え方」という最終目標に近づいていけるように講義全体をデザインしていく。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバック（次の回）により、さらに学習効果があがるよう試みる。事後学修では説明文を中心に人前で話すための文章作成に取り組んでもらう。その説明文をもとに最終回で仮想集団面接のような発信の機会をつくる。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

◆教科書

なし

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	教職を履修する意味（学習指導・生活指導）。
	事前学修	自身が目指す「教職」についてのイメージを手元に「複数」書き出しておくこと。
	事後学修	「学校の存在意義」（教科指導・生活指導）について説明文を（短い論述で）まとめる。
2回	授業内容	教育における「他者理解能力」とは何か。
	事前学修	「わかる」（理解する）とはどのようなことか。その説明概念を（複数）考えておく。
	事後学修	学校でのコミュニケーションの意味や意義について（短い論述で）まとめる。
3回	授業内容	教員の一日の流れ。教員の成長を研修の記録から学ぶ。
	事前学修	教員と生徒との関係性に関するイメージすることを手元に「複数」書き出しておく。
	事後学修	生徒の成長に介在する教員の役割の重要性について、説明文を書く。
4回	授業内容	理想の教師に関するディスカッション。
	事前学修	教員に必要な資質と能力について「複数」書き出しておく。
	事後学修	他者の意見交換から学べたこととアクティブ・ラーニングの学習効果についてまとめる。
5回	授業内容	チーム学校（アクティブ・ラーニング形式の学習方法）。
	事前学修	チーム学校に関する文部科学大臣の文書等（資料）を読み、必要とされる理由を理解する。
	事後学修	学校という多様な教員と多様な生徒の集団（社会）での活動可能性について考える。
6回	授業内容	最近の子ども事情（青少年の問題行動）。
	事前学修	近年における児童生徒の問題行動に関する記事を読み、イメージをまとめておく。
	事後学修	青少年と「ストレス」の問題について、短い論述をまとめるトレーニングをする。
7回	授業内容	最近の子ども事情（いじめ問題に注目する）。
	事前学修	「いじめ」事件や対応のアクションプラン、法制度について記事を集めて読む。
	事後学修	「いじめ」への教員の立ち位置（自身の考え）をスピーチ原稿としてまとめる。

◆授業計画

8回	授業内容	最近の子ども事情（不登校児童への対応と理解の方法）。
	事前学修	「不登校」に関する記事等を読み、イメージをまとめておく。
	事後学修	「不登校」と「いじめ」問題を比較して、学校内外の社会事情も活かした対応を考案する。
9回	授業内容	最近の子ども事情に関する総括的ロールプレイ。
	事前学修	グループで検討する前提として、事前に告知する内容について調査を行う。
	事後学修	青少年の問題行動に対応する教員の立ち位置について、短い文での表現を工夫する。
10回	授業内容	教師観・教員養成の歴史の変遷（近代以降の教育）。
	事前学修	教員養成の歴史に関する文献や概説書を読んでおく。
	事後学修	教育発展の歴史について「教員」の視点からまとめる文章を記す。
11回	授業内容	諸外国の教員養成の仕組み。
	事前学修	日本以外の国の「教育（学校）」についてイメージをまとめるメモを用意する。
	事後学修	欧米の教育との違いや共通点について短い文で論述できるようにする。
12回	授業内容	法令・法制度上における教員。
	事前学修	各種文献に載っている複数の「法令」類を一読しておく。
	事後学修	教育基本法の改正前後の教育改革の流れについてまとめる文章を書く。
13回	授業内容	現職教員の研修（向上する教員が求められる現代社会）。
	事前学修	各種審議会の答申や審議事項を（指定するので）読んでメモを作成する。
	事後学修	「教員に求められる資質・能力」の法令上における変化についてまとめる。
14回	授業内容	教育実習において求められる教員像（教員社会に求められる教員）。
	事前学修	各々の教科ごとの授業イメージをメモとしてまとめておく。
	事後学修	教育実習での実践事例をもとに「不安と期待」に関する論述をまとめる。
15回	授業内容	教育現場で求められる資質・技能とは何か。
	事前学修	これまでの課題を見直し、それぞれ1分間で話せるレベルでの要約を準備する。
	事後学修	学修した内容を自身で整理する。

◆授業概要

“CBS Evening News”と“CBS This Morning”の最新情報英文の要点を把握し、短時間で要約しながら理解を深め、読解問題にあたる。アメリカのニュースの映像と音声、語彙を task ベースで進み、サイトにて確認し、listening の基礎を理解し運用できるようにする。日本関連のニュースがアメリカでどのように受け止められているかを知るよい機会ともなる。

◆学修到達目標

CBS ニュースで、観察力や思索力を養いつつ、視野を広げながら生きた英語表現に触れることで、英文構造理解、語彙、読解、要約等のスキルを実践的に習得することができる。また、今までに培った基礎力を更に応用・発展的に伸ばしていく為に、Listening に慣れることで英語の Communicative Competence(言語運用能力)を更に高めることができる。

◆授業方法

ニュースを網羅した教科書の Reading 部分を中心にクラスルームによる課題提出、又は Zoom によるグループワークも取り入れながら、task ベースで進行する。各ユニット毎の Critical Thinking のレポートや、Listening や、シャドウイング練習、語彙力確認を含む授業の事前事後学修は、計 1 時間を目安としている。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

成績評価は期末テスト課題の合計（50％）に宿題提出物（50％）を加味して総合的に行う。

◆教科書

市販本 『CBS NewsBreak 5』熊井 信弘 / Stephen Timson 共著 SEIBIDO 2021

当日資料配布

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

初回授業時に直接ご案内します。

◆授業計画

1回	授業内容	授業の進め方、評価方法を説明をする。UNIT1 Language Lessons 小学生の英語の達人 を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	シラバス内容を確認の上授業に臨み、授業計画を確認する。
	事後学修	ガイダンスのおさらい、Unit 1 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
2回	授業内容	UNIT 2 UFood / Consumerism U.S. Consumers Waste Food アメリカにおけるフードロスを理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 2 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 2 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
3回	授業内容	UNIT 3 Sport / Wellness Keeping eSports Athletes in the Game eSports による心身への影響を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 3 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 3 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
4回	授業内容	UNIT 4Life Skills / Trend Adulthood Classes for Millennials ミレニアル世代のためのライフスキル速修クラス を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 4 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 4 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
5回	授業内容	UNIT 5 Public Health / Ecology Is Your Bottled Water Safe? ボトル入り飲料水は安全か を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 5 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 5 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
6回	授業内容	UNIT 6Health / Lifestyle Sleepless in Japan 日本人もアメリカ人も睡眠不足 を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 6 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 6 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
7回	授業内容	UNIT7 Global Warming / Environment Alarming New Climate Report 警鐘を鳴らす気候変動に関する報告 を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 7 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 7 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。
8回	授業内容	UNIT 8 Gender Equality / Activism Cracking the Dress Code: #KuToo Movement #KuToo 運動—ヒール・パンプス強制に NO !を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 8 の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 8 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。

◆授業計画

9回	授業内容	UNIT 9CONTENTS 1 UNIT Language / Human Interest Grammar Table Lady Offers Advice 文法に関することなら何でもアドバイスを理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 9の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 9の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。
10回	授業内容	UNIT 10 Holiday / Volunteerism Halloween Treats for Kids with Disabilities 全ての子供たちが楽しめるハロウィーンを理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 10の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 10の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。
11回	授業内容	UNIT 11Tourism / Economy A Tax on Tourism? 観光公害対策としての観光税の導入を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 11の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 11の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。
12回	授業内容	UNIT 12 Food Culture / Marketing Japan Really Loves Kit Kat Bars 日本式 Kit Kat の販売戦略を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 12の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 12の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。
13回	授業内容	UNIT 13Mental Health / Education Mindfulness: Schools in England Teach Students to Relax マインドフルネスーイギリスの学校でのリラックス法を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit13の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 13の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。
14回	授業内容	UNIT 14Communication /Generation Gap Connecting through Cursive 筆記体の文通で高齢者とつながる UNIT 15Lifestyle / Culture The Great Train Race: Rail Service in Japan and the U.S. 比べてみたーアメリカの鉄道と日本の鉄道を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit14, 15の問題を解いてくる。
	事後学修	Unit 14, 15の語彙を確認し、Readingの要約を書いてみる。
15回	授業内容	前期期末テスト課題を解く。
	事前学修	前期の学習内容を確認する。
	事後学修	前期期末テスト課題の間違いを確認する。

◆授業概要

授業は Google Classroom 配信にて行う。当該科目では忘れかけている英語の基礎文法を詳しく丁寧に学び直すことで英文の読解力を身につけていく。英語の基礎力を養うためには、演習問題を繰り返し解くことで、英文の構造を理解することが肝要である。英語文法の基礎的な問題を根気強く解答していく。

◆学修到達目標

英語の基礎的な文法を理解できるようにする。テキストの演習問題の中にある長文問題程度の英文であれば、読めるようにする。簡単な短文の英語であれば、ジャーナル等が書けるくらいの英語力を身につける。

◆授業方法

テキストに沿って、解説を読み、演習問題を行うことで、英語の文法の基礎を習得する。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容や演習問題の解答を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆教科書

市販本 English Primer (Revised Edition) 南雲堂 1900円 (税別)

◆参考書

授業ガイダンスにて指示

◆授業相談先 (連絡先)

配信日に Google Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方や参考書等を説明する）
	事前学修	シラバスを読み、できる限り初回からテキストを入手して内容を見ておく。
	事後学修	シラバスで指示されたとおり、次回の授業に向けて準備する。
2回	授業内容	Unit7 名詞・冠詞
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
3回	授業内容	Unit7 名詞・冠詞
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
4回	授業内容	Unit8 代名詞
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
5回	授業内容	Unit8 代名詞
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
6回	授業内容	Unit9 前置詞
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
7回	授業内容	Unit9 前置詞
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
8回	授業内容	Unit10 形容詞・副詞
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
9回	授業内容	Unit10 形容詞・副詞
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
10回	授業内容	Unit11 比較
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
11回	授業内容	Unit11 比較
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
12回	授業内容	Unit12 命令文・感嘆文
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	Unit12 命令文・感嘆文
	事 前 学 修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
14 回	授 業 内 容	復習、試験前準備
	事 前 学 修	今まで学習した部分のノートを整理し、質問事項等があればまとめておく。
	事 後 学 修	学習した部分のノートを確認暗記する。
15 回	授 業 内 容	試験と解説
	事 前 学 修	試験範囲の演習問題等を確認し、解答できるようにする。
	事 後 学 修	試験において記述した内容がどの程度適切であったかどうか、確認する。

◆授業概要

TOEIC L&R test は global な基準で英語の運用能力を測ることができる『ものさし』である。Listening Section 45分100問、Reading Section 75分100問の問題を休憩なしで解くのは容易なことではないように思われる。が高等学校1年修了レベルの文法力と中学～高等学校2年レベルの語い力、速読のスキルがあれば初級中級レベルの力でも正答できる問題の数は多くある。本講座では長年培ってきた TOEIC trainer としての実務経験を授業に反映させ TOEIC test は未経験、あるいは受験したことはあるが点数が伸びない初・中級者に対応可能な TOEIC Bridge L&R のテキストを使用し、将来受ける TOEIC L&R test 英語に必要な4技能のスキルアップを図る。またこれに効果的な種々のトレーニング方法を紹介、体得することを目指す。

◆学修到達目標

TOEIC L&R test 演習を通して実用英語の基礎を身に付け、TOEIC L&R test で350点を突破できるだけの基本的英語の理解運用能力を身に付けることができる。また更に長期的な展望に立ち、4技能（読む・聴く・話す・書く）の skill up に効果的な種々の training 方法を身に付けることができる。

◆授業方法

オンデマンド形式演習中心の授業を行う。受講者は毎回授業回までに予め事前学修し、学修予定のユニットの練習問題を解き、Google Classroom に課題を提出する。（期間中 テキストの全15Unitsのうち第2回はUnit 1、第3回Unit 2を一回に1Unit、その後は1回につきほぼ2Unitsずつのペースで進む予定。）動画の（1）ではListening Section, (2)ではReading Sectionを扱う。授業の前半でhomework check, Vocabulary checkを行う。次にListening UnitsのUseful Tipsで発音・リスニングの基本ルールを押える。またReading UnitsのGrammar Reviewにて簡単な文法解説を行う。更に必要に応じて開設を加えたり、skill upに効果的な種々のtrainingを紹介する。尚、学期中に5回のquizとTOEIC L&R testのmini testの実施、を過去問の紹介をする予定。

◆履修条件

全回出席すること、課題の提出することを前提とする。各自自分のテキストを購入すること。

◆成績評価基準

Quiz（5回）20%+（レポート課題）60%+TOEIC mini test 20%(換算)による総合評価（クラスのレベルを考慮し、一定の基準になるよう調整を加えることがあります。）

◆教科書

市販本 『Building TOEIC L&R test Skill(スキルアップ TOEIC L&R テスト)』 Tyler Burden、千葉剛、鄭 耀星他著 （株）南雲堂 2021年

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	(1)(動画前半) Guidance / (2)*(動画後半) Strategies
	事前学修	テキストを購入し、テキストの内容を見ておく。無料音声をダウンロードし聴いてみる。
	事後学修	既習事項の確認
2回	授業内容	Unit 1 Shopping (1) 〈Listening〉 p.7 Part 1 Photographs 写真描写問題 Part 2 Question-Response 応答問題 Part 3 Conversations 会話問題 Part 4 Talks 説明文問題 Homework check, Vocabulary Check, その他スキルアップのための基本的なトレーニングの紹介。
	事前学修	上記テキスト Unit 1 7-10 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第2回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 1 の準備
3回	授業内容	Unit 2 Shopping (2) 〈Reading〉 p. 11 Part 5 Incomplete Sentences 短文穴埋め問題 Part 6 Text Completion 長文穴埋め問題 Part 7 Reading Comprehension 1 つの文書 homework check, Vocabulary Check, その他スキルアップのための基本的なトレーニングの紹介。 Quiz 1
	事前学修	上記テキスト Unit 2 時間を計り、p. p. 11-16 の練習問題を解き、授業日前日までに GoogleClassroom の「第3回授業」へ提出すること。 Quiz 1 の準備
	事後学修	既習事項の確認
4回	授業内容	Unit 3 Food 〈Listening〉 p. 17 Part 1 Photographs 写真描写問題 Part 2 Question-Response 応答問題 Part 3 Conversations 会話問題 Part 4 Talks 説明文問題 / Unit 4 Food (2) 〈Reading〉 p. 21 Part 5 Incomplete Sentences 短文穴埋め問題 Part 6 Text Completion 長文穴埋め問題 Part 7 Reading Comprehension 2 つの文書
	事前学修	上記テキスト Unit 3 p. p. 17-20/Unit 4 p. p. 21-27 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第4回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 2 の準備

◆授業計画

5回	授業内容	Unit 5 Family (1) 〈Listening〉 28 Part 1 Photographs 写真描写問題 Part 2 Question-Response 応答問題 Part 3 Conversations 会話問題 Part 4 Talks 説明文問題 /Unit 6 Family (2) 〈Reading〉 33 Part 5 Incomplete Sentences 短文穴埋め問題 Part 6 Text Completion 長文穴埋め問題 Part 7 Reading Comprehension 3 つの文書 解答と解説 Quiz 2
	事前学修	上記テキスト Unit 5 & 6 p.p.28 - 39 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第5回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 2 の準備
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 3 の準備
6回	授業内容	Unit 7 Music (1) 〈Listening〉 40 Part 1 Photographs 写真描写問題 Part 2 Question-Response 応答問題 Part 3 Conversations 会話問題 Part 4 Talks 説明文問題/Unit 8 Music (2) 〈Reading〉 44 Part 5 Incomplete Sentences 短文穴埋め問題 Part 6 Text Completion 長文穴埋め問題 Part 7 Reading Comprehension 1 つの文書 解答と解説
	事前学修	上記テキスト Unit 7 & 8 p.p.40 - 49 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第6回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 4 の準備
7回	授業内容	Unit 9 Amusement (1) 〈Listening〉 50 Part 1 Photographs 写真描写問題 Part 2 Question-Response 応答問題 Part 3 Conversations 会話問題 Part 4 Talks 説明文問題 /Unit 10 Amusement (2) 〈Reading〉 54 Part 5 Incomplete Sentences 短文穴埋め問題 Part 6 Text Completion 長文穴埋め問題 Part 7 Reading Comprehension 2 つの文書解答と解説 Quiz4
	事前学修	上記テキスト Unit 9 & 10 p.p.50 - 60 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第7回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 4 の準備
	事後学修	既習事項の確認
8回	授業内容	TOEIC L&R mini test Listening section 解答・解説と弱点強化のためのトレーニング
	事前学修	TOEIC L&R mini Test (1)Listening sectionの問題を解き、授業前日までにGoogleClassroom の「第8回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認

◆授業計画

9回	授業内容	TOEIC L&R mini Test Reading section 解答・解説と弱点強化のためのトレーニング
	事前学修	上記 TOEIC L&R mini Test Reading section の問題を時間を計って2度解き、GoogleClassroom の「第9回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認
10回	授業内容	Unit 11 Pubs (1) 〈Listening〉 p.61 Part 1 Photographs 写真描写問題 Part 2 Question-Response 応答問題 Part 3 Conversations 会話問題 Part 4 Talks 説明文問題 /Unit 12 Pubs (2) 〈Reading〉 p.66 Part 5 Incomplete Sentences 短文穴埋め問題 Part 6 Text Completion 長文穴埋め問題 Part 7 Reading Comprehension 3つの文書 解答・解説
	事前学修	上記テキスト Unit 11&12 p.p61 - 73 の練習問題を解き、GoogleClassroom 「第10回授業」へ提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 5の準備
11回	授業内容	Unit 13 Countryside (1) 〈Listening〉 p.74 Part 1 Photographs 写真描写問題 Part 2 Question-Response 応答問題 Part 3 Conversations 会話問題 Part 4 Talks 説明文問題 /Unit 14 Countryside (2) 〈Reading〉 p.79 Part 5 Incomplete Sentences 短文穴埋め問題 Quiz 5
	事前学修	上記テキスト Unit 13 & 14 p. p.74 - 86 の練習問題を解き、GoogleClassroom 「第11回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認
12回	授業内容	Unit 15 Mini-TOEIC® Test 〈Listening〉 p.87 Part 1 Photographs 写真描写問題 Part 2 Question-Response 応答問題 Part 3 Conversations 会話問題 Part 4 Talks 説明文問題 の解答と解説他。
	事前学修	上記テキスト Unit 15 p.p.74-83 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第12回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認
13回	授業内容	Unit 15 Mini-TOEIC® Test 〈Reading〉 p.90 Part 5 Incomplete Sentences 短文穴埋め問題 Part 6 Text Completion 長文穴埋め問題 Part 7 Reading Comprehension 1つの文書解答・解説その他。
	事前学修	上記テキスト Unit 15 p.90-92 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第13回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認

◆授業計画

14 回	授 業 内 容	TOEIC L&R test 実践問題練習(2)(資料配布予定)の 解答・解説と 弱点強化のためのトレーニング
	事 前 学 修	上記の TOEIC L&R test の練習テストを解き、GoogleClassroom 「第14回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事 後 学 修	既習事項の確認
15 回	授 業 内 容	TOEIC L&R test 実践問題練習(2)(資料配布予定)の 解答・解説 弱点強化のためのトレーニング
	事 前 学 修	上記 TOEIC Test L&R test の練習問題を時間を計って2回解き GoogleClassroom の「第15回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事 後 学 修	既習練習問題の確認と弱点強化のためのトレーニング

◆授業概要

民法総則の後半部分を学修する。具体的には、民法の意義、法源（存在形式）、沿革、指導原理、私権の社会性、私権の主体、私権の客体、意思表示と法律行為、代理、無効と取消し、条件と期限、期間、時効、のうち、意思表示と法律行為から時効までを学修する。

◆学修到達目標

民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所ですした専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。

◆授業方法

講義形式（オンデマンドを含む）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。

◆履修条件

他の担当教員の民法 I、および根本の民法 I（前半）との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可

令和 3 年度昼間スクーリング（後期）『民法 I A』（根本晋一）との積み重ね不可

◆成績評価基準

全回出席（視聴を含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点 80%、授業態度や質疑応答 20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価 100%。

◆教科書

指定しない

◆参考書

通信教育教材 民法 I

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	法律行為と意思表示
	事前学修	民法I(前半)最終授業時の板書事項の再確認(後半から履修する学生は、これをする必要なし)
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
2回	授業内容	意思表示、サヴィニーの意思理論、意思の不存在と意思表示の瑕疵の区別、無効と取消し、意思主義と表示主義、改正民法による変更箇所など
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
3回	授業内容	【意思の不存在】心裡留保 第三者保護規定について
	事前学修	前回授業時の板書事項の再確認
	事後学修	その日のうちの板書事項の読み込み
4回	授業内容	通謀虚偽表示 改正点なし 民法94条2項の類推適用(判例理論)など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
5回	授業内容	錯誤 無効から取消しへ 第三者保護規定について
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6回	授業内容	【意思表示の瑕疵】詐欺・強迫 第三者の詐欺についての変更点 第三者保護規定について
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7回	授業内容	法律行為と意思表示まとめ 心裡留保・通謀虚偽表示における第三者と錯誤・詐欺における第三者の保護要件の違い、詐欺と強迫における第三者保護規定の有無など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8回	授業内容	代理制度、私的自治の補充と拡大、顕名主義、代理の三面関係など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

◆授業計画

9回	授 業 内 容	代理人の能力と権限、代理行為の効果帰属、任意代理と法定代理、復代理、自己契約と双方代理の禁止など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
10回	授 業 内 容	無権代理（広義）、狭義の無権代理、本人への効果不帰属、無権代理人の責任、表見代理は有権代理ではなく無権代理、表見代理の諸類型など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
11回	授 業 内 容	代理権授与の表示による表見代理、代理権踰超（代理権限外）の表見代理、代理権消滅後の表見代理など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
12回	授 業 内 容	狭義の無権代理と表見代理の関係、相手方の保護など。法律行為の付款について、条件と期限、条件と不確定期限の区別、期間計算など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
13回	授 業 内 容	時効、除斥期間との区別、取得時効と消滅時効、時効制度の趣旨、民法改正の影響など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
14回	授 業 内 容	時効の援用と放棄、時効の効果と私的自治の調和、時効の中断と停止、取得時効と登記、占有の承継など
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認
15回	授 業 内 容	消滅時効、民法改正との関係、民法 I（後半）全体の補遺とおさらいなど
	事 前 学 修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事 後 学 修	前回授業時の板書事項の再確認

◆授業概要

私たち日本人にも大きな影響を与えてきているヨーロッパ文明のルーツは、本講義で扱う中世という時代（11世紀から15世紀まで）にある。ヨーロッパ中世史の主要なトピックについて、講義を通して基本的な内容を理解してから、当時の史料の日本語訳、図像史料、または関連する映像や図版などに触れて、理解を深める。

◆学修到達目標

ヨーロッパ中世後半（西暦1000年から1500年まで）の歴史について、重要なテーマに関する当時の史料や関連資料に触れることによって学びを深め、各テーマのポイントを理解し、自分の感想や意見をまとめられるようになる。

◆授業方法

授業動画内容に沿って分割し、番号をつけています。まずは、全体を順に視聴して下さい。一度の視聴では分からなかった内容の動画は、重点的に繰り返し視聴して下さい。それでも不明な点については、随時質問を受け付けます。動画の中には、課題が含まれています。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

毎回提出してもらった課題で100%評価します。

◆教科書

毎回のテーマに関連する史料を配布します。

◆参考書

毎回のテーマに関連する参考資料を配布します。

◆授業相談先（連絡先）

yumyaoyama@icloud.com

◆授業計画

1回	授業内容	ヨーロッパ中世後半の歴史について、ポイントと特質を学びます。
	事前学修	世界史の教科書や資料集を読み直してきて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、内容を再確認してください。
2回	授業内容	騎士の暮らしについて学びます。
	事前学修	中世ヨーロッパの騎士について調べて概要をつかんできて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、中世ヨーロッパの騎士について自分のイメージをつくって下さい。
3回	授業内容	教会の役割について学びます。
	事前学修	中世ヨーロッパの教会について調べて概要をつかんできて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、中世ヨーロッパの教会について自分のイメージをつくって下さい。
4回	授業内容	修道院の暮らしについて学びます。
	事前学修	中世ヨーロッパの修道院について調べて概要をつかんできて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、中世ヨーロッパの修道院について自分のイメージをつくって下さい。
5回	授業内容	都市の暮らしについて学びます。
	事前学修	中世ヨーロッパの都市について調べて概要をつかんできて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、中世ヨーロッパ都市について自分のイメージをつくって下さい。
6回	授業内容	農村の暮らしについて学びます。
	事前学修	ヨーロッパ中世の農村について調べて概要をつかんできて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、中世ヨーロッパの農村について理解して下さい。
7回	授業内容	十字軍について、西ヨーロッパ側から（キリスト教側から）、学びます。
	事前学修	十字軍について調べて概要をつかんできて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、十字軍の意味について考えてみて下さい。
8回	授業内容	聖地巡礼について学びます。
	事前学修	キリスト教の巡礼について調べて概要をつかんできて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、巡礼の意味について考えて下さい。
9回	授業内容	商業・交易ネットワークについて学びます。
	事前学修	中世ヨーロッパの商業について調べてきて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、中世ヨーロッパの商業について自分のイメージをつくって下さい。
10回	授業内容	中世スコットランドの独立について学びます。
	事前学修	スコットランドについて調べてきて下さい。
	事後学修	授業内容を思い返して、スコットランドについて自分のイメージをつくって下さい。

◆授業計画

1 1 回	授 業 内 容	ジャンヌ・ダルクについて学びます。
	事 前 学 修	ジャンヌ・ダルクについて調べて概要をつかんできて下さい。
	事 後 学 修	授業内容を思い返して、ジャンヌ・ダルクについて自分のイメージをつくって下さい。
1 2 回	授 業 内 容	異端信仰の弾圧（魔女狩り）について学びます。
	事 前 学 修	異端審問について調べて概要をつかんできて下さい。
	事 後 学 修	授業内容を思い返して、いわゆる「魔女狩り」について自分のイメージをつくって下さい。
1 3 回	授 業 内 容	ヨーロッパからのユダヤ人の追放について学びます。
	事 前 学 修	ユダヤ教やユダヤ人について調べて概要をつかんできて下さい。
	事 後 学 修	授業内容を思い返して、ユダヤ人について自分のイメージをつくって下さい。
1 4 回	授 業 内 容	ペストの大流行について学びます。
	事 前 学 修	ペスト大流行について調べて概要をつかんできて下さい。
	事 後 学 修	授業内容を思い返して、ペスト大流行について自分のイメージをつくって下さい。
1 5 回	授 業 内 容	毎回の資料と映像をふり返し、まとめコメントを書きます。
	事 前 学 修	今までのプリントやノートを読み返しておいて下さい。
	事 後 学 修	中世後期ヨーロッパについて、自分の時代像をつくって下さい。

◆授業概要

われわれの生きるグローバルな資本主義経済の現在の状況を的確に理解し、未来を展望するためには、経済史の知識が不可欠である。経済史とは現在と過去、そして経済と歴史を結ぶ学問である。現在の経済は過去の遺産であり、その形成過程を知ることによって、われわれの立っている現在の位置を確かめることができる。現代の支配的な社会経済システムである近代資本主義や市場経済の成立・発展・変質の過程の把握を目指す。とりわけ第二次産業革命から 21 世紀現在までの国際経済の流れを重視する。

◆学修到達目標

西洋経済史にあらわれた諸問題の過程と原因、その帰結を学ぶことを通じて、現代社会を生きるための鋭い洞察力と論理的思考力を身につける。21 世紀の国際経済が抱える様々な問題とその背景を読み解く力を身につける。

◆授業方法

毎回の講義ではレジュメを配布し、授業計画通りに進めていくが、適宜、映像資料や新聞・雑誌記事なども利用する。また、担当者の専門であるアメリカ経済史に関しては隣接諸分野との関連や最新の研究動向も併せて紹介していく。映像資料を鑑賞する際にはコメントペーパーを書いてもらい、翌週の授業で頂いたコメントを紹介しつつ質問に答える。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

定期試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求めることもある。毎回出席することを前提として評価する。

授業態度、提出課題（30％） 定期試験（70％）

◆教科書

資料配布 (Classroom)

◆参考書

市販本 『エレメンタル欧米経済史』 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功 晃洋書店 2012 年

市販本 『あなたが歴史と出会うときー経済の視点から』 堺憲一 名古屋大学出版会 2009 年

市販本 『入門アメリカ経済 Q&A100』 坂出健・秋元英一・加藤一誠 中央経済社 2019 年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	第二次産業革命の時代
	事 前 学 修	シラバスをよく読んで授業内容の流れを確認しておく。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
2回	授 業 内 容	20世紀転換期のヨーロッパ経済
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
3回	授 業 内 容	20世紀転換期のアメリカ経済
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
4回	授 業 内 容	第一次世界大戦と戦時経済体制
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
5回	授 業 内 容	アメリカの大量生産体制と大衆消費社会
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
6回	授 業 内 容	ヨーロッパの戦後復興と相対的安定
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
7回	授 業 内 容	大恐慌とニューディール
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
8回	授 業 内 容	両大戦間期のヨーロッパ経済
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
9回	授 業 内 容	第二次世界大戦と戦時経済体制
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	第二次世界大戦後のアメリカ経済（1）
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
11 回	授 業 内 容	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済（1）
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
12 回	授 業 内 容	第二次世界大戦後のアメリカ経済（2）
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
13 回	授 業 内 容	第二次世界大戦後のヨーロッパ経済（2）
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
14 回	授 業 内 容	経済史から考える 21 世紀のグローバル経済
	事 前 学 修	参考文献を読んで単元についての理解を深める。
	事 後 学 修	レジュメを利用して講義内容のポイントをおさえ、重要語句等について調べる。
15 回	授 業 内 容	試験と解説
	事 前 学 修	これまでの各内容のポイントをまとめて復習しておく。
	事 後 学 修	課題の意図を理解して論理的な記述ができていたかどうかを確認する。

◆授業概要

本授業では、理論的で効果的な授業活動を協働作業（グループワーク）を通して考えてもらいます。4技能（5領域）すべてが統合された授業が理想的ではありますが、それは「1+1⇒2+1⇒3+1⇒4+1⇒…」のように積み重ねていくことで到達するものであるため、本授業では欲張らずに1つの活動に焦点をあてます。毎授業、授業担当者の実務経験に基づいたアドバイスを各グループあるいはクラス全体に行ないます。

◆学修到達目標

本授業では、以下の点を目標とします。

- ① 英語教授に関する理論を自ら学ぶことができる【個の大切さ】。
- ② それどう4技能（5領域）指導に活かすかをみんなで考えることができる【輪の大切さ】。
- ③ それを実践することができる。

良い授業を行なうためにはどうすれば良いのか、どのようなことが求められているのか、どのような方法論が存在し、効果的であるのかなどを日々考える態度・姿勢は本授業では特に重要となります。また、本授業だけでは有効な実践力を身につけるには質・量ともに不十分です。YouTube 等にある授業実践動画を視聴したり、「一人模擬授業」などをして、実践力を身につけることを習慣づけましょう。

◆授業方法

モデル授業案の中から1つ活動を選び、その活動がより理論的かつ効果的となるよう、協働作業を通して独自の授業活動を考案してもらいます。説明者と模擬授業者をそれぞれ1つずつ（計2名）選定し、発表してもらいます。計3回（予定）の模擬授業では、毎回扱う学年・単元・指導活動を変えて行ないます。

◆履修条件

英語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅳのいずれかの単位を1つでも修得していること

◆成績評価基準

授業参画度（100%）

※すべての授業に出席することを前提として評価する。特別な理由（教育実習・介護等体験・感染症など）なく欠席した場合、大幅な減点とする。

◆教科書

資料配布（Classroom）資料を配布します。

◆参考書

『英語授業ハンドブック 中学校編』 金谷憲（編集代表），大修館書店，2009年

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』 文部科学省

※開隆堂から出版されているものを購入するか、文部科学省のHPからダウンロードすることが可能

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編・英語編』 文部科学省

※開隆堂から出版されているものを購入するか、文部科学省のHPからダウンロードすることが可能

◆授業相談先（連絡先）

授業の前後、授業中、あるいはGoogleフォーム等を使って質問を受け付けます。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（本授業の進め方、学習指導案作成の意義について、グループ分け）
	事前学修	本授業のシラバスを熟読しておくこと
	事後学修	学習指導案作成の意義について正しく理解しておくこと。
2回	授業内容	授業の組み立て方について、グループ内討議（第1回模擬授業準備）
	事前学修	有益な案を考えたり、自らの案を支える理論を収集しておくこと
	事後学修	グループで話し合った内容を整理しておくこと
3回	授業内容	グループ内討議（第1回模擬授業準備）
	事前学修	有益な案を考えたり、自らの案を支える理論を収集しておくこと
	事後学修	グループで話し合った内容を整理しておくこと
4回	授業内容	グループ内討議（第1回模擬授業準備）
	事前学修	有益な案を考えたり、自らの案を支える理論を収集しておくこと
	事後学修	発表資料を作成し、期日までに提出すること（発表資料はDroboxにて回収予定）
5回	授業内容	第1回模擬授業（初日）
	事前学修	発表練習をしておくこと
	事後学修	期日までに発表グループへのフィードバックをすること（フィードバックはGoogleフォームにて回収予定）
6回	授業内容	第1回模擬授業（2日目）、グループ分け
	事前学修	発表練習をしておくこと
	事後学修	期日までに発表グループへのフィードバックをすること（フィードバックはGoogleフォームにて回収予定）

◆授業計画

7回	授業内容	グループ内討議（第2回模擬授業準備）
	事前学修	有益な案を考えたり、自らの案を支える理論を収集しておくこと
	事後学修	グループで話し合った内容を整理しておくこと
8回	授業内容	グループ内討議（第2回模擬授業準備）
	事前学修	有益な案を考えたり、自らの案を支える理論を収集しておくこと
	事後学修	グループで話し合った内容を整理しておくこと
9回	授業内容	グループ内討議（第2回模擬授業準備）
	事前学修	有益な案を考えたり、自らの案を支える理論を収集しておくこと
	事後学修	発表資料を作成し、期日までに提出すること（発表資料はDroboxにて回収予定）
10回	授業内容	第2回模擬授業（初日）
	事前学修	発表練習をしておくこと
	事後学修	期日までに発表グループへのフィードバックをすること（フィードバックはGoogleフォームにて回収予定）
11回	授業内容	第2回模擬授業（2日目）、グループ分け
	事前学修	発表練習をしておくこと
	事後学修	期日までに発表グループへのフィードバックをすること（フィードバックはGoogleフォームにて回収予定）
12回	授業内容	グループ内討議（第3回模擬授業準備）
	事前学修	有益な案を考えたり、自らの案を支える理論を収集しておくこと
	事後学修	グループで話し合った内容を整理しておくこと
13回	授業内容	グループ内討議（第3回模擬授業準備）
	事前学修	有益な案を考えたり、自らの案を支える理論を収集しておくこと
	事後学修	発表資料を作成し、期日までに提出すること（発表資料はDroboxにて回収予定）
14回	授業内容	第3回模擬授業（初日）
	事前学修	発表練習をしておくこと
	事後学修	期日までに発表グループへのフィードバックをすること（フィードバックはGoogleフォームにて回収予定）
15回	授業内容	第3回模擬授業（2日目）
	事前学修	発表練習をしておくこと
	事後学修	期日までに発表グループへのフィードバックをすること（フィードバックはGoogleフォームにて回収予定）

◆授業概要

1Unit4 ページ、20Units からなる大学初級向けのコースブックを使い、1回の授業回にはほぼ2Units のペースで進む予定。各Unit はさらにPart 1とPart 2の2部構成となっている。Part 1では芸術、キャリア、文化、環境といった多様な話題を75～100語の平易な英文を読み、語彙チェック、内容確認、グラマーチェックを行う。Part 2では多彩な「図表」や「掲示」などの情報を読み解く力を養う。オンデマンド形式による。1Unit 4 ページ 20Units から成る大学初級レベル向けのコースブックを使い、1回にはほぼ2Units ずつ進む予定である。学期中に5回のquizを行う予定である。

◆学修到達目標

本講座受講により受講生は基本的な英語運用能力(読む、聴く、書く、話す)を総合的に高めることができる。語彙を増やし平易な英語で書かれた図や表、お知らせなどの情報を読み解く力をつけることができる。また英会話や英文読解の基本構文をマスターに効果的な training 法を体得することができる。

◆授業方法

受講者は予めシラバスに基づき、事前学修を行う。授業回に取り上げるUnitの問題を一通り解いておく。(予習してあることを前提に授業動画は作成してある。)次に期間中週に1回配信される動画を視聴し、解答解説を聴く。動画視聴後課題を作成し、Google Classroomに提出する。Quizや資料の授受、質疑応答などは全てGoogle ClassroomやNEmailにて行う。

令和3年度昼間スクーリング(後期)『英語 P』(八木茂那子)との積み重ね不可

◆履修条件

全回出席(動画を視聴)すること、課題を提出することを前提とする。各自自分のテキストを購入すること。

令和3年度昼間スクーリング(後期)『英語 P』(八木茂那子)との積み重ね不可

◆成績評価基準

Quiz(5回)20%+(レポート課題)60%+授業への参加度20%)による総合評価(クラスのレベルを考慮し、一定の基準になるよう調整を加えることがあります。)

◆教科書

市販本 『Reading Links 2』Andrew E. Bennett 著 (株)南雲堂 2021年

◆参考書

市販本 『ロイヤル英文法改訂新版 徹底例解』綿貫 陽著 旺文社

◆授業相談先(連絡先)

Classroom上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	(1)(授業前半) ガイダンス / (2)(授業後半) 効果的なトレーニング方法の紹介
	事前学修	テキストを購入し、テキストの内容をざっと見ておく。無料音声をダウンロードし試聴してみる。
	事後学修	第1回授業での既習事項の確認
2回	授業内容	Unit 1 Weather p.p.8-11 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 1 p.p.8-11 の練習問題を解き、授業日前日までに Google Classroom の「第2回授業」へ提出すること。
	事後学修	Unit の Reading の音読と既習事項の確認 Quiz 1 の準備
3回	授業内容	Unit 2 The Internet p.p.12-15 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 2 p.p.12-15 の練習問題を解き、授業日前日までに GoogleClassroom の「第3回授業」へ提出すること。 Quiz 1 の準備
	事後学修	各 Units の 音読既習事項の確認
4回	授業内容	(1) Unit 3 Animals p.p. 16-19 / (2) Unit 4 Friends p.p. 20-23 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 1
	事前学修	上記テキスト Unit 3 p.p.16-19/Unit 4 p.p.20-23 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第4回授業」へ授業日前日までに提出すること。 Quiz 1 の準備
	事後学修	各 Unit Reading の 音読と既習事項の確認 Quiz 2 の準備
5回	授業内容	(1) Unit 5 Helping Others p.p.24-27 / (2) Unit 6 Traveling p.p.28-31 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 5 & 6 p.p.24-31 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第5回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Unit の Reading の 音読と既習事項の確認 Quiz 2 の準備
6回	授業内容	Review Unit 1~Unit 6 英語運用能力を高めるための Activities を行う。 Quiz 2
	事前学修	Unit 1~Unit 6 の振り返り 英文の速写とスラッシュリーディングの課題を授業前日までに GoogleClassroom の「第8回授業」へ授業日前日までに提出すること。 Quiz 2 の準備
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 3 の準備
7回	授業内容	(1)Unit 7 Collections and Gifts p.p.32-35/(2)Unit 8 Careers p.p.36-39 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	既習事項の確認 各 Unit Reading の 音読と既習事項の確認 Quiz 3 の準備
	事後学修	Unit 7 の語彙を確認し、Reading の要約を書いてみる。

◆授業計画

8回	授業内容	(1)Unit 9 European Cultures p.p.40-43/Unit 10 Gifted Children p.p.44-47 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 3
	事前学修	上記テキスト Unit 9 &10 p.p.40-47 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第8回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz 3 の準備
	事後学修	各 Unit の音読と既習事項の確認 Quiz 4 の準備
9回	授業内容	Unit 11 Restaurants p.p.48-51 / Unit 12 Transportation p.p.52-55 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 11&12 p.p.48-55 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第9回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認 Quiz 4 の準備
10回	授業内容	Review Unit 7~Unit 12 英語運用能力を高めるための Activities を行う。Quiz 4 の準備
	事前学修	Unit 7~Unit 12 の振り返り 英文の速写とスラッシュリーディングの課題を GoogleClassroom の「第10回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	既習事項の確認 Quiz 4 の準備
11回	授業内容	Unit 13 Homes p.p.56-59/Unit 14 Space p.p.60-63 H.W. Check その他 Quiz 4
	事前学修	上記テキスト Unit 13&14 p.p.56-63 の練習問題を解き、GoogleClassroom 「第11回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認 Quiz 5 の準備
12回	授業内容	Unit 15 Personality p.p.64-67/Unit 16 Design and Fashion p.p.68-71 Homework Check 解答と解説 他 Quiz 5
	事前学修	上記テキスト Unit 15&16 p.p.64-71 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第12回授業」へ授業日前日までに提出すること。Quiz5 の準備
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認
13回	授業内容	Unit 17 Asian Cultures p.p.72-75/Unit 18 Modern Life p.p.76-79 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 17&Unit18 p.p.72-79 の練習問題を解き、GoogleClassroom の「第13回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認

◆授業計画

14 回	授業内容	Unit 19 Growing Things p.p.80-83/Unit 20 Languages p.p.84-87 Homework Check 解答と解説 他
	事前学修	上記テキスト Unit 19&20 p.p.80-87 の練習問題を解き、Google Classroom 「第14回授業」へ授業日前日までに提出すること。
	事後学修	各 Units Reading の shadowing と既習事項の確認
15 回	授業内容	Review Unit 11~Unit 20
	事前学修	Unit 11~Unit 20 の振り返り 指定された Unit の英文の速写とスラッシュリーディングの課題を授業前日までに GoogleClassroom の「第15回授業」へ提出すること。
	事後学修	

◆授業概要

授業は Google Classroom 配信にて行う。当該科目は英語の初級者向けの、英文読解を中心とした科目である。今年、開催される東京オリンピックに向けてスポーツへの関心が高まっている。この科目では易しい英文で書かれたスポーツのトピックを読解し、演習問題を解くことで楽しく英語を身につけていく。

◆学修到達目標

英語の総合学習向けのテキストを使用し、英語の 4 技能 (Reading, Listening, Writing, Speaking) を無理なく学習できるようにする。基本的な文法が抜け落ちていると感じている受講者には苦手な部分を自分で補うために、簡単な文法のドリル等を授業と並行して、自宅学習することをお奨めする。授業では、短めの英文を読んでいき、日常生活に不自由しない程度の英語力 (例えば、英語の広告文が理解できる、英語で書かれたマニュアルが理解できる、SNS の英文を理解できる、発信できる等) を身につけたい。

◆授業方法

テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、英語の 4 技能のうち、主に reading のスキルを習得していく。まず CD で音声を確認し、英文を音読してから、その内容を発表してもらう。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆履修条件

令和 3 年度昼間スクーリング (後期) 『英語 G』 (中村則子) との積み重ね不可

◆成績評価基準

発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆教科書

市販本 Spotlight on Sports 金星堂 1900 円 (税別)

◆参考書

授業ガイダンスにて指示。

◆授業相談先 (連絡先)

授業配信日に Google Classroom コメント欄にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業の進め方や参考書等を説明する）
	事前学修	シラバスを読み、できる限り初回からテキストを入手して内容を見ておく。
	事後学修	ガイダンスで指示されたとおり、次回の授業に向けて準備する。
2回	授業内容	Unit7 Helping Your Opponent
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
3回	授業内容	Unit7 Helping Your Opponent
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
4回	授業内容	Unit8 Ghost Goals
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
5回	授業内容	Unit8 Ghost Goals
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
6回	授業内容	Unit9 Rituals and Superstitions
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
7回	授業内容	Unit9 Rituals and Superstitions
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
8回	授業内容	Unit10 The Cutting Edge
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
9回	授業内容	Unit10 The Cutting Edge
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
10回	授業内容	Unit11 Match-Fixing
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
11回	授業内容	Unit11 Match-Fixing
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。
12回	授業内容	Unit12 Heroes Inspire Heroes
	事前学修	上記の Unit をよく読み内容を理解し、発表できるようにしておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、英文をみて内容が言えるようにする。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	Unit12 Heroes Inspire Heroes
	事 前 学 修	今まで学習した部分のノートを整理し、質問事項等があればまとめておく。
	事 後 学 修	学習した部分のノートを確認暗記する。
14 回	授 業 内 容	復習、試験前準備
	事 前 学 修	試験勉強
	事 後 学 修	小テストの復習
15 回	授 業 内 容	試験と解説
	事 前 学 修	試験範囲の演習問題等を確認し、解答できるようにする。
	事 後 学 修	試験において記述した内容がどの程度適切であったかどうか、確認する。

◆授業概要

TOEIC L&R の出題問題の傾向を探り、慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力 (Communicative Competence) を習得するようにします。TOEIC 企業内研修講座実績や、アメリカの大学での ESL や TOEFL 講座の教育経験をもとに検定試験対策をより実践的に取り組むよう授業に反映します。

◆学修到達目標

TOEIC L&R 公開テストで大学生の平均点 568 点以上をクリアすることを目標とします。その為の基礎文法、速読速聴力、読解力、語彙力強化を図ります。又、音声の基礎知識を整理し、特有の話し言葉に慣れます。頻出会話表現等を身につけることで、日常生活やビジネス現場で必要とされる基礎的な英語力をもブラッシュアップできます。

◆授業方法

前期後期の連続受験が望ましいです。リスニング (Part1~Part4) 及びリーディング (Part5~Part7) の練習問題形式のテキストに沿い、タスクベースで進行し、毎回 Google フォームにて課題回答を提出します。速読速聴、英語の基礎的な運用能力の構築から始め、毎回別冊の単語力確認テストを行います。シャドウイング練習や語彙テスト対策等を含む授業の事前事後学修は 1 時間を目安としています。質問等は授業前後又は、Gmail でお願いします。

◆履修条件

令和 3 年度昼間スクーリング (後期) 『TOEIC A』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

オンデマンド授業における毎回の全提出課題点 (65%) + テスト課題スコアとして 70 問 (35%) により総合的に評価します。

◆教科書

市販本 『Effective Approaches to the TOEIC L&R TEST』スコアアップの為の総合英語 (改定新版) 南雲堂 2021

◆参考書

なし

◆授業相談先 (連絡先)

Classroom 上にて G メールにて行う

◆授業計画

1回	授業内容	Unit 1 PART1 物の位置と状態を聞き取る、PART5 語幹を共有する名詞、動詞、形容詞、副詞を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 1 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
2回	授業内容	Unit 2 PART 2 基本的な疑問文に応える PART 6 気をつけるべき英語の語順 PART 7 広告文を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト1の内容を解答できる。
	事前学修	Unit 2 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
3回	授業内容	Unit 3 PART 3 電話での会話 PART 5 数にからんだ語の用法 ① PART 4 スピーチを理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト2を解答できる。
	事前学修	Unit 3 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
4回	授業内容	Unit 4 PART 6 数にからんだ語の用法 ②PART 7 チャットのやりとりを理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト3を解答できる。
	事前学修	Unit 4 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
5回	授業内容	Unit 5 PART 1 人物の動作と様子 PART 5 ねらわれやすい現在形と未来を表す表現を理解し、それに対応する問題を解答できる。語彙テスト4を解答できる。
	事前学修	Unit 5 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
6回	授業内容	Unit 6 PART 2 いろいろな Wh- 疑問文 PART 6 ねらわれやすい過去形と完了形の表現 PART 7 図表と文書を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 6 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
7回	授業内容	Unit 7PART 3 カジュアルな日常会話 PART 5 比較がらみの表現 ① PART 4 録音メッセージ・広告を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 7 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。
8回	授業内容	Unit 8 PART 6 比較がらみの表現 ② PART 7 雑誌・新聞の記事を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 8 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。 シャドウイング練習をする。

◆授業計画

9回	授業内容	Unit 9 PART 1 建物・乗り物と周りとの関係 PART 5 文と文との結びつきの表現 ①PART 2 いろいろな形の問いかけに対応す を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 9 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
10回	授業内容	Unit 10 PART 6 文と文との結びつきの表現 ② PART 7 人材募集と応募の手紙を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 10 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
11回	授業内容	Unit 11PART 3 同僚との多様なやりとり PART 5 V-ing と V-ed の使い分け ① PART 4 案内放送を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 11 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
12回	授業内容	Unit 12 PART 6 V-ing と V-ed の使い分け ② PART 7 お知らせ文を理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 12 の問題を解いてくる。
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
13回	授業内容	Unit 13, 14 PART 1 複数の人物の様子 PART 5 まぎらわしい動詞の語形, 意味, 語法 PART 2 How と Why の広がる意味とその応答 PART 6 まぎらわしい前置詞の表現 PART 7 説明文とレシピを理解し、それに対応する問題を解答できる。
	事前学修	Unit 13, 14 の問題を解いてくる
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
14回	授業内容	Unit 15, 16, 17PART 3 ビジネス会話 PART 5 不定詞の重要表現① PART 4 ガイドの説明 PART 6 不定詞の重要表現 ② PART 7 社内文書 PART 1 風景写真・人物と背景写真の描写 PART 5 条件と仮定法の表現 ①を理解し、それに対応する問題を解答できる。(期末テスト課題1)
	事前学修	Unit 15, 16, 17 の問題を解いてくる
	事後学修	間違えた問題を解き直す。シャドウイング練習をする。
15回	授業内容	Unit 18, 19, 20 PART 2 特殊疑問文にすばやく反応 PART 6 条件と仮定法の表現 ② PART 7 トリプルパッセージ PART 3 オフィス内の会話 PART 5 疑問詞か関係詞か接続詞の that か PART 4 ニュース PART 6 助動詞の用法 PART 7 製品などの説明書を理解し、それに対応する問題を解答できる。(期末テスト課題2)
	事前学修	Unit 18, 19, 20 の 問題を解いてくる
	事後学修	前期授業の学習内容を確認する。

◆授業概要

日本国憲法とこれにかかわる事項について扱う。

憲法は、国の基本法である。この憲法には日本という国家の基盤や国家が保障する基本的人権などが規定されている。これを現実の憲法問題を交えながら学修していく。これにより、社会人として憲法にかかわるさまざまな問題を考えられるようにし、さらなる知的発見を得られる場とする。

◆学修到達目標

1. 憲法の内容について論理的かつ多角的に論じることができるようになる。
2. 国の仕組みやあり方について論じることができるようになる。
3. 社会におけるさまざまな問題について憲法という観点から論じることができるようになる。
4. 国ごとの違いについての理解に基づき、それぞれの文化を尊重して論じることができるようになる。

◆授業方法**【オンライン授業】**

講義の各回ごとに授業動画を視聴すること。動画は同時に配布するレジюмеに沿って展開する。動画やレジюмеなどで不明な点がある場合は、まずは自らで調べる。そのうえで不明であれば、質問を受け付ける。

また、各回ごとに小レポートの課題が提示される。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

評価は各回の小レポート（30%）と最終レポート（65%）の合計によって算出される。また、より良いレポートには追加点（5%）が与えられる。自主レポート（+α）については随時受け付ける。

◆教科書

資料配布（Classroom） 各回レジюмеのデータを配布する。

◆参考書

市販本 「憲法入門」東裕（編） 一藝社 2021年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	憲法と国家 憲法を学ぶうえで基礎となる憲法の役割と国家について学修する。
	事前学修	憲法とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	憲法の役割について整理しておくこと。
2回	授業内容	主権と国民 国家体制と主権とのかかわりなどを理解するとともに、主権の持つさまざまな意味について学修する。
	事前学修	主権とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	主権のさまざまな意味を整理し、まとめておくこと。
3回	授業内容	基本的人権 基本的人権の歴史を理解するとともに、その種類や限界について学修する。
	事前学修	基本的人権とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	基本的人権の歴史や特徴をまとめておくこと。
4回	授業内容	天皇と皇室 諸外国にはない日本国憲法の特徴である天皇の憲法上の地位や皇室制度について学修する。
	事前学修	天皇とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	天皇や皇室制度の概要をまとめておくこと。
5回	授業内容	戦争放棄 日本国憲法に関する議論の中心にあることが少なくない憲法9条の成り立ちや解釈について学修する。
	事前学修	平和とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	憲法9条の成立過程や自衛権の解釈についてまとめておくこと。
6回	授業内容	法の下での平等 差別と区別との違いを理解するとともに、憲法上の平等と平等の範囲外について学修する。
	事前学修	平等とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	平等のあり方とその例外についてまとめておくこと。
7回	授業内容	内心の自由 精神的な営みの役割を理解するとともに、内心の自由について学修する。
	事前学修	内心の自由とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	フランスの産業革命、工業化の特徴についてまとめておくこと。
8回	授業内容	信教の自由 精神的な営みの役割を理解するとともに、信教の自由について学修する。
	事前学修	宗教の役割とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	信教の自由の意義についてまとめておくこと。

◆授業計画

9回	授業内容	政教分離 精神的な営みの役割を理解するとともに、政教分離について学修する。
	事前学修	政教分離とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	政教分離の形態についてまとめておくこと。
10回	授業内容	表現の自由 表現の自由がさまざまな活動の根幹にあることを理解するとともに、その保障と制約の態様について学修する。
	事前学修	表現の自由とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	表現の自由にかかわる問題についてまとめておくこと。
11回	授業内容	身体的自由権 身体的自由権を理解するとともに、その特徴や事例について学修する。
	事前学修	身体的自由権とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	これまで学習した各種自由権についてまとめておくこと。
12回	授業内容	参政権 参政権が国民固有の権利であることを理解するとともに、国民の主権の行使の一形態ともいえる参政権の重要性について学修する。
	事前学修	参政権とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	参政権の意義についてまとめておくこと。
13回	授業内容	立法、行政 国民の代表たる機関の役割を理解するとともに、立法権、行政権の性質について学修する。
	事前学修	三権の役割とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	国会や内閣の概要についてまとめておくこと。
14回	授業内容	司法 裁判員制度のシステムを理解するとともに、司法権や裁判員制度について学修する。
	事前学修	裁判員制度とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	司法の役割や裁判員制度の概要についてまとめておくこと。
15回	授業内容	憲法改正 憲法改正国民投票といった国民がかかわりうる制度のシステムを理解するとともに、憲法尊重擁護義務、憲法改正について学修する。
	事前学修	憲法改正とはどのようなものか考えておくこと。
	事後学修	憲法改正の概要についてまとめておくこと。

◆授業概要

債権総論の前半部分を学修する。債権総論とは、債権法全体の共通の決まりごとをまとめた部分であり、債権債務の発生から消滅に至る過程、つまり、債権債務一生、生まれてから役割を終えて死ぬまでの過程を規律している。具体的には、債権の発生、目的、効力、多数当事者の債権債務関係、譲渡（引受・移転を含む）、消滅の各過程に関する条項を置いている。その主要な条項の解釈を学修する。

◆学修到達目標

民法学における債権法の位置づけ、債権総論と債権各論の関係、債権総論の意義と体系、主要な論点を理解する。併せて、授業概要の箇所を示した専門用語を、具体例を用いて説明できるようになる。

◆授業方法

講義形式（オンデマンドを含む）を採用する。社会情勢の変化、法改正、新判例の追加などにより、シラバス（授業計画）どおりに進まないこともあり得る。板書を多用し、ノートを作らせ、勉強の仕方を教えるので、ノートをしっかりと録取すること。

◆履修条件

他の担当教員の民法Ⅲ、および根本の民法Ⅲ前半との積み重ねのみ可。なお、後半を先に履修し、前半を後に履修することも可。

令和3年度昼間スクーリング（後期）『民法Ⅲ A』（根本晋一）との積み重ね不可

◆成績評価基準

全回出席（オンデマンドを含む）を前提として、筆記試験または当授業終了後に提出するレポートの評価点80%、授業態度や質疑応答20%。オンデマンドの場合は筆記試験等の評価100%。

◆教科書

指定しない

◆参考書

通材 民法Ⅲ

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	民法Ⅲ前半との連続性の確認、多数当事者の債権債務関係について、その各態様に関する簡単な具体例を示しつつ解説
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
2回	授業内容	可分（分割）債権債務について、それが民法の原則であること、不可分債権債務関係についての説明
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
3回	授業内容	（前回授業の続き）連帯債務、不真正連帯債務、その具体例についての説明
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
4回	授業内容	保証債務について、単純保証と連帯保証、その比較（催告の抗弁権、検索の抗弁権）
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
5回	授業内容	（前回授業の続き）共同保証（分別の利益）、根保証、身元保証、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
6回	授業内容	債権譲渡に関する総論、その沿革と意義（法鎖から財貨へ）、更改との違い、移転との違い、引受との関係、その機能、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
7回	授業内容	指名債権と指図債権について、譲渡の対抗要件（通知または承諾）、債権譲渡に関する主要論点の説明、指名債権の二重譲渡の処理に関する判例理論、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
8回	授業内容	（前回授業の続き）指名債権の二重譲渡の処理に関する判例理論、到達時説、確定日付説、同時到達の処理、弁済供託、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
9回	授業内容	債務引受とは、併存的債務引受、免責的債務引受、その具体例
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
10回	授業内容	（前回授業の続き）債権譲渡、債務引受のまとめ、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み

	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
--	------	----------------

◆授業計画

11 回	授業内容	債権債務の消滅原因について、その総論、どのようなものがあるのか（弁済・相殺・更改・免除・混同）、弁済が基本、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
12 回	授業内容	弁済とは、本旨弁済、代物弁済、弁済供託、表見受領権者に対する弁済、弁済の提供とその効果、弁済充当、代位弁済、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
13 回	授業内容	相殺とは、相殺の機能、差引計算、担保的機能、債権譲渡と相殺、差押えと相殺、その他の論点についての説明
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
14 回	授業内容	更改、免除、混同、相殺のまとめ、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認
15 回	授業内容	債権譲渡の特則としての有価証券理論、債権法改正により商法理論から民法理論へ、総まとめ、など
	事前学修	その日のうちの板書事項の読み込み
	事後学修	前回授業時の板書事項の再確認

◆授業概要

本演習は、論文を執筆するために必要と考えられる基本的知識を、実践を通して、修得する。文献の要約、批評、そして発表を中心に行う。

* なお、本演習はメディア授業『哲学演習 MA』と内容が重複している箇所がある（授業第4回目まで）。これは、どちらの授業も卒業論文の制作を行う際に、迷ったり、間違ったりする点について重点的に説明し、卒論の制作を円滑に進めることができるようにしているためである。重複している箇所は繰り返し学んでも問題ない内容である。以上の点は、受講を決める際に検討していただきたい。

◆学修到達目標

この演習を通して、受講生は論文制作のための技術を学ぶことができる。またこの演習を通して、卒業論文の制作がよりよく進められる。すでに卒業論文に着手している受講生の場合は、演習を通して、現在製作中の卒業論文を練り上げることができる。

◆授業方法

授業動画を視聴し、課題を提出する。また、受講生各自が発表を行う。授業中に使用する予定の課題テキストは授業内で指示する。なお、受講生の人数によって、授業計画に記載した内容に若干の変更がある場合がある。受講生各自の発表は10月下旬から11月上旬頃の開始を予定しているが、受講者数が不明のため、変更の可能性がある。受講生数が分かり次第、授業内で随時指示する。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『哲学演習 I、II』、および令和3年度夏期スクーリング『哲学演習 I、II』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

課題提出および発表（100%）により総合的に評価する。なお、毎回出席票を提出することを前提として評価する。

◆教科書

市販本 小手川正二郎 2020『現実を解きほぐすための哲学』トランスビュー

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

初回授業時に案内。

◆授業計画

1回	授業内容	授業のガイダンス、卒論について、論文について。 <u>(なおガイダンスでは、成績評価、出席票の提出期限、使用文献、発表資料作成方法、そして発表方法などの説明も行うので必ず確認すること)</u>
	事前学修	卒論のためにどのような本を、どのように読んでいるか振り返ってみる。
	事後学修	授業を復習し、論文について理解を深める。
2回	授業内容	注について、参考文献表について
	事前学修	注、参考文献表とはどのようなものか調べる。
	事後学修	注、参考文献表を作成できるようにして、卒論制作で使用する。
3回	授業内容	要約について
	事前学修	文章を短くすることと、要約との違いを考える。
	事後学修	自分の卒論のために集めた先行研究(参考文献)から要約を作る練習をする。
4回	授業内容	批判的読解について
	事前学修	批判的読解はどのようにしたらうまくできるか考える。
	事後学修	自分が卒論で扱う文献を批判的に読解できよう読み込む。
5回	授業内容	文献の要約・批評・発表
	事前学修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事後学修	課題文献を自分なりに読み込む。
6回	授業内容	文献の要約・批評・発表
	事前学修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事後学修	課題文献を自分なりに読み込む。
7回	授業内容	文献の要約・批評・発表
	事前学修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事後学修	課題文献を自分なりに読み込む。
8回	授業内容	文献の要約・批評・発表
	事前学修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事後学修	課題文献を自分なりに読み込む。
9回	授業内容	文献の要約・批評・発表
	事前学修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事後学修	課題文献を自分なりに読み込む。
10回	授業内容	文献の要約・批評・発表
	事前学修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事後学修	課題文献を自分なりに読み込む。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	文献の要約・批評・発表
	事 前 学 修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事 後 学 修	課題文献を自分なりに読み込む。
12 回	授 業 内 容	文献の要約・批評・発表
	事 前 学 修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事 後 学 修	課題文献を自分なりに読み込む。
13 回	授 業 内 容	文献の要約・批評・発表
	事 前 学 修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事 後 学 修	課題文献を自分なりに読み込む。
14 回	授 業 内 容	文献の要約・批評・発表
	事 前 学 修	課題文献をパラグラフごとに読み、中心的主張を取り出し、まとめる。
	事 後 学 修	課題文献を自分なりに読み込む。
15 回	授 業 内 容	まとめ
	事 前 学 修	これまでの授業を振り返る。
	事 後 学 修	今回の授業を土台として、卒業論文の制作を進める。

◆授業概要

新株予約権の理解の為、会社法の条文前半を講義した前年講義と一部重複する株式をバージョンアップして講義した後、前年講義に含まれない後半部分の新株予約権、機関、組織再編等を講義します。令和元年12月の改正法に基づいた講義を行う為、通信教材は内容が古すぎて講義に対応していません。最新版の教科書を基に、実務体験を反映したパワーポイント資料を用いた講義動画により講義します。

◆学修到達目標

会社法は経済活動と密接に関わり、厳しすぎる規制は起業減少・倒産増加・拠点の移動等により、緩すぎる規制は悪徳商法の蔓延・企業不祥事・労働環境悪化等により、ともに経済衰退や社会不安をもたらします。こうした観点から会社法の規制を捉え、バランス感覚を養うとともに、商慣習や例外規定にも留意する習慣を見につけることで、実務やリスクマネジメントを適正に行えるようになります。

◆授業方法

教科書の内容の要点整理及び教科書未掲載の内容を示したパワーポイント資料を用いた講義動画により講義を行います。講義動画は授業時間にとらわれず、分割して見ても繰り返し見ても構いません。同時に教科書にアンダーラインを引いたり、タックを貼ると小テスト・最終WEBテストの理解に役立ちます。レポートはWEB・書籍資料や実体験に基づいた調査レポートです。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

出席確認小テスト(15%)、レポート(25%)、最終WEBテスト(60%)。全て当日限りではなく、一定の解答時間を与えています(小テストは翌講義日前日まで、レポートは3週間後の講義日前日まで、最終WEBテストは冬休み挟み)。

◆教科書

会社法講義(2021~2022)(令和元年改正対応版)酒巻俊之著(桜門書房)(2021.9 下旬発売予定)、※講義開始後の発売になりますが、最新の内容です(10月中には入手できます)。

◆参考書

会社法講義(令和元年改正対応版)酒巻俊之著(桜門書房)(2020.7)※前年講義の教科書ですが使用可です。

◆授業相談先(連絡先)

(メール)sakamaki.toshiyuki@nihon-u.ac.jp(WEB相談)希望者を対象に特定の授業回にClassroomで相談可。

◆授業計画

1回	授業内容	公開会社・公開会社でない株式会社(機関・株式の譲渡)
	事前学修	前年講義を受けた人はその部分を復習
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
2回	授業内容	株式①(株式の譲渡等)
	事前学修	前年講義を受けた人はその部分を復習
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
3回	授業内容	株式②(募集株式の発行等)
	事前学修	前年講義を受けた人はその部分を復習
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
4回	授業内容	新株引受権(1)+以降、WEB 質問申込可能
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
5回	授業内容	新株引受権(2)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
6回	授業内容	株主総会・種類株主総会①
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
7回	授業内容	株主総会・種類株主総会②+レポート課題発表
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
8回	授業内容	株主総会以外の機関の設置①
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
9回	授業内容	株主総会以外の機関の設置②
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
10回	授業内容	役員等の選任・解任・任期、会計監査人、会計参与
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
11回	授業内容	計算・計算に係る役員等の責任(レポート課題提出期限)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
12回	授業内容	役員等の義務と責任(1)
	事前学修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事後学修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。

13 回	授 業 内 容	役員等の義務と責任(2)+組織再編①最終 WEB テスト発表(最終 WEB テスト範囲はここまで)
	事 前 学 修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事 後 学 修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
14 回	授 業 内 容	事後設立・組織再編②+最終 WEB テスト提出期限(以降、全体及び個別フィードバック対応)
	事 前 学 修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事 後 学 修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。
15 回	授 業 内 容	組織再編③+自己採点可能 WEB テストアップ済み+WEB 質問回等(全体及び個別フィードバック)
	事 前 学 修	教科書の該当部分を勉強しておくこと。
	事 後 学 修	講義を反映して事前学習の内容とすり合わせる。

◆授業概要

「教育」とは何か？ 人間が社会の中で生きていく上で、なぜ教育が必要なのか。現在のように公教育が当たり前を実現されるようになってくるのには紆余曲折があったのだが、その歴史的変遷を理解する。その公教育実現のための強い光となったのが様々な教育思想である。本講義ではこの教育思想の歴史的変遷について学んでいく。

◆学修到達目標

本講義では以下の知識を習得するとともに、教育思想を現実の教育の糧（かて）として活かしていけるような考え方も養っていく。それにより学修者は、教育に関する基礎理論を身につけ、教育実践との関係づけのもとに理解を深めることで、自身の教育指導の礎として役立て、活かしていくことができる。大きく4つに分けて講義を進めるが、学生は自身の「学校理解」をも深めることができる。①コメニウスからペスタロッチまでの事物の教授法の誕生の意義。②ルソーやデューイ等の教育による社会改造主義的な考え方。③フレーベルやヘルバルト等による子どもの発達段階に照射した学習方法の構想。④教育の脱構築的な試みの誕生とその意味。

◆授業方法

前半はテキストに記された思想家（人物）に関する講義を（教員が）行う。後半はグループもしくは個人で担当箇所を決めて人物の思想上の特色について調査・研究する。その報告と質疑により互いに学び深める授業とする。思考力、発信力と深い教材研究力・解釈が進むように構成している。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行わない。

◆教科書

通材 『教育原論』（通信教育教材：000199）1，550円（送料込み）

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	教育の歴史・思想とは？
	事前学修	教職課程でこの科目（基礎理論）がもつ意味についてイメージしておく。
	事後学修	テキストに登場する人物について年譜を作成する。
2回	授業内容	世界の教育思想の歴史的変遷。
	事前学修	序章（1～10頁）を読み、流れを理解しておく。
	事後学修	近代教育のパラドックスについてレポートをまとめる（次回提出）。
3回	授業内容	コメニウスの教授学。
	事前学修	第1章（11～23頁）を読み、コメニウスの業績について学んでくる。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
4回	授業内容	ロックの自立論。
	事前学修	第2章（24～32頁）を読み、難しい部分に下線を引き質問をつくる。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
5回	授業内容	ルソーの市民教育（子どもの発見）。
	事前学修	第3章を読み、ルソーの何が優れているのか自身の感想をまとめる。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
6回	授業内容	ペスタロッチの人間教育（直観教授）。
	事前学修	第4章を読む。「日本のペスタロッチ」について検索しリストをまとめる。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
7回	授業内容	ヘルバルトの科学的教育学（段階教授）。
	事前学修	第5章を読む。現在の授業における展開（指導計画）について調べておく。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
8回	授業内容	報告1：フレーベルの幼児教育思想。
	事前学修	第6章を読み、疑問点や質問事項を考えておく。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
9回	授業内容	報告2：マンの公教育普及論。
	事前学修	第7章を読み、疑問点や質問事項を考えてリストを作成する。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
10回	授業内容	報告3：デューイの新教育思想・新教育運動。
	事前学修	第8章を読み、疑問点や質問事項を考えておく。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
11回	授業内容	報告4：ニールの自由主義教育論。
	事前学修	第9章を読む。とくに「フリースクール」について疑問点をまとめておく。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
12回	授業内容	報告5：ブーパーの教育的出会い論。
	事前学修	第10章を読み、疑問点や質問事項を考えてリストを作成する。
	事後学修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	報告6：アリエスの心性史研究（子どもの誕生）。
	事 前 学 修	第11章を読み、疑問点や質問事項を考えておく。
	事 後 学 修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
14 回	授 業 内 容	報告7：イリイチの脱学校論。
	事 前 学 修	第12章を読み、疑問点や質問事項を考えておく。
	事 後 学 修	テキストを超えて学べたこと理解したことについて復習し、まとめる。
15 回	授 業 内 容	現代教育と教育の課題、そして教育の基礎理論としての教育思想。
	事 前 学 修	報告した思想家についてレポートをまとめる（提出する）。
	事 後 学 修	教職課程において「理論」を学修する意味・意義についてまとめる。

◆授業概要

「文学」とは、けっして作家個人によってのみ作られるものではありません。そこには実に多様な文化的・社会的・歴史的な背景がともないます。本授業は、戦争の時代に足を踏み入れていく 1925 年から 45 年頃の文学を取り上げ、それぞれが内包する諸要素を整理・分析することを通して、同時代状況と文学の交錯の実態について考察していきます。

◆学修到達目標

1. 文学を専門的に読むために必要な知識について学び、説明することができる。 2. 1925 年から 45 年頃の文学動向の中で各テキストの位置付けを説明できるようになる。

◆授業方法

オンデマンド方式で行います。定期的に小レポートを課して授業内容の理解度を測り、同時に各人の考えを言葉に表してもらいます。受講生は指定されたテキストを通読した上で問題意識を持って授業に臨んでください。毎時リアクションペーパーを記入してもらい、次の時間に回答することで双方向的な授業を作っていきたいと思います。

◆履修条件

令和 2 年度昼間スクーリング『文学』（担当教員：尾形大）との積み重ね不可。

◆成績評価基準

各回の課題レポートが、授業内容を踏まえられており、かつ一定の水準を越えていることをもって当該回の授業の出席と見なします(40%)。また、第9回に中間レポートを実施します(20%)。第15回目にはレポート形式の試験を実施します(40%)。毎回出席することを前提とするので、各課題を期限内にきちんと提出するようにしてください。期限後の提出は認めません。

◆教科書

市販本 『日本近代短編小説選 昭和編 1』 岩波書店 2012 年

市販本 『日本近代短編小説選 昭和編 2』 岩波書店 2012 年

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス／前期の振り返りと後期の授業内容に関する説明
	事前学修	昭和期の文学について調べておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
2回	授業内容	昭和期（前期）の文学状況について学ぶ。
	事前学修	昭和期（前期）の文学状況について自分で調べておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
3回	授業内容	横光利一「機械」
	事前学修	「機械」を読んでおく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
4回	授業内容	北条民雄「いのちの初夜」①—作者に関する解説および本文の精読
	事前学修	「いのちの初夜」を読んでおく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
5回	授業内容	北条民雄「いのちの初夜」②—事実と小説の境界について考える
	事前学修	授業内容を踏まえて「いのちの初夜」をもう一度読み直しておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
6回	授業内容	岡本かの子「家霊」①—作者に関する解説および本文の精読
	事前学修	「家霊」を読んでおく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
7回	授業内容	岡本かの子「家霊」②—女性の社会進出と同時代状況
	事前学修	授業内容を踏まえて「家霊」をもう一度読み直しておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
8回	授業内容	太宰治「待つ」①—作者に関する解説および本文の精読
	事前学修	「待つ」を読んでおく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
9回	授業内容	太宰治「待つ」②—「待つ」という行為の行方について考える
	事前学修	授業内容を踏まえて「家霊」をもう一度読み直しておく。
	事後学修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	これまでの振り返り／中間レポート
	事 前 学 修	これまでの授業内容をノートにまとめたノートを読み直しておく。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
11 回	授 業 内 容	石川淳「焼跡のイエス」①—作者に関する解説および本文の精読
	事 前 学 修	「焼跡のイエス」と「マルスの歌」を読んでおく。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
12 回	授 業 内 容	石川淳「焼跡のイエス」②—戦後社会を「見立て」る方法
	事 前 学 修	授業内容を踏まえて「焼跡のイエス」をもう一度読み直しておく。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
13 回	授 業 内 容	坂口安吾「桜の森の満開の下」①—作者に関する解説および本文の精読
	事 前 学 修	「桜の森の満開の下」と「墮落論」を読んでおく。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
14 回	授 業 内 容	坂口安吾「桜の森の満開の下」②—物語構造と「魔術」の行方
	事 前 学 修	「桜の森の満開の下」に関して自分の考えをノートにまとめておく。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理し、授業内で取り上げられたテキストを実際に読む。
15 回	授 業 内 容	これまでの授業内容のまとめ／レポート試験
	事 前 学 修	これまでの授業内容をノートにまとめ、全体を見直しておく。試験では1920～40年代に発表された文学作品をひとつ選び分析を行ってもらうので、事前に候補を考えてメモをとりながら読んでおくこと（授業であつかった作品も可）。
	事 後 学 修	これまでの授業内容を確認した上で、自身が選んだテキストの特徴について同時代状況と重ね合わせながらもう一度読み直しておく。

◆授業概要

英語のポピュラーソングを聞きながら、単語や表現を学び、曲やアーティストに関連する、英語圏を中心とした世界各国の文化について書かれた英文を読みます。

◆学修到達目標

英語の曲の歌詞に頻出する日常使用される重要単語や表現を身に付け、英語圏の文化を学び、説明することができる。

◆授業方法

- 1、曲のリスニングを、ヒントを参考に行う。
- 2、資料を参考に、歌詞の意味を理解する。
- 3、曲やアーティストに関する文化的背景について書かれた英文を読む。
- 4、読解問題を行う。

◆履修条件

令和2年度東京スクーリング（2月期）『英語』（大庭香江）とは積み重ね不可。
令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語 T』（大庭香江）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

試験50%、授業参画度50%

◆教科書

市販本 『English with Hit Songs』 角山他著 成美堂

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	My heart will go on / A clearly Canadian identity
	事前学修	Unit 1 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 1 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
2回	授業内容	Open arms / Wedding customs
	事前学修	Unit 2 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 2 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
3回	授業内容	Life / Superstitions
	事前学修	Unit 3 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 3 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
4回	授業内容	Don't look back in anger / Britain's rock'n roll royalty
	事前学修	Unit 4 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 4 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
5回	授業内容	A whole new world / Disney movies
	事前学修	Unit 5 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 5 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
6回	授業内容	I don't want to miss a thing / Armageddon
	事前学修	Unit 6 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 6 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
7回	授業内容	Review unit 1 / Hollywood
	事前学修	Unit 7 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 7 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
8回	授業内容	The stranger / The stranger world of Harry Potter
	事前学修	Unit 8 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 8 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
9回	授業内容	Hey now / Redheads
	事前学修	Unit 9 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 9 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。

◆授業計画

10 回	授業内容	Everytime I close my eyes / What's in a name?
	事前学修	Unit 10 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 10 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
11 回	授業内容	Kiss of life / British family tree
	事前学修	Unit 11 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 11 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
12 回	授業内容	All I want for Christmas is you / Christmas traditions
	事前学修	Unit 12 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 12 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
13 回	授業内容	Livin' la vida loca / The changing face of America
	事前学修	Unit 13 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 13 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
14 回	授業内容	Review unit 2 / British order
	事前学修	Unit 14 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 14 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
15 回	授業内容	まとめと復習、及び試験
	事前学修	配布資料等を含め、授業で学修した内容を全て整理し、確認しておくこと。
	事後学修	授業で学修した内容全てを確認し、復習しておくこと。

◆授業概要

Henry James (1843-1916) の作品から始めて現在のイギリス文学を概観する。無数の作家及び作品の中から重要だと思われる作家及び作品を選び紹介する。そして、それぞれの作家、作品には個性があるのでそれらを理解するように努めること。もっと知りたいと思った場合、作品を翻訳でもよいので読んでみたりして主体的に取り組むことを望みます。

◆学修到達目標

・ Henry James (1843-1916) 以降の作家と作品の特徴について知ることができる。・ 英語原文に対して気づく力を養うことができる。

◆授業方法

オンデマンド授業。事前学修で教科書を読み、授業動画を視聴すること。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、提出してもらいます。

◆履修条件

なし。初めてイギリス文学史を学修する学生は James 以前の文学史を教科書でよく確認しておくこと。

◆成績評価基準

オンデマンド授業で出されるリアクションペーパーは評価対象であるので全て提出すること(全体の56%)。最終試験はレポート形式とする(46%)。

◆教科書

『よくわかる イギリス文学史』 浦野郁/奥村沙矢加 ミネルヴァ書房 2020年

◆参考書

なし

◆授業相談先(連絡先)

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	Henry James (1843-1916) について
	事前学修	教科書 132-133 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>The Portrait of a Lady</i> (1881) を読む
2回	授業内容	Joseph Conrad (1857-1924) について
	事前学修	教科書 134-5 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Heart of Darkness</i> (1899) を読む。映画『地獄の黙示録』を観る。
3回	授業内容	E. M. Forster (1879-1970) について
	事前学修	教科書 138-139 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Howards End</i> (1910) を読む。映画『ハワーズ・エンド』を観る。

4回	授業内容	George Bernard Shaw(1856-1950)と T. S. Eliot(1888-1965)について
	事前学修	教科書 140-143 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Pygmalion</i> (1913, 1914)と <i>The Waste Land</i> (1922)を読む
5回	授業内容	James Joyce(1882-1941)について その1
	事前学修	教科書 144-145 頁まで読んでおく
	事後学修	授業で触れた作品を読む。 <i>Dubliners</i> (1914)が読みやすい。
6回	授業内容	James Joyce(1882-1941)について その2
	事前学修	『若い芸術家の肖像』(1916)を読んでおく
	事後学修	<i>Ulysses</i> (1922)を一部でもよいので読む
7回	授業内容	Virginia Woolf(1882-1941)について
	事前学修	教科書 146-147 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Mrs Dalloway</i> (1925)を読む
8回	授業内容	D. H. Lawrence(1885-1930)について
	事前学修	教科書 148-149 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Lady Chatterley's Lover</i> (1928)を読む
9回	授業内容	W. B. Yeats(1865-1939)について
	事前学修	教科書 150-151 頁を読んでおく
	事後学修	Yeats の詩集を読む
10回	授業内容	George Orwell(1903-50)について
	事前学修	教科書 158-159 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>1984</i> (1949)を読む
11回	授業内容	William Golding(1911-93)について
	事前学修	教科書 164-165 頁を読んでおく
	事後学修	<i>Lord of the Flies</i> (1954)を読む
12回	授業内容	John Osborne(1929-94)について
	事前学修	教科書 166-167 頁を読んでおく
	事後学修	<i>Look back in Anger</i> (1965)を読む
13回	授業内容	Ian McEwan(1948-)について
	事前学修	教科書 192-193 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Atonement</i> (2001)を読む
14回	授業内容	Kazuo Ishiguro(1954-)について
	事前学修	教科書 196-197 頁を読んでおく
	事後学修	<i>Never Let Me Go</i> (2005)を読む
15回	授業内容	後期試験
	事前学修	後期で学んだ作家や作品についてよく復習しておくこと
	事後学修	授業で取り上げた作品を一つでもよいので原書で読む。

◆授業概要

中国古代の哲学思想について概観します。授業で取り上げる書物は、中国古代の哲学思想において、極めて重要な思惟を展開しています。また、それぞれの哲学思想相互の内容的なつながりに留意しつつ、それぞれの哲学思想の特質を理解できることを心掛けます。

◆学修到達目標

中国古代の哲学思想を概観しながら、荀子、老子、荘子の思想を中心に理解を深めることを目指します。中国古代の哲学者・思想家たちの言葉は国を超え、時代を超え、現代を生きる我々に、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。さらに、研究の意義、必要性などの習得も目標とします。

◆授業方法

中国古代の哲学者・思想家たち、それぞれの哲学思想の特質をつかむことに留意しながら授業を行います。漢文に慣れ親しんでいない場合をも考慮し、無理のないように進めていきます。本授業の事前学修・事後学修の時間は各2時間を目安としています。

◆履修条件

令和2年度年度昼間スクーリング（後期）『東洋思想史 I』（本間直人）との積み重ね不可。前期のみの受講、後期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆成績評価基準

オンデマンド授業で出される課題（レポート）で評価する。

◆教科書

通材 『東洋思想史 I P20300』 通信教育教材（教材コード 000392）

その他 漢和辞典を用意してください。

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行います。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス 東洋思想史とは何か 荀子の思想について (人物・生涯)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
2回	授業内容	荀子の思想について (理論的思惟)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
3回	授業内容	荀子の思想について (定命論)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
4回	授業内容	荀子の思想について (礼)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
5回	授業内容	荀子の思想について (定命論的礼理論と宿命論的現象)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
6回	授業内容	荀子の思想について (定命論的礼理論の限界)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキスト、ノート、プリントなどで、荀子の思想についてまとめておくこと。
7回	授業内容	老子の思想について (〈道〉—真理・力—)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
8回	授業内容	老子の思想について (〈道〉への道程—修行—)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
9回	授業内容	老子の思想について (〈道〉の体現)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
10回	授業内容	老子の思想について (〈道〉の展開—市中の隠者—)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
11回	授業内容	老子の思想について (〈道〉の行為—〈無為〉—)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキスト、ノート、プリントなどで、老子の思想についてまとめておくこと。
12回	授業内容	荘子の思想について (人物・生涯)
	事前学修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事後学修	テキストを再読し、配布された資料とノートをよく見直しておくこと。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	荘子の思想について（万物斉同）
	事 前 学 修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	テキストを再読し，配布された資料とノートをよく見直しておくこと。
14 回	授 業 内 容	荘子の思想について（その人となり）
	事 前 学 修	テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	テキスト，ノート，プリントなどで，荘子の思想についてまとめておくこと。
15 回	授 業 内 容	まとめ（東洋思想史を学ぶ意義について）
	事 前 学 修	これまでにまとめた，荀子の思想，老子の思想，荘子の思想について再確認すること。
	事 後 学 修	改めて，東洋思想史を学ぶ意義について考えてみること。

◆授業概要

本科目では、西洋の地理的特徴を踏まえながら、①「外国史（西洋史）」学修の意義、②原始・古代から現代に至る史実や解釈へのさまざまなアプローチ、③資料を使った「外国史（西洋史）」学修と研究方法の知識の修得を通じて、「外国史（西洋史）」研究に対する知識や態度を身につけます。

◆学修到達目標

本講義は、西洋史を学ぶ上で必要とされる知識と技術の基礎を学習します。本講義の学習により、受講生は主体的に西洋史を研究するためのスタート地点に立つことができます。後期においては、近代西洋において発展してきた「歴史学」の特質を学びながら、学術論文を読む訓練をおこないます。これにより、受講生は西洋史に関する学術論文を講読する上で、基礎的な知識を得ることができます。なお、前期と後期は内容が異なりますので、半期だけの受講も可能ですが、学習効果をあげるためには、前期・後期の連続受講が望ましいです。

◆授業方法

基本的に講義形式をとりますが、実践的な要素も盛り込むために、レポートを3回ほど課します。具体的には、学術論文を購読するうえで必要な技術などに関するものです。レポートについては、「レポートの講評および解説編」（第6回および第12回）などで解説をおこなっていきます。また、学習した内容の理解度を高めるために、各講義に関する小テストを原則毎回していきます。小テストの解答などに関しては、次回の講義の際に提示します。なお、受講者の人数とその理解度に応じて、下記の授業計画を若干修正することがあります。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

成績の評価基準は、レポート（70%）、小テスト（30%）です。レポートを3回ほど課する予定です。なお、評価にあたっては、毎回出席していることが前提になります。

◆教科書

講義に関連する資料を pdf で配布します。

参考書

市販本 下田淳『歴史学「外」論—いかに考え、どう書くか』青木書店, 2005年

市販本 小田中直樹『歴史学ってなんだ?』PHP 研究所, 2004年

市販本 中谷功治『歴史を冒険するために』関西学院大学出版会, 2008年

市販本 井上浩一『私もできる西洋史研究—仮想大学に学ぶ』和泉出版, 2012年

市販本 服部良久ほか編『人文学への接近法—西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会, 2010年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス：西洋史の文献を読むために
	事前学修	高等学校の世界史の教科書を復習しておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
2回	授業内容	学術論文を読む①：概要編
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
3回	授業内容	学術論文を読む②：実演篇
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
4回	授業内容	歴史学の客観性①：「ロビンソンの死」からの視点
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
5回	授業内容	歴史学の客観性②：西洋近現代史の研究史からの視点
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
6回	授業内容	学術論文を読む③：レポートの講評および解説編
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
7回	授業内容	註から学術論文を読む①：概要編
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
8回	授業内容	註から学術論文を読む②：実演篇
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
9回	授業内容	歴史学の根拠①：近代歴史学の父ランケと実証史学
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
10回	授業内容	歴史学の根拠③：E. H. カーと「歴史的事実」
	事前学修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事後学修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	歴史学の根拠③：歴史学における史料の意義
	事 前 学 修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事 後 学 修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
12 回	授 業 内 容	註から学術論文を読む③：レポートの講評および解説編
	事 前 学 修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事 後 学 修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
13 回	授 業 内 容	歴史学の有用性①：戦後日本における大塚史学
	事 前 学 修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事 後 学 修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
14 回	授 業 内 容	歴史学の有用性②：遅塚忠躬『史学概論』における「歴史学の効用」
	事 前 学 修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事 後 学 修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと
15 回	授 業 内 容	歴史学の有用性③：日本における西洋史学
	事 前 学 修	事前配布資料から講義の予習をしておくこと
	事 後 学 修	講義資料およびノートなどを使い、講義の復習をしておくこと

◆授業概要

本科目では、①「日本史」とは何か、②原始・古代～現代までの歴史的変遷、③「歴史事実」の多様性への理解などを、世界のなかでの日本を意識しながら学び、「日本史」全体を考える技術と態度の修得をめざします。社会経済や文化を中心に据えながら、政治・外交の影響に関わる理解を深めます。また、史料専門調査員としての経験を活かし、各時代の史料を使った歴史復原や意義付けの方法について指導します。なお、授業計画は「予定」であり、変更する場合があります。

◆学修到達目標

1. 日本史を知るため、全時代を通じた時代の流れを説明できるようにする。
2. 各時代の社会運動や文化形成の背景や意義、着眼点について説明できるようにする。
3. 各時代の歴史事実を裏づける歴史資料の読解や歴史学的考察の成果を理解できるようにする。
4. 将来卒業論文を書く、あるいは教壇に立つ者としての必要な知識と姿勢を身につける。

◆授業方法

原則として教科書を使い、その内容の一部を採り上げてプリント内容で詳述します。授業動画は開講曜日・時限に公開し、短期間で視聴できなくなります。授業曜日・時限の受講に努めてください。動画は内容に沿って分割配信します。適宜動画を一時停止してノートを取りながら学修してください。質問については小テストフォームにて受け付けます。各回の最後は小テスト・自己評価となります（開講曜日のみ回答可）。小テスト・自己評価講評は翌週冒頭で実施します。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（前期）・夏期スクーリング「日本史概説」修得済の学生は履修不可

◆成績評価基準

最終課題レポート（70%）、授業内小テスト（出欠確認含 30%）、授業参画・リアクションなど（10%）の総合評価

※15回全出席を前提とした評価です。

◆教科書

通材 『概論 日本歴史 Q30200』 通信教育教材（教材コード 000382）

その他 参照プリントをClassroomにて各回で配布

◆参考書

配布プリントで適宜紹介します

◆授業相談先（連絡先）

原則として、Classroom上で実施する小テストフォームの質問欄にて受け付けます。

◆授業計画

1回	授業内容	日本史概説の参考文献と辞典
	事前学修	シラバスを熟読し、講義全体の流れをおさえておく。
	事後学修	各回の意図を振り返り、今後の自身の学修目標を立てる。
2回	授業内容	倭五王に至るまで
	事前学修	教科書の倭王権の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
3回	授業内容	冊封体制と列島 ～倭五王と飛鳥～
	事前学修	教科書の冊封に関わる範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
4回	授業内容	古代の歴史認識 ～記紀の成立～
	事前学修	教科書の古代文化の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
5回	授業内容	荘園制度と武士団の形成 ～平氏政権～
	事前学修	教科書の平安時代政治史を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
6回	授業内容	元寇と得宗体制 ～徳政～
	事前学修	教科書の鎌倉時代政治史の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
7回	授業内容	室町幕府と「日本国王」 ～政治と外交～
	事前学修	教科書の中世後期アジアと日本の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
8回	授業内容	中世文化 ～鎌倉・室町～
	事前学修	教科書の中世文化の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
9回	授業内容	戦国社会と近世社会 ～中世から近世へ～
	事前学修	教科書の近世朝廷に関わる範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。

◆授業計画

10 回	授業内容	三大改革と江戸文化 ～幕府政治と社会の変容～
	事前学修	教科書の幕藩体制の確立・動揺の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
11 回	授業内容	明治時代の政治・社会運動 ～自由民権運動の展開～
	事前学修	教科書の自由民権運動と議会の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
12 回	授業内容	米騒動と都市での憂い ～大正の世相～
	事前学修	教科書の近代社会運動に関わる範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
13 回	授業内容	太平洋戦争と国民生活 ～国民文化と大衆文化～
	事前学修	教科書の太平洋戦争の範囲を読み、事前シートに取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
14 回	授業内容	新たな日本へ ～東西冷戦と高度経済成長～
	事前学修	教科書の高度経済成長の範囲を読み、事前シートの課題に取り組む。
	事後学修	ノートと教科書を見返し、概説書を使って自己理解が低い箇所を重点的に復習する（事後学修シートの利用）。
15 回	授業内容	講義総括 日本史概説の振り返りと今後の課題
	事前学修	第1回から第14回の学修内容の要点をまとめておく。
	事後学修	当日配付されたプリントから自身の弱点を知り、重点復習箇所を確認する。

◆授業概要

日々のニュースでは、GDP、経済成長率、国際収支など、さまざまな経済に関する事柄が報じられています。この講義では、経済学概論などの経済学関連の科目の入門および基礎として、一国における経済を対象とする国民所得の決定、金融財政政策の有効性などについて、基本的な事柄や内容および基礎理論を理解し、現代の社会問題について、経済を通して考える基礎を養うことを目的とします。

◆学修到達目標

経済学関連の基礎および入門として、マクロ経済学に関する基本的な事柄や基礎理論に関連する以下のことを目標とする。

1. 経済学の基本的な見方、考え方を理解し、説明できるようになる。
2. GDP、失業、インフレーションなどマクロ経済に関する基礎を理解し、説明できるようになる。
3. 金融政策、財政政策による経済への影響に関する基本的な考えを理解し、説明できるようになる。

◆授業方法

授業計画に沿って、項目ごとにClassroomのトピックを分けている。トピックごとに、予習用の資料とパワーポイントによる動画ファイル、授業アンケートがあるので、資料で予習した後に、動画ファイルを視聴し学修する。学修後に出欠を兼ねた授業アンケートを回答する。質問などは授業アンケートなどでも受け付ける。また、課題や小テストがある場合もトピック内で指示するので必ず解答すること。なお、Zoomによる双方向を授業も一部実施する予定です。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『経済学 C』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。また、令和2年度昼間スクーリング（後期）『経済学』（谷川孝美）との積み重ね不可。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 各項目に応じた講義概要を、各トピック内で予習用としてPDFファイルにて配布する。各自取得し、予習すること。

◆参考書

市販本 『ミクロ・マクロ経済理論入門』 藤本 訓利，陸 亦群，前野 高章，文眞堂，2020年

市販本 『スティグリッツ入門経済学第4版』 ジョセフ・E・スティグリッツ，カール・E・ウォルシュ著，藪下史郎訳，東洋経済新報社，2012年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom や授業アンケートおよび以下のメールにて対応します。

tanikawa.takayoshi2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・経済学の対象と課題
	事前学修	新聞の経済欄などをよく読み、経済時事問題に注目しておくこと。また、事前配付資料および参考書に指定している『スティグリッツ入門経済学第4版』（以下、参考書）の第1章第1節をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2回	授業内容	経済学の主要な概念 トレードオフ、インセンティブ、交換
	事前学修	配付資料および参考書第1章第1節をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
3回	授業内容	ミクロ経済学とマクロ経済学
	事前学修	事前配付資料および参考書第1章第2, 3節をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
4回	授業内容	GDP（国内総生産）、国内総生産における三面等価の原則
	事前学修	事前配付資料および参考書第8章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
5回	授業内容	総需要と総供給
	事前学修	事前配付資料および参考書第8章をよく読むこと。また、前回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
6回	授業内容	貯蓄、投資、資本市場
	事前学修	事前配付資料および参考書第8章をよく読むこと。また、第4, 5回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
7回	授業内容	一般均衡モデル
	事前学修	事前配付資料および参考書第8章をよく読むこと。また、第4, 5, 6回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
8回	授業内容	経済成長、生産性
	事前学修	事前配付資料および参考書第9章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
9回	授業内容	失業とマクロ経済学
	事前学修	事前配付資料および参考書第10章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	インフレーションと金融政策
	事 前 学 修	事前配付資料および参考書第 11 章をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
11 回	授 業 内 容	金融政策のマクロ経済への影響
	事 前 学 修	事前配付資料および参考書第 11 章をよく読むこと。また，第 10 回の講義を再確認すること。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
12 回	授 業 内 容	財政政策のマクロ経済への影響
	事 前 学 修	事前配付資料および参考書第 11 章をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
13 回	授 業 内 容	グローバル危機，世界的な金融経済危機
	事 前 学 修	事前配付資料および参考書第 12 章をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
14 回	授 業 内 容	理解度の確認
	事 前 学 修	予め配布された資料を熟読し，内容を確認しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書などで，講義内容をよく確認し理解すること。
15 回	授 業 内 容	試験および解説
	事 前 学 修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	前期の授業内容を再確認し，理解を深めること。

◆授業概要

本授業では、英語学習の土台となる「基礎・基本」を学びます。中学校卒業程度の文法事項を取り上げ、一つ一つ丁寧にみていきます。今後の英語学習につながる、重要な「基礎・基本」事項を、会話文を含む例文や、練習問題を通して学修します。

◆学修到達目標

暗記中心の学修から、理解中心の学修を行うことで、実用的で実践的な英語を身に付けることを目標とします。学修内容を実際に活用することが出来るようになることを心がけて参りましょう。

◆授業方法

文法事項を毎回一つずつ取り上げ、丁寧に解説します。曲に加え、会話文を含む実用的な例文を通して、適切な表現を使いこなせるよう練習問題を解きながら学修を進めます。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『英語基礎』（大庭香江）とは積み重ね不可。

令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語基礎 D』（大庭香江）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

試験50%、授業参画度50%

◆教科書

市販本 『Fun Time! ファン・タイム!』 牧野他著 朝日出版社

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	過去形
	事前学修	テキスト p. 2 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 6 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
2回	授業内容	過去形の否定文
	事前学修	テキスト p. 8 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 12 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
3回	授業内容	命令形
	事前学修	テキスト p. 14 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 18 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
4回	授業内容	to 不定詞
	事前学修	テキスト p. 20 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 24 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
5回	授業内容	現在進行形
	事前学修	テキスト p. 26 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 30 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
6回	授業内容	There is と There are
	事前学修	テキスト p. 32 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 36 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
7回	授業内容	形容詞
	事前学修	テキスト p. 38 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 42 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
8回	授業内容	比較
	事前学修	テキスト p. 44 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 48 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
9回	授業内容	助動詞 can
	事前学修	テキスト p. 50 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 54 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	未来系①
	事 前 学 修	テキスト p. 56 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事 後 学 修	テキスト p. 60 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
11 回	授 業 内 容	未来系②
	事 前 学 修	テキスト p. 62 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事 後 学 修	テキスト p. 66 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
12 回	授 業 内 容	丁寧な表現
	事 前 学 修	テキスト p. 68 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事 後 学 修	テキスト p. 72 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
13 回	授 業 内 容	復習テスト① 第 1 回から第 6 回迄の学修項目の確認テストと解説を行う
	事 前 学 修	第 1 回から第 6 回迄の学修内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	復習テスト①の問題を復習しておくこと。
14 回	授 業 内 容	復習テスト② 第 7 回から第 12 回迄の内容の確認テストと解説を行う。
	事 前 学 修	第 7 回から第 12 回迄の学修内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	復習テスト②の問題を復習しておくこと。
15 回	授 業 内 容	まとめと試験、解説
	事 前 学 修	第 1 回から第 12 回迄の学修内容と、復習テスト①、②を復習しておくこと。
	事 後 学 修	全ての学修項目を整理し、確認、復習すること。

◆授業概要**◆学修到達目標**

英語にすれば中学1年～2年レベルの内容が、フランス語でも言えて・書けて・聞き取れるようにするのが目標です。また11月の「実用仏語技能検定試験・5級」にもぜひチャレンジしていただきたいと思います。授業自体は極力「脱落者」を出さないようにごく平均的なペースで進めますが、前期から『指定教材仏語Ⅰ・仏語Ⅱ』などを使って自主的・意欲的に学習されてきた方ならば、＜4級＞合格も十分可能です。

◆授業方法

前期同様、授業は＜講義形式＞ではなく＜ゼミ形式＞で進めていきます。後期は前期に比べてどうしても受講生が減るので、1回の授業で各人7～8回位は当てて答えてもらいます。また前期同様、フランス語の習得には授業以外の場での＜覚える努力＞が必要不可欠です（＜覚える努力＞を伴わないアリの出席は全くの無意味です）

◆履修条件

昼間スクーリング前期の単位を取得した者、または『科目修得試験・仏語Ⅰ』の単位を取得しているもの。後期の授業は言うまでもなく前期の授業の延長・継続であり、後期1回目の授業は前期から通算すれば16回目に当たります：前期フランス語Ⅰの学力の備わっていない人の受講は認めません。

◆成績評価基準

試験は中間と期末の2回行い、成績はこの試験の結果で判定します。なお試験は全問＜和文仏訳＞と＜ヒヤリング形式＞（＝原文を書き取ったのち和訳）で出題します。安直な和訳・穴埋め・択一などは出題しません。

◆教科書

前期同様、初回授業時に後期フランス語Ⅱの前半部分の学習内容を分かりやすくまとめたB4判プリント（6P綴り）を配布します[当然CD付き]

10回目授業時に、後期の後半部分の内容をまとめた7P綴りのプリントを配布します[これも当然CD付き]

前期同様授業時には必ず仏和辞典を1冊持参してください。

◆参考書

通材『フランス語Ⅰ E10100』 通信教育教材（教材コード000372） ※この教材は市販の『新・ゼフィール』 E.E.F.L.E.U.K（早美出版社）と同一です。スクーリングの授業レベルを超えて＜仏検4級＞以上を目指そうとする人には文法面でお薦めです。

通材『フランス語Ⅱ E10200』 通信教育教材（教材コード000373） ※この教材は

市販の『フランス語基本500語』（財）フランス語教育振興協会（朝日出版社）と同一です。同じく＜仏検4級＞以上を目指そうとする人には単語面で非常に有用な参考書です[添えられたイラストがとても可愛い]。

◆授業相談先（連絡先）

E-Mail : katsuofrancois@mug.biglobe.ne.jp

◆授業計画

1回	授業内容	後期前半部分のプリントを配布：1P目「不規則動詞」の活用のしかたのたまかなルールを概括。また1P目後半の「数」（11～100）を説明します。
	事前学修	
	事後学修	授業で説明したプリント1P目の「不規則動詞」の活用ルールをよく理解すること。また「数」（11～100）を覚えること。
2回	授業内容	プリント2P目前半：「曜日」とその表現方法について説明します。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント2P目前半に目を通してくること。
	事後学修	授業で扱った「曜日」とその表現方法をしっかりと覚えること。
3回	授業内容	プリント2P目後半：「月」と「日付」、および疑問副詞＜combien＞（=how much）の用法について説明します。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント2P目後半に目を通してくること。
	事後学修	授業で習った「月」と「日付」、および＜combien＞の用法・用例をしっかりと身に付けること。
4回	授業内容	プリント3P目前半：「疑問形容詞」＜Quel＞の用法と「季節」、及び「不規則動詞」＜aller＞（=go）と＜venir＞（=come）の活用を説明します。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント3P目前半に目を通してくること。
	事後学修	授業で習った「疑問形容詞」＜Quel＞の用法と「季節」、及び動詞＜aller＞（=go）と＜venir＞（=come）の活用をしっかりと身に付けること。
5回	授業内容	プリント3P目後半～4P目前半：「男性国名／女性国名」と動詞＜aller＞の用例を説明します。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント3P目後半～4P目前半に目を通してくること。
	事後学修	「男性国名／女性国名」の区別と、動詞＜aller＞の用法・用例を身に付けること。

◆授業計画

6回	授業内容	プリント4P目後半:動詞<venir>の用例と、「第2群規則動詞」<finir> (=finish)・<choisir> (=choose) の活用を説明します。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント4P目後半に目を通してくること。
	事後学修	動詞<venir>の用例と、「第2群規則動詞」<finir>・<choisir>の活用を覚えること。
7回	授業内容	プリント5P目:不規則動詞<faire> (=do/make) と<voir> (=see) の活用と用例を説明します。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント5Pに目を通してくること。
	事後学修	不規則動詞<faire> (=do/make) と<voir> (=see) の活用と用例をしっかりと覚えること。
8回	授業内容	プリント6P目「補足」部分の説明と、後期中間試験に向けた総復習。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント6Pに目を通してくること。
	事後学修	プリント6P目の内容を含めて、各自後期前半の総復習をすること。
9回	授業内容	後期中間試験
	事前学修	中間試験に向け、「数」「曜日」「月」「季節」などの基本表現や、「不規則動詞」の活用を徹底して身に付けて臨むこと。
	事後学修	試験後「解答」を配布するので、各自間違えた箇所をしっかりとフォローすること。
10回	授業内容	中間試験返却/解説。後期後半部分のプリントを配布:1P目「時間表現」と不規則動詞<prendre> (=take) の活用と用例を説明します。
	事前学修	
	事後学修	「時間表現」と不規則動詞<prendre> (=take) の活用と用例を覚えること。
11回	授業内容	プリント(第2部)2P~3P目:不規則動詞<mettre> (=put) と<attendre> (=wait for)、<partir> (=leave) <sortir> (=go out) の活用と用例を説明します。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント2P~3P目に目を通してくること。
	事後学修	<mettre><attendre>、<partir><sortir>の活用と用例を覚えること。
12回	授業内容	プリント4P目:不規則動詞<pouvoir> (=can) と<vouloir> (=want)、<devoir> (=must) の活用と用例を説明します。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント4P目の内容に目を通してくること。
	事後学修	プリント5P~6P目前半の内容をしっかりと身に付けること。
13回	授業内容	プリント5P~6P目前半:不規則動詞<savoir>と<connaitre> (=ともにも know)活用・用法と、「複合過去形」の築り方を説明します。
	事前学修	付属のCDを聞きながら、プリント5P~6P目前半の内容に目を通してくること。
	事後学修	プリント5P~6P目前半の内容をしっかりと身に付けること。

◆授業計画

14 回	授 業 内 容	プリント6P後半～7P:「複合過去形」の用法と用例を説明します。
	事 前 学 修	付属のCDを聞きながら、プリント6P後半～7Pの内容に目を通して ること。
	事 後 学 修	授業で説明した「複合過去形」の用法と用例をしっかりと身に付ける こと。
15 回	授 業 内 容	後期期末試験
	事 前 学 修	期末試験に向け、各自後期の内容を総復習してくること。
	事 後 学 修	試験後「解答」を配布するので、各自間違えた箇所をしっかりとフォローす ること。

◆授業概要

Henry James (1843-1916) の作品から始めて現在のイギリス文学を概観する。無数の作家及び作品の中から重要だと思われる作家及び作品を選び紹介する。そして、それぞれの作家、作品には個性があるのでそれらを理解するように努めること。もっと知りたいと思った場合、作品を翻訳でもよいので読んでみたりして主体的に取り組むことを望みます。

◆学修到達目標

・ Henry James (1843-1916) 以降の作家と作品の特徴について知ることができる。・ 英語原文に対して気づく力を養うことができる。

◆授業方法

オンデマンド授業。事前学修で教科書を読み、授業動画を視聴すること。毎回リアクションペーパーを書いてもらい、提出してもらいます。

◆履修条件

なし。初めてイギリス文学史を学修する学生は James 以前の文学史を教科書でよく確認しておくこと。

◆成績評価基準

オンデマンド授業で出されるリアクションペーパーは評価対象であるので全て提出すること(全体の56%)。最終試験はレポート形式とする(46%)。

◆教科書

『よくわかる イギリス文学史』浦野郁/奥村沙矢加 ミネルヴァ書房 2020年

◆参考書

なし

◆授業相談先(連絡先)

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	Henry James (1843-1916) について
	事前学修	教科書 132-133 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>The Portrait of a Lady</i> (1881) を読む
2回	授業内容	Joseph Conrad (1857-1924) について
	事前学修	教科書 134-5 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Heart of Darkness</i> (1899) を読む。映画『地獄の黙示録』を観る。
3回	授業内容	E. M. Forster (1879-1970) について
	事前学修	教科書 138-139 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Howards End</i> (1910) を読む。映画『ハワーズ・エンド』を観る。

4回	授業内容	George Bernard Shaw(1856-1950)と T. S. Eliot(1888-1965)について
	事前学修	教科書 140-143 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Pygmalion</i> (1913, 1914)と <i>The Waste Land</i> (1922)を読む
5回	授業内容	James Joyce(1882-1941)について その1
	事前学修	教科書 144-145 頁まで読んでおく
	事後学修	授業で触れた作品を読む。 <i>Dubliners</i> (1914)が読みやすい。
6回	授業内容	James Joyce(1882-1941)について その2
	事前学修	『若い芸術家の肖像』(1916)を読んでおく
	事後学修	<i>Ulysses</i> (1922)を一部でもよいので読む
7回	授業内容	Virginia Woolf(1882-1941)について
	事前学修	教科書 146-147 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Mrs Dalloway</i> (1925)を読む
8回	授業内容	D. H. Lawrence(1885-1930)について
	事前学修	教科書 148-149 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Lady Chatterley's Lover</i> (1928)を読む
9回	授業内容	W. B. Yeats(1865-1939)について
	事前学修	教科書 150-151 頁を読んでおく
	事後学修	Yeats の詩集を読む
10回	授業内容	George Orwell(1903-50)について
	事前学修	教科書 158-159 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>1984</i> (1949)を読む
11回	授業内容	William Golding(1911-93)について
	事前学修	教科書 164-165 頁を読んでおく
	事後学修	<i>Lord of the Flies</i> (1954)を読む
12回	授業内容	John Osborne(1929-94)について
	事前学修	教科書 166-167 頁を読んでおく
	事後学修	<i>Look back in Anger</i> (1965)を読む
13回	授業内容	Ian McEwan(1948-)について
	事前学修	教科書 192-193 頁まで読んでおく
	事後学修	<i>Atonement</i> (2001)を読む
14回	授業内容	Kazuo Ishiguro(1954-)について
	事前学修	教科書 196-197 頁を読んでおく
	事後学修	<i>Never Let Me Go</i> (2005)を読む
15回	授業内容	後期試験
	事前学修	後期で学んだ作家や作品についてよく復習しておくこと
	事後学修	授業で取り上げた作品を一つでもよいので原書で読む。

◆授業概要**◆学修到達目標**

1. 受講学生が英米の文学作品について、偉大な先達（ミルトンやシェイクスピアなど）や書籍（英語訳聖書など）から継承した伝統と作家個人の独自性および文学作品の独自性という観点から、テキストで扱われた個々の作家と作品について鑑賞し、理解することによって、英米文学や英語文学の全体像を把握し、英米文学を学ぶ意義を理解し、それについて説明できる。2. 受講学生自身が興味を持つ作家や作品の位置を理解し、それについて説明できる。3. 国際共通語としての英語の母胎についての知見を深め、取得した知識と技能を運用して、中学校・高等学校における英語の授業で教鞭を取る際に、学習者が正確な発音、リズム、抑揚を身につけるように配慮しながら指導するとともに、文学の楽しさ、英語の語法に親しませる技能を取得できる。

◆授業方法

指定テキスト『The Poetry of Film（英詩で味わう映画）』を基にしながら、教師が個々の作家と作品について、伝統と作家個人の独創性について説明する。特に個々の作家および作品の特徴的な部分を具体的に提示し、それを音読・吟味しながら理解を深める。比較的簡単な内容説明の英文を読み込みながら、英詩の真髄に触れる。必要に応じて配付資料を使用して、内容説明を補う。個々の作品について、生きた作家、と、生きた時代から＜生命＞を与えられて誕生した作品として捉え、その生命的躍動の流れを追うことを主眼とする。

◆履修条件

2021年度前期昼間スクーリング科目「英米文学演習 I～III」との積み重ねは不可

◆成績評価基準

授業参加意識の高さ（10%）、毎回の授業で行う記述式課題（40%）、受講学生自身による手書きノート（50%：コピー類は一切不可）の三点を基にして総合的に評価する。ノートは15回の授業が終了した直後に各自、通信教育部まで郵送することを義務づける。なお、手書きノートの合格水準は市販のB5版35行のノートにびっちり書いて、合計80枚以上となることを予め心得ておくこと。

◆教科書

市販本 The Poetry of Film（英詩で味わう映画） Philip Zitowitz 他7名 金星堂 1900円
（税別）

資料配布（Classroom） Classroomを通して適宜配信する配布資料
フリーウェブサイト 「野呂有子の研究ウェブサイト」

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

E-mail: yuko.kanakubo.noro@gmail.com 宛てに送付されたメールには、授業内容等についての質問に限り応答する。教科書は授業時に指導教師と受講学生が一緒に読みながら授業を進める必要上、また、内容のかなり多い部分をノートに手書きで転記してもらので必ず購入しておくこと。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	授業の進め方、オリエンテーション、英米文学と英語文学の意義を説明し、その背景を解説する。導入（偉大な先達： Milton, Spenser, Shakespeare, Malory, Queen Elizabeth 偉大な書物：英語訳聖書）を行う。
	事 前 学 修	テキストを最初から最後まで概観し、全体の流れと構成を把握しておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
2回	授 業 内 容	Chapter 1 映画『ローマの休日』を通して学ぶ、ロマン派詩人シェリーとキーツ、さらにワーズワスについても触れる
	事 前 学 修	テキスト6から9頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って課題提出が可能な状態にしておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
3回	授 業 内 容	Chapter 2 映画『オーランド』を通して、エリザベス朝の詩人たち、スペンサーとシェイクスピアが、20世紀の女性作家ヴァージニア・ウルフに与えた影響について理解する。
	事 前 学 修	テキスト10から13頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。

◆授業計画

4回	授業内容	Chapter 3 映画『理性と感情』を通して、19世紀の女性作家ジェーン・オースティンの結婚観と当時の女性の置かれた社会的地位について考察・理解する。
	事前学修	テキスト14から17頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
5回	授業内容	Chapter 4 映画『ダラウェイ夫人』を通して、戦争（第一次世界大戦）による後遺症の問題、同性愛と異性愛、精神と生死の問題について学ぶ。さらにそこにシェイクスピアの影が射していることについても考察する。
	事前学修	テキスト18から21頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
6回	授業内容	Chapter 5 映画『明日をつかめ』を通して、第二次世界大戦後のエリート養成高校に現れた人間疎外の問題を考える。そこに16世紀英文学を風靡したカルピ・デイエムの思想が流れて生き続け、若者の精神を鼓舞していることをロバート・ヘリックの詩を手がかりに考察する。
	事前学修	テキスト22から25頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事後学修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。

◆授業計画

7回	授 業 内 容	Chapter 6 映画『蛇の接吻』を通して、現代にもなお、英国の誇る革命叙事詩人ジョン・ミルトンの主張した結婚愛と「あるべき夫婦像」の問題が庭の文化の中に流れていることを確認する。
	事 前 学 修	テキスト26から29頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
8回	授 業 内 容	Chapter 7 映画『死んだ男』を通して、開拓時代のアメリカ西部の荒涼たる風景の中にまで、ミルトンの楽園観とミルトンから大きな影響を受けた詩人ジョン・キーツの詩が生き続けて、極限所状態におかれた人間を励ます力を持っていることを確認する。
	事 前 学 修	テキスト30から33頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
9回	授 業 内 容	Chapter 12 映画『赤毛のアン』を通して、20世紀初頭のカナダ文学にまで、19世紀英国の桂冠詩人アルフレッド・テニスの影響があることを確認する。さらに、テニス作『国王牧歌』に認められる、サー・トマス・マロリー作『アーサー王の死』の影響と、『赤毛のアン』に認められるフェミニズム的要素についても考察する。
	事 前 学 修	テキスト50から53頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	Chapter 14 映画『マディソン郡の橋』を通して、20世紀最大の詩人と言われるウィリアム・バトラー・イェイツの詩について考察する。さらに、英国におけるアイルランド問題およびカトリック教の問題についても理解を深める。
	事 前 学 修	テキスト58から61頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
11 回	授 業 内 容	Chapter 16 映画『酒と薔薇の日々』を通して、英国19世紀末の詩人アーネスト・クリストファー・ダウソンの詩に触れる。「世紀末の退廃的デカダンス」について、オスカー・ワイルドについても考察しつつ、理解を深める。
	事 前 学 修	テキスト66から69頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
12 回	授 業 内 容	Chapter 18 映画『地獄の黙示録』を通して、20世紀英国の誇るノーベル賞作家T. S. エリオットの詩「虚ろな男」について考察する。さらに、19世紀後半から20世紀前半の英国の誇る、海洋冒険小説作家ジョゼフ・コンラッド作『闇の奥』との関連についても解明する。時間に余裕があれば、ミュージカル『キャッツ』の原作となるエリオットの詩群を鑑賞する。
	事 前 学 修	テキスト74から77頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	Chapter 19 映画『四つの結婚と一つの葬儀』を通して、W. H. オーデンの詩「葬送ブルース」を鑑賞する。さらにオーデンの生き方を通して、「イギリス文学」と英国の文学作家たちの領域がイギリス国内にのみ留まるものではなく、広く世界に伝播し、国際性を帯びたものとなっていることを再確認する。
	事 前 学 修	テキスト78から81頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
14 回	授 業 内 容	Chapter 20 映画『卒業』を通して、ポール・サイモン作「サウンド オブ サイレンス」を鑑賞し、この楽曲が実は、1611年英国のジェームズ一世の命により出版された『欽定英訳聖書』などイギリスの歴代の英語訳聖書の「詩篇」から大きなインスピレーションを得て作成されたものであることを明らかにする。併せて、すぐれた英米のポピュラー・ミュージックの多くが、「英語訳聖書」から影響を受けて作成されていることを確認する。
	事 前 学 修	テキスト82から85頁を読み、内容すべてをノートに転記し、英語語彙を辞書で調べて書き出しておくこと。さらに、練習問題を解いておき教師の要請に従って応答できる状態を準備しておくこと。事前配付資料の指定箇所についても同様の作業を行っておくこと。
	事 後 学 修	各自、授業内容を手書ノートに整理し、次回授業の教科書該当部分を読んで、授業内容を確認し、理解しておくこと。練習問題を解いておき、担当教師の要請に応じて即座に課題提出できるようにしておくこと。
15 回	授 業 内 容	配付資料を基にして、Paradise Lost (『楽園の喪失』) と The Phantom of the Opera (『オペラ座の怪人』) 等について比較・考察する。現代の映画作品にも様々な面で17世紀とそれ以前の英文学作品の影響が認められることを確認する。
	事 前 学 修	配付資料をノートに手書きで転記しておくこと。さらに、これまでの授業内容を再確認し、手書きノートに整理しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容およびその説明をノートに書き加えて授業終了直後に通信教育部に郵送できるように準備しておくこと。

◆授業概要

「西洋思想史 I」では、西洋の学問の原点ともいえる古代ギリシア・ローマの思想、およびそれと密接な関連にある中世の思想を歴史的展開に沿って学びます。それらの思想の担い手たちが一体どのような問題意識を持ち、どのような答えを見出してきたのかを学びます。なお、それらの思想は西洋文化全般の要となる基礎的な教養となっており、それらを学ぶことによって、価値観やライフスタイルが多様化する現代を見つめるヒントが得られるでしょう。

◆学修到達目標

後期には、古代ギリシア（古典期以降）・ローマおよび中世の思想を、歴史的展開に沿いながら主に「幸福」の問題を軸にして学びます。私たちの多くは漠然と「幸福になりたい」と考えて生きているように思いますが、その一方で、「そもそも幸福とは一体どのようなことなのか」という根本的なことについては、あまり突き詰めて考えないように思います。本講座では主に、この問いに対して古代の思想家たちがどのような答えを見出してきたのかを学び、皆さん自身が「幸福とはどのようなことなのか」を自主的に考えられるようになることを目標とします。

◆授業方法

授業は配布プリントを用いて講義形式で行います。基本的に毎回約 45 分の動画を二本ずつ配信します。休憩を入れつつ、なるべくリラックスして受講してください。なお、本講座では、いわゆるギリシア古典期以降、ルネサンスまでのさまざまな思想家が登場しますが、理論としての思想だけでなく、彼らのエピソードや人物像、時代背景などもできるかぎり紹介し、なるべくリアリティのある授業を行いたいと思います。

◆履修条件

前期のみ、後期のみ受講も認めますが、学習効果を上げるため、なるべく前期・後期と通して受講してください。また、令和 2 年度後期昼間スクーリング「西洋思想史 I」（関谷担当）との積み重ねを不可とします。

◆成績評価基準

期末レポート 100%

◆教科書

通材 『西洋思想史 I P20200』通信教育教材（教材コード 000569）

資料配布 (Classroom) 毎回、授業の流れを簡潔にまとめたプリントと、必要な場合は追加資料を PDF で配布します。

◆参考書

通材 『哲学 B10700』通信教育教材（教材コード 000404）

◆授業相談先（連絡先）

sekiya.yuma2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンスおよび古典期までのギリシア
	事前学修	指定教科書や参考書等を用いて、ソクラテス登場以前までの思想の流れを大まかに把握しておくこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、古典期までのギリシアの歴史と思想を振り返ること
2回	授業内容	ソクラテス・プラトン<魂の思想>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「ソクラテス」および「プラトン」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、ソクラテスおよびプラトンの思想を振り返ること
3回	授業内容	アリストテレス<目的論的世界観と活動説>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「アリストテレス」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、アリストテレスの思想を振り返ること
4回	授業内容	キュレネ派<快楽主義の哲学>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「キュレネ派」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、キュレネ派の思想を振り返ること
5回	授業内容	キュニコス派<質実剛健と自足の哲学>
	事前学修	哲学史の参考書の「キュニコス派」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、キュニコス派の思想を振り返ること
6回	授業内容	エピクロス派<心の平安の哲学>
	事前学修	哲学史の参考書の「エピクロス派」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、エピクロス派の思想を振り返ること
7回	授業内容	古期ストア派<不動心の哲学>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「古期ストア派」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、古期ストア派の思想を振り返ること
8回	授業内容	古代ローマの哲学1<古代ローマとセネカ>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「セネカ」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、古代ローマの文化およびセネカの思想を振り返ること

◆授業計画

9回	授業内容	古代ローマの哲学 2<エピクテトス、マルクス・アウレリウス、プロティノス>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「エピクテトス、マルクス・アウレリウス、プロティノス」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、エピクテトス、マルクス・アウレリウス、プロティノスの思想を振り返ること
10回	授業内容	キリスト教<「愛」の思想>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「キリスト教」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、キリスト教の思想を振り返ること
11回	授業内容	アウグスティヌス<「罪」からの救い>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「アウグスティヌス」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、アウグスティヌスの思想を振り返ること
12回	授業内容	中世哲学概説<信仰と理性の問題>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「中世哲学」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、中世の思想の流れを振り返ること
13回	授業内容	ルネッサンス<エピローグー神々中心の世界観から人間中心の世界観へー>
	事前学修	指定教科書や参考書等の「ルネッサンス」の箇所を読むこと
	事後学修	配布プリントに基づいて、ルネッサンスの文化について振り返ること
14回	授業内容	期末レポート課題の説明
	事前学修	全回を振り返り、授業内容を整理しておくこと
	事後学修	課題に取り組むこと
15回	授業内容	総まとめ (zoomを用いた質問コーナー)
	事前学修	全回を振り返り、疑問点を整理しておくこと
	事後学修	話題になったことがらを振り返り、理解を深めておくこと

◆授業概要

日々のニュースでは、GDP、経済成長率、国際収支など、さまざまな経済に関する事柄が報じられています。この講義では、経済学概論などの経済学関連の科目の入門および基礎として、一国における経済を対象とする国民所得の決定、金融財政政策の有効性などについて、基本的な事柄や内容および基礎理論を理解し、現代の社会問題について、経済を通して考える基礎を養うことを目的とします。

◆学修到達目標

経済学関連の基礎および入門として、マクロ経済学に関する基本的な事柄や基礎理論に関連する以下のことを目標とする。

1. 経済学の基本的な見方、考え方を理解し、説明できるようになる。
2. GDP、失業、インフレーションなどマクロ経済に関する基礎を理解し、説明できるようになる。
3. 金融政策、財政政策による経済への影響に関する基本的な考えを理解し、説明できるようになる。

◆授業方法

授業計画に沿って、項目ごとにClassroomのトピックを分けている。トピックごとに、予習用の資料とパワーポイントによる動画ファイル、授業アンケートがあるので、資料で予習した後に、動画ファイルを視聴し学修する。学修後に出欠を兼ねた授業アンケートを回答する。質問などは授業アンケートなどでも受け付ける。また、課題や小テストがある場合もトピック内で指示するので必ず解答すること。なお、Zoomによる双方向を授業も一部実施する予定です。

◆履修条件

令和3年度昼間スクーリング（後期）『経済学 B』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

前期のみの受講も可能だが、学修効果を上げるため、前期・後期の連続受講が望ましい。また、令和2年度昼間スクーリング（後期）『経済学』（谷川孝美）との積み重ね不可。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 各項目に応じた講義概要を、各トピック内で予習用としてPDFファイルにて配布する。各自取得し、予習すること。

◆参考書

市販本 『ミクロ・マクロ経済理論入門』 藤本 訓利，陸 亦群，前野 高章，文眞堂，2020年

市販本 『スティグリッツ入門経済学第4版』 ジョセフ・E・スティグリッツ，カール・E・ウォルシュ著，藪下史郎訳，東洋経済新報社，2012年

◆授業相談先（連絡先）

Classroom や授業アンケートおよび以下のメールにて対応します。

tanikawa.takayoshi2020@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	授業の進め方・オリエンテーション・経済学の対象と課題
	事前学修	新聞の経済欄などをよく読み、経済時事問題に注目しておくこと。また、事前配付資料および参考書に指定している『スティグリッツ入門経済学第4版』（以下、参考書）の第1章第1節をよく読んでおくこと。
	事後学修	授業内で用いられた専門用語や説明を確認し、理解すること。
2回	授業内容	経済学の主要な概念 トレードオフ、インセンティブ、交換
	事前学修	配付資料および参考書第1章第1節をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
3回	授業内容	ミクロ経済学とマクロ経済学
	事前学修	事前配付資料および参考書第1章第2, 3節をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
4回	授業内容	GDP（国内総生産）、国内総生産における三面等価の原則
	事前学修	事前配付資料および参考書第8章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
5回	授業内容	総需要と総供給
	事前学修	事前配付資料および参考書第8章をよく読むこと。また、前回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
6回	授業内容	貯蓄、投資、資本市場
	事前学修	事前配付資料および参考書第8章をよく読むこと。また、第4, 5回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
7回	授業内容	一般均衡モデル
	事前学修	事前配付資料および参考書第8章をよく読むこと。また、第4, 5, 6回の講義を再確認すること。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
8回	授業内容	経済成長、生産性
	事前学修	事前配付資料および参考書第9章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。
9回	授業内容	失業とマクロ経済学
	事前学修	事前配付資料および参考書第10章をよく読んでおくこと。
	事後学修	配付資料や参考書をもとに、専門用語や説明を確認すること。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	インフレーションと金融政策
	事 前 学 修	事前配付資料および参考書第 11 章をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
11 回	授 業 内 容	金融政策のマクロ経済への影響
	事 前 学 修	事前配付資料および参考書第 11 章をよく読むこと。また，第 10 回の講義を再確認すること。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
12 回	授 業 内 容	財政政策のマクロ経済への影響
	事 前 学 修	事前配付資料および参考書第 11 章をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
13 回	授 業 内 容	グローバル危機，世界的な金融経済危機
	事 前 学 修	事前配付資料および参考書第 12 章をよく読んでおくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書をもとに，専門用語や説明を確認すること。
14 回	授 業 内 容	理解度の確認
	事 前 学 修	予め配布された資料を熟読し，内容を確認しておくこと。
	事 後 学 修	配付資料や参考書などで，講義内容をよく確認し理解すること。
15 回	授 業 内 容	試験および解説
	事 前 学 修	前回の講義時に説明した内容を良く確認し理解しておくこと。
	事 後 学 修	前期の授業内容を再確認し，理解を深めること。

◆授業概要

前期よりも細かな文法事項を理解し、そのうえで内容を把握しながら教科書を訳していく。教科書はヨーロッパの歴史と文化に関するもので興味を持てると思う。レベル的には初級としてはやや難しいと思われる。

◆学修到達目標

基本的な文法から始め、文法の知識に基づいて平易な英文が読めるようになる。それができたらさらに具体的な文法事項を理解し、やや難しい英文を読めるようになることを目標にする。

◆授業方法

対面授業で行う。最初に文法の説明をし、そのあとで教科書を読み進めていく。アトランダムに指名して訳してもらうので、指定された箇所を必ず予習しておくこと。2回予習していないと不可にする。教科書は前期の続きから始める。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

皆出席を前提とし、2回の小テストの結果で決める。

◆教科書

市販本「ヨーロッパの国と人々」金星堂

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

classroom でメールでの質問に答える。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンスと教科書の訳
	事前学修	後期からの履修者は教科書を購入しざっと見ておく。
	事後学修	文法の復習
2回	授業内容	五文型の復習と教科書の訳
	事前学修	課題を行い提出する。
	事後学修	訳を訂正し間違っている箇所を復習する。
3回	授業内容	五文型の続きと教科書の訳
	事前学修	指示された箇所を訳しておく。
	事後学修	五文型を理解する。
4回	授業内容	発音記号の説明と教科書の訳
	事前学修	指示された箇所を訳しておく。
	事後学修	訳を訂正し間違っている箇所を復習する
5回	授業内容	分詞の復習と教科書の訳
	事前学修	指示された箇所を訳しておく。
	事後学修	現在分詞の内容を理解する。
6回	授業内容	五文型の復習
	事前学修	指示された箇所を訳しておく。
	事後学修	訳を訂正し誤った箇所を復習する。
7回	授業内容	形容詞の説明と教科書の訳
	事前学修	指示された箇所を訳しておく。
	事後学修	訳の訂正と間違っているところの復習
8回	授業内容	小テストと教科書の訳
	事前学修	試験勉強
	事後学修	訳の訂正と間違っているところの復習
9回	授業内容	試験の解説
	事前学修	指示された箇所を訳しておく。
	事後学修	試験で間違っていたところを復習する。
10回	授業内容	比較級の説明と教科書の訳
	事前学修	指示された箇所を訳しておく。
	事後学修	比較級について理解する。
11回	授業内容	五文型の復習
	事前学修	指示された箇所を訳しておく。
	事後学修	訳を訂正し間違っている箇所を復習する。
12回	授業内容	動詞の活用の説明と教科書の訳
	事前学修	指示された箇所を訳しておく。
	事後学修	動詞の活用の仕方を理解する。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	that 節の説明と教科書の訳
	事 前 学 修	指示された箇所を訳しておく。
	事 後 学 修	that 節について理解する。
14 回	授 業 内 容	小テストと教科書の訳
	事 前 学 修	試験勉強
	事 後 学 修	小テストの復習
15 回	授 業 内 容	小テストの解説
	事 前 学 修	指示された箇所を訳しておく。
	事 後 学 修	文法のおさらい

◆授業概要

犯罪と刑罰に関する基本法である刑法について、法益の保護と秩序の維持とを役割とすることを学ぶ。また、人権とせめぎ合う統制手段である刑罰に関する理解を深めながら、刑法の基本的原理と仕組みを把握し、その理論的側面とリアルな現実面とを理解し学修する。

◆学修到達目標

犯罪論・刑罰論の重要テーマを体系的に学び、刑法学の堅牢な基礎を築くことにより、犯罪論と刑罰制度の基礎的理解および刑法固有の法的思考能力を発揮することができる。加えて個別の事案を読み解き、論点を抽出・整理して法の適用を論ずる法的処理能力を使いこなすことができる。最終的到達目標としては、刑法理論が直面する今日的課題・立法論と自ら取り組み問題解明を行うことができる。

◆授業方法

基本的に教科書に沿って進めるが、テーマの重要度、難易度、理解度等に配慮し、割愛・補足を行う。必要に応じて適宜教材資料を配付し、参考資料を示すなど受講生の理解を助ける方法を採用。適切な区切りに数回授業内試験を実施し、必要に応じてレポート提出を求めるなど受講生の理解度を測りつつ進める。もとより授業全般を通じて「能動的学修」によるよう導くことはいうまでもない。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

成績評価は、複数回実施する授業内筆記試験（70%）、質問、意見等の積極的発言、簡単な発表、または課題レポート提出等（30%）、を総合して行う。評価基準は、目標を完璧に達成した場合をS、十分に達成A、概ね達成B、最低限達成C、不達成Dとする。

◆教科書

市販本 『Next 刑法総論』 設楽裕文＝南部篤編 弘文堂 2018

◆参考書

開講時に紹介する。また、講義時に質問に応じて、あるいはテーマに関連して随時紹介する。

◆授業相談先（連絡先）

電子メールにより受付けを行い、メールのやり取り、もしくはClassroom上で、または面談により対応する。メールアドレスは初回講義時に開示する。

◆授業計画

1回	授業内容	刑罰制度と「刑法」の意義，刑法はどのような役割をはたしているのか，他の法分野とのちがいは何か，刑事法の中の刑法の位置について考える。
	事前学修	六法を開き，刑事法分野に属する法令を確認し，それらがどのように分類され，体系的に整理配列されているかを考えたうえで授業に臨むこと。
	事後学修	刑事実体法，刑事手続法，矯正保護法の三分類に属する各種法律を確認し，刑法総則と各則の関係，刑法総則の地位について確認する。
2回	授業内容	刑罰とは何かについて，また他の法的統制手段との関係を学び，国家はなぜ刑罰の名の下に犯罪者の生命や自由，財産を奪うことができるのかについて考察する。
	事前学修	国家の手による刑罰も，犯人の生命・自由・財産という利益を奪う点で「法益の侵害」と共通の性格を有する。これをどう説明するか，自分なりの見解をまとめた上で授業に臨むこと。
	事後学修	行政処分や損害賠償等と比べ，刑罰の最も大きな特徴は何か，また各種刑罰の性格について文章にまとめ確認する。
3回	授業内容	刑罰制度の政策的基礎について検討する。まず，刑法を支配する基本原則としての罪刑法定主義について，その自由主義的側面と民主主義的側面に焦点をあわせ検討する。
	事前学修	罪刑法定主義の否定が何をもちたらずか，それが私たちをどんな世界に置くことになるかを考察した上で授業に臨むこと。
	事後学修	罪刑法定主義の背景にある自由主義的要求と民主主義的要求，マグナカルタ以来の歴史的沿革，各種の派生原則などにつき整理・確認を行う。
4回	授業内容	刑法の基本原則として，法益保護の原則，罪刑法定主義と並ぶ保障原則である責任主義を検討する。あわせて，刑法理論の発展と学説の動向を概観する。
	事前学修	犯罪は行為者の悪い性格の表れに過ぎず，未遂と既遂も本質的違いはなく，暴行，器物損壊，公務執行妨害も区別して論じる必要はないとの考えをどう思うか，考察を試みること。
	事後学修	結果責任主義と団体責任主義に基づく責任追及が行われた前近代と比べ，非難可能性を刑罰の不可欠の要件とし，個人責任主義を徹底する今日の考え方を対比し，確認しておく。
5回	授業内容	自然犯と法定犯とは何か，また非犯罪化論の是非，法人の犯罪と法人の処罰についての現状と展望について考察する。
	事前学修	さまざまな犯罪の中には，今日，あえて刑罰の対象とする必要性が乏しくなったものもあるとの指摘が行われたことがある。刑法典中のどの犯罪がそれにあたるかを考えてみる。
	事後学修	各種犯罪を自然犯と法定犯とに分けて論じる見解に合理性はあるか，また，自然人のみを刑罰の名宛人とする現行刑法典のあり方は妥当か，自身の見解をまとめてみる。

◆授業計画

6回	授業内容	犯罪成立要件の構造と特徴，他の法分野との著しい違いの意味をふまえ，構成要件理論の骨格を学修する。
	事前学修	いかなる場合に犯罪は成立し，成立が妨げられるのか，刑法がきわめて慎重な判断をすることとしている理由は何かを考察した上で授業に臨むこと。
	事後学修	三分体系のメリットとデメリットについて整理し確認する。
7回	授業内容	構成要件の構造，要素について学んだ上で，構成要件該当性が問題となる場面として，不作為犯，因果関係について考察する。
	事前学修	不作為犯，とりわけ不真正不作為犯の成立要件について整理・確認し，放火罪に関する判例を検討しておく。
	事後学修	客観的構成要件要素および主観的構成要件要素をなすものをすべて挙げ，一覧表にするなどして整理確認する。
8回	授業内容	違法性とは何か，主観的違法性論と客観的違法性論，結果無価値論と行為無価値論，違法性阻却事由と違法性阻却の原理についての諸テーマを解明する。
	事前学修	法に違反する性質を意味する「違法性」とは実質的には何を意味するのか，考察した上で授業に臨むこと。
	事後学修	形式的違法・実質的違法，主観的違法正論・客観的違法正論，行為無価値論・結果無価値論，これらの違法性の本質をめぐり議論を整理しておく。
9回	授業内容	正当防衛と緊急避難，これら二つの違法阻却由の共通点と相違点，それらはどこから来るのかを考える。
	事前学修	正当防衛が認められやすい社会状況と，認められにくい状況とを対比して，どのような点があるのかをその違いをもたらしかを検討してみる。
	事後学修	違法性阻却事由に関する刑法 35 条・36 条・37 条の規定の意義と内容を整理し確認する。
10回	授業内容	故意と過失・責任能力・刑事未成年について検討し，次いで故意の体系的地位・確定的故意と不確定的故意・概括的故意と択一的故意、未必的故意について検討を加える。
	事前学修	どんなに凶悪残忍な態様で多数の人命を奪う等しても，心神喪失にあたる場合は絶対に処罰できない。なぜか。自分なりの答えに到達するまで考えてみる。
	事後学修	心神喪失・心神耗弱の意義，刑事未成年の意義，原因において自由な行為，これらの意義と問題点について整理し，まとめる。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	錯誤論について，具体的事実の錯誤と抽象的事実の錯誤，客体の錯誤と方法の錯誤，因果関係の錯誤，および法律の錯誤の処理について考察する。
	事 前 学 修	犯人が，①殺そうとした人を誤って別人と取り違え撃ち殺してしまったときと，②撃った弾が逸れ物陰の別人にあたって死亡させてしまったときとで罪責に違いがあるか考えてみる。
	事 後 学 修	法律の錯誤により違法性の意識を欠いた場合のうち，錯誤に無理もない（相当な）事情があり処罰が妨げられる場合とは具体的にどんなときか，判例を挙げて論じてみる。
12 回	授 業 内 容	過失犯をめぐる諸問題，とくに過失犯の構造と予見可能性の内容・程度，旧過失論から新過失論，危惧感説への展開について検討する。
	事 前 学 修	わざとやったわけではなくとも，過失による人の死傷等の惹起は処罰される。なぜか。考えた上で授業に臨むこと。
	事 後 学 修	旧過失論から新過失論，危惧感説へと発展する刑事過失理論と判例の動向を検討してみる。
13 回	授 業 内 容	犯罪遂行のプロセスを確認した上で，実行の着手の意義，障害未遂と中止未遂，中止未遂の意義と要件を検討し，不能犯について考察する。
	事 前 学 修	人の用途でピストルを準備した段階（予備）と，それを被害者に向け引き金を引こうとした時点（未遂）とを比べると刑罰の重さに著しい違いがある。なぜかを考えてみること。
	事 後 学 修	中止未遂が寛大に扱われる理由は何か，中止が認められる要件はどうか，整理しておく。
14 回	授 業 内 容	正犯と共犯，共同正犯・教唆犯・幫助犯についての検討をふまえ，共犯論の諸問題，とくに共犯の従属性について，承継的共犯，片面的共犯等について検討する。
	事 前 学 修	盗みをするよう唆したが，①相手が応じなかった，②いったん決意したが思い返し実行しなかった，③実行に出たが盗めなかった，これら各場合の罪責はどうか，考えてみること。
	事 後 学 修	共犯の従属性につき，実行・罪名・要素の各従属性を説明し，それぞれ判例がどう考えているかを確認しておく。
15 回	授 業 内 容	罪数論と科刑処理について検討し，刑罰の意義と種類，刑罰の執行についての諸問題を検討する。
	事 前 学 修	泥棒がA宅に侵入し，書斎のAの財布を盗り，次いで子供Bの貯金箱を，さらに妻Cのヘソクリ5万円を盗んだとき，窃盗罪は何個成立するか，考えてみること。
	事 後 学 修	単純一罪，法条競合，包括一罪，科刑上一罪，併合罪，単純数罪，これらの分類・整理を確認し，体系的理解を確かなものにしておく。

◆授業概要

現代の政治過程に関するアクター分析および20世紀の政治研究の進化について概説し、政治学の学問的性格をフォローする

◆学修到達目標

政治研究のターゲットがいかなるものなのか、また、政治学の他の社会科学との違い、特異性を理解し、合わせて政治をどのように理解すればいいのかを修得することを目標とする

◆授業方法

基本的には講義形式で行い、時宜に応じて主として新聞報道を素材として現在のジャーナルな政治問題を取り上げ、ともに考える機会を設ける

◆履修条件

前期に履修していることが望ましい、令和2年度後期との積み重ね不可

◆成績評価基準

定期試験が基本、場合によって出席を加味する

◆教科書

市販本 吉野 篤編『政治学 第2版』弘文堂2018年

◆参考書

講義の際に適宜指示する

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	政治過程論の概説
	事前学修	大衆社会での政治状況に関して知識を確認すること
	事後学修	論点を整理し、ノートを整序すること
2回	授業内容	政治過程のアクター分析 政党
	事前学修	テキストの該当箇所を熟読すること
	事後学修	論点を確認しノートを改めて整理すること
3回	授業内容	政党システムの類型
	事前学修	テキストの該当箇所を熟読すること
	事後学修	論点を整理してノートを整序すること
4回	授業内容	選挙と選挙制度
	事前学修	テキストの該当箇所を熟読すること
	事後学修	論点を改めて確認し、ノートを整序すること
5回	授業内容	20世紀アメリカの政治研究概論
	事前学修	テキストの該当箇所を熟読すること
	事後学修	論点整理を行うこと
6回	授業内容	ベントレーの政治過程論
	事前学修	20世紀初頭のアメリカの状況について知識を仕入れること
	事後学修	論点を整理すること
7回	授業内容	シカゴ学派の立場と研究例
	事前学修	テキストの該当箇所を確認すること
	事後学修	論点を整理しノートを整序すること
8回	授業内容	行動論政治学の特質
	事前学修	テキストの該当箇所を確認し熟読すること
	事後学修	論点を整理しノートを改めて確認すること
9回	授業内容	イーストンの政治システム論
	事前学修	政治システムの考え方について事前に調べること
	事後学修	全体像を整理すること
10回	授業内容	脱行動論革命
	事前学修	テキストの該当箇所を熟読すること
	事後学修	論点を整理すること

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	行動論以後の政治研究の傾向
	事 前 学 修	テキストの該当箇所を事前にチェックすること
	事 後 学 修	ノートを改めて整序すること
12 回	授 業 内 容	新制度論の総論
	事 前 学 修	テキストの該当箇所をチェックすること
	事 後 学 修	政治制度について改めて調べ考察すること
13 回	授 業 内 容	歴史的制度論の展開
	事 前 学 修	テキストの該当箇所をチェックすること
	事 後 学 修	論点を改めて整理すること
14 回	授 業 内 容	合理的選択制度論の概要
	事 前 学 修	テキストの該当箇所をチェックすること
	事 後 学 修	論点を改めて整理すること
15 回	授 業 内 容	社会学的制度論の概要
	事 前 学 修	テキストの該当箇所をチェックすること
	事 後 学 修	制度論全体について改めて整理すること

◆授業概要

アニメーション監督・新海誠の全作品を取りあげます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。繊細なコミュニケーションを丁寧に描くその筆致は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能のものです。同時代の先端的な表現者である新海監督の最初期作品から最新作『天気の子』までを分析的に解説する経験を通して、作品批評の技能を習得します。

◆学修到達目標

アニメーション作品を分析的に解説し、表現や仕掛けや物語構造などについて、関連資料を参照し、他者のコメントに目を通しながら、最終的に自分の言葉で論述できるようになります。作品の背景にある文化的、歴史的、地理的背景について考察を深める力を得ます。

◆授業方法

授業はオンデマンド形式で行います。Google Classroomで映像コンテンツを視聴してください。履修者は新海作品を事前に鑑賞しておくことが望ましいです（必須の要件ではありません）。新海誠作品について、過去作から最近作まで順を追って、解説と考察を加えていきます。質疑応答はGoogle Classroomのコメント欄を使用して行います。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

レポート提出（100%）。新海作品の中から一作または複数作を選び、2,000字以上で作品論を展開してください。詳細は、初回の講義時にお話しします。

◆教科書

新海誠とその作品世界について論じた書き下ろし評論を出版準備中です。後期授業開始前には刊行される予定なので、正式にアナウンスができる状況になった段階で告知します。

新海誠のアニメーション作品

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行います。

◆授業計画

1回	授業内容	新海誠、その人と作品。
	事前学修	新海誠監督について調べてみましょう。
	事後学修	新海監督の主要作品をリストアップしてみましょう。
2回	授業内容	最初期作品について。『彼女と彼女の猫』など。
	事前学修	作品を事前に観賞しましょう。
	事後学修	彼女と僕の間「距離」について考えてみましょう。
3回	授業内容	『ほしのこえ』 —物理的な「距離」と精神的な「距離」について
	事前学修	フルデジタルアニメーションとは何なのか、調べてみましょう。
	事後学修	『彼女と彼女の猫』と『ほしのこえ』の「距離」の違いについて考えてみましょう。
4回	授業内容	『雲のむこう、約束の場所』 —SFの趣向を通して表現された世界
	事前学修	これまでに読んだ（観た）SF作品についてまとめてみましょう。
	事後学修	印象に残ったシーンを抜きだしてみましょう。
5回	授業内容	『秒速5センチメートル』 —人物と風景、あるいは速度をめぐる物語
	事前学修	新海作品の「美しさ」はどのような要素によって成り立っているのか、考えてみましょう。
	事後学修	作品のエンディングについて、自分の考えをまとめてみましょう。
6回	授業内容	『秒速5センチメートル』 —連作短編という形式
	事前学修	連作短編とは何か、調べてみましょう。
	事後学修	短編がつながることにより、どのような効果がもたらされるのか考えてみましょう。
7回	授業内容	『星を追う子ども』 —異界に移動し帰還する「子ども」たち
	事前学修	宮崎駿監督『天空の城ラピュタ』を観ておきましょう。
	事後学修	「ファンタジー」という枠組みで新海監督が描こうとしたものは何だったのか、考えてみましょう。
8回	授業内容	『星を追う子ども』 —布置されたキャラクタ
	事前学修	作中での各キャラクターの意味について考えてみましょう。
	事後学修	主人公アスナの「移動」の意味についてまとめてみましょう。
9回	授業内容	『言の葉の庭』 —精緻な映像美学を支える文学性
	事前学修	作品の舞台となった新宿御苑について調べましょう。
	事後学修	新海監督自身による『小説 言の葉の庭』（角川文庫）を読み、作品の奥行きを確認しましょう。
10回	授業内容	『君の名は。』 —すれ違いと入れ替わりの物語
	事前学修	『君の名は。』がなぜヒットしたのか考えてみましょう。
	事後学修	新海作品における「すれ違い」の趣向を改めて振り返ってみましょう。

◆授業計画

11 回	授業内容	『君の名は。』 ー共苦する魂のゆくえ
	事前学修	作品の複雑な時間継起について整理しておきましょう。
	事後学修	新海作品に共通するテーマとモチーフを書きだしてみましょう。
12 回	授業内容	『天気の子』 ー2021年という時代を描くということ
	事前学修	作品で扱われている問題系（環境問題、子供の貧困等）を抜きだしてみましよう。
	事後学修	各シーンで、東京のどのような場所が登場したのかまとめてみましょう。
13 回	授業内容	『天気の子』 ー人身御供譚としての解説
	事前学修	人身御供譚という話型について調べてみましょう。
	事後学修	神話的・説話的な物語定型が組みこまれた理由について考えてみましょう。
14 回	授業内容	新海誠監督のインタビューを読む。
	事前学修	ネットに掲載されている新海誠監督のインタビューを調べてみましょう。
	事後学修	自分の心に響いたインタビュー記事を印刷してレポート提出に備えましょう。
15 回	授業内容	これまでのまとめ。
	事前学修	レポートを完成させる。
	事後学修	「新海誠の世界」を自分なりの仕方でも振り返ってみましょう。

◆授業概要

プレゼンテーションの原稿の書き方を、10の型：列挙型プレゼンテーション、分類型プレゼンテーション、プロセス型プレゼンテーション、調査型プレゼンテーション、報告型プレゼンテーション、説得型プレゼンテーション、問題解決型プレゼンテーション、原因・結果型プレゼンテーション、比較対照型プレゼンテーション、説得型・提案型プレゼンテーションに分類して学び、それぞれの型に合わせてプレゼンテーション原稿を書きます。

◆学修到達目標

コミュニケーションのツールとしてのプレゼンテーションの基本や型を分析し、理解することで、オーディエンスに分かりやすい英文原稿を作成できるようになることを目標とします。

◆授業方法

まず、DVDに英語字幕を付けて、プレゼンテーションの様態を視聴します。次に、そのプレゼンテーションの原稿を模範例文として読み、内容理解問題を解きます。毎回違った型のプレゼンテーションを取り上げ、その構造について学び、10項目に分けられたプレゼンテーションの型に合わせた原稿を書いていきます。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『英作文 I』（大庭香江）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

試験 50%、授業参画度 50%

◆教科書

『Winning Presentations』 Bill Benfield 他著 成美堂 2,700円

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	プレゼンテーションの構造
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
2回	授業内容	プレゼンテーションのスキル
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
3回	授業内容	情報収集と情報倫理
	事前学修	プレゼンテーションのテーマを考える。プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
4回	授業内容	プレゼンテーションの環境の準備
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
5回	授業内容	列挙型プレゼンテーション
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
6回	授業内容	分類型プレゼンテーション
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
7回	授業内容	プロセス型プレゼンテーション
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
8回	授業内容	調査型プレゼンテーション
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
9回	授業内容	報告型プレゼンテーション
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
10回	授業内容	説得型プレゼンテーション
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
11回	授業内容	問題解決型プレゼンテーション
	事前学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事後学修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVDを字幕無しで視聴する。
12回	授業内容	原因・結果型プレゼンテーション
	事前学修	問題解決型プレゼンテーション
	事後学修	プレゼンテーションの模様を、DVDの英語字幕付きで視聴しておくこと。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	比較対照型プレゼンテーション
	事 前 学 修	プレゼンテーションの模様を、DVD の英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事 後 学 修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVD を字幕無しで視聴する。
14 回	授 業 内 容	説得型・提案型プレゼンテーション
	事 前 学 修	プレゼンテーションの模様を、DVD の英語字幕付きで視聴しておくこと。
	事 後 学 修	授業で学んだ型に当てはめ英作文を行なう。DVD を字幕無しで視聴する。
15 回	授 業 内 容	プレゼンテーション原稿の書き方についてのまとめと、試験、解説
	事 前 学 修	これまでに学修したプレゼンテーションの模様を全て DVD で視聴して復習し、提出する原稿の下書きを行っておくこと。
	事 後 学 修	プレゼンテーションの原稿を作成する

◆授業概要

本授業では、「卒業論文」作成の一助となるよう、以下の項目を扱います。

- ① 論文とは何かを知る。
- ② Had better に関する文献資料を精読する。
- ③ 疑問点等を整理する。
- ④ Had better の意味的・語用論的特徴を理解する。

◆学修到達目標

本授業では、次の能力育成を目指します。

- (a) 論文の構成を理解し、説明することができる。
- (b) 文献を正確に読み解き、まとめることができる。
- (c) 疑問を捻出することができる。
- (d) 解決案（策）を創出することができる。

◆授業方法

本授業は全編「オンデマンド授業」となります。Google Classroom 上に公開される授業動画を視聴し、期限までに課題を提出してください（課題がない授業回もあります）。授業内容で不明な点がある場合、Google Classroom 上に質問を受け付ける場所を用意しておきますので、そちらに質問を書き込んでください。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『英語学演習』（小澤賢司）とは積み重ね不可。

令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語学演習 C・D』（小澤賢司）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

課題（100%）

※全課題の3分の2以上提出していることを前提に総合的に評価する。

◆教科書

資料配布（Classroom）資料を配布します。

◆参考書

大学生・社会人向けの辞書を用意してください。2003年以降に発行された辞書が望ましいです。

◆授業相談先（連絡先）

Google Classroom 上、あるいは Google フォームにて質問を受け付けます。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業概要等の確認、テキスト等の確認、辞書について）
	事前学修	本授業のシラバスを熟読しておくこと
	事後学修	手持ちの辞書や文法書で、had better の意味を確認しておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
2回	授業内容	①論文とは何かを知る、②論文を読む（可能性を表す can と may）
	事前学修	可能性を表す can と may について、手持ちの辞書や文法書などで調べてくること
	事後学修	論文の構成（話の展開や論法）を再度確認しておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
3回	授業内容	辞書・文法書による had better に関する説明・記述
	事前学修	「語用論的特徴」と「語用論的特徴」の違いを再度確認しておくこと
	事後学修	文献精読のための「類似と相違」について正しく理解しておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
4回	授業内容	①「悪い結果」の含意、②OR 節との共起
	事前学修	①3.1 節、3.2 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 1 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
5回	授業内容	「悪い結果」の非含意？
	事前学修	①3.3 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 2 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
6回	授業内容	had better（と should）の発話環境
	事前学修	①4.1 節、4.2 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 3 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
7回	授業内容	非過去性
	事前学修	①5.1 節、5.2 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 5 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
8回	授業内容	①形とそれが表す意味、②主観性・客観性
	事前学修	①6 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 6 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉

◆授業計画

9回	授業内容	had better の主観性・客観性
	事前学修	6.1 節、6.2 節を精読（和訳）しておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
10回	授業内容	①had better と should、②had better の ‘had’
	事前学修	①7 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 7 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
11回	授業内容	不可避性・早急性・特定性
	事前学修	①8.1 節、8.2 節、8.3 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 8 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
12回	授業内容	比較としての had better（量的分析）
	事前学修	①9 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 9, 10, 11 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
13回	授業内容	参考文献の書き方、文書作成について
	事前学修	これまでの学修内容を復習しておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
14回	授業内容	論文を読む（HAD BETTER のモダリティ）
	事前学修	これまでの学修内容を復習しておくこと
	事後学修	漏れのある学修内容を確認しておくこと
15回	授業内容	総復習および課題作成
	事前学修	これまでの学修内容をすべて復習しておくこと
	事後学修	卒業論文作成に努めること

◆授業概要

17世紀西洋思想の古典、アルノー、ニコル共著『論理学、別名思考の技法』の第四部「方法」、及び関連する諸テクストを読んでいきます。デカルトの影響下に執筆された同書ですが、確実な知識のみを求めたデカルトに対し、アルノーたちは、不確実性に常に付きまといられる人間的な出来事の論理にも目を向けました。確実な知識とは何か、不確実な事柄について私たちは何を知りうるのか、という問題を考えていきます。

◆学修到達目標

西洋哲学の基本用語と問題意識を学び、基礎的な哲学書を独力で読んでいくための力を身につけていく事を目的とします。また、併せて、近代的な人間の思考法の特徴を理解することを目的とします。

◆授業方法

教科書と配布プリントにより講義形式で行います。最初は、内容を大づかみにしながら読んでいきます。本文が分かりにくい場合は、部分的に、デカルトたちのより分かりやすいテクストに切り替えるなど、内容把握を優先します。何回かは、教科書を離れて、哲学史的な背景を説明する事にさく予定です（講読の進度によっては授業計画を変更することもある）。尚、動画の時間は、50分から90分まで内容に合わせて不定です。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『哲学基礎講読』（担当者：石井友人）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

中間課題、最終課題の二度のレポート提出により評価する。二回とも提出する事を前提とし、各50%で評価。

◆教科書

通材 『哲学基礎講読 P20100』通信教育教材（教材コード 000042）

資料配布 (Classroom) プリント

◆参考書

講義の中で紹介する

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う

◆授業計画

1回	授 業 内 容	ガイダンス（シラバスの説明） 確実な知識と蓋然的な知識、学的知識とは何か？
	事 前 学 修	『論理学、別名思考の技法』第四部第一章を読んでおくこと。また第四部第一章がいくつかの話題から成るか、段落分けしておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
2回	授 業 内 容	学的知識は存在するのか？ 懐疑論について、精神と感覚について。
	事 前 学 修	第四部第一章の当該部分を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
3回	授 業 内 容	学的知識に限界はあるか？ 学的知識の分類について。
	事 前 学 修	第四部第一章の当該部分を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
4回	授 業 内 容	アルノーとデカルトとの差異を考える。デカルトの方法的懐疑とは何か？
	事 前 学 修	デカルト『省察』「第一省察」を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
5回	授 業 内 容	デカルトの永遠真理創造説、それは確実な知識でありうるのか？
	事 前 学 修	デカルト『省察』「第一省察」を読んでおくこと。
	事 後 学 修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
6回	授 業 内 容	独力で獲得できる知識から保証者への信頼に依拠する知識へ 即ち、学的知識から生を導く知識へ。
	事 前 学 修	第四部第十二章を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
7回	授 業 内 容	神への信頼に依拠する知識。 神への信頼（信仰）に関して、理性が果たすべき仕事について。
	事 前 学 修	第四部第十二章、十三章、十四章を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
8回	授 業 内 容	人間への信頼に依拠する知識。すなわち出来事についての知識の諸規則へ、 必然的真理と偶然的真理について。
	事 前 学 修	第四部第十三章を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
9回	授 業 内 容	出来事についての判断1、内的事情と外的事情について。
	事 前 学 修	第四部第十三章を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
10回	授 業 内 容	信仰と理性1. 盲信と懐疑（不信）について。
	事 前 学 修	「前文」、および第四部第十四章を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	信仰と理性2. 奇跡の真偽判断について。歴史と同じ基準で過去の奇跡について信憑できるのか？
	事 前 学 修	「前文」、および第四部第十四章を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
12 回	授 業 内 容	出来事についての判断2、共通事情と特殊事情について。
	事 前 学 修	第四部第十五章を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
13 回	授 業 内 容	出来事についての判断3、未来の出来事について。比例（確率）について。
	事 前 学 修	第四部第十六章を読んでおくこと。
	事 後 学 修	配布プリント等、授業内容を確認しておくこと。
14 回	授 業 内 容	比例（確率）について。 比例的知識の例外について。
	事 前 学 修	第四部第十六章を読んで、前半と後半の議論の関係を考えておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認しておくこと。
15 回	授 業 内 容	まとめ（講読の進度によっては通常の講義に変更する）。
	事 前 学 修	講義で取り上げた諸章を読み直し、ノートと照らしながら内容を確認すること。
	事 後 学 修	基礎講読の目的は、哲学書の読解に慣れることです。最適な事後学修は、興味を引く哲学書を見つけて、できるだけ丁寧に読み込んでみることです。

◆授業概要

前期に学んだ商業政策の概要や歴史、およびマーケティングをベースに、町おこしという形で商業政策を学ぶ。具体的には、まず町おこしの事例を紹介したうえで、実際の町おこしを進めるうえで必要となる経営関係の知識を学び、さらにまちづくりのコンセプトとなりうるテーマを解説し、受講生が具体的に町づくりを進めるための思考面や知識面での基礎固めをする。

◆学修到達目標

商業政策について概要や歴史を具体的に説明できるようにするとともに、受講生が町おこしを具体的に進めることができるような基礎知識を習得する。

◆授業方法

毎回作成するパワーポイントで講義する動画を利用して授業を進める。必要に応じて、資料も配付(-googleクラスルームに掲示)する。

◆履修条件

出来れば前期に商業政策を履修していることが望ましい。

◆成績評価基準

期末試験と毎回課す課題の提出・回答結果により評価する。

◆教科書

なし

◆参考書

必要に応じて資料を配布(-googleクラスルームに掲示)する。

◆授業相談先(連絡先)

基本的にはクラスルームを利用して行う。

◆授業計画

1回	授業内容	はじめに、前期のまとめと後期の講義の概要
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
2回	授業内容	町おこし—小布施町の事例
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。

3回	授業内容	町おこし—くまもの事例
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
4回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—組織の運営のための経営管理論(1)
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
5回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—組織運営のための経営管理論(2)
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
6回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—組織運営のための経営管理論(3)
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
7回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—組織運営のための経営管理論(4)
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
8回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—経営戦略
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
9回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマ—ゆるキャラ
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
10回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマ—農業と水産
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
11回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマ—エネルギー資源
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
12回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマ—新エネルギー
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること

	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
13 回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマー環境
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
14 回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマー観光
	事前学修	参考書などで関連した箇所を読み、整理しておくこと。
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
15 回	授業内容	後期のまとめ
	事前学修	今までの授業について、整理しておくこと。
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。

◆授業概要

線型回帰分析を踏まえ、その拡張として理解することのできる、非線型回帰分析を紹介する。具体的には累乗モデル、ロジスティック回帰分析を取り扱い、最終的にはロジットモデルを紹介する。ロジットモデルはマーケティング固有のモデルであり、市場調査において極めて重要なモデルとなる。本講義では「仮定」のもたらす「結論」への影響を意識し、ロジットモデルの優位性を確認していく。

◆学修到達目標

- 仮定により結論が異なることを知る。
- 指数モデルの推定を行える。
- ロジスティック回帰分析の推定が行える。
- ロジットモデルを数学的に理解する。

◆授業方法

授業は数回ごとにまとまった内容の講義となっている。ある程度区切りのいい部分で毎回の授業を構成するが、前回の内容を踏まえ当日の授業を進める形式をとるため当日の資料を入手するだけにとどまらず前回の内容を確認しておくことが好ましい。

提示している資料を配信するが、併せてノートを取ることを強く勧める。ノートは資料は写すのではなく、式の変換などを自ら行い、資料と同じ結果が導かれていることを確認していくようにしてください。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

最終レポート（100％）によって評価する。

◆教科書

資料配布 (Classroom) 『歴史学入門』福井憲彦、岩波書店、2006年。

「最上資料館」より配信。閲覧には PowerPoint Keynote を使用してください。

URL:<http://mogami-labo.sakura.ne.jp/>

YouTube「ゆっくり市場調査論」

<https://www.youtube.com/channel/UCpPWPkVptt4v6d8-Ah6Mu9g>

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

大学・学籍番号・氏名を、明示し、電子メールで問い合わせてください。

e-mail address : mogami.kenji@gmail.com

◆授業計画

1回	授業内容	x^n の導関数
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
2回	授業内容	指数と対数
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
3回	授業内容	仮定と結論の関係
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
4回	授業内容	ロジスティック曲線の紹介
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
5回	授業内容	ロジスティック曲線と線形回帰分析の関係
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
6回	授業内容	尤度と最尤推定
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
7回	授業内容	ロジスティック回帰分析におけるパラメータの解釈
	事前学修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事後学修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。

◆授業計画

8回	授 業 内 容	ロジスティック回帰分析の多変数化
	事 前 学 修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事 後 学 修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
9回	授 業 内 容	対数変換時の注意事項
	事 前 学 修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事 後 学 修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
10回	授 業 内 容	完全分離
	事 前 学 修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事 後 学 修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
11回	授 業 内 容	第一種極値分布の分布関数と密度関数
	事 前 学 修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事 後 学 修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
12回	授 業 内 容	ロジットモデルの確率的部分
	事 前 学 修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事 後 学 修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
13回	授 業 内 容	ロジットモデルの確定的部分
	事 前 学 修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事 後 学 修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
14回	授 業 内 容	ロジットモデルとロジスティック回帰分析の関係
	事 前 学 修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事 後 学 修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。
15回	授 業 内 容	ロジットモデルの多変数化
	事 前 学 修	「最上資料館」から資料を入手し内容を確認する。
	事 後 学 修	「ゆっくり市場調査論」の該当する動画を視聴し、授業内容と照らし合わせる。

◆授業概要

英語のポピュラーソングを聞きながら、単語や表現を学び、曲やアーティストに関連する、英語圏を中心とした世界各国の文化について書かれた英文を読みます。

◆学修到達目標

英語の曲の歌詞に頻出する日常使用される重要単語や表現を身に付け、英語圏の文化を学び、説明することができる。

◆授業方法

- 1、曲のリスニングを、ヒントを参考に行う。
- 2、資料を参考に、歌詞の意味を理解する。
- 3、曲やアーティストに関する文化的背景について書かれた英文を読む。
- 4、読解問題を行う。

◆履修条件

令和2年度東京スクーリング（2月期）『英語』（大庭香江）とは積み重ね不可。
令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語 K』（大庭香江）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

試験50%、授業参画度50%

◆教科書

市販本 『English with Hit Songs』 角山他著 成美堂

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	My heart will go on / A clearly Canadian identity
	事前学修	Unit 1 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 1 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
2回	授業内容	Open arms / Wedding customs
	事前学修	Unit 2 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 2 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
3回	授業内容	Life / Superstitions
	事前学修	Unit 3 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 3 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
4回	授業内容	Don't look back in anger / Britain's rock'n roll royalty
	事前学修	Unit 4 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 4 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
5回	授業内容	A whole new world / Disney movies
	事前学修	Unit 5 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 5 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
6回	授業内容	I don't want to miss a thing / Armageddon
	事前学修	Unit 6 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 6 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
7回	授業内容	Review unit 1 / Hollywood
	事前学修	Unit 7 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 7 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
8回	授業内容	The stranger / The stranger world of Harry Potter
	事前学修	Unit 8 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 8 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
9回	授業内容	Hey now / Redheads
	事前学修	Unit 9 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 9 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。

◆授業計画

10 回	授業内容	Everytime I close my eyes / What's in a name?
	事前学修	Unit 10 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 10 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
11 回	授業内容	Kiss of life / British family tree
	事前学修	Unit 11 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 11 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
12 回	授業内容	All I want for Christmas is you / Christmas traditions
	事前学修	Unit 12 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 12 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
13 回	授業内容	Livin' la vida loca / The changing face of America
	事前学修	Unit 13 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 13 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
14 回	授業内容	Review unit 2 / British order
	事前学修	Unit 14 warm-up A で単語の意味を予習しておくこと。
	事後学修	Unit 14 Comprehension Check で読解問題を行い、テキストの英文を正確に理解しておくこと。
15 回	授業内容	まとめと復習、及び試験
	事前学修	配布資料等を含め、授業で学修した内容を全て整理し、確認しておくこと。
	事後学修	授業で学修した内容全てを確認し、復習しておくこと。

◆授業概要

ドイツ語を読むために必要な中級レベルのドイツ語文法と語順（ドイツ語の語順は日本語とよく似ています）を習得することによって、前期に扱ったドイツ語文よりも多少複雑なドイツ語文が読めようになることを目標とします。また、熟語表現などの語彙力の強化も目標とします。

◆学修到達目標

1. 正しいドイツ語の発音ができる。2 語彙力が身に付くようになる。3. 中級レベルのドイツ語文法と語順を理解することによって、前期に扱ったドイツ語文よりも多少複雑なドイツ語文が読める。

◆授業方法

オンデマンド授業で提示された動画は必ず視聴して下さい。一度の視聴で分からなかった内容の動画は繰り返し視聴し、それでも分からなかった点についての質問は随時受け付けます。対面授業では、基本的に次のような手順で進めていきます。授業計画で挙げられている文法事項の説明後、練習問題で定着させていき、ドイツ語の語順を理解するねらいとして、練習問題文の和訳を行い発表してもらいます。そして、文法事項と語順の確認の意味を込めて、学期中に数回7～10行程度の長文講読を行います。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

期末試験（全体の50%）。オンデマンド授業で出される課題は評価対象となりますので全て提出するようにして下さい（全体の50%）。対面授業では、各日の最後の時間に実施する授業内レポートが評価対象となります（全体の50%）。オンデマンド授業、対面授業において総合的に評価します。全て出席していることを前提として評価します（オンデマンド授業の場合、課題の提出が出席を兼ねます）。

◆教科書

市販本『必要最低限のドイツ語文法 改訂版』 中島伸著 DTP 出版 2019年

資料配布 (Classroom) 長文テキスト資料はClassroom内で配布いたします。

◆参考書

独和辞典が必要となります。推奨独和辞典は初回授業時に紹介します。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行う。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	授業の進め方・オリエンテーション・再帰代名詞と再帰動詞：まず、本授業の進め方を説明する。次に、再帰代名詞の形式と用法、そして再帰代名詞と用いられる再帰動詞の種類について説明する。
	事 前 学 修	前期に説明した人称代名詞の用法と変化形を確認し、教科書32～33頁を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
2回	授 業 内 容	長文講読（1）：第1回の授業時に説明した再帰動詞を含む長文の講読を行う。
	事 前 学 修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、Classroomにアップロードされている長文の和訳をしておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
3回	授 業 内 容	話法の助動詞：動詞が2つ使われる構文（枠構造）、話法の助動詞の種類と意味、そして用法について説明する。
	事 前 学 修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書35～37頁を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
4回	授 業 内 容	未来形：未来形の形式と用法について説明する。
	事 前 学 修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書39～40頁を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
5回	授 業 内 容	長文講読（2）：第3回と第4回の授業時に説明した文法事項を含む長文の講読を行う。
	事 前 学 修	第3回と第4回の授業内容を整理したノートを確認し、Classroomにアップロードされている長文の和訳をしておくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
6回	授 業 内 容	動詞の三基本形と動詞の過去人称変化：動詞の三基本形の種類と形式、さらに動詞の過去人称変化とそれを含む過去形の文の用法について説明する。
	事 前 学 修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書41～43頁を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

7回	授業内容	現在完了形：現在完了形の形式と用法について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書45～46頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
8回	授業内容	受動態：受動態の形式と用法、そして状態受動の形式と用法について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書47～48頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
9回	授業内容	複合動詞：2つの複合動詞（分離動詞・非分離動詞）の形式と用法について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書49～50頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
10回	授業内容	形容詞：形容詞の用法、特に付加語的用法と比較級・最高級の用法について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書52～56頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。
11回	授業内容	長文講読（3）：第6回から第10回の授業時に説明した文法事項を含む長文の講読を行う。
	事前学修	第6回からと第10回の授業内容を整理したノートを確認し、Classroomにアップロードされている長文の和訳をしておくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、授業内容を確認し理解しておくこと。
12回	授業内容	zu不定詞：zu不定詞の形式と用法について説明する。
	事前学修	前回の授業内容を整理したノートを確認し、教科書57～58頁を読んでおくこと。
	事後学修	授業の内容をノートに整理し、教科書の該当箇所を読んで、授業内容を確認し理解しておくこと。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	関係代名詞：2つの関係代名詞（定関係代名詞・不定関係代名詞）の種類と用法について説明する。
	事 前 学 修	前回の授業内容を整理したノートを確認し，教科書61～63頁を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し，教科書の該当箇所を読んで，授業内容を確認し理解しておくこと。
14 回	授 業 内 容	接続法：接続法の形式と人称変化，そして接続法の用法について説明する。
	事 前 学 修	前回の授業内容を整理したノートを確認し，教科書65～68頁を読んでおくこと。
	事 後 学 修	授業の内容をノートに整理し，教科書の該当箇所を読んで，授業内容を確認し理解しておくこと。
15 回	授 業 内 容	試験及び解説
	事 前 学 修	予め配布された資料を熟読し，テキストの該当箇所をまとめておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認・理解して，自身が解いた問題の解答が適切かどうかを再確認すること。

◆授業概要

グローバル化の中、国文学の定義も徐々に変容しつつあります。本講義では国文学とは何かに関する概説を行った後、近世小説を代表する作品の一つである上田秋成の『雨月物語』の中から「浅茅が宿」を講読します。一つの作品とじっくり向き合う中で、国文学の神髄に触れ、国文学とは何かについて具体的に考察することを主眼とします。

◆学修到達目標

古典作品の読解力が向上し、国文学に対する理解が深まります。

近世文学と先行する時代の文学との関連性が理解できるようになります。

国文学を学ぶ上での基本的なスキルが向上します。

◆授業方法

主に講義形式で行います。まず、国文学の定義について考察した後、近世小説のジャンルとおおまかな歴史を学びます。その上で、上田秋成と『雨月物語』に関する概説を行い、「浅茅が宿」の本文を読み進めていきます。一度の視聴で理解できない場合には、繰り返し動画を視聴して着実に学修を進めて下さい。開講期間中、学修状況を確認するための小テストを2回行う予定です。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

平常点（20%）、試験（80%）により、総合的に評価します。

毎回出席すること（出席確認はGoogle フォームを用いる予定です）、小テスト（2回）に回答することを前提として採点します。

◆教科書

市販本 『改訂版 雨月物語 現代語訳付き』 上田秋成著 鶴月洋訳注 角川学芸出版（角川ソフィア文庫） 864円（税込）

資料配布（Classroom） 各授業回毎にテキスト講読のための補足資料（レジュメ）を配布します。

◆参考書

授業時に紹介します。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行います。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	授業の進め方・オリエンテーション・国文学とは何か？ 授業の進め方について説明します。その上で、国文学の定義について考察し、多様化する国文学の現在に関する解説を行います。
	事 前 学 修	シラバスの内容を確認して下さい。 テキスト（現代語訳及び原文、解説部分）を通読して下さい。
	事 後 学 修	再度テキスト（現代語訳及び原文、解説部分）を通読して下さい。 配布したレジユメの内容を確認し、ノートにまとめて下さい。
2回	授 業 内 容	近世小説 その歴史とジャンル (1) 配布したレジユメを参照しつつ、多種多様なジャンルを生み出した近世小説の流れ及び代表的な作品について解説します。
	事 前 学 修	前回の授業内容を再確認して下さい。 レジユメを通読して下さい。
	事 後 学 修	レジユメの内容を再確認しながら、補足事項をノートにまとめて下さい。
3回	授 業 内 容	近世小説 その歴史とジャンル (2) 引き続き、近世小説の流れ及び代表的な作品について解説します。
	事 前 学 修	前回の授業内容を、レジユメ及びノートを参照しながら再確認して下さい。
	事 後 学 修	レジユメの内容を再確認しながら、補足事項をノートにまとめて下さい。
4回	授 業 内 容	上田秋成 その生涯と作品 『雨月物語』の作者である上田秋成の人物像及び代表的な作品について解説します。
	事 前 学 修	テキストの解説部分及び上田秋成の略年譜を通読して下さい。
	事 後 学 修	これまでの授業内容を再確認し、ノートの整理を行って下さい。
5回	授 業 内 容	上田秋成及び近世小説に関する小テスト これまでの学修状況を確認する小テストを行います。
	事 前 学 修	ノートの整理を行いながら、前回までの学修内容を再確認して下さい。
	事 後 学 修	テストの内容を振り返りながら、回答に不備がなかったか確認を行って下さい。 テストの内容をノートにまとめて下さい。
6回	授 業 内 容	「浅茅が宿」講読 (1) 「浅茅が宿」の本文を講読します。まず原文を読んだ後、現代語訳を参照、再び原文に戻って作品内容の解説を行います。
	事 前 学 修	原文が読めるように、旧仮名遣いや文法について再確認を行って下さい。
	事 後 学 修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。

◆授業計画

7回	授業内容	「浅茅が宿」講読(2) 前回講読した内容を確認した後、引き続き「浅茅が宿」の本文を講読します。逐一、現代語訳も参照し、的確に内容を把握しながら読み進めていきます。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい(音読が望ましい)。
8回	授業内容	「浅茅が宿」講読(3) 引き続き「浅茅が宿」の本文を講読します。講読と同時に、本文中に引用される先行文学作品に関する調査も行います。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい(音読が望ましい)。
9回	授業内容	「浅茅が宿」講読(4) 引き続き「浅茅が宿」の本文を講読します。講読と同時に、典拠とされた先行文学作品に関する学修も行います。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい(音読が望ましい)。
10回	授業内容	「浅茅が宿」講読(5) 引き続き「浅茅が宿」の本文を講読します。現代語訳に頼る比率を少しずつ下げ、原文のみで読み進めることができるようにしていきます。
	事前学修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事後学修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい(音読が望ましい)。
11回	授業内容	これまでの学修事項に関する小テスト これまで講読してきた内容の理解度を確認するため、小テストを行います。
	事前学修	これまで講読した内容を確認した上で、テキストとレジюмеを参照しながらノートの再整理を行って下さい。
	事後学修	テストの内容を振り返りながら、回答に不備がなかったか確認を行って下さい。 テストの内容をノートにまとめて下さい。

◆授業計画

12 回	授 業 内 容	「浅茅が宿」講読（6） 引き続き「浅茅が宿」の本文を講読します。主人公の人物造形等、作品内容の深い部分にまで考察しながら、講読を進めていきます。
	事 前 学 修	第10回までに講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事 後 学 修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
13 回	授 業 内 容	「浅茅が宿」講読（7） 引き続き「浅茅が宿」の本文を講読します。自分なりに疑問点、問題点を見つけ、それらについて考察しながら読み進めることができるようにしていきます。
	事 前 学 修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事 後 学 修	講読した本文の内容を確認してノートに整理した後、原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
14 回	授 業 内 容	「浅茅が宿」講読（8）・まとめ 引き続き「浅茅が宿」の本文を講読します。最後まで講読した後、全体の内容確認を行い、これまで学修してきた内容の総括を行います。
	事 前 学 修	前回講読した内容を再確認し、ノートの内容を再整理して下さい。
	事 後 学 修	「浅茅が宿」全文の内容を再確認し、テキスト及びレジュメを参照しながらノートの再整理を行って下さい。 原文を繰り返し読んで下さい（音読が望ましい）。
15 回	授 業 内 容	最終レポート 課題に基づいてレポートを執筆、提出して下さい。
	事 前 学 修	レポート執筆に備えて、先行研究の調査及び資料収集を行って下さい。
	事 後 学 修	授業で学んだことを振り返り、その内容をもう一度確認した上で、「国文学とは何か」に関する考察及び理解を深めて下さい。

◆授業概要

本授業では、「卒業論文」作成の一助となるよう、以下の項目を扱います。

- ① 論文とは何かを知る。
- ② Had better に関する文献資料を精読する。
- ③ 疑問点等を整理する。
- ④ Had better の意味的・語用論的特徴を理解する。

◆学修到達目標

本授業では、次の能力育成を目指します。

- (a) 論文の構成を理解し、説明することができる。
- (b) 文献を正確に読み解き、まとめることができる。
- (c) 疑問を捻出することができる。
- (d) 解決案（策）を創出することができる。

◆授業方法

本授業は全編「オンデマンド授業」となります。Google Classroom 上に公開される授業動画を視聴し、期限までに課題を提出してください（課題がない授業回もあります）。授業内容で不明な点がある場合、Google Classroom 上に質問を受け付ける場所を用意しておきますので、そちらに質問を書き込んでください。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『英語学演習』（小澤賢司）とは積み重ね不可。

令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語学演習 A・B』（小澤賢司）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

課題（100%）

※全課題の3分の2以上提出していることを前提に総合的に評価する。

◆教科書

資料配布（Classroom）資料を配布します。

◆参考書

大学生・社会人向けの辞書を用意してください。2003年以降に発行された辞書が望ましいです。

◆授業相談先（連絡先）

Google Classroom 上、あるいはGoogle フォームにて質問を受け付けます。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業概要等の確認、テキスト等の確認、辞書について）
	事前学修	本授業のシラバスを熟読しておくこと
	事後学修	手持ちの辞書や文法書で、had better の意味を確認しておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
2回	授業内容	①論文とは何かを知る、②論文を読む（可能性を表す can と may）
	事前学修	可能性を表す can と may について、手持ちの辞書や文法書などで調べてくること
	事後学修	論文の構成（話の展開や論法）を再度確認しておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
3回	授業内容	辞書・文法書による had better に関する説明・記述
	事前学修	「語用論的特徴」と「語用論的特徴」の違いを再度確認しておくこと
	事後学修	文献精読のための「類似と相違」について正しく理解しておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
4回	授業内容	①「悪い結果」の含意、②OR 節との共起
	事前学修	①3.1 節、3.2 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 1 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
5回	授業内容	「悪い結果」の非含意？
	事前学修	①3.3 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 2 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
6回	授業内容	had better（と should）の発話環境
	事前学修	①4.1 節、4.2 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 3 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
7回	授業内容	非過去性
	事前学修	①5.1 節、5.2 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 5 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
8回	授業内容	①形とそれが表す意味、②主観性・客観性
	事前学修	①6 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 6 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉

◆授業計画

9回	授業内容	had better の主観性・客観性
	事前学修	6.1 節、6.2 節を精読（和訳）しておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
10回	授業内容	①had better と should、②had better の ‘had’
	事前学修	①7 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 7 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
11回	授業内容	不可避性・早急性・特定性
	事前学修	①8.1 節、8.2 節、8.3 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 8 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
12回	授業内容	比較としての had better（量的分析）
	事前学修	①9 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 9, 10, 11 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
13回	授業内容	参考文献の書き方、文書作成について
	事前学修	これまでの学修内容を復習しておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
14回	授業内容	論文を読む（HAD BETTER のモダリティ）
	事前学修	これまでの学修内容を復習しておくこと
	事後学修	漏れのある学修内容を確認しておくこと
15回	授業内容	総復習および課題作成
	事前学修	これまでの学修内容をすべて復習しておくこと
	事後学修	卒業論文作成に努めること

◆授業概要

異文化を理解する上で、それぞれの宗教文化を理解することは、重要な要素と言えます。この講義では世界における五大宗教の理解を軸として、それぞれの開祖・主要な教義・聖典・救いのシステム・歴史的展開を概説していきます。その過程で、諸宗教に共通して見られる概念について理解を深め、宗教学という学問の特徴や宗教学における基本的な概念・専門用語について取り上げます。

◆学修到達目標

主にセム系一神教と称されるユダヤ教・キリスト教・イスラム教（イスラーム）に関する歴史や教義について理解し、説明することができる。さらに、総括として「宗教学」という学問領域の特徴や宗教学に特有の概念・専門用語の正確な理解を踏まえ、宗教学という学問について理解を深めることを目指します。

◆授業方法

指定した市販教科書に基づいて、オンデマンド授業で進めます。1回の講義につき60分～最長90分の配信教材を視聴してもらいます。その他は、配信教材にメンバーを付して、2～3のファイルに分け、一つのファイルが長くなりすぎないようにします。質問などはClassroom上で随時受け付けて速やかに回答するようにします。各章ごと、あるいは区切りのよいところで、3回程度の課題・小テスト（穴埋め問題＋記述式）を実施しますので、締切期限を守って提出してください。

◆履修条件

令和2年度の昼間スクーリング「宗教学概論」との積み重ね不可。後期のみの受講も可能だが、前期・後期の連続受講が望ましい。

◆成績評価基準

講義内で実施する課題・小テスト（40%）と後期末に講義内で提出してもらった2000字程度のレポート（60%）とによって総合的に評価します。レポートは、後期で取り上げた内容の中から、各自がテーマを決めて作成してもらいます。詳細は講義内（Classroomなど）で指示します。

◆教科書

市販本 『図解世界5大宗教全史』 中村圭志著 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2,376円
(税込)

◆参考書

通材 『宗教学 B11000』 通信教育教材（教材コード000004）

通材 『宗教学概論 P30400』 通信教育教材（教材コード000139）

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	講義の進め方全般に関してガイダンスを行う。ユダヤ教① ユダヤ人・ユダヤ教徒を理解し，その現代に至る歴史的展開を概観する。
	事前学修	テキストの 122 ～ 133 ページを読み，ユダヤ教の概観を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ，ユダヤ教の概観を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
2回	授業内容	ユダヤ教② ユダヤ教の主要な教義である律法・安息日などを解説する。
	事前学修	テキストの 134 ～ 143 ページを予め読み，ユダヤ教の教義を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ，ユダヤ教の教義をノートに整理して確認しておくこと。
3回	授業内容	ユダヤ教③ 聖書のエピソードを講読して，ユダヤ教の理解を深める。小テスト実施。
	事前学修	テキストの 144 ～ 155 ページを予め読み，聖書について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ，聖書のエピソードを整理してノートにまとめ確認しておくこと。
4回	授業内容	キリスト教① キリスト教の概観とイエスという人物伝について詳述します。
	事前学修	テキストの 158 ～ 171 ページを予め読み，イエスの生涯について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ，イエスの生涯について整理してノートにまとめ確認しておくこと。
5回	授業内容	キリスト教② イエスの言葉（山上の垂訓・とんち問答・謎めいた言葉）を概説します。
	事前学修	テキストの 172 ～ 183 ページを予め読み，イエスの言葉について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ，イエスの言葉について整理してノートにまとめ確認しておくこと。

◆授業計画

6回	授業内容	キリスト教③ 使徒たちの言行録とパウロによる贖罪の神学・死と復活を概説する。
	事前学修	テキストの 184 ～ 197 ページを予め読み、使徒とパウロについて予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、使徒とパウロについてノートに整理して確認しておくこと。
7回	授業内容	キリスト教④ 救いと裁き、洗礼と聖餐、クリスマスと復活祭、修道会について説明する。
	事前学修	テキストの 198 ～ 207 ページを予め読み、教理と儀礼について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、教理と儀礼について整理してノートにまとめ確認しておくこと。
8回	授業内容	キリスト教⑤ 東方正教会・ローマカトリック教会・プロテスタント諸教会を概観します。
	事前学修	テキストの 208 ～ 215 ページを予め読み、キリスト教諸宗派について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、諸教会について比較して理解を深め、それをノートにまとめ確認しておくこと。
9回	授業内容	キリスト教⑥ 十字軍・宗教改革などの教会の歴史について概説する。 小テスト実施。
	事前学修	テキストの 216 ～ 227 ページを予め読み、教会の歴史を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、教会の歴史について整理してノートにまとめ確認しておくこと。
10回	授業内容	イスラム教① ムハンマドの生涯と『コーラン (クルアーン)』について概説する。
	事前学修	テキストの 230 ～ 245 ページを予め読み、イスラム教の概観を予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、ムハンマドと『クルアーン』を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
11回	授業内容	イスラム教② イスラム帝国の発展と宗派分裂、イスラム過激派の動向を概説する。
	事前学修	テキストの 246 ～ 253 ページを予め読み、イスラム教の歴史について予習しておくこと。
	事後学修	テキストと講義内容を踏まえ、各時代の特徴について整理してノートにまとめ確認しておくこと。

◆授業計画

12 回	授 業 内 容	イスラム教③ 六信・五行・礼拝・巡礼・イスラム法を概説する。小テスト実施。
	事 前 学 修	テキストの 254 ～ 263 ページを予め読み、イスラム教の主要な教理を予習しておくこと。
	事 後 学 修	テキストと講義内容を踏まえ、イスラム教の主要な教理を整理してノートにまとめ確認しておくこと。
13 回	授 業 内 容	宗教学① 宗教学という学問の特徴、宗教の定義などについて概説する。
	事 前 学 修	テキストの 288 ～ 301 ページを予め読み、宗教と宗教学の特徴を予習しておくこと。
	事 後 学 修	テキストと講義内容を踏まえ、宗教学の特徴について整理してノートにまとめ確認しておくこと。
14 回	授 業 内 容	宗教学② 修行・戒律・儀礼・組織・神話・呪術などの主要な概念を概説する。
	事 前 学 修	テキストの 302 ～ 315 ページを予め読み、宗教学の基本概念について予習しておくこと。
	事 後 学 修	テキストと講義内容を踏まえ、宗教学の基本概念について整理してノートにまとめ確認しておくこと。
15 回	授 業 内 容	宗教学③ 宗教学が扱う諸問題を概説する。授業内後期末レポート提出。
	事 前 学 修	テキストの 316 ～ 329 ページを予め読み、宗教学が扱う諸問題を予習しておくこと。
	事 後 学 修	テキストと講義内容を踏まえ、宗教学が扱う諸問題について整理してノートにまとめ確認しておくこと。

◆授業概要

商業史（後期）では、商業史・帝国史における主要な学説・理論を紹介・整理する。ホブスン・レーニン・シュンペーターの古典的帝国主義論，ギャラハーとロビンソンの自由貿易帝国主義論，ケインとホプキンズのジェントルマン資本主義論，ウォーラーステインの近代世界システム論等について解説する。現代世界の諸問題を歴史学的に考察するための知的枠組みを構築できるようになることを目的としている。

◆学修到達目標

1. 商業と帝国主義の関係について総合的に説明できる。
2. 様々な帝国主義論（古典的帝国主義論，自由貿易帝国主義論，ジェントルマン資本主義論，近代世界システム論等）の内容について詳しく説明・比較できる。
3. オランダ，イギリス，アメリカ合衆国という近代の覇権国家が果たした役割と歴史の変遷について説明できる。

◆授業方法

授業動画を視聴し，授業内容をまとめたレポート課題を毎回提出する。第1～3回目では，資本主義的世界体制の成立過程を考察する。第4～13回目では，様々な帝国主義論の内容とそれらの帝国主義論の違いを解説する。第14回目では，脱植民地化がいかに進展してきたのかについて説明する。授業内容の質問については随時受け付ける。

◆履修条件

前期のみの受講，後期のみの受講も可能だが，学修効果を上げるため，前期・後期の連続受講が望ましい。令和2年度昼間スクーリング（後期）『商業史』（竹内真人）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

オンデマンド授業で課される課題は，評価対象であるのですべて提出すること（100%）。なお，課題の提出は出席を兼ねるものとする。

◆教科書

なし

◆参考書

通材 『商業史 S32100』（通信教育教材）（教材コード000555）

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	「商業史（後期）」の課題と方法
	事前学修	世界史事典等を活用して，帝国主義について調べておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
2回	授業内容	資本主義的世界体制の成立
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
3回	授業内容	重商主義，自由貿易主義，帝国主義
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
4回	授業内容	ホブスン・レーニンの帝国主義論
	事前学修	前回までの授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
5回	授業内容	シュンペーターの帝国主義論
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
6回	授業内容	自由貿易帝国主義論
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
7回	授業内容	周辺理論
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
8回	授業内容	ジェントルマン資本主義論
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
9回	授業内容	ジェントルマン資本主義論への諸批判
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
10回	授業内容	ブローデル「地中海」の方法
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
11回	授業内容	近代世界システム論
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。
12回	授業内容	文化帝国主義論
	事前学修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事後学修	授業内容をノートに整理しておくこと。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	ブリティッシュ・ワールド論
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理しておくこと。
14 回	授 業 内 容	脱植民地化とグローバリゼーション
	事 前 学 修	前回の授業のノートを確認し，授業内容を理解しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容をノートに整理しておくこと。
15 回	授 業 内 容	まとめ
	事 前 学 修	これまでの授業内容を確認し，ノートをよく復習しておくこと。
	事 後 学 修	授業内容を確認・理解すること。

◆授業概要

前期に学んだ商業政策の概要や歴史、およびマーケティングをベースに、町おこしという形で商業政策を学ぶ。具体的には、まず町おこしの事例を紹介したうえで、実際の町おこしを進めるうえで必要となる経営関係の知識を学び、さらにまちづくりのコンセプトとなりうるテーマを解説し、受講生が具体的に町づくりを進めるための思考面や知識面での基礎固めをする。

◆学修到達目標

商業政策について概要や歴史を具体的に説明できるようにするとともに、受講生が町おこしを具体的に進めることができるような基礎知識を習得する。

◆授業方法

毎回作成するパワーポイントで講義する動画を利用して授業を進める。必要に応じて、資料も配付(-googleクラスルームに掲示)する。

◆履修条件

出来れば前期に商業政策を履修していることが望ましい。

◆成績評価基準

期末試験と毎回課す課題の提出・回答結果により評価する。

◆教科書

なし

◆参考書

必要に応じて資料を配布(-googleクラスルームに掲示)する。

◆授業相談先(連絡先)

基本的にはクラスルームを利用して行う。

◆授業計画

1回	授業内容	はじめに、前期のまとめと後期の講義の概要
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
2回	授業内容	町おこし—小布施町の事例
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。

3回	授業内容	町おこし—くまもんの事例
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
4回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—組織の運営のための経営管理論(1)
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
5回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—組織運営のための経営管理論(2)
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
6回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—組織運営のための経営管理論(3)
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
7回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—組織運営のための経営管理論(4)
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
8回	授業内容	町づくりのための経営学紹介—経営戦略
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
9回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマ—ゆるキャラ
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
10回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマ—農業と水産
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
11回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマ—エネルギー資源
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
12回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマ—新エネルギー
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること

	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
13 回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマー環境
	事前学修	新聞や雑誌などで関連した記事を読み、日頃から現実の最新動向にふれること
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
14 回	授業内容	町づくりでコンセプトとなりうるテーマー観光
	事前学修	参考書などで関連した箇所を読み、整理しておくこと。
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。
15 回	授業内容	後期のまとめ
	事前学修	今までの授業について、整理しておくこと。
	事後学修	配布資料やノート見直して整理しておくこと。

◆授業概要

後期の経営学では経営学の応用的な領域を取り上げ解説する。近年、地球環境問題が世界的な関心事となっており、企業経営にも大きな影響を及ぼしている。すなわち、環境に配慮した経営を行うことが必須の要件として求められるようになってきている。授業では、循環型社会の構築、自動車産業における次世代カーの開発、ESG 投資などのテーマを取り上げ、具体的な事例を取り上げながら、環境問題と企業活動の関わりについて考えていくことにする。

◆学修到達目標

1. 循環型社会の理念について学術的に説明できるようになる。2. 「ガソリンから電気へ」という自動車産業を取り巻く現状についてその背景にある要因を理論的に説明できるようになる。3. 環境問題における金融の果たす役割について説明できるようになる。4. 脱炭素社会の構築に向けて創造されるイノベーションについて説明できるようになる。

◆授業方法

授業は「オンデマンド」方式で行うため、受講生は毎回、30～40分程度の授業内容に関する「動画」を視聴することになる。「動画」は当該週の授業時間の前に掲載し、原則として1週間後には削除する。受講生は「動画」を視聴した後、「動画」の中で指示された「課題」の作成に取り組むことになる。「課題」の作成にあたっては、授業内容を参考にしながら様々な資料やデータに当たり、論点をきちんと整理した上で指定された文字数でまとめることになる。課題の提出期限については「動画」の中で指定するので、定められた期限までに「課題」を提出すること。

◆履修条件

なし

◆成績評価基準

本授業では受講生に対して毎回、レポート課題を課し、定められた期限内に提出することを求めている。レポート課題の評価に当たっては、レポートの内容（論理的展開、結論の明瞭さ、適切な資料・データの引用、誤字脱字の少なさ等）および定められた提出期限内に提出されているか否かが評価基準となる。従って成績評価においてはレポート課題が100%の比重を占めることになる。

◆教科書

なし

◆参考書

市販本 『環境経営とイノベーション：経済と環境の調和を求めて』 所伸之編著 文眞堂 2017年

◆授業相談先（連絡先）

授業に関する質問は次のメールアドレスにすること。Tokoro.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス
	事前学修	「オンデマンド」方式で授業を行うため、授業の進め方や課題の作成、提出方法等について事前にシラバスで確認しておくこと。また、授業で取り上げる内容についても事前にシラバスで確認しておくこと。
	事後学修	ガイダンスで説明した内容について十分に理解したかどうかの確認作業を行うこと。その上で、疑問点があればシラバスに記載された連絡先に問い合わせを行い、当該授業についての疑問点の解消に努めること。
2回	授業内容	現代産業社会の特質（経済のソフト化、情報化、国際化、高齢化）
	事前学修	事前に google classroom に掲載された「資料」に目を通し、経済のソフト化、情報化、国際化、高齢化という4つのキーワードについて調べておくこと。
	事後学修	経済のソフト化、情報化、国際化、高齢化等のキーワードについて復習するとともに、関連事項を調べることでより理解を深めること。
3回	授業内容	株式会社の仕組み（株主の利益、株主総会、株主と経営者の関係）
	事前学修	インカム・ゲイン、キャピタル・ゲイン、株主総会の権限等、専門的な内容を取り上げるので、これらの事項について事前に調べておくこと。
	事後学修	株式会社の仕組みについて理解できたかどうかを今一度チェックし、その特徴について整理すること。
4回	授業内容	企業経営の日米比較
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、日米企業の経営スタイルの違いについて基本的な事項を理解しておくこと。
	事後学修	日本とアメリカの企業経営のスタイルの違いを整理し、各々の長所、短所について理解しておくこと。
5回	授業内容	循環型社会の構築
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、循環型社会の理念や3Rについて事前に調べておくこと。
	事後学修	授業内容を今一度整理し、One-way 型社会と循環型社会の違いについて理解を深めておくこと。
6回	授業内容	自動車と環境①
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、自動車メーカー各社の次世代カー開発の状況について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、自動車産業を取り巻く状況と自動車メーカー各社の戦略について要点をまとめておくこと。
7回	授業内容	自動車と環境②
	事前学修	google classroom に掲載された「資料」に目を通し、「クルマ社会」の変化について理解しておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、「クルマ社会」の今後の展望について関連する資料に当たりながら予測してみることに。

◆授業計画

8回	授業内容	金融と環境
	事前学修	google classroomに掲載された「資料」に目を通し、SRI や ESG について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、環境問題における金融の果たす役割について整理しておくこと。
9回	授業内容	環境経営とステークホルダー
	事前学修	google classroomに掲載された「資料」に目を通し、ステークホルダーとしてのNPOの役割について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、ステークホルダーとしてのNPOの課題について整理しておくこと。
10回	授業内容	企業内教育と環境問題
	事前学修	google classroomに掲載された「資料」に目を通し、企業内教育で行われている環境教育について事前に調べておくこと。
	事後学修	社員教育の一環として行われている環境教育の意義について関連資料にも当たりながら整理しておくこと。
11回	授業内容	低炭素社会の構築とイノベーション
	事前学修	google classroomに掲載された「資料」に目を通し、技術革新と社会変革の歴史について調べておくこと。
	事後学修	シュンペーターのイノベーション論について関連資料に当たりながら、その内容について理解を深めておくこと。
12回	授業内容	環境経営とCSR, CSV
	事前学修	google classroomに掲載された「資料」に目を通し、CSR や CSV の考え方について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、環境経営を CSV の視点から捉える必要性について理解を深めておくこと。
13回	授業内容	環境マネジメント (ISO14001)
	事前学修	google classroomに掲載された「資料」に目を通し、ISO14001 について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、ISO14001 の課題について整理しておくこと。
14回	授業内容	持続可能性とマネジメントの新潮流
	事前学修	google classroomに掲載された「資料」に目を通し、環境問題への対応が企業経営に与える影響について調べておくこと。
	事後学修	授業内容を復習し、環境問題とマネジメントの新潮流について要点を整理しておくこと。

◆授業計画

15 回	授 業 内 容	企業活動と環境問題
	事 前 学 修	google classroomに掲載された「資料」に目を通し、環境経営を分析する2つの視点について理解しておくこと。
	事 後 学 修	企業の実践する環境経営について全体としての特質を整理しておくこと。

◆授業概要

本授業は、近代から現代までの西洋の哲学の歴史を通して、哲学の一般的な知識を習得することを目的とした授業である。

◆学修到達目標

この授業は、代表的な近現代の西洋の哲学者の考え方を説明することができるようになること、哲学者の観点を理解し、批判的な視点を持つことができるようになることを目標とする。

◆授業方法

授業動画を視聴し、課題を提出する。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『哲学』とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

課題の提出（40%）、レポート試験（60%）により総合的に評価する。毎回出席票を提出していることを前提として評価の対象とする。

◆教科書

資料配布（Classroom）

◆参考書

市販本 小手川正二郎 2020 『現実を解きほぐすための哲学』 トランスビュー

授業計画に記載した文献の他、授業中に紹介。

◆授業相談先（連絡先）

初回授業時に案内する。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業内容の説明の他、成績評価や出席についての説明があるので必ず聞くこと）、哲学とはどのような学問なのか、近現代までの西洋哲学の概要
	事前学修	近現代までの西洋哲学にどのようなものがあるか簡単に調べる。
	事後学修	他の人が哲学についてどのように説明しているか、関連する文献や記事を読み、哲学とはどのような学問かについて、自分なりの流れを作って説明できるようにする。
2回	授業内容	近代哲学—デカルトの考え方を中心に
	事前学修	デカルトはどのような思想を展開したか調べる。
	事後学修	参考文献 小林道夫 2006『デカルト入門』筑摩書房、富田恭彦 2019『デカルト入門講義』筑摩書房 などを読み、デカルトについて説明できるようにする。
3回	授業内容	近代哲学—経験論の考え方を中心に
	事前学修	経験論について調べる。
	事後学修	参考文献 一ノ瀬正樹 2016『英米哲学史講義』筑摩書房、富田恭彦 2017『ロック入門講義—イギリス経験論の原点』筑摩書房などを読み、経験論について説明できるようにする。
4回	授業内容	近代哲学—カントの哲学を中心に1
	事前学修	カントについて調べる。
	事後学修	参考文献 御子柴善之 2015『自分で考える勇気—カント哲学入門』岩波書店などを読み、カントの思想の特徴を整理する。
5回	授業内容	近代哲学—カントの哲学を中心に2
	事前学修	前回の内容を復習しておく。
	事後学修	参考文献 黒崎政男 2000『カント『純粹理性批判』入門』講談社 などを読み、カントの思想について説明できるようにする。
6回	授業内容	近代哲学—カントの哲学を中心に3
	事前学修	カントの倫理学とはどのようなものか確認しておく。
	事後学修	カントについては、NHKの「100分de名著」で取り上げられた際の紹介ページも参考になります https://www.nhk.or.jp/meicho/famousbook/98_kant/index.html
7回	授業内容	近代哲学—功利主義を中心に
	事前学修	功利主義について調べる。
	事後学修	参考文献 児玉聡 2012『功利主義入門—はじめての倫理学』筑摩書房などを読み、功利主義の思想の特徴を整理する。
8回	授業内容	自分でも考えてみる1—動物の命
	事前学修	功利主義者ピーター・シンガーについて調べておく
	事後学修	授業内容を参考に自分でさらに考える。参考文献 小手川正二郎 2020『現

		実を解きほぐすための哲学』トランスビュー
--	--	----------------------

◆授業計画

9回	授業内容	現代哲学—分析哲学、科学哲学を中心に
	事前学修	分析哲学、科学哲学について調べる。
	事後学修	参考文献 飯田隆 2020『分析哲学 これからとこれまで』勁草書房、伊勢田哲治 2003『疑似科学と科学の哲学』名古屋大学出版会などを読み、分析哲学について整理する。
10回	授業内容	現代哲学—実存主義を中心に
	事前学修	実存主義について確認しておく。
	事後学修	参考文献 澤田直 2002『新・サルトル講義—未完の思想、実存から倫理へ』などを読み、実存主義の思想について調べる。
11回	授業内容	現代哲学—ボーヴォワールを中心に
	事前学修	ボーヴォワールの思想について確認しておく。
	事後学修	参考文献 トリル・モイ（大橋洋一他訳）2003『ボーヴォワール—女性知識人の誕生』平凡社（残念ながら入手困難書。興味のある方は図書館で）などを読み、ボーヴォワールらの思想について調べる。
12回	授業内容	現代哲学—ロールズを中心に
	事前学修	ロールズについて調べておく。
	事後学修	参考文献 神島裕子 2018『正義とは何か—現代政治哲学の6つの視点』中央公論社などを読んだり、授業内で提示された問題について考えてみる。
13回	授業内容	自分でも考えてみる2—人種
	事前学修	人種と聞いてなにを自分がイメージするか、それについてどのような考えをもっているかを考える。
	事後学修	授業内容を参考に自分でさらに考える。参考文献 小手川正二郎 2020『現実を解きほぐすための哲学』トランスビュー
14回	授業内容	自分でも考えてみる2—親子
	事前学修	親子関係についての自分の考え方を整理する。
	事後学修	授業内容を参考に自分でさらに考える。参考文献 小手川正二郎 2020『現実を解きほぐすための哲学』トランスビュー
15回	授業内容	まとめ
	事前学修	2、3、4、5、6、7、9、10、11、12回の授業内容を復習しておく。
	事後学修	授業内容を振り返りし、それぞれの哲学者の要点を復習する。

◆授業概要

人間は、一人で生きてゆくことの出来ない弱い存在である。ゆえに、共同生活を営む者（仲間）が必要不可欠となる。また、社会生活は（必ずしも）自分の思い通りにゆくものではない。担当者が実際に社会調査やフィールドワークの調査員として実地体験したことなどを理論的にまとめ、受講者自身の現実を実践的に理解し、「2021年と情報社会」というテーマについて考えてゆく。

◆学修到達目標

「大学で学んだことは日常で役に立たない」という声を聞くが、本当にそうだろうか？
そんな疑問と対峙しつつ、学問が自分の日常生活や人生の現在・過去・未来と密接に関わっていることを理解し、社会（科）学的な視点で自分自身をとらえる技術を身につける。
また、講義内で国内外の情勢に触れ、我々を取り巻く様々な問題点の根源が説明できる視点を養う。

◆授業方法

GoogleClassroom を介したオンデマンド授業となるが、教科書・プリントなどを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて音楽や映像作品、マンガなど視聴覚資料を別途用意する。また、オンデマンドではあるが、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が求められる。なお、本授業の事前学修・事後学修の時間は、各2時間を目安とする。

◆履修条件

同時期（後期）開講の「社会学 A」との積み重ね履修不可。

◆成績評価基準

オンデマンド授業になるので、講義用動画の配信後に毎回「課題」の提出が求められる。（50%）
15回の授業後、「最終課題」が提示される。（50%）
なお、「課題」の未提出があると GoogleClassroom のシステム上 “相当な” 減点処理が為されるので、気をつけること。

◆教科書

市販本 『人間生活の理論と構造』夏刈康男（ほか） 学文社 1999

市販本 『改訂ストレス・スパイラル』服部慶亘 新協（ジャパン・プレス・フォト） 2020

※すでに『補強版ストレス・スパイラル』を所有している人は、それを使用します。

◆参考書

資料配布 (Classroom) | プリント配布 (GoogleClassroom 使用時)

◆授業相談先（連絡先）

オンデマンド授業の際は、GoogleClassroomの「限定公開コメント欄」を使用する。
全期間通じてEメール（hattori.yoshinobu2020@nihon-u.ac.jp）での対応も可。

◆授業計画

1回	授 業 内 容	後期ガイダンス（講義の方針、展開方法、目標などを確認する）
	事 前 学 修	シラバスと講義用資料を読んで、講義の目的・目標を理解する。
	事 後 学 修	テキストを入手し、「もくじ」に目を通しておく。
2回	授 業 内 容	「社会」とは何か？（前期の振り返り）
	事 前 学 修	前回の講義内容を確認しておく。
	事 後 学 修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
3回	授 業 内 容	日常と情報① 社会調査の目的
	事 前 学 修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事 後 学 修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
4回	授 業 内 容	日常と情報② 「仮説」とは？
	事 前 学 修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事 後 学 修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
5回	授 業 内 容	日常と情報③ 仮説の生成と検証
	事 前 学 修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事 後 学 修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
6回	授 業 内 容	マス・コミュニケーション① 概説
	事 前 学 修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事 後 学 修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
7回	授 業 内 容	マス・コミュニケーション② マスコミの機能（役割）
	事 前 学 修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事 後 学 修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
8回	授 業 内 容	マス・コミュニケーション③ マスコミの問題点
	事 前 学 修	これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。
	事 後 学 修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。

◆授業計画

9回	授業内容	人間生活と情報① 意識（目標）乖離
	事前学修	これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
10回	授業内容	人間生活と情報② 集団の類型
	事前学修	これまでの講義内容をふまえて、自身の「今まで」を振り返っておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
11回	授業内容	人間生活と情報③ 集団の規範と圧力
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
12回	授業内容	社会意識① 過同調
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
13回	授業内容	社会意識② ゲマインシャフトとゲゼルシャフト（1）
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
14回	授業内容	社会意識③ ゲマインシャフトとゲゼルシャフト（2）
	事前学修	前回までの講義内容を確認しておく。
	事後学修	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。
15回	授業内容	理解度確認（まとめ）
	事前学修	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。
	事後学修	「最終課題」に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。

◆授業概要

本授業では、英語学習の土台となる「基礎・基本」を学びます。中学校卒業程度の文法事項を取り上げ、一つ一つ丁寧にみていきます。今後の英語学習につながる、重要な「基礎・基本」事項を、会話文を含む例文や、練習問題を通して学修します。

◆学修到達目標

暗記中心の学修から、理解中心の学修を行うことで、実用的で実践的な英語を身に付けることを目標とします。学修内容を実際に活用することが出来るようになることを心がけて参りましょう。

◆授業方法

文法事項を毎回一つずつ取り上げ、丁寧に解説します。曲に加え、会話文を含む実用的な例文を通して、適切な表現を使いこなせるよう練習問題を解きながら学修を進めます。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『英語基礎』（大庭香江）とは積み重ね不可。
令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語基礎 C』（大庭香江）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

試験50%、授業参画度50%

◆教科書

市販本 『Fun Time! ファン・タイム!』 牧野他著 朝日出版社

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	過去形
	事前学修	テキスト p. 2 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 6 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
2回	授業内容	過去形の否定文
	事前学修	テキスト p. 8 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 12 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
3回	授業内容	命令形
	事前学修	テキスト p. 14 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 18 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
4回	授業内容	to 不定詞
	事前学修	テキスト p. 20 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 24 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
5回	授業内容	現在進行形
	事前学修	テキスト p. 26 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 30 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
6回	授業内容	There is と There are
	事前学修	テキスト p. 32 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 36 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
7回	授業内容	形容詞
	事前学修	テキスト p. 38 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 42 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
8回	授業内容	比較
	事前学修	テキスト p. 44 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 48 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
9回	授業内容	助動詞 can
	事前学修	テキスト p. 50 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事後学修	テキスト p. 54 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。

◆授業計画

10 回	授 業 内 容	未来系①
	事 前 学 修	テキスト p. 56 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事 後 学 修	テキスト p. 60 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
11 回	授 業 内 容	未来系②
	事 前 学 修	テキスト p. 62 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事 後 学 修	テキスト p. 66 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
12 回	授 業 内 容	丁寧な表現
	事 前 学 修	テキスト p. 68 の単語の意味調べを行っておくこと。
	事 後 学 修	テキスト p. 72 の練習問題で復習を行っておくこと。次回授業で解説を行う。
13 回	授 業 内 容	復習テスト① 第 1 回から第 6 回迄の学修項目の確認テストと解説を行う
	事 前 学 修	第 1 回から第 6 回迄の学修内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	復習テスト①の問題を復習しておくこと。
14 回	授 業 内 容	復習テスト② 第 7 回から第 12 回迄の内容の確認テストと解説を行う。
	事 前 学 修	第 7 回から第 12 回迄の学修内容を復習しておくこと。
	事 後 学 修	復習テスト②の問題を復習しておくこと。
15 回	授 業 内 容	まとめと試験、解説
	事 前 学 修	第 1 回から第 12 回迄の学修内容と、復習テスト①、②を復習しておくこと。
	事 後 学 修	全ての学修項目を整理し、確認、復習すること。

◆授業概要

本授業では、「卒業論文」作成の一助となるよう、以下の項目を扱います。

- ① 論文とは何かを知る。
- ② Had better に関する文献資料を精読する。
- ③ 疑問点等を整理する。
- ④ Had better の意味的・語用論的特徴を理解する。

◆学修到達目標

本授業では、次の能力育成を目指します。

- (a) 論文の構成を理解し、説明することができる。
- (b) 文献を正確に読み解き、まとめることができる。
- (c) 疑問を捻出することができる。
- (d) 解決案（策）を創出することができる。

◆授業方法

本授業は全編「オンデマンド授業」となります。Google Classroom 上に公開される授業動画を視聴し、期限までに課題を提出してください（課題がない授業回もあります）。授業内容で不明な点がある場合、Google Classroom 上に質問を受け付ける場所を用意しておきますので、そちらに質問を書き込んでください。

◆履修条件

令和2年度昼間スクーリング（後期）『英語学演習』（小澤賢司）とは積み重ね不可。

令和3年度昼間スクーリング（後期）『英語学演習 A・C』（小澤賢司）とは積み重ね不可。

◆成績評価基準

課題（100%）

※全課題の3分の2以上提出していることを前提に総合的に評価する。

◆教科書

資料配布（Classroom）資料を配布します。

◆参考書

大学生・社会人向けの辞書を用意してください。2003年以降に発行された辞書が望ましいです。

◆授業相談先（連絡先）

Google Classroom 上、あるいは Google フォームにて質問を受け付けます。

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス（授業概要等の確認、テキスト等の確認、辞書について）
	事前学修	本授業のシラバスを熟読しておくこと
	事後学修	手持ちの辞書や文法書で、had better の意味を確認しておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
2回	授業内容	①論文とは何かを知る、②論文を読む（可能性を表す can と may）
	事前学修	可能性を表す can と may について、手持ちの辞書や文法書などで調べてくること
	事後学修	論文の構成（話の展開や論法）を再度確認しておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
3回	授業内容	辞書・文法書による had better に関する説明・記述
	事前学修	「語用論的特徴」と「語用論的特徴」の違いを再度確認しておくこと
	事後学修	文献精読のための「類似と相違」について正しく理解しておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
4回	授業内容	①「悪い結果」の含意、②OR 節との共起
	事前学修	①3.1 節、3.2 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 1 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
5回	授業内容	「悪い結果」の非含意？
	事前学修	①3.3 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 2 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
6回	授業内容	had better（と should）の発話環境
	事前学修	①4.1 節、4.2 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 3 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
7回	授業内容	非過去性
	事前学修	①5.1 節、5.2 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 5 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
8回	授業内容	①形とそれが表す意味、②主観性・客観性
	事前学修	①6 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 6 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉

◆授業計画

9回	授業内容	had better の主観性・客観性
	事前学修	6.1 節、6.2 節を精読（和訳）しておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
10回	授業内容	①had better と should、②had better の ‘had’
	事前学修	①7 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 7 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
11回	授業内容	不可避性・早急性・特定性
	事前学修	①8.1 節、8.2 節、8.3 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 8 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
12回	授業内容	比較としての had better（量的分析）
	事前学修	①9 節を精読（和訳）しておくこと。②Question 9, 10, 11 を考えておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
13回	授業内容	参考文献の書き方、文書作成について
	事前学修	これまでの学修内容を復習しておくこと
	事後学修	学修した内容を整理し、疑問点を含め、しっかりまとめておくこと 〈課題がある場合は期日までに課題を提出すること〉
14回	授業内容	論文を読む（HAD BETTER のモダリティ）
	事前学修	これまでの学修内容を復習しておくこと
	事後学修	漏れのある学修内容を確認しておくこと
15回	授業内容	総復習および課題作成
	事前学修	これまでの学修内容をすべて復習しておくこと
	事後学修	卒業論文作成に努めること

◆授業概要

全体テーマ：「満州事変から太平洋戦争へ」

明治以降「欧米諸国に追いつくこと」を目標に近代化を進めた日本は、日露戦争（1904～05年）に勝利し「大国」の1つとなり、国際連盟でも中心的役割を果たしていた。しかし、満州事変（1931年）を契機として国際的な孤立へと向かうことになる。本講義では、満州事変以後日本がどのように世界とかかわり、なぜ太平洋戦争へと至ることになるのか、その過程を考えていく。

◆学修到達目標

- 1、近代の日本は様々な戦争（及び事変）にかかわり、その影響は現在でも残っているとと言える。それらの戦争のうち、本講義で扱う満州事変・日中戦争・太平洋戦争についてその概要を理解する。
- 2、結果を見るだけでなく「過程」を考えることで、歴史的（実証的）な考え方・分析を行う力を身につける。
- 3、国際環境を把握し、そのうえで日本が選択した進路について考えることで、「世界の中の日本」という視点から物事を見る力を身につける。

◆授業方法

オンデマンド型で実施する（グーグルクラスルームにて授業動画とプリントを配信）。クラスルームの機能等を用いての質問は随時受け付けるほか、アンケート等も実施する予定。成績評価は複数回の課題（レポート）が中心となる。受講者数や状況の変化により変更となる場合もある。なお、2019（平成31、令和元）年度昼間スクーリング・後期・坂口担当「日本史特講Ⅱ」と概ね同内容のため受講希望者は注意すること。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

課題（レポート）80%、授業参画度20%。授業参画度は授業内アンケートの内容等から判断する。

◆教科書

市販本 『もういちど読む山川日本近代史』 鳥海靖 山川出版社 2013年

◆参考書

授業内で紹介する。

◆授業相談先（連絡先）

Classroom上にて行う

◆授業計画

1回	授業内容	ガイダンス及び総論：この講義の目的・到達目標・評価方法等について解説するとともに、日本の「近代」という時代の概要・特徴を確認する。
	事前学修	これまでに近代史関係の講義を受講していた場合には、その内容を簡単に振り返っておくこと。
	事後学修	歴史は話が続いていくので確認・復習が大切となる。プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
2回	授業内容	明治・大正期の日本の概観①：日本とアメリカ・中国との関係に注目して、明治時代の日本の状況を確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の 86～92、97～111 頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
3回	授業内容	明治・大正期の日本の概観②：日本とアメリカ・中国との関係に注目して、大正時代の日本の状況を確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の 153～156、167～175 頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
4回	授業内容	昭和初期における日中関係①：満州事変について知るための前提として、辛亥革命から北伐に至る中国国内の状況について確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の 156～158 頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
5回	授業内容	昭和初期における日中関係②：満州事変について知るための前提として、第4回の内容をふまえて昭和初期の日中関係について確認する。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の 196～204 頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
6回	授業内容	まとめと課題学習①：ここまでの中間のまとめを行うとともに課題を出すので作成・提出すること。
	事前学修	第1～5回のまとめとなるので、その内容を確認しておくこと。
	事後学修	課題の作成を通じてここまでのポイントを押さえておくこと。
7回	授業内容	満州事変と国際連盟脱退①：日本陸軍（関東軍）の動向に注目しながら、満州事変勃発の過程について考えていく。
	事前学修	第5回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の 208～211 頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。

◆授業計画

8回	授業内容	満州事変と国際連盟脱退②：満州事変勃発後の日本国内の状況について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
9回	授業内容	満州事変と国際連盟脱退③：日本が国際連盟脱退へと至る過程について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の211～213頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
10回	授業内容	満州事変から日中戦争へ：日本、および日本と同盟を組むことになるドイツを中心に、満州事変前後の各国の状況について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の222～224頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
11回	授業内容	まとめと課題学習②：ここまでの中間のまとめを行うとともに課題を出すので作成・提出すること。
	事前学修	第7～10回のまとめとなるので、その内容を確認しておくこと。
	事後学修	課題の作成を通じてここまでのポイントを押さえておくこと。
12回	授業内容	日中戦争から太平洋戦争へ①：日中戦争の勃発と拡大の過程を考えていく。
	事前学修	第10回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の225～228頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
13回	授業内容	日中戦争から太平洋戦争へ②：日中戦争が長期化するなか、ヨーロッパでの戦争（第二次世界大戦）勃発が日本に与えた影響について考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の236～241頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
14回	授業内容	日中戦争から太平洋戦争へ③：アメリカとの関係を中心に太平洋戦争開戦に至る過程を考えていく。
	事前学修	前回の授業で使用したプリントの内容を確認しておくこと。教科書の242～245頁を読んでおくこと。
	事後学修	プリントをもとに授業内容を整理しておくこと。
15回	授業内容	まとめと課題学習③：授業全体のまとめを行うとともに課題を出すので作成・提出すること。
	事前学修	最後のまとめとなるので、第12～14回を中心にその内容を確認しておくこと。
	事後学修	課題の作成を通じて授業の要点を再確認しておくこと。

◆授業概要

この講義では、主に簿記を初めて学ぶ方を対象として、複式簿記の基礎を学びます。簿記一巡の手続を学修し、特に重要な決算手続に関して理解を深めるとともに、最終的には、日本商工会議所主催の簿記検定 3 級の合格を目指します。講義内では可能な限り問題演習に時間を割いて、理解度を深めます。

◆学修到達目標

(1) 複式簿記に関する基本的な用語や概念を理解できる。(2) 簿記一巡の手続を理解し、各手続において帳簿等への記入ができる。(3) 精算表や財務諸表（貸借対照表および損益計算書）が作成できる。(4) 日本商工会議所主催の簿記検定 3 級に合格できる。

◆授業方法

講義形式を基本とします。また問題演習を可能な限り取り入れます。また第 2 回講義以降、講義の冒頭に前回の講義内容をおさらいする確認テストを行います。問題演習においては電卓が必要ですので用意しておいてください。電卓についてはどのメーカーのでも構いませんが、少なくとも 10 桁対応の電卓が望ましいです。

◆履修条件

なし。

◆成績評価基準

全体の 3 分の 2 以上の出席を前提条件として学修到達目標 (1) (2) (3) を評価するための試験 80%、確認テスト 20%

◆教科書

市販本 『検定簿記講義 3 級商業簿記 [最新版]』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編 中央経済社

市販本 『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記 [最新版]』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編 中央経済社

資料配布 授業で使用するレジュメを用意します。

◆参考書

なし。

◆授業相談先（連絡先）

担当教員の研究室のメールアドレス aoki.takashi36@nihon-u.ac.jp

◆授業計画

1回	授業内容	前期の復習 前期の復習を行います。
	事前学修	テキスト1～137ページを通読
	事後学修	ワークブック2～63ページを復習
2回	授業内容	手形取引の処理 手形取引に関する処理について説明します。
	事前学修	テキスト138～148ページを通読
	事後学修	ワークブック64～69ページを復習
3回	授業内容	有形固定資産の処理 有形固定資産に関する処理について説明します。
	事前学修	テキスト149～164ページを通読
	事後学修	ワークブック70～77ページを復習
4回	授業内容	貸倒損失と貸倒引当金 貸倒損失および貸倒引当金に関する処理について説明します。
	事前学修	テキスト165～170ページを通読
	事後学修	ワークブック78～80ページを復習
5回	授業内容	資本 株式会社の設立や増資、繰越利益剰余金の意義とその配当について説明します。
	事前学修	テキスト171～179ページを通読
	事後学修	ワークブック81～83ページを復習
6回	授業内容	収益と費用、税金の処理 収益、費用および税金の処理について説明します。
	事前学修	テキスト181～199ページを通読
	事後学修	ワークブック84～96ページを復習
7回	授業内容	伝票の処理 伝票の処理について説明します。
	事前学修	テキスト200～217ページを通読
	事後学修	ワークブック97～103ページを復習
8回	授業内容	期中における試算表の作成① 会計期間中における試算表の作成について説明します。
	事前学修	テキスト218～223ページを通読
	事後学修	ワークブック104～114ページを復習
9回	授業内容	期中における試算表の作成② 前回の授業内容を踏まえて問題演習を中心に授業を行います。
	事前学修	テキスト218～223ページを通読
	事後学修	ワークブック104～114ページを復習
10回	授業内容	決算整理と精算表の作成① 決算整理の内容と精算表の作成について説明します。
	事前学修	テキスト224～231ページ通読
	事後学修	ワークブック115～118ページを復習

◆授業計画

11 回	授 業 内 容	決算整理と精算表の作成② 前回の授業内容を踏まえて問題演習を中心に授業を行います。
	事 前 学 修	テキスト224～231ページ通読
	事 後 学 修	ワークブック115～118ページを復習
12 回	授 業 内 容	財務諸表の作成① 前回の授業内容を踏まえて貸借対照表および損益計算書の作成について説明します。
	事 前 学 修	テキスト231～239ページを通読
	事 後 学 修	ワークブック119～125ページを復習
13 回	授 業 内 容	財務諸表の作成② 前回の授業内容を踏まえて問題演習を中心に授業を行います。
	事 前 学 修	テキスト231～239ページを通読
	事 後 学 修	ワークブック119～125ページを復習
14 回	授 業 内 容	総合問題演習 これまでの授業内容を総括して問題演習(60分)および解説(30分)を行います。
	事 前 学 修	テキスト、ワークブックおよびレジュメを参照
	事 後 学 修	問題演習の内容およびワークブック126～147ページ復習
15 回	授 業 内 容	期末試験
	事 前 学 修	テキスト、ワークブックおよびレジュメを参照
	事 後 学 修	

◆授業概要

現実社会で起こっている財政現象を適宜紹介しながら、学生自らそれらを理解し、説明できるよう学修する。また、各種公務員試験や資格試験では、経済学や財政学が重要科目となっている。経済学や財政学の学びを通じて、試験対策にも役立つよう重要事項を学修する。

◆学修到達目標

財政を総合的に理解できるようにするため、現代財政の意義、役割の分析を通じて、批判的思考力を習得する。それによって租税概念、公債概念、公債負担、社会保障財政の意義と問題点、財政政策の意義と問題点、地方財政の意義と問題点を説明することができる。

◆授業方法

テキスト中心に講義形式の授業を行う。パワーポイント使用による講義資料をオンデマンドによって配信する。必要な資料は講義中に配布する。本授業の事前学修・事後学修は各2時間を目安としている。

◆履修条件

経済学概論をすでに履修していることが望ましい。また経済学原論を履修中であることが望ましい。

◆成績評価基準

毎回出席することを前提にして、リアクションペーパー（小テスト）40%、期末試験60%で評価する。

◆教科書

市販本 『財政学入門』 楠谷清他 八千代出版 2020年

◆参考書

なし

◆授業相談先（連絡先）

Classroom 上にて行う。

◆授業計画

1回	授業内容	【ガイダンス，導入授業】 授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて財政学の学習方法や研究方法について説明する。それによって、受講生は、授業計画を知り授業の準備が可能となる。
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、「第1章 財政の三大機能」を読む。
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。
2回	授業内容	【日本の公債問題1】 公債の定義と種類、公債の発行方法および償還方法を学習し、受講生が公債の仕組みや公債の評価を説明できる。
	事前学修	教科書 第5章の「1. 公債の定義と種類」、「2. 公債の発行方法および償還方法」を読み、財源調達手段としての租税との相違、公債の種類や発行方法について考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、公債発行に関するわが国の財政規定を確認し、その財政規定の根拠を、自分なりの説明をまとめる。
3回	授業内容	【日本の公債問題2】 公債負担の問題に関する主要学説（ケインズ派経済学、ボーエン・デービス・コップ、モディリアーニの説、中立命題）を考察し、各学説の意義と相違点を明らかにし、受講生が公債負担に関する各学説を説明できる。
	事前学修	教科書 第5章の「3. 公債負担に関する考え方」を読み、負担に関する各学説を考察する。
	事後学修	中立命題の成立可能性に関する理論的論争を参考に、自分なりの説明をまとめる。
4回	授業内容	【日本の公債問題3—日本の公債累増の問題】 公債発行の累増によって、財政の硬直化、世代間の不公平、経済に損失をもたらす非効率を生む大きな政府、民間経済活動への阻害、わが国の財政状況を学習し、累増による問題点を考察し、受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第5章の「4. 公債累増の問題点」、「5. 日本の財政状況と公債発行の推移」を読み、わが国の公債発行残高の状況を踏まえて累増の問題点を考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、わが国の財政再建に求められることは何か、自分なりの説明をまとめる。

◆授業計画

5回	授業内容	【社会保障制度と財政1】 わが国の社会保障制度の意義と財政との関連を学習し、超高齢社会の進展によって、社会保障給付費が拡大していることを学習し、制度の仕組みと意義、現状を受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第6章の「1. 超高齢社会と社会保障」を読み、社会保障の概念と意義について考察する。
	事後学修	社会保障給付費の概念と一般会計予算の社会保障関係費の概念の違いを確認し、社会保障関係費の一般会計予算に占める推移と現役世代（若年世代）の負担について、自分なりの説明をまとめる。
6回	授業内容	【社会保障制度と財政2—公的年金制度】 わが国の公的年金の財政制度に関する、財政方式の積立方式と賦課方式の仕組みとメリットデメリットを学習し、わが国の財政方式の問題点について受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 第6章の「2. 年金保険制度」を読み、公的年金制度の財政方式とわが国の公的年金制度の仕組みを考察する。
	事後学修	講義ノートを確認して、積立方式と賦課方式それぞれの方式の特徴について、自分なりの説明をまとめる。
7回	授業内容	【社会保障制度と財政3—年金財政の危機】 わが国公的年金制度の危機に伴う制度改革の経緯を学習し、受講生は制度改革の必要性和制度改革の方向を説明できる。
	事前学修	教科書 第6章の2「2) 年金財政の危機」、「3) 2004年度の年金改正」、「4) 世代間の不公平問題と年金改革の方向」を読み、公的年金制度改革のあり方を考察する。
	事後学修	講義ノート及び資料を参考して、わが国（日本）の年金改革の方向について自分なりの説明をまとめる。
8回	授業内容	【社会保障制度と財政4—医療保険制度と財政】 わが国の医療保険制度の概要、意義、課題について学習し、超高齢化の進展とともに厳しい財政状況にあることを理解し、説明できる。
	事前学修	教科書 第6章の「3 医療保険制度と財政」を読み、医療保険制度の仕組みと現状について考察する。
	事後学修	「医療保険制度の存在が、医療費を増加させる原因である」とも言われる。この点について、自分なりの説明をまとめる。

◆授業計画

9回	授業内容	【社会保障制度と財政5—公的扶助制度と財政】 公的扶助の現状、及び日本の生活保護制度の問題点を「負の所得税」の学説から学習し、生活保護制度の問題点と改革案を説明できる。
	事前学修	教科書 第6章の「4. 公的扶助」を読み、医療保険制度の仕組みと現状、また、公的扶助の意義と現状について考察する。ミルトン・フリードマンの「負の所得税」を考察する。
	事後学修	講義ノートと配付資料を見直し、公的扶助の内容と問題点を整理する。公的扶助の予算配分の推移の特徴と要因について、自分なりの説明をまとめる。
10回	授業内容	【財政政策の理論1】 1. ケインズ理論と財政の経済安定化機能 2. 乗数理論 3. 経済の安定化機能 4. 財市場の均衡と貨幣市場の均衡 5. IS-LM分析と財政政策・金融政策の効果を学習し、「財政の安定化機能」に関連する理論を受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 「第7章 財政政策の理論」を読み、財政政策に関連する理論を考察する。
	事後学修	1970年代半ば以降における、わが国の財政の特徴を財政政策を中心に調べ、箇条書きにしてまとめてみる。
11回	授業内容	【財政政策の理論2】 財政の安定化機能に関連して、「4. 財市場の均衡と貨幣市場の均衡」「5. IS-LM分析と財政政策・金融政策の効果」「6. 裁量的な財政政策をめぐる理論」について学習し、裁量的財政政策の効果を疑問だとする代表的な研究者の考え方を受講生が説明できる。
	事前学修	教科書 「第7章 財政政策の理論」を読み、財政政策に関連する理論を考察する。
	事後学修	講義資料及び講義ノートを見直し、公共支出増加によるクラウディング・アウトの発生について、IS-LM分析を用いての説明をまとめる。
12回	授業内容	【地方の財政問題1】 地方財政の機能の特徴、国と地方政府間財政関係、地方財政計画の役割、地方歳入の構造、地方税体系を学習し、地方財政の特徴点について説明できる。
	事前学修	教科書 第8章の「1. 地方財政の課題」、「2. 地方財政の収入 1) 地方の歳入構造」を読み、中央財政と地方財政の関係、地方財政の理論、地方の歳入構造を考察する。
	事後学修	地方公共財の供給において民間手法を活用すべきだという意見について、自分なりの考えをまとめる。

◆授業計画

13 回	授 業 内 容	【地方の財政問題2—地方税体系】 (1) 地方税の原則 (2) シャウプ税制 (3) 国と地方の課税の根拠 (4) 国税と地方税 (5) 都道府県税 (6) 市町村税 (7) 国と地方の税源配分の見直し、について学習し受講生はその内容、仕組み、意義について説明できる。
	事 前 学 修	教科書 第8章2の2) 地方税体系 (1) 地方税の原則 (2) シャウプ税制 (3) 国と地方の課税の根拠 (4) 国税と地方税 (5) 都道府県税 (6) 市町村税 (7) 国と地方の税源配分の見直し、を読み、内容と意義について考察する。
	事 後 学 修	講義資料及び講義ノートを見直し、地方財体系の特徴と問題点について、自分なりの考えをまとめる。
14 回	授 業 内 容	【地方の財政問題3—地方財政の制度】 普通会計と公営事業会計、目的別分類、性質別分類、経常収支比率を学習し、地方公共団体の会計制度について説明できる。
	事 前 学 修	教科書 第8章 地方の財政問題 3. 地方の歳出構造—地方公共団体の会計制度 4. 地方交付税と財政調整 5. 国庫支出金を読み、各制度の仕組みを考察する。
	事 後 学 修	特定補助金と一般補助金の違いについて説明し、地方住民の厚生水準を上げるためには、特定補助金を一般補助金に変えるべきとする主張について、自分なりの説明をまとめる。初回からの授業ノートや配布資料事後学修を見直して整理し、期末試験に向けた準備をする。
15 回	授 業 内 容	【地方の財政問題4—地方分権の定理】 分権化の推進と関連する学説「オーツの地方分権定理」を学習して、資源配分の観点から分権化のメリットを説明できる。 ティブーの「足による投票」を学習して、資源配分の効率性の観点から分権化のメリット・デメリットを説明できる。
	事 前 学 修	教科書 第8章の「6. 分権化の地方財政」を読み、分権化の意味と分権化のメリット・デメリットを考察する。
	事 後 学 修	高齢化や人口減少により地方消滅が心配されているわが国において、地方分権の意義と推進策について自分なりの考えをまとめる。